

令和元年度版

筑波大学年次報告書

国立大学法人
筑波大学

はじめに

世界は、戦争、自然災害、経済恐慌など数々の危機に直面している。特に 2020 年以降は、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大により、ボーダレスな人の移動は制限され、国際経済は未曾有の影響を受けるなど、グローバル化の負の側面が顕在化した。このような状況の中で大学に求められていることは、この感染症制圧はもとより Post コロナ時代を見据えて、現状に対応できる科学技術を発展させるとともに、来たるべき社会を牽引できる哲学を確立し、それらに基づいた新たな価値を創造することである。

創立以来、「開かれた大学」という精神のもと、我が国の大学改革の先導者として不断の改革を行ってきた本学は、今後も予測不可能な時代の中で「あるべき未来」を描き、自らそれを創出する。海外の有力大学に比肩する国際性や、筑波研究学園都市という立地を活かし、多様な学問分野の協働を通して新たな学問分野を創成する「真の総合大学」となるべく、学問の自由を共有できるパートナーと共に、研究による価値創出を加速する。これを基盤に、新たなトランスボーダー教育モデルを確立し、ソーシャルインパクトを生み出し続けていく。こうした取組を通じてアカデミアを中核とした未来社会の基盤となる GLOBAL TRUST と呼ぶ新たな価値観を確立する。

これらを実現するためには、本学の置かれている状況や自らの活動成果を常に的確かつ客観的に把握しておくことが必要不可欠である。本年次報告書が、その基礎資料として本学の改革・改善のために大いに活用されることを期待したい。

令和 3 年 3 月

筑波大学長 永 田 恭 介

目 次

I	総論	1
II	教育研究組織の評価結果	32
III	各種資料	
1	管理運営関係	
	(1) 沿革	72
	(2) 運営組織等	78
	(3) 主要行事	80
	(4) 役員・教職員数	82
	(5) 予算決算	84
2	教育関係	
	(1) 学年暦	93
	(2) 学生数	94
	(3) 開設授業科目数	101
	(4) 卒業・修了者等数	104
	(5) 入学者選抜	117
3	研究関係	
	(1) 科学研究費助成事業採択状況	136
	(2) 研究プロジェクト支援経費	138
	(3) その他の研究費	147
	(4) 日本学術振興会特別研究員採用状況	149
	(5) 国際テニュアトラック採択状況	150
	(6) 論文数等	151
	(7) 各種受賞学会賞等	153
4	産学連携関係	
	(1) 民間等との共同研究	157
	(2) 産学連携推進プロジェクト	159
	(3) 取得特許等	162
	(4) アントレプレナーシップ教育	163
	(5) 大学発ベンチャーの状況	164
5	学生生活関係	
	(1) 学生の表彰	165
	(2) 学生の懲戒等	176
	(3) 学生の交通事故	176
	(4) 奨学生数	177
	(5) 学生団体数及び加入者数	180
	(6) 課外活動団体の主な成績	181
	(7) 就職等	188
	(8) 学生相談利用状況	
6	国際交流関係	
	(1) 教職員等の交流	196
	(2) 学生の交流	197
	(3) 国際交流協定	199
	(4) グローバル化に向けた教育研究	210
	(5) 国際会議等の開催	215
	(6) 国別交流者数	217
7	筑波研究学園都市連携	
	(1) 連携大学院一覧	219
	(2) 研究学園都市共著論文実績	220
	(3) 筑波会議実施状況	221
	(4) 筑波産学連携プロジェクト一覧	225
8	社会連携・大学公開関係	
	(1) 社会貢献プロジェクト	228
	(2) 地方自治体との連携協定	229
	(3) 高大連携事業一覧	230
	(4) 公開講座実施状況	232
	(5) 教員免許状更新講習	234
	(6) 特別支援学校教員資格認定試験	235
	(7) 視察・来訪者	236
	(8) エクステンションプログラム実績	239
	(9) 現金による寄附受入実績	240
9	医療・保健関係	
	(1) 附属病院	241
	(2) 保健管理センター	243
10	附属図書館関係	
	(1) 利用統計	245
	(2) 基盤統計	246
	(3) 推移	247
	(4) オリエンテーション・講習会	248
11	施設・環境関係	
	(1) 施設整備状況	249

I 総論

【1】大学の基本的な目標等

筑波大学は、国内的にも国際的にも「開かれた大学」として、旧来の固定観念に捉われない柔軟な教育研究組織と次代の求める新しい大学の仕組みを率先して実現することを基本理念とし、我が国の大学改革を先導する役割を担っている。社会経済状況が大きく変化し、持続的な競争力と高い付加価値を生み出す自律的な改革が大学に求められる中、筑波大学は未来を構想しその実現に挑むフロントランナーと自らを位置付け、本学に根ざす人材育成マインド「師魂理才」の下、地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出を目指す世界的な教育研究の拠点としての機能を充実・強化すべく、以下の目標を掲げる。

1. 高い倫理観の下、自然と人間、社会と文化に係る幅広い学問分野における深い専門性を追求するとともに、分野融合型の領域を開拓し、研究機能の再編成と国際性の強化により、卓越した知の創造拠点として世界トップレベルの研究を展開する。
2. 世界から多様な学生を受け入れるとともに、高度で最先端の研究成果に裏打ちされ、学生の個性と能力を开花させる教育システムを学位プログラムにより構築し、豊かな人間性と創造的な知力を生涯にわたって養い、自立してグローバルに活躍できる人材を育成する。
3. 国際的互換性のある教育と世界トップレベルの研究活動を多彩な分野を擁する総合大学として展開し、世界の国々や地域とのネットワークの中心としての存在感を高めるとともに、国際的な信頼性と発信力を備え、国際性が日常化された大学を実現する。
4. 科学技術が集積するイノベーション創出拠点 TSUKUBA における中核的役割を担い、教育研究諸機関及び産業界との連携を強化し、自らの教育研究機能を高めるとともに、我が国のグローバルな産業競争力強化に貢献する。
5. 教職員のそれぞれが専門的かつ多様な能力を高めつつ、学長のリーダーシップの下、情報ガバナンスと経営基盤の強化及び学内資源の再配分を推進し、自律的に教育研究機能を改革することにより、世界と社会の変化に最も迅速に対応しうる大学として我が国の大学改革を先導する。

◇ 未来を構想しその実現に挑むフロントランナーとして

本学は、前身校の歴史と伝統の上に「新構想大学」として設立され、国内的にも国際的にも開かれた大学であることを理念に、これまで我が国の大学の在り方を先導してきた。

第3期にあつては、本学に根ざす人材育成マインド「師魂理才」の下、地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出を担う世界的な研究教育の拠点としての機能を充実・強化させるべく、国境や機関、制度といった様々な「壁」を越えたトランスボーダー連携による研究教育等の展開を核とした5つの基本目標を掲げた。

第3期中期目標期間の4年目となった平成31事業年度においては、急激な社会変化により、大きな構造転換が必要とされる中、本学及び筑波研究学園都市のグローバル化を主導し、国際的プレゼンス向上に取り組むとともに、知の創出と継承、すなわち研究とそれを継承する人材育成について、将来に対するしっかりとした展望を持って臨むことを念頭に、研究・教育から業務運営に亘る各分野において、研究教育の質の向上及び業務運営の改善・効率化に係る施策を実施したほか、持続的な「競争力」を持ち、高い付加価値を生み出す体制への転換を推進した。

【2】教育研究等の質の向上の状況

1. グローバル化の推進に向けた大学運営上の取組

◇ グローバル化に向けたトランスボーダー連携拠点の拡大

○ キャンパス・イン・キャンパス構想に係る取組

ボーfum大学（ドイツ）及びアルファラビ・カザフ国立大学（カザフスタン）の2校を加えて、キャンパス・イン・キャンパスの協定校を10大学に拡大した。

<CiC 協定パートナー大学>



○ 学生及び教職員の国際化に資するワンストップサービス等の実現

- ・大学院のWeb出願システム構築を更に推進し、改組再編後の全学術院・研究群において、2月期入試に向けたシステム構築を11月までに完了し、全学導入を達成した。<7研究科(88%) → 3学術院・6研究群(100%)>
- ・本学大学院の学位プログラム制への移行(令和2年4月)に向けて、組織別の学位プログラム一覧とともに、専門分野等から学位プログラムを検索できるWebサイトを日本語版・英語版で作成し、令和元年11月に公表した。また、学位プログラム制への移行に関する改革のポイントをまとめたパンフレットを日英併記で作成し、令和2年2月に公表した。
- ・留学経験のある学生が、これから留学を考える学生と直接コミュニケーションをとる機会を提供するとともに、グローバル・commons機構のスタッフもこれら学生スタッフと有機的に連携することで、様々な業務運営において学生の協力を得られる体制が整い、キャンパス・グローバル化に資する企画・実施におけるシナジー効果が生まれ、スチューデント・commons利用者数の大幅増(延べ約12,000人、過去5年で最大)に繋がった。
- ・平成31(令和元)年度から英語版の大学院便覧を作成し、大学ホームページで公開した。令和2年度から改訂版の「シラバス作成のためのガイドライン」が適用されることに伴い、各科目の開設組織において、英語版シラバスの入力状況の確認、修正を行った。
- ・英語版大学院募集要項について、改組再編後の新組織において、2月期入試募集要項として令和元年11月に公開し、予定していた23募集要項全て作成を完了した。<18募集要項(78%) → 23募集要項(100%)>

○ 海外における高機能中核拠点の整備

- ・平成30年11月に国立台湾大学(NTU)と締結した共同研究マッチング・ファンドの協定に基づく教員交流を開始し、平成31(令和元)年度は本学から2名の教員をNTUに派遣し、NTUから本学に2名を受け入れた。
- ・高機能中核拠点におけるリクルーティング計画を立て、学内の関係組織との連携により、複数の地域において留学フェアや高校訪問等を実施した。

◇ 筑波研究学園都市全体のグローバル化の牽引

○ TGSW の実績を踏まえた「筑波会議」の推進

令和元年 10 月に開催された筑波会議 2019 に協力機関として参画し、本学は同会議の企画運営を主導した。

初めての開催となった本会議は、「Society5.0 と SDGs を見据えた目指すべき社会の在り方とその実現に向けて取り組むべき課題」をメインテーマとし、若手研究者等を会議参加者の主体として、内閣府、文科省、経産省、国交省、厚労省、茨城県、つくば市の後援を受けて行われた。

ノーベル賞受賞者 4 名を迎えて若手研究者と対話するセッション、メインテーマとなる Society5.0、及び SDGs について議論を行うメインセッション、本学を含めた筑波研究学園都市内の研究機関等がそれぞれ主催するサブセッション、スペシャルセッション等を合わせ、3 日間で合計 50 のセッションが実施され、閉会式においては若手研究者等により「筑波宣言」が採択された。

本学はサブセッション・スペシャルセッションを合わせて 20 セッションを主催したほか、日本においては初めての開催となる、国際的な組織である World Cultural Council の 2019 年授賞式をホスト機関として開催した。

最終的には 3 日間合計で世界 65 か国、250 機関（うち国外 105 機関）から約 1,500 名（うち国外 344 名）の参加があり、また新聞等多くのメディアにより紹介され、本学及び筑波研究学園都市全体のグローバル・プレゼンスが大いに高まった。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-1 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
CiC 協定 パートナー 大学	10	5	7	8	10

【中期計画-5 関連】

平成 33 年度における TGSW 国外参加

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
参加機関	30	46	88	84	105
参加者	300	300	262	298	344

※「H31 実績値」欄は筑波会議に係る実績値

2. 国際的に互換性のある教育の実施に向けた大学運営上の取組

◇ 国内外の大学や研究開発法人などとのトランスボーダー連携による教育の実施

- 国内外の国公立大学との多様な形態による共同学位プログラム等の実施
 - ・ CiC 協定校との単位取得を伴う短期留学での学生交流については、平成 30 年度の総数 48 件（受入 31、派遣 13）から平成 31（令和元）年度は 67 件（受入 51、派遣 16）と 19 件増加した。
 - ・ 科目ジュークボックスへの登録科目数は前年度より約 400 科目増えて約 2,800 科目となり、スーパーグローバル大学創成支援事業における令和 5 年度の目標科目数の 1,000 科目を大幅に超えた。また、科目ジュークボックスのアクセスレポートを作成し、利用状況を検証した。
- 国内外の政府・大学等の要請に基づく教育業務の受託
 - ・ 昨年に引き続き、海外の大学に教員を派遣し講義を実施するなど教育の支援を行うとともに、海外大学のニーズを加味した支援を行った。例としては、E-JUST においては、リベラルアーツプログラム運営支援の他に遺産科学プログラムを拡充し運営支援を行うとともに、国内の関係大学間の連絡体制の構築を図った。日越大学においては、現地教育体制の改善に向け、次年度も本学教員を長期派遣することを決定し、MJIT においては、教育体制の整備のため救急医療を専門とする医師派遣のための調整及びプログラム運営に関する助言を行った。
 - ・ 9 月から 12 月にかけて日越大学の学生をインターンシップ生として受け入れた。インターンシップの実施に当たっては、訪問先への路程や移動手段を見直し、経済性を向上した。また、本学と同様のインターンシップを実施する他大学と連携することで、訪問先の充実を図ると同時に所要費用や事務手続きの低減を図った。
- 筑波研究学園都市の研究機関との協働による学位プログラムの実施
 - レジリエンス研究教育推進コンソーシアムを運営母体とした協働大学院方式の新たな学位プログラムの開設計画を本学大学院の改組再編計画に盛り込み、文部科学省の所定の審査を経て、令和元年 9 月に大学院新組織の設置手続きを完了した。これにより、令和 2 年度に理工情報生命学術院システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムとして開設することが決定した。開設後は、コンソーシアムを構成する機関（令和 2 年 3 月現在企業 4、団体 1、研究機関 7（うち海外 1）及び本学）が協働して、レジリエンス社会の実現を推進する人材を育成する。
 - 平成 31（令和元）年度は学内規則や運営体制の整備等の開設準備を進めるとともに、入学者選抜を実施し、博士前期課程は募集人員 32 名のところ合格者数 39 名、博士後期課程は募集人員 13 名のところ合格者数 15 名と前期・後期ともに募集人員を上回る結果となった。
 - 教育課程については、学内の教育戦略推進プロジェクト支援事業の支援を受け、PBL 型学修やフィールドワーク教育、社会人に対するリカレント教育等の方策を検討し、リスク・レジリエンス分野で国際的に活躍できる研究者・高度専門職業人育成のための具体的な制度設計を行った。

◇ 我が国の高等教育をリードする学位プログラム制への移行及び教育体系の構築

- 学位プログラム制への全学的移行
 - 学位プログラム制への移行のための大学院の全面的な改組再編計画について、文部科学省の所定の審査を経て令和元年 9 月に新組織の設置手続きを完了した。その後、学内規則や運営体制の整備など新組織への移行準備を進め、令和 2 年 3 月までに完了させるとともに、新組織・学位プログラムによる入学者選抜を実施した。
 - この改組再編により、教育組織と教員の所属組織を分離し（学校教育法第 85 条ただし書に加えて同法第 100 条ただし書を活用）、学位取得を目指す学生本位の教育システムとして、学士課程から大学院まで一貫した理念に基づく本学の学位プログラム制の体制が整った。
 - 大学院の新組織は、従来の 8 研究科 85 専攻を、人文社会ビジネス科学学術院、理工情報生命学術院、人間総合科学学術院の 3 学術院とその下に置く 6 研究群（及び専門職大学院など 6 専攻）に再編成し、各研究群の下に合計 56 の学位プログラムを編成している。学位プログラムには、その教育上の目的・必要性に応じて、全学 11 の系（教員の所属組織：人文社会系、ビジネスサイエンス系、数理工学系、システム情報系、生命環境系、人間系、体育系、芸術系、医学医療系、図書館情報メディア系、学際研究系）から担当教員が配置される。このような教育体制とすることにより、各学術院・研究群において基盤的・共通的な科目を編成するとともに、従来の組織の壁を越えて教員が協働指導できるようになり、学生一人ひとりがより幅広い視野の下で学修・研究を進めることが可能となった。
- 学位プログラムの充実
 - ・ 社会の多様な場で活躍する修士・博士人材の輩出を推進する観点から、修士又は博士の学位のうち、修士又は博士にふさわしい研究能力に加えて、特に社会における現実の具体的な課題に即した「現場力」の養成を重視した学位プログラム又は専攻の課程を修了した者に対して授与する学位を「専門学位」と位置づけ、社会科学、工学、環境科学、保健学、体育・スポーツ学、ライフサイエンス等の分野にわたって 20 の学位プログラム・専攻の開設準備を

進め、令和2年度からの学生受入に向けて入学者選抜を実施した。

- ・グローバル教育院で運営する分野横断型学位プログラムとして「ヒューマニクス学位プログラム」(平成30年度卓越大学院プログラム採択)を開設し、平成31年4月に10名の学生を受け入れた。
- ・令和元年度までグローバル教育院で運営していた「ヒューマンバイオロジー学位プログラム」「エンパワーメント情報学プログラム」「ライフイノベーション学位プログラム」を、令和2年度から、研究科・専攻相当の新たな組織である学術院・研究群の下に位置づけることを決定し、学生受入に向けて入学者選抜を実施した。

○ 教育の質保証体制の充実

- ・平成31(令和元)年度の新設科目についてナンバリングタスクフォースで仮付番作業を行い、分野コードが不明であったものについて各科目の開設組織に照会を行い、令和元年1月時点でKdBに登録されている科目に対するナンバリングを完了した。
 - ・本学学士課程において共通に修得すべき汎用的知識・能力等として、①コミュニケーション力、②批判的・創造的思考力、③データ・情報リテラシー、④広い視野と国際性、⑤心身の健康と人間性・倫理性、⑥協働性・主体性・自律性の6項目を定め、これを「汎用コンピテンス」と位置づけ、平成31年度版学群スタンダードに反映し、本学Webサイト等で公表した。
 - ・平成30年度に策定した総合智教育の定義に基づいて、各教育組織の教育方針、教育内容との整合性を図り、学士課程から大学院課程にわたる教育課程を体系的に編成し、学士課程においては卒業までに自身の学類(専門学群)以外の科目を学び、特に初年次では、各分野の導入となる科目から幅広く履修できるようなカリキュラムを特徴とする新教育課程をスタートさせた。
 - ・カリキュラムマップと学生の履修状況に基づき、知識・能力等の修得状況をレーダーチャートで表示するツールとして、達成度評価システムを構築した。同システムは教育情報システムと連携し、必要な教学関連データを同期する仕組みとしている。これを用いて、学士課程9学類、大学院5学位プログラムの参加を得て試行を開始した。また、達成度評価システムを利用した学生の自己評価の試行として、自己評価ワークショップを開催した。
 - ・学位プログラム制への全面移行(令和2年度)に合わせて、教育の内部質保証の機能を強化するため「教学マネジメント室」を設置することを平成31年2月に決定し、準備室を設置して令和元年度に詳細設計を行った。準備室では、学内規則や運営体制の整備、具体的な業務内容の検討のみならず、教学マネジメント室の中核的機能である「モニタリング」(すべての学位プログラムを対象とした毎年の点検)及び「プログラムレビュー」(数年おきに行う総合的評価)のうちモニタリングの試行を実施し、その結果に関するサマリーレポートをとりまとめた。さらにそれを踏まえて教育組織と準備室の対話を実施し、グッドプラクティスや課題を共有した。
- また、教学マネジメント室の設置のみならず、教育関係の本部組織の見直しの検討を進め、令和2年4月に再編することを決定した。再編後は、教育担当副学長の下に「教学デザイン室」及び「教学マネジメント室」を置き、これを中核として「教育戦略会議」において各種委員会やセンターを含めた総合調整を行うこととしている。教学デザイン室は主に企画立案を担い、教学マネジメント室は主に質保証を担う。両室を両輪として教育改革の推進と教育の内部質保証を強化するとともに、教育戦略会議における総合調整を通じた一体的・戦略的な施策推進を行うことを主眼としている。
- このように、教学マネジメント室の設置準備に留まらず、試行としてその中核的機能を先行実施するとともに、教育関係の本部組織を全体的に見直し、より機動的に教育改革を実行できる体制を整備した。

◇ 世界から多様かつ優秀な学生を受け入れる入学者選抜の実施

○ 総合選抜の導入を含む入学者選抜改革

過去3年間の志願者数から、志願者推計数をシミュレーションし、外部試験場の利用及び学内試験場への総合選抜区分による志願者の割振り方法を決定した。実施体制の具体的内容については、次年度も継続して検討し早急に決定を要するために課題を整理した。総合選抜の合否判定を行う委員会「総合選抜合否判定委員会」の設置について検討し、4月1日設置に向けて関係法人細則等の改正を行った。

○ グローバル入学者選抜システムの構築に向けた取組

- ・グローバル入学者選抜に対応するWeb出願システムの構築に先駆けて、推薦入試、個別学力検査等でシステムを導入するとともに、これらの問題をフィードバックし、グローバル入学者選抜への実装に向けて、仕様作成を完了した。
- ・令和3年度入試より募集人員を設定する留学生対象入試について、定員管理の問題を整理して関係規定の改正を行うとともに、関係組織等と協働しながら、実施に向けた準備を開始した。

◇ 社会人受入の拡充など社会的ニーズに対応した取組

○ 社会人等の学び直しの推進

履修証明プログラム4プログラム、現職教育講座24講座を実施した。また、文部科学大臣の認定を受けている3

つの職業実践力育成プログラム（BP）を実施し、これらにより、社会人等の学び直しを推進した。

◇ 大学入学者選抜の実施体制の強化に関する取組

令和2年度入試の実施に万全を期すため、実施体制の強化等に関して、以下の対応を行うことで、全ての入試において、試験実施及び合否判定等に影響を与えることなく終えた。

<全教育組織長並びに関係委員会への適時の周知徹底>

- ・ 学士課程の全教育組織の長で構成する学群教育会議、同選出教員で構成される学群入学試験実施委員会において、それぞれ教育担当副学長より、文部科学省通知や本学での実例（ニアミスを含む）も示し、入試問題の作題体制や出題内容、試験実施マニュアルの点検・改善、合否判定等におけるミスの未然防止及び早期発見とともに、ミス発生時の迅速かつ組織的な対応等、入試の円滑な実施に万全を期すよう、適時繰り返し要請した。
- ・ 学群入学試験実施委員会においては、特に試験問題（前期日程試験）の作題に関し、出題専門委員会委員に対し、不適切な出題の未然防止及び出題ミスの早期発見を図るため、作題開始前におけるマニュアル等の確認を徹底するよう強く要請した。
- ・ 各教育組織等が主体で作題及び試験を実施する推薦入試等の特別選抜に関しても同様に、出題や合否判定ミス等の防止の徹底について要請するとともに、入試課において、入試業務における基本的チェック事項を作成・配付し、各教育組織の入学試験実施委員会委員2名及び所掌する支援室担当者により、入試業務内容のチェックを行った上で入試課への報告を義務化した。
- ・ 全学体制で実施する大学入試センター試験及び個別学力検査等（前後期日程試験）に関しては、監督者説明会への対象者全員の参加義務（個別説明を含む）を課すとともに、上述と同様の対応の徹底について要請した。

<出題・採点ミス防止に係る取組み>

- ・ 前期日程試験の入試問題の点検・確認に関しては、日本語教育・言語学を専門とする教員による用字・用語チェックの強化とともに、平成30年度から取り入れた第三者（学内教員）による内容面の点検では、学内外の出題ミスや注意すべき事例を事前確認した上で模擬解答を取り入れるなどの工夫を加え、さらなる試験実施前の点検体制を強化した。
- ・ 試験当日には、試験開始と同時あるいは適宜の時間から、原則として作題者以外の教員（確認班）により試験終了30分前までに解答を行うなど、出題ミスの早期発見に努めた。
- ・ 採点及び合否判定に関しては、各試験科目の採点員に対しては採点開始前に、志願者の属性等により採点に影響を与えない個人情報の取扱いの工夫を含む採点ミス防止に係る注意喚起を行うとともに、面接や実技試験等対面で行う試験については事前に採点基準を明確に設け、複数名での採点を行うことで、特定の面接者の意見のみが試験結果に影響することのないよう、公正確保に努めるよう依頼を行った。

<その他：大学院における入学者選抜に関する取組み>

- ・ 大学院入試に関しても、大学院教育会議（議長：教育担当副学長）において、学群入試と同様に各種の対応の徹底について強く要請した。
- ・ 担当部署が分かれていた学群入試と大学院入試に係る業務について、入試業務に関する知識やノウハウを有効かつ有機的に活用することにより、入試ミス防止等を含む全学的な実施体制の強化の観点から、令和2年度から同一組織（教育推進部入試課）で一元的かつ統一的に実施し、業務の効率化と質の向上、また、受験生の利便性向上にも資するべく、関係規定の改正と業務の整理を行った。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-2 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
英語だけで履修可能な教育プログラム開設	60	49	52	63	65

【中期計画-11 関連】

学群第1学年及び第3学年の外部の英語能力検定試験受験率

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
学群1年次生	90%	67.9%	98.9%	99.4%	99.6
学群3年次生		42.5%	54.4%	65.6%	81.5
全体	—	54.9%	76.2%	82.0%	90.3

【中期計画-12 関連】

附属高等学校、附属坂戸高等学校における在学中の海外での武者修行経験者

KPI	目標値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
附属高等学校	SGH 対象者の 80%以上	45%	100%	-
附属坂戸高等学校		100%	100%	-
全体	-	56%	100%	-

※平成 31 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により海外派遣が中止となった。

【中期計画-15 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
履修証明 プログラム数	33	24	44	46	51

◇ 教育に関する全国共同利用拠点の取組状況

(1) 『日本語・日本事情遠隔教育拠点』

(グローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC))

グローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC) は、外国語教育部門、日本語教育部門 (留学生向け)、国語部門の 3 言語部門に加え、教材開発・支援部門 (関連拠点事業も取り扱う) と企画調整部門からなる全学共同教育センターである。平成 31 (令和元) 年度においては、学士課程において、卒業までに自身の学類 (専門学群) 以外の科目を学び、特に初年次では、各分野の導入となる科目から幅広く履修できるようなカリキュラムを特徴とする新教育課程がスタートし、新しい学位プログラム制への対応と準備を行った。3 言語部門における課題は、(a) 外国語教育部門では日本人学生の英語力強化と日本人・留学生のトライリンガル教育の充実・強化、(b) 日本語教育部門では留学生数の増加とその対応、(c) 国語部門では日本人学生の思考力・発信力強化であり、そうした課題を踏まえた活動を各部門が行った。総合的な言語教育という観点から、例えば発表技能の育成において 3 言語部門の教育は深く連動しており、今後も部門横断的な教育・研究活動を更に活発化することを目指していく。

そうした中で、外国語教育部門では、学群学生の英語力強化の全学的な取組として導入した TOEFL-ITP の有効活用と受験率向上に昨年以上に注力した結果、3 年次学生の受験率が 80% を超え、来年度において 90% 達成への目処が立った。英語運用力の観点については、CEGLOC における一般学術目的の英語 (EGAP) 教育の一層の充実を図るとともに、全学の英語力向上を意図して、英語を使った専門教育 (CLIL) を浸透・普及させていくために FD 研修の回数を増やすなどの施策を行い、参加者からは、授業運営に役立った旨回答があった。またトライリンガル教育を推進していくために、海外語学研修 (英語、中国語、ロシア語) の実施や、海外の協定校との間で教育研究交流を実現する Campus in Campus 教育の推進に注力し、初修外国語教育の充実・強化を図った。

日本語教育部門では、Adobe 社 Flash サポート終了に対応する新バージョンの日本語プレイスメント・テストの開発が最終段階を迎え、プロトタイプテスト公開を令和 2 年度に予定している。増加する留学生の日本語教育については、既存の英語プログラム (G30、地球規模課題学位プログラム) に加えて、平成 31 (令和元) 年度から開設した総合理工学位プログラムに対応した日本語授業を実施し、Japan-Expert プログラムには集中日本語授業を実施している。こうした授業に加えて、日本での就職を目指す留学生に対する就職支援として、キャリア支援日本語教育科目群を、全学留学生を対象として提供するなど強化を図った。

国語部門では、言語を超えて基礎となるスキルの育成において、引き続き外国語教育部門そして日本語教育部門と密接に連携し、外国語の運用にも直結する論理的表現力、発表・交渉能力を向上させる方策に取り組んだ。

日本語・日本事情遠隔教育拠点としての業務に関しては、3 部門 (コンテンツ開発・保守部門、学習支援・教師養成部門、産学官民連携部門) に整備し、令和 2 年度に向けて業務内容の担当を明確にした。新規開発中のプレイスメント・テスト完成のめどが立ち、令和 2 年にテスト公開予定となった。関連する e ラーニングアプリも更新作業が進んでおり、順次公開予定である。

① 拠点としての取組と成果

日本語・日本事情遠隔教育拠点を 3 部門 (コンテンツ開発・保守部門、学習支援・教師養成部門、産学官民連携部門) に整備し、運用を強化した。

まず第 1 に、コンテンツ開発・保守部門においては、オンライン日本語テストを運用し、TTBJ 個人受験者数は 8,081 人、今年度で終了する J-CAT 個人受験者数は 6,630 人に上った。Adobe 社 Flash サポート終了に対応する TTBJ の新バージョンの開発を進め、令和 2 年公開の目処が立った。現在は個人受験のみであったが、公開後は団体受験が可能となる。多文化共生サポートアプリ SuMo Japan を公開し、スマートフォンでも利用可能とした。既存の e-learning 教材も安定した運用を行ったのに加え、初級レベルの日本語使用文脈を確認・追加できる「にほんごアベニュー」も新規開発し、スマートフォンで使用できるよう設計した。

次に、学習支援・教師養成部門においては、日本語教育学会交流ひろばへの出展 (東北、中部、四国の 3 回)、G20 茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合サポート事業「つくばフェスティバル」への出展をしたほか、CASTEL/J

でのパネルセッションや国際協力機構などでも拠点コンテンツについて紹介・広報活動を行った。またビジネスチャットアプリ Slack についても教室での利用についてのワークショップを実施した。

3点目として、産学官民連携部門においては、外国人留学生の日本語能力の向上には、大学等高等教育機関のみならず、卒業後の進路先となる企業や行政機関等を含むステークホルダーとの連携の強化やコミュニティ形成が重要であり、その基礎固めに向けて活動した。具体的には、需要調査、現状調査を日本語学校、日本語教育関係者、地方公共団体、外国人を多く雇用している一般企業などに対して行った。日本語のeラーニングに対する興味・関心は非常に高いものの、費用、学習者の管理、効果の不透明性などの問題や現行のカリキュラムとの適合性などに不安がありeラーニングの利用に踏み切れない現状を把握し日本語学校などが求めるプラットフォームのデザイン作成の検討を開始した。また、産学連携セミナーEDGE-NEXTに参加して日本語コンテンツの有料化について検討し、新バージョンのテストプラットフォーム設計を開始した。

②センター等の独自の取組と成果

外国語教育部門の英語においては、各学群に対して学群学生の英語能力を1年次と3年次で定点観測するための英語能力試験実施の意義の説明を個別に進めた。特に3年次学生の受験率の低い学群には、同試験の受験を特定科目の受講要件とするなどの方策を講じるよう依頼し、受験率向上に努めた。この結果、1年次は入学時にTOEFL-ITPをプレイスメント・テストとして実施することで99.6%の受験率を達成したのに加え、3年次についても、前年度の65%から80%超の受験率となり、目標値である90%達成の目処が立った。受験率向上施策と並行して、外部の英語能力検定試験対策として、TOEFL PracticeやTOEFL Preparationを開設し、検定試験のスコア向上に貢献した。また、大学全体の英語力強化のため、専門科目を英語で教えるCLIL授業のサポートを推進し、関連する学群教員のためにCLIL FDを4回(各1日)提供し、参加者へのアンケート調査において授業運営に役立った旨回答を得た。加えて、CEGLOC英語教員のための英語教育FD研修会を2回開催し、言語指導・異文化理解への知見を深めた。

初修外国語については、国際的な独語検定試験のための学習指導と受験支援を行った。ドイツ語、中国語、ロシア語については、夏季・春季休業中にドイツ、中国、ロシア、カザフスタンの4カ国で海外語学研修を実施し、語学力向上及び文化理解に貢献した。また「教育戦略推進プロジェクト支援事業」として、東京オリンピックのためのフランス語ボランティアガイド養成講座を行った。第5回トライリンガルデー(ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語)を開催し、学群生に異文化を体験する機会を提供した。さらに第3回CEGLOCカンファレンス(「言語習得と脳」)を実施し、研究活動の基盤強化に努めた。

日本語教育部門では、独自に開発したプレイスメント・テスト(TTBJ:筑波日本語テスト集)の脱Flash化対策として、新バージョンのプロトタイプを制作し、新バージョンのテストを令和2年度に公開予定である。現在の英語プログラム(G30、BPGI(地球規模課題学位プログラム))に加えて平成31(令和元)年度から新たな総合理工学位プログラムに対応し、適切な日本語授業を提供した。JEプログラムでは、令和元年度秋学期に3期生に集中日本語授業を実施した。加えて、留学生の就職支援のためのキャリア支援日本語教育科目群を、全学留学生を対象として提供した。

国語部門においては、必修学類等と授業内容の調整を行い、科目を精選した上で新カリキュラムに対応した。

(2)『ナチュラルヒストリーに根ざした山岳科学教育拠点』

(山岳科学センター)

旧菅平高原実験センターと旧農林技術センターの演習林部門の合併により新たに生まれ変わった山岳科学センターを母体として、生物多様性周辺分野の基礎から応用までを網羅する教育内容の広範化と高度化によって、21世紀最大の課題である生物多様性問題と、山岳の幅広い自然環境関連問題を解決できる人材を育成する事業に取り組んだ。平成31年度は多彩な実習プログラム、内外のフィールド系機関との連携、幅広い広報を行って、多くの実習生を受け入れていくことを方針として掲げて実施した。その結果、本事業は全国の教育拠点事業の中での最も活発に事業を行っている拠点の一つであると考えている。また、今後も国内だけではなく留学生や海外の学生を受け入れられるように国際化など更なる発展を目指していく。

①拠点としての取組と成果

菅平高原実験所においては第1期「ナチュラルヒストリーに根ざした森と草原の生物多様性教育拠点」の活動から継続して、また、今年度より演習林部門の本格的な参画により、山岳科学センター全体を挙げてフィールドと研究施設を最大限に活用して、学部生・院生向けの公開実習を開講してきた。また、学内外の実習や、その他教育活動の受入れや、学内外の学生の研究指導の受入を行っている。その他、本拠点事業のホームページや、410の大学学部へのポスター・リーフレットの送付、SNSとの連携、STEP10への登録、その他イベント参加などにより、これら活動を積極的に広報してきた。その結果、菅平高原実験所の利用延べ人数(人数×日数)は、平成26年度は2,662人・日、平成27年度は2,922人・日、平成28年度は3,075人・日、平成29年度は2,954人・日、平成30年度は2,748人・日、平成31(令和元)年度は2,347人・日、演習林部門においても平成28年度は2,401人・日、平成29年度は4,617人・日、平成30年度は3,218人・日、平成31(令和元)年度は2,834人・日となった。特に、公開実習における学外学生の受講生数は、平成26年度は8名だったのに対して、平成27年度は27名、平成28年度は34名、平成29年度は44名、平成30年度は30名、平成31(令和元)年度は46名と着実に伸びており、活動改善を目的としたアンケート調査の結果からも、公開実習は非常に好評を得ている。

②センター等の独自の取組と成果

山岳科学センターは、菅平高原実験所、演習林部門（井川演習林、八ヶ岳演習林、筑波実験林）及び筑波キャンパスに所属する生物学・農学・地球科学・環境科学を横断する教員の緊密な連携のもとに運営されており、この連携を活かした本教育拠点事業への多岐にわたる取り組みを行った。具体的には、本センターの研究部門やフィールドステーションの情報をホームページ上で整備し、併せて本拠点事業に関する情報を再整備することにより、統合的で分かりやすいホームページの開設に至った。また、国際化の観点から日本語ホームページを英語化し、留学生・外国人研究者の利便性を高めた。一方、最新の設備を活用した魅力的なフィールド教育・研究が行えるよう、今年度はフィールド IT（長期生態モニタリングのため屋外に LAN 設備を 850 m 敷設）や林冠タワー（観測データのオンライン化・安全管理チェックシートの作成・安全装備品の拡充）、ドローン（山地河川の地形測量・植生モニタリング用）等、設備と施設の充実化と安全管理体制の整備を行った。

公開実習、受託実習ともに、平成 27 年度から、受講者にはセンターが独自で用意したアンケート用紙への回答をお願いしている（任意）。アンケートには、実習設備や器具、宿泊施設、その他受講動機や受講後の感想、広報に関する項目があり、平成 27 年度については 254 名、平成 28 年度は 252 名、平成 29 年度は 299 名、平成 30 年度は 355 名、平成 31（令和元）年度は 400 名から回答を得ている。このアンケートの集計結果をもとに、平成 31（令和元）年度は、トイレの改修、宿泊施設の雨漏りの改修、備品の更新、寝具のクリーニングなどの対応を行った。

(3) 『多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点』

(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター)

運営費交付金による援助を受けたことにより、昨年度より活動内容を飛躍的に拡大・充実させるとともに、令和 2 年 2 月に第 2 回ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター教育関係共同利用運営委員会を開催し、今年度の活動実績の評価及び次年度の活動計画を立案・検討した。教育関係共同利用拠点の認定時に特記事項として挙げられた「教員、職員、専門的職員等の各層別のニーズに即したプログラムの開発」や「LSB の内容の充実や各大学への普及」について着実に進められている旨、学外有識者からも高評価を得た。

①拠点としての取組と成果

< 1 : 発達障害学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催 >

発達障害学生支援に関する各大学教職員等を対象としたオンサイト型研修会を前年度（2 回）の約 3.5 倍となる 7 回開催し、報告時点で延べ 514 名（前年度 403 名）が参加した。ウェビナー型 FD/SD 研修会は、各大学教職員が自由にアクセスできるように e-learning システムを取り入れ、本学の関係諸規定と学内外の有識者による講義動画コンテンツを整備した。講義動画では教員、職員、専門的職員等の各層別のニーズに即したプログラムを取り入れている。今年度は 9 件の講義動画を公開し、次年度以降に内容を充実させていく予定である。

< 2 : 発達障害学生支援に関する相談対応 >

各大学等からの発達障害学生支援に関する訪問・見学者対応 10 件（前年度 28 件）を行った。相談対応についても対面だけでなくオンラインの導入を進め、各大学教職員と支援ノウハウを共有できるようにクローズ型ソーシャル・ネットワークング・サービス（SNS）による相談ネットワーク「RADD ネット」を 11 月より新たに構築した。現在までに 3 校から参加申込みがあり、来年度以降に普及を進めていく予定である。

< 3 : 発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信 >

支援情報配信サービス「Learning Support Book (LSB)」について前年度が 61 校の大学等教職員に試験配信していたのに対し、約 1.3 倍の 83 校（国立 24 校、公立 5 校、私立 52 校、専門学校 2 校）まで増加しており、順調に各大学への普及が進んでいる。LSB の内容の充実を図るため、筑波大学生 30 名と当センターの専門職員、学外の発達障害当事者約 40 名により作成体制を強化し、今年度のコンテンツ数が 40 件（前年度 15 件）となった。LSB を各大学の教職員がより簡便に活用でき、他大学の学生にも直接配信できるように LSB の学術認証フェデレーション（学認）への対応作業を完了した。令和 2 年 4 月以降に受益者負担による利用料収入を得ながら、さらなるデータベースの充実と各大学への普及を進めるとともに、データベースの利用結果を踏まえたチャットボットサービスの開発を行う。これにより、各大学の教職員等が学生支援に関する疑問が生じた際に即座に対応できる仕組みを構築する予定である。

< 4 : 発達障害学生支援に関する各種講習会への講師依頼の対応 >

各大学等からの講師派遣依頼に基づき、拠点運営スタッフが 22 件（前年度 18 件）、報告時点で延べ 879 名に研修を行い、来年度も継続する予定である。より実際の学生支援に即した知識・技能を学習できるように発達障害学生の仮想事例動画を制作・紹介し、グループワークを通じて教職員が深い学びを得られるように研修内容を改善した。

②センター等の独自の取組と成果

< 1 : 発達障害啓発マンガの作成・公開 >

芸術学を専門とする発達障害の診断を受ける当事者の職員を雇用し、発達障害学生の困難や特徴、対応方法をわかりやすく解説した発達障害啓発マンガ「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました」を作成・公開した。発達障害啓発マンガは FD/SD 研修会時に参加者に冊子体を配布して教職員の理解・啓発を図るほか、Web サイト等で一般公開している。各大学の教職員が気軽に利用できるように公開したマンガについてはクリエイティブ・コモンズ（CC0 1.0）により、パブリック・ドメイン化しており、利用者が自由に複製・印刷・再配布・改変等ができるよ

うにしている。本取組の成果として、1月時点でFacebookでは7,273名にリーチし、Twitterの関連投稿には延べ34,031件のいいね！（全21回の関連投稿中、投稿1回あたり平均1,620件）を得ており、社会的に高い反応を得ているほか、新聞等のメディアからの取材も受けている。

< 2：教員、職員、専門的職員等の各層別のニーズに即したプログラムの開発 >

教員、職員、専門的職員等の各層別のニーズに即したプログラムを開発するため、発達障害学生支援の対応経験を有する専門職員を雇用し、教員向けの研修コンテンツ、職員向けの研修コンテンツの作成に着手している。また、ニーズに応じたプログラムとして「発達障害学生支援に関する基礎」のほかに、「学生のアセスメント」、「キャリア支援」、「学生相談との連携」、「支援技術（Assistive Technology）」等の専門テーマ別のプログラムを展開しており、研修会の開催回数・人数、講師派遣対応数など実績も順調に増加している。さらに、体験型ワークショップ形式のプログラムを積極的に取り入れ、発達障害学生を想定した仮想事例動画を制作し、教職員がより深い学びを得られるように内容改善を行っている。加えて、大学教職員が自由にプログラムにアクセスできるように、e-learningシステムによる講義動画コンテンツを公開している。

< 3：LSBの内容の充実や各大学への普及 >

LSBの内容の充実に向けて、学内外の作成体制を強化するとともに、各大学への普及活動を進めており、実績も順調に増加している。システム面でも学術認証フェデレーションへの対応により、各大学の教職員及び学生が簡単にLSBへアクセスできるように進めている。今年度からは各大学の教職員向けのLSB及び拠点事業の広報用リーフレットを制作しており、より一層の普及を進めるほか、LSBへのアクセスログ解析により、教職員等の利用状況調査を進める予定である。

< 4：発達障害のある高校生向けの高大連携事業 >

令和元年度筑波大学社会貢献プロジェクトの支援を受けて、令和元年8月と令和2年2月に「発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座」をダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが開催した。志望する大学を問わず、発達障害のある高校生や保護者に向けた受験時の配慮に関する相談や大学入学後の支援に関して情報提供を行い、高大連携の取組を進めた。

3. 学生の自立性を高めるための支援の実施に向けた大学運営上の取組

◇ グローバル人材の育成及び国際性の日常化に向けた取組

- 学生宿舎（グローバルヴィレッジ）を活用した異文化交流の促進
 - ・短期・ショートステイハウスの一部について一般学生の入居希望者を募集し、令和2年1月1日現在、18名（入居者に占める割合5.8%）が入居している。
 - ・夏祭り、ニューイヤーパーティー、生け花教室、お茶会等を開催し、日本人学生と留学生の交流促進に努めるとともに、留学生に日本の文化を体験してもらい、グローバルヴィレッジの入居率向上に努めた。その結果、平成30年4月、日本人学生と留学生の入居比率69.1%対30.9%だったのが、令和元年10月では、58.5%対41.5%と向上した。
- 学生支援の充実
 - ・7月に、自殺防止のための関係組織の連携・対応に関するFDを実施した。なお、FD開催時にアンケート調査を実施した結果、メンタルヘルス対応に関する関連組織の連携強化について、参加者から高い評価を得られた。
 - ・平成29年度に策定した授業料と奨学金が一体となった経済支援の運用モデルに関して、奨学金の見直しを行うことで捻出した財源により、令和元年度から、成績優秀者を対象とした経済支援として「大学院進学奨励奨学金」を創設し、予定より1年前倒しして、実施した。また、育児支援奨学金は、平成30年度の実施を踏まえ、支給対象者の要件を緩和し対象者を拡大した。

◇ 多様な学生へのキャリア形成等を見据えた支援の充実

- 同窓会の連携拡大に向けた取組

国内においては、学外同窓会組織（茗溪・筑波産業人倶楽部）と連携し、在校生の就職支援のためキャリアカフェを2回開催した。

海外においては、令和元年度末現在、14の国と地域約2,200人のネットワークを構築した。特に台湾の同窓会組織を訪問し、創立50周年を見据えた寄附募集のプレゼンテーションを行った。また、同組織のメンバーが所属する企業を訪問し共同研究のマッチングを2件行った。
- ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの取組

機能強化経費による発達障害学生支援プロジェクトの成果を踏まえて、「アセスメント機能」を実装し、学内への普及・展開を図っている。具体的な取組として、センター（アクセシビリティ）Webサイト内にアセスメントへの申し込み方法を記載し、随時、専任の「アセッサー」が個別の心理教育的アセスメントを実施している。平成30年度は年間で66名の実施件数であったが、平成31（令和）年度は前年度を上回る69名に対して実施した。11月からは全学的な「学生生活の困りごと／強み調査」を行い、これまで行ってきた学生の困りごとを解決する取組だけでなく、強みや得意な部分を把握するための新たな取組を開始した。さらに、次年度の新入生等を主な対象としたアセスメント機能に関するリーフレットも作成した。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-22 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
在学期間内に学生を海外派遣	半数相当	約38%	約40%	約43%	約40%

【中期計画-23 関連】

KPI	目標	実績
グローバルレジデンスの整備	平成30年度までに整備	平成29年度整備

4. 世界トップレベルの研究の推進に向けた大学運営上の取組

◇ 既存の研究センターの見直し・集約等をはじめとする「研究循環システム」の構築に資する取組及び研究支援体制の充実

- 研究センターの級別分類等の研究の成長ステージに応じた効果的な研究推進体制の構築
「リサーチユニット強化事業」について募集要項及び審査要項を定め、本事業第1回目の公募を行った結果、19件の応募があった。リサーチユニットのそれぞれの機能（研究拠点型、研究ネットワーク形成型、外部資金獲得型、産学連携型、社会的課題解決型）に関係する担当副学長により、書面審査を実施し、その結果を参考に研究担当副学長が14件の採択事業を決定した。また、令和2年度実施予定の研究センター中間評価に向け、評価要項等の検討を開始した。
- 世界最高水準の研究拠点形成のための体制整備
世界展開研究拠点形成機構（仮称）創設準備室を設置し、同準備室において機構の組織及び運営等に関する検討を行い、世界展開研究拠点形成機構を創設した。
- オープンファシリティーの推進
研究施設・設備の学内外における共用・共有化を図るため、共同利用説明会や講習会、デモンストレーション、オープンファシリティーウィーク等、全学向けの機器利用促進企画を45回開催した。（令和2年3月末現在）また、新たな共同利用機器登録の積極的な推進に加えて、利用実績を基に利用増加が見込まれる機器の単価改定やスタッフ付き利用を導入等、利用推進改善を図った。その他、設備サポートセンター整備事業シンポジウムや技術交流会を通して、オープンファシリティーの活動成果を広く発信した。

◇ 分野融合型の領域の開拓と研究機能の再編成と国際性の強化による卓越した知の創造拠点の展開

- 世界トップレベルの研究の推進
 - <ヒト睡眠研究の強化>
ヒト睡眠研究を強化するため茨城県との特別共同研究事業により睡眠専門医／教員1名の任用を計画し、3年に及ぶ人材獲得の努力の結果、教授1名のみならず准教授1名の任用を実現した。これにともない、ヒト睡眠計測施設の新設計画（3床）を5床に拡大しヒト睡眠研究の基盤を大幅に強化することができた。
 - <未来社会工学開発研究センターと連携>
未来社会工学開発研究センターとの最初の共同研究である水素燃料電池バスの移動睡眠ラボへの改装を年度内に完了でき、将来的に様々な状況で睡眠問題を抱える被験者の睡眠計測が実施可能な環境を整備しつつある。
 - <産学連携強化>
文科省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラムの成果に基づいて設立したIIIS発ベンチャーの(株)S' UIMINが平成30年12月に9億円の資金調達に成功し、IIISとの共同研究を平成31（令和元）年度に拡大できた。WPIプログラム終了に備え産学連携を一層強化できた。
- TIA連携の推進
平成31（令和元）年度TIA「かけはし事業」（調査研究支援）を実施し、筑波大学が研究代表者となる応募は17件（全体64件）あり、そのうち12件（全体採択数50件）が採択された。
また、平成31年（令和元年）7月10日に第2回TIAかけはし事業成果発表会を東京大学武田先端知ホールで開催し、多くの企業の参加があり、合計154名の来場者があった。
平成31年（令和元年）10月15日には、イイノホール&カンファレンスでTIAシンポジウム（設立20周年記念事業）が開催され、247名の来場者があった。
TIAを一層発展させた連携形態によるイノベーション研究プラットフォームを構築して「ナノバイオタスクフォース」の強化を目指すために、生命環境系長への協力を依頼し、令和2年度に筑波大学のバイオ研究者（MiCS等）を核とした新しいナノバイオタスクフォースの再構築への足掛かりを得た。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-26 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
研究領域において世界 100 位以内を実現	相当数	1 分野 QS 世界大学 ランキング Sports- related Subjects (26 位)	2 分野 QS 世界大学 ランキング Sports- related Subjects (25 位) Library & Information Management (37 位)	1 分野 QS 世界大学 ランキング Sports- related Subjects (49 位)	2 分野 QS 世界大学 ランキング Library & Information Management (33 位) Sports- related Subjects (51-100 位)

【中期計画-27 関連】

KPI	目標	実績
開発研究センターのシステム確立	平成 29 年度	平成 29 年度に達成済 (平成 31 (令和元) 年度末 現在 9 センター設置)

【中期計画-34 関連】

KPI	目標	実績
大学院教育における研究倫理科目	平成 30 年度までに必修化	平成 30 年度に大学院共通科目、専門科目等で必修化

◇ 共同利用・共同研究拠点の取組状況

(1) 『先端学際計算科学共同研究拠点』(計算科学研究センター)

① 共同利用・共同研究拠点としての取組と成果

共同利用・共同研究拠点として、学際共同利用プログラムにより 81 課題のプロジェクトを採択し共同研究を実施した。これらに基づき素粒子・宇宙・原子核・物質科学・生命科学・地球環境・生物・化学・超高性能計算システム・計算情報学・数値解析の各分野で多くの学術論文の発表に貢献した。10 月には国際シンポジウム “11th Symposium on Discovery, Fusion, Creation of New Knowledge by Multidisciplinary Computational Sciences” を開催し、計算科学と計算機科学のコードデザインと学際共同利用プログラムの各分野の連携について議論した。

② センター独自の取組と成果

新規導入したスーパーコンピュータ Cygnus は、GPU と FPGA という 2 種類の演算加速装置を混載した世界初の多種複合型演算加速クラスターであり、その潜在的性能と多様な課題への対応性が注目されている。学際共同利用プログラムでは、この FPGA 部分に特に注目したプロジェクトが 8 課題選出され、センター教員との共同研究による成果を上げている。新規に立ち上げた「計算メディカルサイエンス事業部」では本学サイバニクスセンターとの共同研究、医学医療系とのデータサイエンス連携、本学国際統合睡眠医科学研究機構 (IIIS) との睡眠データサイエンスの連携等を推進した。国際連携としては、従来から継続している米国ローレンスバークレー国立研究所 (LBL) 及び英国エジンバラ大学並列計算センター (EPCC) との連携研究を推進し、後者については合同ワークショップを当センターにて開催した。ポスト「京」(富岳) 重点課題⑨「宇宙の基本法則と進化の解明」の代表機関として連携研究を推進した。さらに、ポスト「京」重点課題⑦「次世代の産業を支える新機能デバイス・高性能材料の創成」のサブ課題 A「高機能半導体デバイス」、ならびにサブ課題 B「光・電子融合デバイス」の協力機関として研究を推進した。また、ポスト「京」萌芽的課題①「基礎科学のフロンティア極限への挑戦」「基礎科学の挑戦—複合マルチスケール問題を通じた極限の探求」のサブ課題 D「量子力学の基礎と情報」を分担機関として推進した。ポスト「京」萌芽的課題③「太陽系外惑星 (第二の地球) の誕生と太陽系内惑星環境変動の解明」では、「生命を育む惑星の起源・進化と惑星環境変動の解明」のサブ課題 D「原始太陽系における物質進化と生命起源」を「宇宙生命計算科学連携拠点」の下で、分担機関として推進した。

③ 共同利用・共同研究体制を強化する取組や拠点の意義に即した取組状況

当センターは、科学諸分野と計算機科学分野の協働・融合を軸とした「学際計算科学」の推進をミッションとし、学際共同利用プログラムの実施、先進的な計算機技術に基づく新たな計算機の開発・製作、計算科学諸分野の融合、異分野間連携、国際連携の推進、人材育成のための教育プログラムの実施、スクール開催等を行っている。センタ

一の国際活動の活性化と国際的プレゼンスの向上を図るため、(1) 海外研究者中期招聘、(2) マンスリーサバティカル制度導入、(3) 計算メディカルサイエンス推進事業の国際化、を実施する戦略イニシアティブ (SS) が 10 年時限で採択され、国際化強化の枠組みができあがった。当センターの様々な研究力強化・国際化の取り組みはこれらの基本的枠組みの中で計画・実施され、(1) 及び (2) では同制度の適用による招聘数と派遣数の増加、(3) については事業部化を進め、成果を出しつつある。

④「今後の共同利用・共同研究体制の在り方について」に即した取組状況

当センターは、平成 28 年度の学内における部局化以降、本学の研究センター組織再編において先端研究センター群の中の世界級研究拠点(R1)に位置付けられている。これにより、戦略的分野拡充による人員配置、スーパーコンピュータ開発予算等のプロジェクト予算の配分、研究棟の増築等の支援を受け、大学の研究力強化に貢献している。当センターは計算科学諸分野の研究者と計算機科学研究者の協業により、計算機システムのコデザインと最先端の計算科学諸問題の解決を強力に進める「学際計算科学」を推進している。従来のサービスセンターの役割が強いスーパーコンピュータを有する国立大学組織の中で、共同利用・共同研究組織としての強いリーダーシップを示している。他の国立大学では応用とシステムの両分野の研究者をこれほど強く連携させる組織はなく、真のコデザインを推進できるセンターとして機能している。その研究姿勢はこれまでに開発された各種スーパーコンピュータ、そして今年度稼働開始した最新鋭の複合型演算加速スーパーコンピュータ Cygnus の導入と利用にも反映されている。当センターでは計算科学を通じた学際融合とその国際化を目標に、異分野横断的な研究として「計算メディカルサイエンス事業部」「計算基礎科学連携」「宇宙生命計算科学連携」を進め、世界の主要研究機関との MOU 締結も積極的に行い、国際研究力の強化に努めている。これらの活動を通じ、研究のトランスボーダー化、グローバル化を進め、医療や産業等、基礎科学を超える様々な応用分野への学際計算科学の展開を今後も推進していく。

(2) 『形質転換植物デザイン研究拠点』(遺伝子実験センター)

(平成 29 年 4 月 1 日より本センターはつくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) の一部へ改組)

①共同利用・共同研究拠点としての取組と成果

- ・実用化候補作物作出に繋がる共同研究を 39 件採択・実施した。
- ・海外連携研究機関利用型課題としてベトナム国ホーチミン市バイオテクノロジーセンターを利用した遺伝子組換えサトウキビ栽培を実施した。
- ・岡山大学植物資源植物科学研究所、鳥取大学乾燥地研究センター、琉球大学熱帯生物圏研究センターの共同利用・共同研究拠点が集まり (植物科学研究拠点アライアンス)、アライアンス内での共同研究促進、若手人材育成強化について検討した。

②センター独自の取組と成果

- ・3 件の新規第一種使用試験を実施した (ミラクリンタンパク質発現トマト [インプラントイノベーションズとの産学共同研究]、青花コショウラン [石原産業株式会社との産学共同研究]、水利用効率改善交雑アスペン [奈良先端科学技術大学院大学との共同研究])。
- ・メキシコ国立農牧林研究所 (INIFAP) との国際連携協定を締結した。
- ・センター教員が関わる 62 報 (うち 49 報が国際学術誌) の論文を発表した。また植物遺伝子における基礎研究及び植物科学のトランスレーショナルリサーチに関わる研究成果を当該分野で権威ある雑誌に発表した (Current Opinion in Plant Biology 誌、Plant Biotechnology Journal 誌、PLoS Genetics 誌、J. Experimental Botany 誌、Scientific Reports 誌等に掲載)。
- ・新規に 5 件の科研費、5 件の受託研究費を獲得した。
- ・遺伝子組換え関連実験技術の普及・教育に関連した公開講座・特別講義・実習・講習会を実施した (7 件)。
- ・研究者を対象とした公開セミナーを 7 件実施した。その他、国内外のシンポジウムや研究セミナー、技術セミナー等を 7 件実施した。

③「共同利用・共同研究体制の強化に向けて」に即した取組状況

- 平成 31 年度においては、「形質転換植物デザイン研究拠点」では以下の取組を進めた。
- ・拠点設立にあたり支援を表明した関連学会からの人員を含む運営協議会の設置 (IR 機能)。
 - ・拠点中間評価にあたり、20 の国内外の学術・産学連携団体及び個人からサポートレターを拝受。これを基にした International Advisory Board の設置準備 (IR 機能)。
 - ・国立研究開発法人との共同研究 (理科学研究所環境資源科学研究センター等) の推進。
 - ・産業界との共同研究事業による資金獲得 (センター教員による 5 件の共同研究、8 件の受託研究を実施)。
 - ・継続的な大型外部資金の獲得による運営基盤の強化 (新規事業として JST-OPERA「食の未来を拓く革新的先端技術の創出」が採択)。
 - ・他拠点 (岡山大植物研、鳥取大乾燥地研、熱帯生物圏研究センター) と連携し、植物研究拠点アライアンスを運営。
 - ・センター独自のデュアトラック制による若手人材育成 (平成 31 年度、准教授 1 名、助教 3 名)。
 - ・国際公募による若手/外国人教員の積極的な登用

④「今後の共同利用・共同研究体制の在り方について」に即した取組状況

1. 研究組織の在り方

- ・植物科学研究を推進している他拠点 (岡山大植物研、鳥取大乾燥地研、熱帯生物圏研究センター) と連携し、植物

研究拠点アライアンスを平成 29 年に設立し、アライアンス内での共同研究の推進及び共通機器の相互利用に向けた制度の取り纏め、共同による大型予算獲得に向けた申請準備を進めている。

- ・学内組織改組により、平成 29 年度に筑波大学遺伝子実験センター及び農林技術センター（農場部門）を統合してつくば機能植物イノベーション研究センター（T-PIRC）を設置、遺伝子の構造・機能に関する研究（基礎・基盤研究）から生産・流通研究（社会実装研究）まで One-Stop Shop で産官学協働研究の実践を目指す。目的達成のため、遺伝子実験センター/形質転換植物デザイン研究拠点と農場部門との連携強化、及び産学連携共同研究に特化した新たな研究施設（T-PIRC インダストリアルゾーン）の整備を進める。

2. 大学の研究力・教育力強化への貢献

- ・拠点構成教員による、遺伝子組換え関連実験技術の普及・教育に関連した公開講座・特別講義・実習・講習会を実施した（7 件）。
- ・学内外における遺伝子組換え実験の安全管理を行った。

3. 研究の国際化への推進

- ・国際公募による若手/外国人教員の積極的な登用
- ・海外連携機関利用型の国際共同研究課題（平成 31 年は 3 課題を採択、ベトナム国ホーチミン市バイオテクノロジーセンターを利用した遺伝子組換えサトウキビ栽培試験等）、本拠点をハブとした国際研究ネットワーク構築を進めている。

4. 社会との連携

- ・産業界からの共同研究課題を採択・実施している（平成 31 年度、センター教員による 8 件の共同研究を実施）。
- ・産業界との共同研究事業による資金獲得及び企業所属研究者の大学への常駐（平成 31 年度、准教授 1 名、助教 1 名）を行っている。

(3) 『放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点』（アイソトープ環境動態研究センター）

① 共同利用・共同研究拠点としての取組と成果

アイソトープ環境動態研究センターでは、共同利用・共同研究拠点の拠点校として、国内外に向けて共同研究を広く公募し、合計 98 の研究課題を採択し、共同研究活動を実施した。その内訳は、重点共同研究 57 件、海外共同研究 15 件、若手共同研究 26 件である。当センターの施設やデータベースを活用した共同研究を推進している。このほか、拠点内での共同研究をより強化するために拠点間共同利用 27 件を採択した。

これらの共同研究により、森林、陸水分野、海洋生態系分野、農産物分野をはじめとする各分野で数々の学術論文を発表した。

また、7 月には、キックオフミーティングを本学で開催し、国内外から約 100 名の研究者が参加し、ポスター発表等を行い、異なる研究コミュニティ分野の交流が促進され放射能環境動態分野における研究の発展が期待されている。

② センター独自の取組と成果

学内的には、拠点強化プロジェクト特別経費が採択され、福島原発事故関連環境試料及び環境試料データのアーカイブ化のための準備を進めた。

当センター 3 部門（アイソトープ基盤研究部門、放射性物質環境移行部門、環境動態予測部門）全研究部門が協働してセンターのミッションである福島原発由来の放射性物質の環境中挙動の研究に取り組み、共同セミナーを毎月行う等、部門一体となった研究の推進に努めた結果、センター教員が関わる 38 報の論文を発表し、そのうち 8 本が TOP10% 論文となった。

また、ネットワーク拠点の中核機関として、環境中に放出された環境試料を長期保存するためのサンプルアーカイブ施設設置に向けた準備や各連携ネットワーク機関が保有する森林・陸水試料、海洋試料、野生動物試料、土壌・農業環境試料等のデータを集約し英語化、位置情報、メタデータを付したデジタルオブジェクト識別子（DOI）を付与し、本学ホームページ上にて集約した情報を公開し、共同研究に広く活用できる体制づくりを推進した。

さらに、初期試料の再測定によるデータ検証や観測データの質の保証、福島起源の標準試料による測定技能試験及び標準測定方法の検討等を国際的な機関である IAEA や ALMERA と協働して行っている。

特に国際的な研究活動として、環境中に拡散した放射性物質の移行についての調査研究では、国際原子力機関（IAEA）、フランス放射線防護原子力安全研究所（IRSN）、Plymouth 大学（英）等の国際機関と連携して、世界最高水準の手法及び技術を用いて、水・土砂移行モニタリング及びモデリングを行うなど課題解決に向けて総力をあげて取り組んでいる。

平成 30 年度から継続しているノルウェー生命科学大学環境科学・天然資源管理学部環境放射能センター（CERAD）との部局間交流協定では、相互に研究交流が活性化され当該研究分野における研究発展を遂げている。

フランス放射線防護原子力安全研究所 IRSN とは全学交流協定を延長し、研究交流を継続するとともに共著研究論文を発表し国際連携活動を着実に強化している。

令和元年 12 月には、本学と国際原子力機関（IAEA）と共催で国際会合を開催し、福島県における環境放射能の影響についての現地視察や、これまで当センターが培ってきた学術データなどに基づいた、放射能環境動態分野における研究議論を行う等、ネットワーク共同研究拠点の中核機関として、放射能環境動態分野における国際的な情報発信に力を注いだ。

学術的研究のさらなる促進のために福島大学と共同で申請した JST/JICA SATREPS は、社会課題に関する研究テーマであり、チェルノブイリ立入禁止区域において、福島で得た環境放射能に関する科学的知見を活用し、当区域内での環境管理技術及び法的体制の確立に貢献することを目的とするプロジェクトを推進している。

若手研究者育成を目的とした文部科学省「原子力緊急時対応と放射性廃棄物処理・処分を支える高度人材育成事業」に採択され、若手人材育成活動を実施している。

その他外部資金獲得状況は、新規に2件の科研費を獲得し、共同研究費2件、受託研究費6件、寄附金2件を受け入れた。

放射線安全管理部では、学内の放射性物質、核燃料物質や放射性発生装置の安全管理と放射線業務従事初心者講習会4回と11月の更新講習会を実施した。一般学生を対象とした放射線教育として学群授業総合科目及び大学院共通科目の実施を行った。

また、教員免許状更新講習会の講義を行うなど放射線安全取り扱いに係る教育にも力を注いだ。

③共同利用・共同研究体制を強化する取組や拠点の意義に即した取組状況

アイソトープ環境動態研究センターは、放射性物質による環境汚染、農作物や飲料水への影響といった被害状況の把握と長期的な環境汚染の予測を提示することで住民の生活安全を確保することをミッションとし、陸域、海洋、土壌、農産物をはじめとする異なる研究コミュニティ分野の融合と IAEA 等をはじめとする国際機関との連携推進により放射能環境動態分野における喫緊かつ未曾有の問題解決を目的に活動している。

当センターでは、戦略イニシアティブ(S)(R2:全国級研究拠点)戦略イニシアティブ推進事業が採択され、国際的な情報発信力強化のための Web サイト作成・更新、広報資料の作成等及び環境試料アーカイブ化のためのデータベース管理の強化を行ってきた。

また、拠点強化プロジェクト特別経費が採択され、環境試料を長期保存するためのサンプルアーカイブ施設設置に向けた準備や試料等のデータ集約と英語化、位置情報、メタデータを付したデジタルオブジェクト識別子(DOI)管理によって、本学ホームページ上で公開を開始するなど共同研究に広く活用できる研究体制の整備を行った。

さらにレーザー分光式同位体分析システムを新規に導入し、安定同位体をトレーサーとした水・物質循環の解明を目的とした研究活動に活用する予定である。安定した分析プロセスにより大幅に作業時間が短縮され、新たな知見や信頼性のあるデータが得られることが見込まれるなど研究を推進する上で必要な装置の整備を推進している。

研究体制の整備として、新たに客員教授3名(うち外国人1名)、外国人研究員2名、非常勤研究員1名、助教1名を採用し、国際共著論文投稿強化のための研究体制整備を推進した。

ネットワーク共同研究拠点事業開始にあたっては、令和元年5月に本学において放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点運営委員会及び共同研究推進委員会を開催し、共同研究課題の採択や令和元年度度のネットワーク共同研究推進の方針及び運営方針を決定し、ネットワーク6機関による共同研究体制の強化を行った。

1月には、Web会議を開催し、次年度の共同研究の募集要項並びにキックオフミーティング開催地等に関する審議と文科省共同利用・共同研究拠点作業部会での審議内容に関する報告、今後の拠点化事業に関する評価及びスケジュールについて審議を行った。

3月には、福島県において、福島大学の年次報告会と共催の形で放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点事業成果報告会及び運営委員会等を開催し、平成31(令和元)年度の総括及び次年度拠点事業に向けた運営方針について審議を行った。

④「今後の共同利用・共同研究体制の在り方について」に即した取組状況

アイソトープ環境動態研究センターは、放射性物質による環境汚染、農作物や飲料水への影響といった被害状況の把握と長期的な環境汚染の予測を提示し、住民の生活の安全確保をミッションとして本学のエキスパートが集結し、平成24年12月に喫緊かつ未曾有の問題解決をすることを目的に学内組織を統合再編の上、研究活動を開始している。

当センターは、本学の先端研究センター群の中のR2:全国級研究拠点に位置付けられており、アイソトープ基盤研究部門、放射性物質環境移行部門、環境動態予測部門の3つの研究部門と放射線安全管理部から構成され、学内の拠点強化プロジェクト特別経費によって人員配置や研究機器の更新等の機能強化が行われ、大学の研究力強化に貢献している。

共同利用・共同研究拠点事業は、分野によっては、国際ネットワークを形成して国際共同研究や人材交流などを主導することが重要になるため、平成31(令和元)年度においてはURAを公募している。

また、文部科学省の原子力人材育成事業の資金を財源として、IAEAの放射性物質環境動態及び廃棄物処理の担当官であった研究者を客員教授として雇用するなど若手研究者の人材育成に力を注ぐとともに国際的なハブ機能強化へ取り組みを行っている。

5. 産学連携機能の強化とイノベーション創出

◇ 産学官連携の実績及び共同研究増加に向けた取組

○ 他機関等との連携による産学連携の推進

- ・オープンイノベーション国際戦略機構（以下「OI 国際戦略機構」という。）の設立に伴い、従前の産官学共創プロデューサーのうち優秀な者を面接の上クリエイティブマネージャー（以下「CM」という。）枠に転換した。また、産業分野をベースに教員・研究組織を横断的に分類したデータベース（産業分野別 DB）に対応するために、CM が企業ニーズドリブン型の共同研究をマネジメントする体制を整えた。具体的には、OI 国際戦略機構の統括 CM のもとに、民間企業の CTO と対等に議論ができる経験と能力を有する 5 名の人材を産業分野別 CM として配置することで、民間企業が信頼できる全学マネジメント体制の構築に着手し、M2B2A を更に推進した。
- ・平成 30 年度の民間共同研究費受入額は約 17.16 億円であったが、平成 31（令和元）年度は約 17.08 億円と微減した。平成 31（令和元）年 10 月より、共同研究に係る間接経費を 10% から 20% に引き上げ、民間企業からの収入増に繋がった。
- ・インセンティブを付与する制度として、国際産学連携本部教授の称号を付与する制度を整備し、平成 31（令和元）年度には、卓越した実績を上げた 2 名の産官学共創プロデューサーにこの称号を付与した。また、OI 国際戦略機構の設置に伴い、産官学共創プロデューサー 3 名を CM に転換した。

◇ 大学発ベンチャーの活躍

○ 実践的なアントレプレナー教育の実施

- ・筑波クリエイティブ・キャンプ・ベーシック（TCCB）と筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスト（TCCA）を開講してそれぞれ 56 名と 21 名が受講した。文部科学省補助事業グローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGE NEXT プログラム）においては、つくば地区の国立研究機関等にも門戸を拡げており、基礎編と発展編を実施してそれぞれ 45 名と 41 名が受講し、受講生のうち半数以上はつくば地区の国立研究機関であった。これらのアントレプレナー教育全体の受講者数は平成 30 年度の 142 名よりも増えて 163 名に達し、起業家などイノベーション創出に資する人材輩出の増加につながっている。
- ・アントレプレナー教育プログラムとして階層別教育体系を構築し、総合科目として学群 1 年生の必須選択科目「次世代起業家養成講座」を新規開講して受講生 131 名、及び学群生向け自由科目「次世代起業家養成のための経営知財必須知識」を新規開講して受講生が 23 名あり、起業家マインドを醸成する新たな全学対象の講義を開講し、起業家の裾野拡大につなげた。

○ 大学発ベンチャーの支援

- ・つくば産学連携強化プロジェクトに茨城大学が参画し、筑波研究学園都市の研究機関と、筑波大学と茨城大学が連携して新たな共同研究を発掘育成する体制を構築した。3 月に平成 31（令和元）年度の採択テーマ 29 件の成果発表会を実施した結果、7 件が民間共同研究に結びついた。
- ・つくば地域に限定しない全国的な基礎研究と開発研究の橋渡し、大学と研究所間のネットワーク形成に向けた「産学連携プラットフォーム」を構築し、18 大学・研究機関（筑波大学、名古屋工業大学、千葉大学、茨城大学、農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）、北海道大学、九州大学、九州工業大学、帯広畜産大学、室蘭工業大学、小樽商科大学、筑波技術大学、北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）、群馬大学、中央大学、日本原子力研究開発機構、東京工業高等専門学校、首都大学東京）が参加した。この産学連携プラットフォームを通して、3 件（本学 1 件）の民間共同研究が生まれ、9 件（本学 4 件）の共同研究を前提としたマッチングが生まれた。
- ・本学が参画する「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」（実施主体：つくばグローバル・イノベーション推進機構）において、本学及びつくば市内の国立研究開発法人の事業化を支援するため、既存の 2 プロジェクトに加え、新たに 7 プロジェクトを実施するとともに、国際総合戦略特区についても 9 プロジェクトを支援した。
- ・医療アントレプレナー育成プログラムの Research Studio を昨年に引き続き開催した。2 回目の平成 31（令和元）年度は、分担拠点として、慶應義塾大学に加え、新たに 4 大学（京都大学、大阪大学、岡山大学、九州大学）が参加した。また、参加者のうち特に優秀な 2 チームには、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）での海外メンタリングプログラムを実施した。
さらに、今年度から国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の次世代医療機器連携拠点整備等事業に採択され、次世代医療機器連携拠点として、新たに産官学の研究者に対する臨床現場実習プログラム（年 4 回）を開催した。
- ・ボストンのケンブリッジイノベーションセンター（CIC）及びシリコンバレーの LII（Laboratory of Intellectual Innovation）に海外拠点を設置し、海外企業との共同研究を推進した。
- ・CICにおいて、日本の大学としては初めて“ベンチャーカフェケンブリッジ”のスポンサーとなり、「筑波大学ナイト（U of Tsukuba Night）」を開催した。本学教員が起業した筑波大学発ベンチャーの iLAC, PLIMES, MathDesign, Pixie Dust Technology が推進中の開発研究を発表し、それらに関する VC や米国企業との

議論を行った。

◇ 産学官連携を推進するためのマネジメント強化等に関する取組

- ・開発研究センターが平成 30 年度の 6 センターから 9 センターに増え、特別共同研究事業・開発研究センターの合計が全学の共同研究の 4 割強を占めるとともに、共同研究の大型化が進んだ。
また、筑波大学発ベンチャーとの共同研究が、平成 30 年度の 13,400 万円から 28,531 万円へと倍増した。
- ・国土交通省の補助事業である「新モビリティサービス推進事業」に、つくばスマートシティ協議会（本学、茨城県、つくば市及び関係企業等）として申請し、地域の交通課題解決に向けたモデル構築を推進するために、顔認証やアプリを活用するキャンパス MaaS、医療 MaaS 等新たなモビリティサービスの実証実験を行った。
- ・学群の初年次向けに、新たに「次世代起業家養成講座」を開設し、アントレプレナーシップ教育の拡充を図った。
- ・産学連携の国際展開を図るために、シリコンバレーの LII(Laboratory of Intellectual Innovation)に活動拠点を設置したほか、ボストン地区の CIC(Cambridge Innovation Center)のコワーキングスペースで Product Market Fit 活動を開始した。また、「国際ユニコン育成プログラム」を開始し、5 チーム（約 25 人）を CIC に派遣した。
- ・CIC では、本学がスポンサーとなり、「筑波大学ナイト (U of Tsukuba Night)」を開催し、ケンブリッジのスタートアップ、金融機関、企業、投資家、学生が集まりネットワーキングが行われた。
- ・科学技術振興機構「未来社会創造事業」においては、平成 30 年度は応募 20 件に対して採択が 1 件であったが、産官学共創プロデューサーをリーダーとしたプロアクティブな活動を推進した結果、応募 18 件に対し採択 5 件と大きな成果を上げた。
- ・文部科学省オープンイノベーション機構整備事業に採択され、国際産学連携本部の下にオープンイノベーション国際戦略機構 (OI 国際戦略機構)を設置するとともに、科学技術振興機構の OPERA (産学共創プラットフォーム共同推進プログラム)にも採択された。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-35 関連】

(千円)

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
間接経費・知財収入	H24 年度比 100%増 (106,928)	約 224%増 (173,061)	約 229%増 (175,854)	約 469%増 (304,041)	約 518%増 (330,208)

【中期計画-36 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
共同研究件数	H24 年度比 70%増 (約 528 件)	約 52%増 (472 件)	約 66%増 (516 件)	約 74%増 (542 件)	約 66%増 (515 件)

<平成 31 年度産学連携関係実績>

- ・民間企業との共同研究
件数 429 件 (平成 24 年度比 174% (246 件))
受入額 17 億 790 万円 (平成 24 年度比 445 % (3 億 8,377 万円))
- ・海外民間企業との共同研究
件数 13 件 (平成 24 年度比 217 % (6 件))
受入額 31,746 千円 (平成 24 年度比 507% (6,264 千円))
- ・特別共同研究事業
件数 13 件
受入額 3 億 2,470 万円
- ・特許権実施収入額 2,645 万円 (平成 24 年度比 207% (1,276 万円))

<共同研究のうち、特に伸びが顕著な民間企業との共同研究の推移>

6. 社会との連携・地域貢献の推進／知的成果の幅広い社会還元

(産学連携関連についてはP25 「産学連携機能の強化とイノベーション創出」において記載)

◇ 地域貢献の推進及び知識・成果の幅広い社会還元

○ つくば3Eフォーラムの推進

平成31年度に実施を計画したエクステンションプログラムは、下記の21講座(29件)であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため3月に新規開講する5講座(5件)を中止し、最終的には、16講座(24件)を実施した。

○ つくば3Eフォーラムの推進

筑波研究学園都市のネットワーク強化による省エネルギー・低炭素の科学都市構築に向けた取組みである「つくば3Eフォーラム」の活動では、令和2年1月に第13回となる「つくば3Eフォーラム会議」を開催するなどした。会議では、昨今関心が高まっている「廃プラスチック」をテーマとして、研究者等による基調講演、事例発表、パネルディスカッションを行い、市民、研究者、行政関係者合わせて約100名の参加を得た。また、タスクフォースでは、「小型UAV(ドローン)利用による農地、湖沼、河川での地球温暖化ガス測定技術の開発」等、計4件のプロジェクトを実施した。

◇ オリンピック・パラリンピックに向けた取組

○ オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・大規模なスポーツ大会を運営するにあたって、障害の有無に関わらず、観客や選手の方々に対応できるボランティアが社会的に求められている。オリンピック・パラリンピック(東京2020)や国体・全国障害者スポーツ大会(2019茨城)等の大規模な大会で「リーダー」として活躍するために必要な知識や経験値を獲得し、講義を通じて得た知識・技能・経験を有効に活かし、障害者スポーツのボランティアや障害者支援に携わっていく。また、生涯にわたって「共生社会の形成」に積極的に関わることでできる人材として活躍していくことを目指す。そのために、学内では、ボランティア養成科目として総合科目：ダイバーシティ&インクルージョン入門：春学期(150人)、障害者スポーツボランティア実践講座：春学期(12人)、秋学期(登録者数7人)を実施した。また、「おもてなし学—グローバルマナーと異文化コミュニケーション—」を開設し、オリンピック・パラリンピック等のボランティアのリーダーを務められる者(春学期：145名、秋学期128名)の養成を行っている。
- ・学外においては、東京都台東区、千葉県、埼玉県からの依頼によりオリンピック・パラリンピック等におけるボランティアとして必要なグローバルマナーを学ぶセミナーを開催した。また、スポーツを軸として、人文社会、自然科学分野を幅広く学び、グローバル社会に活躍できる教養人育成を目指して7大学連携スポーツ・リベラルアーツ講座(早稲田大学、立教大学、東京大学、上智大学、慶應義塾大学、神田外語大学と共催)を実施した。

○ オリンピック・パラリンピック理念に基づく教育研究及び情報発信

- ・平成31(令和元)年度は、スイスオリンピック協会の事前キャンプとして、女子陸上リレー4×400mチームが「IAAF世界リレー2019横浜大会」に向けた事前キャンプを(令和元年5月3日～9日)、スイストライアスロンチーム(同年7月29日～8月13日；選手5名とコーチ他4名)が、「ITUワールドトライアスロンオリンピッククオリフィケーションイベント」に向けた事前キャンプを本学で実施した。
- ・各国のパラリンピック委員会(National Paralympic Committees)とともに、パラリンピック競技に関わる人材育成プログラムを通じた国際貢献に取り組むことを目的として、アギトス財団、日本パラリンピック協会、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、筑波大学が主催となり、Road to Tokyo「第1回コーチング講習会」を実施した。
- ・筑波大学つくば国際スポーツアカデミー(TIAS)では、次代の国際スポーツ界・スポーツビジネス界を担う、オリンピック精神を体得したグローバル人材の育成を目指し、大学院修士課程レベルの教育プログラムの開発及び提供を行った。オリンピック教育プラットフォーム(CORE)では、スポーツ庁の委託を受けて、附属学校教育局、附属学校群と協力して、おもてなし講座やインクルーシブ教育といったオリンピックやパラリンピックの理念を普及するための教育プログラムを全国に展開した。

<附属病院による地域医療への貢献>

附属病院長が茨城県の複数の医療関係審議会等に参画しているほか、同県とは、今後の地域医療の在り方等について日常的に意見交換を行っている。また、同県に対しては、ICTを活用した医療提供体制の構築や医療機関の再編・統合の具体策など個別の医療政策を提言しており、地域における医療提供体制の充実や医師の不足・偏在の解消に積極的に取り組んでいる。

<附属学校による地域貢献活動の推進>

- ・地域の教育委員会と連携した教育研究活動については、4自治体教育委員会(文京区・世田谷区・目黒区・茨城県

大子町)との間で運営組織が構築され、平成29年度は32自治体、平成30年度は26自治体、平成31(令和元)年度は36自治体において行われた。また、教育委員会における委員会に附属学校教員が委員として参加し、公立学校における児童生徒の学力向上に関する検討に対して助言を行った。さらに、教育委員会開催の研修会・公開講座に附属学校教員が講師として参加し、附属学校における教育研究成果を踏まえた講義を行った。

- ・地域の幼稚園・学校、住民との連携した活動では、幼稚園・学校との園児・児童生徒の交流活動、学校への講師派遣、特別支援教育に関する相談支援活動、住民対象の公開講座・講演会(毎年度約50回)、スポーツスクールを附属学校群全校で行った。
- ・附属学校における研究発表会や研修会・講習会には、日本全国から多数の学校教員(附属学校全体で毎年度2,000名以上)が参加した。

7. 附属病院機能の強化

7-1. 質の高い医療人育成及び臨床研究の推進

○ 臨床研究の推進

T-CReDO では、平成 29 年度より AMED の橋渡し研究拠点として、国立研究機関等を含めたつくば地域の学内外の研究者を対象に、医療技術に関する研究成果（シーズ）の育成や、実用化に向けた支援に注力した。その結果、この地域におけるプレゼンスを高めることができた。また、この中期計画期間中の実績として、これまで医師主導治験 5 件の開始、スタートアップ起業支援 4 件、ライセンスアウト 26 件、実用化承認 3 件を実現している。

7-2. 質の高い医療の提供及び開発

○ 健康増進等に向けた取組

- ・ 県内唯一の特定機能病院として、手術人数を増加（9,217 人→10,066 人）するとともに、平成 30 年度に高次救命救急センターを設置し救急医療拠点機能を強化したことにより、救急車搬送患者数の増加（4,071 人→4,138 人）を達成した。なお、令和元年 10 月には県内唯一の「高度救命・救急センター」として指定（令和 2 年 4 月より稼働）を受けたところであり、今後、救急医療に係る拠点機能を一層強化していくこととしている。
- ・ 令和元年 9 月 6 日付けで「外国人患者受入れ医療機関認証制度」（JMIP）の認証を取得した。JMIP の認証取得の「外国人患者対応マニュアル（初版）」の整備を行った。職員が共通した認識のもと、外国人患者に対応することは、安心・安全の医療を提供するためには重要である。更に「外国人患者対応マニュアル」の第二版（バージョンアップ版）を作成し、引き続き、安心・安全の医療を目指していく。

7-3. 継続的・安定的な病院運営

- ・ 収入面では、臨床指標の向上による診療単価の上昇（外来：22,635 円→24,645 円、入院：90,944 円→94,168 円）に取り組み、前年度実績を 19.4 億円上回る約 348.5 億円を達成した。
- ・ 支出面では、▲1.3 億円（医薬品・診療材料購入価格の見直し▲0.9 億円、後発医薬品への切替え▲0.3 億円、外部検査委託費の削減▲0.1 億円）のコスト削減を達成した。
- ・ 令和元年度は現金収支では支出超過となったが、その要因は、設備等の先行投資事業（手術室の拡充等）の稼働時期を、感染管理及び医療安全上のリスクを回避するため当初の一斉稼働から段階的稼働に変更したことによる減収が影響しているものである。

8. 附属学校教育の充実

8-1. 教育課題の解決に向けた研究の推進

○ グローバル人材育成システムの構築

5年間のSGH事業の成果を継承し発展させるため、文部科学省WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に申請し採択された。附属坂戸高等学校を拠点校とし、本学附属の普通科高等学校2校と高等部を有する特別支援学校3校並びに国内及び海外連携校を加え、高校生国際ESDシンポジウム等を企画し国際教育を推進させた。また、附属学校教育局は幹事校管理機関として文部科学省と連携し、全国高校生フォーラムを開催するなど日本のグローバル人材育成に十分に貢献した。

○ インクルーシブ教育モデル開発

- ・附属学校教育局では「附属学校群の新たな試み ～境界を乗り越えて～」をテーマに、本学附属学校の特色を活かして4つのプロジェクト（継続2件、新設2件）を実施し、2月にリニューアルした附属学校研究発表会でその成果を発信する。特に教師教育では、グローバル人材育成やインクルーシブ教育を担う教員の養成に焦点を当て、教員免許状更新講習での附属学校実践演習を実施するとともに、新設教職科目「総合的な学習の時間の指導法」の充実に着手した。
- ・文部科学省のWWLコンソーシアム構築支援事業の採択を受け、拠点校である附属坂戸高等学校を中心に、筑波大学の研究室（生命環境系、人文社会系、システム情報工学系）並びに学内関連組織（国際室、教育開発国際協力研究センター、オリンピック教育プラットフォーム（CORE））と連携し、国際フィールドワークを取り入れた体系的な探究型教育システムの開発に取り組んだ。その成果は、11月の高校生国際ESDシンポジウムと12月の全国高校生フォーラムで発表するとともに、共有と共創をめざして2～3月に国際合同フィールドワーク（豪州）教員研修及び実地踏査を実施した。
- ・平成30年度まで4年間継続してきた黒姫高原共同生活の実績と成果をもとに、8月に2泊3日で全11附属学校が参加する三浦海岸共同生活を実施した。この実践の成果については、広報誌の発行、12月の共生シンポジウムでの生徒発表により発信し、さらに令和2年2月の附属学校研究発表会で実行委員の教員による発表を行った。この取り組みは、平成30年度の教育に係る学長表彰受賞に続き、令和元年度文部科学大臣優秀教職員表彰を受け、学内ばかりでなく社会からも高く評価されている。
- ・附属特別支援学校5校による教材教具データベースの拡充に向けて、英訳版も含めコンテンツを約250点に増加させた。それぞれのコンテンツには使用場面の動画を含め、指導法をわかりやすく配信するための工夫をした。データベースの周知を図るため書籍を発行した。海外からのアクセス数も増加しており、国内外から評価が高まりつつあると思われる。

8-2. 大学及び附属学校間の連携強化

- ・本学及びお茶の水女子大学の附属高等学校間で協議を重ね、講演会形式の「キャリアフォーラム」を実施し、分科会形式の「キャリアカフェ」も継続的に実施した。その成果については、教育研究大会等で報告するとともに、アンケート調査で繰り返し検証している。当初の計画以上に取組んだと判断できる。
- ・これまでに開発したプログラムを活用し、都内の私立大学や区役所などの行政機関と連携しながら、オリンピック・パラリンピックのボランティア育成に取り組んだ。一部の参加者をボランティア登録に導いた。シンポジウムを開催し、障害者スポーツの理解啓発事業に取り組んだ。アンケート結果も良好で当初計画以上の成果が上がったと判断できる。

8-3. 地域との連携、社会貢献活動の推進

（「6. 社会との連携・地域貢献の推進／知的成果の幅広い社会還元」に記載）

8-4. 附属学校の体制・機能の見直し

平成31（令和元）年度は、附属学校将来構想検討委員会において学校群の将来構想を検討し、各校の将来構想について聞き取りを行い、各校での将来構想について関わる議論を行った。

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する特記事項

1. 特記事項

- 年俸制や混合給与を活用した人事給与制度に関する取組【計画-53 関連】
 - ・令和元年度末時点で年俸制教員の割合は 34%に増加しており、第 3 期中期計画における KPI (30%) を既に上回って達成している。年俸制教員業績評価対象者 236 名に対して業績評価を行い、その結果を年俸額に反映した。また、新たな年俸制として「基幹年俸制」の制度設計を行い、令和 2 年度以降新たに採用される全ての教員に適用することとした。
 - ・混合給与適用者数は 65 名（クロスアポイントメントシステム 41 名、ハイブリッドサラリーシステム 24 名）に増加している。平成 27 年度末における適用者 9 名の 7.2 倍に達しており、第 3 期中期計画における KPI (平成 27 年度末時点における適用者 9 名の倍増) を大きく上回って達成している。

2. 共通の観点に係る取組状況（ガバナンス改革の観点）

- 学長のリーダーシップの確立
筑波大学は、学長を助け、及び学長の命を受け、校務をつかさどる「副学長」制を開学当初からいち早く取り入れ、平成 28 年度は 9 人の、平成 29 年度～31 年度は 10 人の副学長を置いている。
本学独自の制度として、学長を助け、及び学長の命を受けて特定の業務を統括する「大学執行役員」を置き、教員組織の長その他の者をもって充てている。
後者については、平成 28 年度以降、大学戦略、企画評価、産学連携、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア、筑波会議、国際戦略、職務高度・多様化等を担当してきた。
- 学長の選考・業績評価
学長選考会議により、監事との連携協力の下で、年に一度、学長の業績評価を実施し、評価結果を学内外に公表している。また、平成 27 年度から議論を重ね、令和 2 年度に実施する新たな学長選考に向けた準備を整えた。
平成 31 (令和元) 年度においては、計 7 回（うち 1 回は学長の業績評価）の学長選考会議を開催した。社会の意見を反映させる仕組みとして設けられた学長選考会議が主体的な選考を行うこと、常にその時点でベストな学長の選考を可能とすることを観点に、「新たな学長選考方法」や「学長の任期の在り方」について関係規則の整備を行った。
- 監事の役割の強化
国立大学法人法等の改正による監事の監査機能の強化を受けて、本学では、平成 27 年度から監事による重要文書の調査及び監事への重要事項の報告に関する制度を運用している。
これは、監事による監事監査が有効に機能し法人業務の適正性の確保に資するため、中期計画や財務諸表等の認可・承認申請などのほか、リスクマネジメントや内部統制など法人の業務運営に大きな影響を及ぼすおそれのある事項全般について、監事に対する確実かつ十分な情報伝達がなされることを担保する制度である。
例えば重要文書の場合には、法定会議への付議に先立ち、監事が担当組織から対面により事案の説明を受けた上で、内容の相当性や意思決定プロセスの適法性などを調査し、必要に応じて助言・提言を行っており、制度の実効性が保たれた運用とすることで、監事の日常的な監査機能の実質的な強化に繋げている。
- 産学連携の取組状況
(「◇産学官連携を推進するためのマネジメント強化等に関する取組」に記載)

◇ 中期計画で設定した数値や指標等の現状値

【中期計画-53 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
若手教員	25%	21.4%	20.6%	20.1%	21.0%
女性教員	20%	18.2%	18.2%	18.5%	19.1%
外国人教員	10%	7.0%	6.9%	6.7%	7.4%
年俸制適用教員	30%	28%	30.3%	32.3%	34%
混合給与適用教員	平成 27 年度比倍増 (18 名)	18 名	26 名	47 名	65 名
(うちクロスアポイントメント)	16 名	16 名	19 名	33 名	41 名
(うちハイブリッドサラリー)	2 名	2 名	7 名	14 名	24 名

【中期計画-55 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
女性管理職比率	20%程度	14.7%	12.5%	13.8%	19.1%

(2) 財務内容の改善に関する特記事項

1. 特記事項

○ 大学の多様な活動を支える基金の整備・運用等に関する取組【計画-62 関係】

- ① 事業開発推進室、研究推進部、産学連携部の3部局において、「寄附金等の外部資金獲得に向けた戦略会議」を設置した。戦略会議において、寄附金及び外部資金の獲得に向けた情報交換を行い、各組織の情報を踏まえながら、それぞれの部局で寄附金の拡大を推進した。
- ② 寄附金獲得及び附帯事業について、以下の取組を実施した。
 - (1) ファンドレイザー増員による50周年記念基金の渉外活動
 - ・ 寄附者へのお礼として「一般寄附者」及び「高額寄附者」への感謝の集いを開催し、更なる支援を依頼した。
 - ・ 卒業生をメインに組織する50周年記念基金推進委員会において、これまでの取組の反省点や今後の基金獲得に向けての戦略について議論を行った。
 - ・ 多くの卒業生が所属する都内企業への渉外活動を開始した。
 - ・ 海外同窓会（台湾）で50周年記念基金の促進に向けてプレゼンテーションを行った。
 - ・ 寄附金増大の戦略として、有価証券による寄附受入れスキームを確立した。
 - ・ 基金獲得の手段としてスマートフォンアプリの運用を開始した。
 - ・ スポーツブランドとの包括的連携協定により各部の試合用ユニフォーム等の現物寄附（2,700万円相当）を受け入れた。
 - ・ 熊本県、玉名市、和水町、南関町と連携協定を結び、NHK大河ドラマ「いだてん」に関する特別展（有料）を平成31年1月から12月まで開催し、1,839千円の入場料収入があった。
上記の活動を行った結果、平成24年度から平成27年度の合計寄附額345,000千円に対して、平成28年度から平成31年度の寄附合計額は約3倍の1,082,000千円に達した。
 - (2) 従来の附帯事業（ワイン、コーヒー、大学カード、スーツ等）に加えた新たな附帯事業の実施
 - ・ 大学の資源（知）を活かした、AIに関する民間企業向け研修プログラムを産学連携部と連携し、試行的に2回実施したことで、1,200千円の外部資金獲得につながった。
 - ・ 熊本県、玉名市、和水町、南関町と締結した連携協定事業の一つとして、熊本県の全面サポートにより同県内の施設を利用し本学駅伝チームの合宿を実施し、26年振りに箱根駅伝に出場することができた。
 - ・ 本学の資源と民間の資金を活用した新たな形での実証実験の場の創設及び共同研究の推進を検討している。
- ③ 平成31年4月より、従来の寄附講座制度及び寄附研究部門制度、特別共同研究事業制度の相談窓口・受入窓口を一元化するために、特別活動部門を設置し、外部組織からのアクセスを簡素化した。
- ④ 研究資金情報サイト「RISS」について、研究推進会議における複数回周知や、ポスターの掲示箇所増加による周知を強化した。特に、「研究資金情報メーリングリスト」の学内購読数の強化を図り、購読者は、300名（平成31年度当初）→508名と69%増加した。

○ 財政維持を勘案した戦略的な教員配置の取組【計画-64 関連】

- ・ 学長のリーダーシップの下で各部局に承継教員人事ポイントを競争的に配分する制度である「全学戦略ポイント」（外部資金で雇用されている優秀な若手教員の承継化、研究力強化に資する若手・女性・外国人承継教員の採用促進、国際テニユアトラック助教の採用等のための人事ポイントを競争原理のもとで部局に配分）及び「戦略的分野拡充ポイント」（学長裁量経費を原資として、新たな研究分野開拓等のための教員配置を行う人事ポイントを競争原理のもとで部局に配分）により、戦略的な教員配置を推進した。平成31年度においては、全学戦略ポイント14枠相当を配分するとともに、国立大学改革強化推進補助金による支援も活用して戦略的分野拡充ポイント42枠相当を配分し、その合計は56枠相当にのぼった。これは、平成30年度の合計41枠の約1.4倍に相当する規模である。配分に当たっては特に若手教員の採用促進を重視しており、56枠の90%を超える53枠相当を若手教員の採用に充てている。
- ・ 教育研究力強化の支援、国際化、業務の多様化・高度化等に対応するために、事務系職員の戦略的な再配置を行う「事務系戦略枠」により、学長のリーダーシップのもとで16枠を戦略的に配置した。また、人件費の増加を抑制しながら今後も持続的に戦略的配置を継続することができるよう、配分を期間の定めのある職員を採用する場合のみ行うこととする等の見直しを講じた。

○ 会計業務の一元集中化による合理化の実現【計画-65 関連】

これまでに実施した契約業務等の一元集中化による業務の効率化及び経費削減の効果の検証を踏まえ、専門的知識を必要とする旅費及び謝金業務の担当係の再編成を実施するなど、最適な組織体制及び業務分担の整理を行い、合理化を図った。また、謝金支給手続きマニュアル整備の実施、購買システム及び旅費システムの改修など、一層の業務効率化に向け、検討を行った。

○ 事業の存廃に係る意思決定の明確化【計画-65 関連】

平成30年度の試行を踏まえて策定した事業評価システム実施要項に基づき、平成31年度においては、学内会議への本格導入を行い、2件の新規事業について本システムによる意思決定を行った。

○ 国の規制緩和に応じた取り組みを踏まえた土地・施設の有効活用等の取組【計画-66 関連】

- ・並木地区職員宿舎敷地については、サウンディング調査結果や大学としての教育・研究用途での活用の可能性が乏しい等に鑑み、今後の市場動向を踏まえ、令和2年度より段階的に譲渡することを決定した。
- ・世帯宿舎については、吾妻2丁目808-824号棟182戸を吾妻1丁目405-408号棟64戸、竹園3丁目304-306号棟34戸合計98戸に集約化した上でリニューアルを図り運用を開始した。

○ 多様な財源を活用した整備手法による整備【計画-67 関連】

- ・令和2年3月、公募スペースを更に有効活用するため、スペースの利用が5年以上を超える場合等の点検・評価において改善が必要とされた場合、半年後の利用状況等を確認し、改善が見られない場合は、返却を求める運用に変更した。
- ・キャンパスマスタープランに関し、施設・土地委員会において、基本方針等の見直し及び既往計画を取り込んだ改正案を令和2年3月に決定した。
- ・インフラ長寿命化計画（個別施設計画）について2年掛けて検討し令和2年3月に決定した。
- ・学生宿舎の在り方に関する報告書を踏まえ、老朽化により用途廃止することにした4棟の学生宿舎について年次計画で取り組んできたところ平成31年4月末に完成した。
- ・宿泊施設トータルプランに基づき、春日地区における宿泊等複合施設整備事業について、平成31年2月に入札公告をし、令和元年9月に事業期間35年間（建設・維持管理・運用を含む）BT0（BuiltTransfar Operate）方式による事業契約を締結し、令和2年度開業に向け事業に着手した。
- ・筑波大附属病院の敷地内に患者をはじめ病院利用者へのサービス向上、大学関係者の福利厚生の実現を図ることを目的とし、PFI事業により、筑波大学附属病院アメニティモールを整備し、令和2年3月に完成した。

2. 共通の観点に係る取組状況

◇ 財務基盤の強化に関する取組について

○ 第3期中期目標期間における経営力強化方策

「国立大学経営力戦略」（平成27年6月：文部科学省）等を踏まえ、大学の自主財源を多様化し財務基盤の強化を図るため、「外部資金獲得戦略」、「収益的事業の展開」及び「人事戦略」の3つの柱からなる収支構造改革を目的とした「第3期中期目標期間における経営力強化方策（平成29年3月23日役員会決定）」を策定し、実現に向け取り組んでいる。これにより、令和元年度の自己収入・外部資金比率は41.9%となり、平成28年度と比べ1.3%上昇し運営費交付金のみならず財源の多様化を推進した。また、令和元年度は第3期中期目標期間の4年目にあたることから、中間点としてこれまでの取組状況を検証し、成果と課題を明確にするとともに、改善に向けて検討を進めた。

(1) 外部資金獲得戦略

府省競争的資金等の研究者への情報提供・マッチングの推進等により、文科省等の大型競争的資金（CREST（1件）、さきがけ（4件）、未来社会創造事業（5件：全国1位）、オープンイノベーション機構、OPERA、スマートシティモデル事業など）を獲得した。

また、本学の研究内容や産学連携活動を産業界にアピールし企業とのマッチングを図ることを目的に「筑波大学産学連携シンポジウム」を開催し、共同研究の拡大を図った。さらに、国際産学連携の強化のため、令和元年度にボストンとシリコンバレーに拠点を設置した。8月にはボストンのケンブリッジイノベーションセンター（CIC）で「筑波大学ナイト」を開催するとともに、翌月9月からはCICのコワーキングスペースに、海外でのスタートアップ活動を目指す教員及び学生を派遣し「国際ユニコーン育成プログラム」によって国際的なマーケット活動を開始した。共同研究に係る間接経費率については、10月に10%から20%に引き上げた。

ベンチャーエコシステムの構築に向けては、大学発ベンチャーのライセンスや財産貸付料の対価として新株予約権を大学が保有できるストックオプション制度を整備した。また、アントレプレナー養成のため、次世代起業家育成講座の新設、既存のTCC（筑波クリエイティブキャンプ）や文部科学省EDGE-NEXTによるプログラムの実施等、教育体制の充実を図った。

これらの取組により、外部資金獲得戦略では前年度実績（12,479百万円）を上回る12,939百万円を獲得した。

(2) 収益的事業の展開

本学では、新たな寄附者の発掘及び寄附文化の醸成を目的に、クラウドファンディングの導入に国立大学として初めて組織的に取り組み、平成31（令和元）年度は箱根駅伝プロジェクトを含め4事業合計29百万円を獲得した。また、本学の教育研究や事業を社会に発信し、本学のPRにつながるという効果もあった。

エクステンションプログラムについては、本学の高度で先駆的な研究・教育分野から生み出された最先端の学問の社会還元を目的に、社会的ニーズが高い AI 分野について民間企業向けの研修プログラム「AI 研修」を実施する等 21 講座を開講した。そのうち新型コロナウイルス感染症防止対策により 5 講座が中止となったが、受講料収入は合計 48 百万円を獲得した。

基金事業については、令和 5 年度の開学 50 周年を見据えた「創基 151 年筑波大学 50 周年記念基金」のため、本学卒業生が在籍する企業・法人等を中心に渉外活動を実施し 47 百万円（累計）を獲得した。なお、来年度以降に 8 社（114 百万円）からの寄附の確約を得ている。また、有価証券による寄附受入れスキームを構築し受け入れた。その他、卒業生とのコミュニケーションと寄附意識の醸成を図るため、大学ニュース等の配信及び寄附機能付きのアプリ「TSUKUBA FUTURESHP」をリリースした。海外においては台湾の同窓会組織との交流活動等による渉外活動を行った。

これらの取組により、収益的事業の展開では 1,998 百万円を獲得したが、新型コロナウイルス感染症流行の影響により前年度実績（2,082 百万円）には及ばなかった。

(3) 人事戦略の取組状況

学長のリーダーシップのもと「戦略的分野拡充ポイント」及び「全学戦略ポイント」を活用し、新たな研究分野の開拓並びに若手・女性・外国人雇用の促進など、戦略的な人的資源の配置を行った。これにより、データサイエンスを全学必修科目とした共通科目「情報」の 4 単位化に必要な教員の増員や、人工知能科学センターの設置、次世代スマートシティ研究等の新しい研究分野の開拓等を実現した。また、多様な財源による人件費確保のためクロスアポイントメントシステム等を一層推進した。

これらの取組のほか、教員のポイント見直しや事務系職員の採用抑制等により令和元年度は前年度比▲508 百万円の承継教職員人件費を抑制した。（平成 28 年度からの抑制累計額は▲1,972 百万円）

○ 余裕金の運用

平成 30 年 10 月に文部科学大臣から業務上の余裕金運用における第 2 関係の認定を受け、新たな商品（元本償還通貨特約型円預金及び無担保社債）の運用を開始した。

2 年目となる平成 31（令和元）年度は、通常の定期預金より利率の高い「元本償還通貨特約型円預金」を軸に運用するとともに、国内で販売された社債のうち、リスクが低く利率の高い商品の保有割合を増やす運用をしたことで、昨年度に比べ運用益が 20 百万円の増額となった。また、利率の低い保有債券を入れ替えたことで、10 百万円の売却益を出すことができた。

◇ 中期計画で設定した数値や指標等の現状値

【中期計画-60 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値
共同研究件数	平成 24 年度比 平成 29 年度に 50%増 (約 466 件) 平成 34 年度に 倍増 (622 件)	約 52%増 (472 件)	約 66%増 (516 件)	約 74%増 (542 件)	約 66%増 (515 件)

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する特記事項

◇ 年度計画を上回って実施したと考える取組の注目すべき点・成果等

定量的評価指標を用いた組織評価の実施【計画-68 関連】

- ・組織評価については、学類及び専攻単位まで対象組織を拡大した評価を着実に実施し、評価結果を踏まえた各組織からの対応計画を確認し、次年度に向けた改善点を明確にするとともに、評価指標を追加して改善を行うこととした。
- ・大学教員業績評価については、エフォート管理に係るガイドラインを策定し、組織的な教育研究力の向上に向けた整備及びシステム改修を行った。
- ・これまで公表してきた「財務経営レポート」に代わり、本学の目標や取り組み、活動実績などの非財務情報を加えた「統合報告書」を作成し、HPでの情報公開を行った。また、ステークホルダーとの対話の機会に本報告書を活用し、本学の活動の積極的な情報発信を行った。

○ 最先端の知識情報基盤及び知の集積・発信システムとしての附属図書館の機能強化【計画-69 関連】

- ・「平成 31 年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」に基づき、整備対象となる電子ジャーナル等の契約手続きを計画どおり行い、安定的な学術情報基盤を提供した。また、令和 4 年度からの次期整備方針策定に向けて、12 月から翌月にかけて学内研究組織を対象に電子ジャーナル等の整備に関する調査を実施し、2 月の附属図書館運営委員会で報告した。併せて RU11 大学等の整備状況調査及び契約情報収集の実施、学内電子ジャーナル等の利用状況調査準備を開始した。
- ・平成 30 年度に作成した次世代学習スペース整備計画ロードマップに基づき、優先順位・重要度を鑑みた計画策定を行い、初期整備として「アクセシブルな学術図書館整備事業」を立案した。事業の一部である障害者対応のローカウンター導入等を実施し、利便性向上を図るとともに、カウンター統合によるワンストップサービスを実現し、業務の効率化を図った。また、滞在型利用者のための飲食スペースの拡充試行、障害のある利用者の安全なアクセスのための駐輪場周辺整備やボランティアカウンターの移設、事務スペースの転用による利用者スペースの拡大を図り、快適な学習スペース整備を実施した。
- ・つくばリポジトリコンテンツ拡充のため、本学貴重書の登録メタデータ項目の検討を行い、年内に登録手順を確認した。令和 2 年後半の次期 JAIRO Cloud への移行も考慮し、1 月からはサンプルとして 132 件のメタデータを登録し、デジタル画像へのリンクを行った。
- ・平成 31 年 1 月から附属高校 3 校を対象に「高大連携図書館サービスパッケージ」を試行した。開始後、ヒアリングに基づく現状分析とサービス改善の検討を行い、10 月より本実施とした。また、昨年度に引き続き、駒場中・高等学校の生徒向け文献探索講習会「メディア虎の穴」へ講師を派遣した。さらに、全国国立大学附属学校連盟高等学校部会教育研究大会へオブザーバー出席し、全国の附属学校関係教員と情報交換を行った。近隣高校については、竹園高等学校、茗溪学園及び並木中等教育学校へのヒアリングを行い、図書貸出とレファレンスサービスの試行を開始した。また、竹園高等学校での教員向け「文献探索方法講習会」に講師として職員 2 名を派遣した。
- ・中央図書館において、11 月から 12 月にかけて「令和元年度筑波大学附属図書館特別展－東京 1964 と日本文化を考える－」を開催した。本特別展は、日本がどのようにオリンピックを受容し、東京開催を実現しようとしたのかを、附属図書館所蔵の貴重な資料から考えるもので、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会参画プログラムの一つとして開催した。本特別展には、学内外から 1,940 名が訪れた。
- ・つくば市域の学術文化の発展と地域社会貢献に資するため、つくば市立中央図書館と 9 月に「つくば市域図書館連携に関する協定」を締結するとともに、つくば市域図書館連携協議会を設置した。さらに協定締結を記念し、11 月に附属図書館を会場として、つくば市長と学長を招いたセレモニーとイベント「ライブラリーピクニック」を開催した。イベントは図書館を介した利用者同士の交流を促すもので、市民と大学双方向の図書館利用や筑波大学への関心を深める機会となった。1 月につくば市域図書館連携協議会において第 2 回会合を開催し、今後の連携の具体化等について協議を行った。

◇ 中期計画で設定した数値や指標等の現状値

【中期計画-71 関連】

KPI	目標	実績
公文書館（アーカイブズ）を設置	平成 30 年度までに設置	平成 29 年 4 月に公文書管理法に定める「国立公文書館等」として指定

(4) その他業務運営に関する特記事項

1. 特記事項

○安全管理・事故防止に関する具体的方策【計画-73 関連】

- ・平成 31（令和元）年度に実施している教育課程において習得させる安全技術の実践的な内容について、開講科目の実施状況の検証を行った結果、5 科目が開講されており、受講者も多かった。
- ・「高圧ガスボンベ・レーザー機器利用者安全講習会」の開催及び衛生管理者が他部局の職場巡視にオブザーバーとして同行する「オブザーバー参加型職場巡視」を実施して衛生管理者の資質向上を図った。また、職場巡視マニュアルの英語版及びレーザー機器に関する職場巡視マニュアルを作成・周知して、衛生管理者の職場巡視業務の標準化・効率化を図った。
- ・各教員の毒劇物の管理・使用状況、在庫点検状況の確認・検証を踏まえ、毒劇物の管理の手法として、棚卸の実施が有効であることから、棚卸を支援するソフトウェアを作成・配布を行い毒劇物の管理体制の強化を図った。

2. 共通の観点に係る取組状況（ガバナンス改革の観点）

◇ 法令遵守（コンプライアンス）に関する取組について

<情報セキュリティ対策>

情報セキュリティに関しては、情報セキュリティに係るリスクマネジメントの有効性、情報セキュリティ対策の適切性を検証し、情報セキュリティの改善につながる助言を行うことを目的として、監査室及び情報セキュリティリスク管理室の共同により情報セキュリティ監査を実施している。

平成 31（令和元）年度は、情報セキュリティに対する組織的な取組状況、外部委託時のセキュリティ対策の調達仕様等への反映状況、格付けに基づく情報の取扱実施状況、安全区域外でのモバイル端末取扱状況、情報セキュリティインシデント対応体制・状況等の項目について、5 つの部局情報環境委員会に対してヒアリング及び書面による監査を実施し、問題点の有無等について確認するとともに、情報セキュリティの改善若しくは高度化に繋がる助言・提言を行っている。

「大学等におけるサイバーセキュリティ対策等の強化について」（令和元年 5 月 24 日 元文科高 59 号）を踏まえ策定した「サイバーセキュリティ対策等基本計画」に基づき平成 31（令和元）年度に取り組んだ内容は次のとおり（[] 内の数字は上記通知の該当する項目番号）。

①未然防止に向けた取組

- ・学生・教職員の e-Learning 及びセミナーによる情報セキュリティ教育を実施 [2. 1. 1(2)]
- ・学内への適宜の注意喚起を実施（Windows 7 サポート切れ、不審メールへの注意、脆弱性情報など） [2. 1. 1(2)]
全教職員を対象とした標的型攻撃メール訓練を実施 [2. 1. 1(2)]
- ・5 部局情報環境委員会を対象として情報セキュリティ監査を実施 [2. 1. 1(3)]
- ・情報の盗難・漏えい防止のための総合的な情報セキュリティ対策（情報の格付けに基づく取扱い、UTOS）の運用状況を確認・評価 [2. 1. 4(1)]
- ・他機関（学術系 CSIRT 情報交流会、つくば情報共有会）との情報共有会への参加 [2. 1. 1(4)]
- ・サイバーセキュリティ対策等基本計画を決定 [2. 1. 2(1)]

②被害最小化や被害拡大防止のための取り組み

- ・キャンパスネットワークにおけるセキュリティ対策として国立情報学研究所と協力しながら学内から学外への監視を実施 [2. 1. 1(5)]
- ・キャンパスネットワーク上の全グローバル IP アドレスに対する脆弱性診断を定期実施 [2. 1. 1(5)]
- ・サブネットワーク管理者、部局 ISIRT 構成員を対象としたセキュリティ技術セミナーを実施 [2. 1. 1(1) 、2. 1. 2(2)]
- ・筑波大学 ISIRT メンバの文科省 CSIRT 要員研修、NII-SOCS 研修受講によるインシデント対応力向上を目指す [2. 1. 1(1)、2. 1. 2(2)]
- ・次期キャンパスネットワーク検討にて、セキュリティ向上に向けた構成と運用の改善に関する検討を実施 [2. 1. 1(5)]

<研究費不正使用の防止>

本学の役員、職員、学生及び本学の教育研究費の執行に関わる者に対し、以下の方法によりコンプライアンス教育を実施した。

- ①本学の e-Learning システム manaba を用いて実施（e-Learning システムを使用できない者については、テキストを配付し実施）
- ②TA 研修会及び教職員の採用時の説明会において説明を実施
- ③科研費等の公募説明会において説明を実施

④部局からの依頼に基づき説明会での説明を実施

また、ルールを分かりやすく周知するために、職員向けに「会計ルールハンドブック」、リーフレット「やってはいけない会計ルール」及び「財務会計業務マニュアル」を作成し、各種研修等で周知するとともに、学内専用 web サイトに公開し、いつでも確認できる環境を整備した。

<研究活動における不正行為の防止に向けた啓発>

- ・「筑波大学研究公正規則」を踏まえ、日本学術会議の「科学研究における健全性の向上について（回答）平成 27 年 3 月 6 日」を基に、「『研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン』への対応に関するタスクフォース」にて検討を行い、「筑波大学研究倫理教育に関するガイドライン」、「筑波大学研究資料等の保存に関するガイドライン」等を作成した。また、論文剽窃チェックツール iThenticate 及び研究倫理教育教材 CITI Japan に加え、[eL-CoRE]を導入し、利用を促進するとともに、研究者が論文を投稿し掲載受理された場合に登録できる「論文受理報告書登録システム」の試験運用を開始し、利用を促進するなど、不正行為を抑止する環境を整備した。
- ・研究成果及び研究データの適切な管理・保存の責務を果たし、本学における研究活動及び成果の適正性・正当性の確保に資するために構築した「論文受理報告書登録システム」を全学に向けて試験的な運用を経て、平成 29 年 3 月には学長決定により規則を整備し本格稼働を開始した。
- ・毎月の研究推進会議において、所属ごとの研究倫理 e ラーニングの受講率の情報を共有するとともに、各所属に対して常勤研究者の未受講者リストを送付し履修を促し、履修率 100%を達成・維持している。これにより、研究倫理についての理解の促進と研究不正を防止する意識の醸成を図っている。

<水質汚濁防止法に基づく対応>

水質汚濁防止法に基づく「特定施設」の届出について、行政への届出状況の管理徹底を図るため、ドラフトチャンバー等の特定施設を記載した「棟別平面図」を平成 29 年度より学内 Web サイトへ公開し、施設の変更と同時に特定施設変更等に伴い必要な届出書を遅滞なく提出している。利用者に対しての説明会を平成 30 年度に続き平成 31（令和元）年度も実施した。また、屋外実験排水の漏えい調査を実施するために、実態把握調査を実施している。

<障害者差別解消法への対応>

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」及び「筑波大学障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に基づき、全教育組織にダイバーシティ・アクセシビリティ担当教員を配置し、連携を密にしながら障害のある学生等に対する合理的配慮の提供を行っている。また、主に教職員を対象とした「障害学生支援懇談会」を毎年度 2 回開催し、支援事例の情報共有に努めた。

◇ 施設マネジメントに関する取組について

(1) 施設の有効利用や維持管理（予防保全を含む）に関する事項

- ・平成 24 年 12 月に策定した「スペースの流動化・共用化に関する基本構想」に基づき、戦略的な施設の有効活用・配分方策として、新たなスペースの確保に繋げるために、平成 25 年 3 月「公募スペース運用ガイドライン」を策定し、既存スペースの再配分を実施している。令和元年度の公募スペースは約 15,000 m²で、競争的外部資金を獲得したプロジェクト研究チーム、活動基盤拠点未整備のセンター等、学位プログラムなど学内支援の組織に配分した。残る 2,700 m²は新たな耐震改修工事の移転スペースとして使用した。
- ・公募スペース運用ガイドラインに基づき、5 年を超え継続利用する利用者に対して令和元年 12 月に「点検・評価」を実施し、施設・土地委員会において「点検・評価」結果を審議し、了承された。

(2) キャンパスマスタープラン等に基づく施設整備に関する事項

- ・建物の計画（アメニティの形成）に沿って、春日福利厚生棟トイレ改修、屋内プールのトイレ改修を実施した。
- ・設備計画（太陽光発電設備）に沿って、2A 棟に 10KW、外国語・学術情報メディアセンターに 10KW を設置した。
- ・設備計画（照明設備）に沿って、2A 棟、外国語・学術情報メディアセンターの照明器具及び総合研究棟 A1 階ホールの照明器具を LED 器具に更新した。
- ・設備計画（空調設備）に沿って、中央図書館、医学食堂、自然系学系 E 棟、2 E 棟 212-1 室他、自然系学系 A 棟 101 室、総合研究棟 B621 室他、体育総合実験棟 101 室、3 D 棟 310 室、7 D 棟 430 室他を高効率空調に更新した。

(3) 多様な財源を活用した整備手法による整備に関する事項

- ・スペースチャージ制度により約 48 百万円、公募スペース施設使用料約 39 百万円により研究室及び実験室の空調機整備を行い、教育研究環境の改善を図った。
- ・春日地区における宿泊等複合施設整備事業について、令和元年 9 月に事業契約を締結した。
- ・企業からの資金獲得に努めた成果として、物納寄附により教育研究施設等の整備を行うことができた（つくば機能植物イノベーション研究センター（温室 1 棟及び隔離圃場））。

(4) 環境保全対策や積極的なエネルギーマネジメントの推進に関する事項

- ・本学では地球温暖化対策は以前から実施してきたが、地球温暖化対策とエネルギー対策を一体的に取り組む全学体制を整備するため、「筑波大学エネルギー管理規則」を制定し、規則に基づき、「環境・エネルギー対策委員会」を設置し、委員である各系長等の働きかけにより、省エネ・節電の取り組みを推進している。
- ・昨年度に続き、本委員会では、毎月開催される運営会議及び教育研究評議会に「筑波キャンパス CO2 排出量・エネルギー使用量実績」の報告や、教職員サイトの「筑波大学電力情報システム」により電気計量単位のリアルタイム情報を大学の構成員に提供して、適正なエネルギーの使用を働きかけてきた。

主な取り組みとして、平成 30 年度に引き続き、平成 31（令和元）年度においても以下のとおり実施した。

①学生による省エネ推進活動の実施

「筑波大学学生人材バンク」を活用し、短期雇用(夏 3 人)の学生による講義室等の節電確認を行った。その際、簡易温度計付きシールをエアコンのリモコンに貼り、利用者に設定温度以上の利用を控えるよう意識啓発を行った。

②連続休暇による光熱費の抑制

夏の冷房期間中に 8 月 13 日から 16 日まで連続して休暇を取得することによって、設備停止や照明等の使用停止による光熱費を削減した。

③再生可能エネルギー導入の促進

再生可能エネルギーの拡大として太陽光発電設備等の導入を進めているが、2A 棟に 10KW、外国語・学術情報メディアセンターに 10KW の太陽光発電設備を設置した。

④高効率機器への更新による省エネ対策

空調設備の更新で、中央図書館、医学食堂、自然系学系 E 棟、2E 棟 212-1 室他、自然系学系 A 棟 101 室、総合研究棟 B621 室他、体育総合実験棟 101 室、3 D 棟 310 室及び 7 D 棟 430 室他を高効率空調に更新した。さらに照明設備では、2A 棟、外国語・学術情報メディアセンターの照明器具を LED 器具に更新した。少額工事で総合研究棟 A 1 階ホールの照明器具を LED 器具に更新した。

◇ 大学入学者選抜の実施体制の強化に関する取組について

(「大学入学者選抜の実施体制の強化に関する取組」に記載)

◇ 中期計画で設定した数値や指標等の現状値

【中期計画-73 関連】

KPI	目標値	実績値
安全衛生に関する実践的科目	平成 30 年度までに 4 科目開講	学士課程及び大学院課程合わせて 4 科目開講 ・大学院共通科目「化学物質の安全衛生管理」 ・総合科目Ⅱ「安全衛生と化学物質」 ・総合科目Ⅲ「事例に学ぶ環境安全衛生と化学物質」 ・環境化学リスク論

II 教育研究組織の評価結果

令和元年度活動評価結果報告書

- は優れた取組として高く評価できる
●は改善が必要な取組として今後の改善を求める

1. 系

〔人文社会系〕

- IGR のオンラインジャーナル (Inter Faculty) が欧州の人文社会科学研究データベース (Erih Plus) に日本の学術誌として唯一登録され (2019 年 7 月)、国際的レピュテーションが向上している。
- 人文社会系の戦略的研究分野強化に沿った若手登用が、RISTEX の (科学技術の倫理的・法制的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム) への応募、ハンブルク大学のエクセレンス大学事業、人文社会系内での Academic skills for the 21st century の立ち上げへの若手教員の参加につながっている。
- 国際産学連携本部と連携し、人文社会科学研究分野のシーズ開発を行い、日本語教育の edutech 開発、SDGs 普及のための教育アプリの開発、異分野コミュニケーション理解促進セミナー等の人文社会コンテンツについて、関連企業とマッチングを開始している。
- 若手教員の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 論文等の研究成果の公表の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 教員一人当たりの外部資金の獲得の増加に向けて、一層の努力を期待する。

[ビジネスサイエンス系]

- MIT のデータサイエンス研究機関 IDSS と合同で「MIT-Tsukuba Joint-Workshop on Data Systems Science towards Social and Business Innovations」を開催し、ビジネス科学及び社会科学における先端的なデータサイエンス研究に関する研究発表と情報交換を行っている。
 - イスラム金融法の世界的権威によるレクチャーを含むエクステンションプログラムを開催し、学外専門家をはじめ多くの参加者を得ている。
 - 科研費獲得実績を有する教員がパネラーを務める科研費説明会の実施や部局 URA と協力しての具体的な科研費テーマの発掘など、科研費申請率向上のための取り組みを行っている。
 - ベルギーの KULeuven 大学（ルーベン・カトリック大学）法学部の学部長等の訪問を受け、社会人大学院として、今後の連携等の在り方についての対話を行っている。
 - 若手教員の増加に向けて、一層の努力を期待する。
 - 外部資金の増加に向けて、一層の努力を期待する。
-

[数理物質系]

- 4 つの海外教育研究ユニットを活用し、国際共同研究等を推進している。
- 若手教員の意見を入れた系の運営のために、各域から若手教授 1 名ずつを選定した総合政策室を設置し、系の研究力強化など、系が有する問題に関する議論を行っている。
- 部局 URA を活用し、研究者総覧（TRIOS）や SciVal などの学内外の研究情報データベースを検索して公募の性格にマッチした教員を見出し、個別に応募を推奨するなど教員への外部資金情報の提供を行っている。
- 民間企業との特別共同研究及びそれを核にした開発研究センターの設置、戦略的イノベーション創造プログラム SIP への採択など産学連携等を通じた企業等からの資金獲得に向けた取り組みを行っている。
- 女性教員の増加に向けて、一層の努力を期待する。

[システム情報系]

- JST 戦略的創造研究推進事業「CREST」(代表)、JST 戦略的創造研究推進事業「ERATO」(グループリーダー)、JST 戦略的創造研究推進事業(ACT-I)(代表)、科研費基盤(A)(代表)などの大型の競争的資金を継続的に獲得するとともに、新エネルギー・産業技術総合開発機構・戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の新規プロジェクトが採択されている。
 - 民間企業との共同研究を実施するとともに、共同で設置した開発研究センターを継続的に運営している。その成果に基づく取組により、国土交通省スマートシティモデル事業・新モビリティサービス推進事業のプロジェクトに採択され、つくばモデルという医療 MaaS・キャンパス MaaS からなる提案を行って実験を開始している。
 - 学位プログラムのエフォート管理は各教育組織とそれぞれの域において調整が適切に行われている。
 - 大型科研費獲得の新たな取組を系戦略室において検討し、科研費パワーアップ(大型科研費申請)支援として研究費の支援を実施している。
 - CiC などすでに交流のある国立台湾大学、ユタ州立大学、オハイオ州立大学に教員を派遣し、ダブルディグリープログラム締結の議論等を行い、専攻/学位プログラムの教育研究の国際化を推進している。
 - 若手教員の比率が高い水準を維持している。
 - 女性教員の増加に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境系]

- 若手教員育成のため、英語での授業やオンラインコースの活用に関するFD研修を継続して開催し、2019年はFLIP It Consulting (USA) が提供する1年間のオンラインコース“FLIPIT”を実施し、26名が参加している。
- 部局 URA を活用し、府省庁の競争的研究支援事業の情報を収集整理し、系の教員のニーズに合わせて情報を提供している。
- 若手教員への支援方策として、国際共著論文の投稿・掲載料等の支援及び国際連携コーディネーターによる国際大学院生フォーラムやサマーリサーチプログラムなどの国際活動への支援を実施している。
- 若手教員の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 論文数の増加に向けて、一層の努力を期待する。

[人間系]

- 若手研究者にキャリアプラン等の助言を行うメンター制を整備するとともに、系の研究戦略策定や国際交流事業に若手教員を登用し、国際的に活躍できる研究者としての育成に取り組んでいる。これらの取り組みによる継続的な支援により、若手研究者間での協力体制が育成され、10年後の人間系の研究を支える基盤が構築されつつある。
 - ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センターとの連携強化を図り、系主導で新たなエクステンションプログラム（インクルーシブ・リーダーズ・カレッジ）を開講している。
 - オハイオ州立大学、サンパウロ大学、国立台湾大学をはじめとする協定校との国際共同研究を推進している。
 - 系所属の教員に個別に依頼され、兼業として実施してきたものの中で、研究課題として教員が連携して実施可能なものを選び、産官学連携プロジェクトとして取り組むことを目指してきた結果、茨城県教育委員会との間で、受託研究の契約締結につながっている。
 - 論文数の増加に向けて、一層の努力を期待する。
 - 東京キャンパスとの協業の改善を期待する。
-

[体育系]

- 産学連携等を通じた企業等からの資金獲得に努め、47件の共同研究及び14件の受託研究を受け入れており、共同研究の受け入れ状況が高い水準にある。
- e-スポーツ関連の研究に関して、体育系若手教員によるチームを作り、競争的資金申請及び関連企業や自治体との協議を行っている。
- 総被引用数及びFWCIが上昇している。
- 科研費の採択状況の増加に向けて、一層の努力を期待する。

[芸術系]

- 「作品による評価がある分野」では、論文での「査読」に該当すると考えるところの「審査」の有無や「個展」でも「企画」であるかどうかを項目とする客観的な評価をベースに部局 URA と協力の上、評価システムの構築に向けて検討している。
 - 国際性のある研究活動の展開を図るために、毎年、海外研究機関と国際交流協定を締結しており、成果として国際交流作品展（ファインアート・ユニバーシアード、国立台湾芸術大学との国際交流展、キャンパス・アーティスト・イン・レジデンス）や国際シンポジウム（清華大学ほか）を開催している。
 - 若手教員の研究力向上のために「芸術系研究プロジェクト」への応募を促し、その結果応募した5名のうち2名が科研費に採択されている。
 - 査読付き原著論文数及び TOP10%論文数が減少しているため、増加に向けて、一層の努力を期待する。
-

[医学医療系]

- トランスボーダー医学研究センターを中心に共同研究のコアとなる先端基盤研究を推進し、大型プロジェクトになりうる萌芽期の研究を支援する方針のもと、戦略的拡充ポイントを用いて幹細胞治療分野を新規に立ち上げ、40代前半の若手教授を採用している。
- 科研費の申請・採択経験が豊富な教員（各域長から推薦された教員）をアドバイザーとして委嘱し、申請書類へのコメントや面談を行うことで科研費の採択率の向上を目指した結果、制度利用者14件のうち11件が採択されている。
- 医学医療系の情報基盤室を発展して整備した「情報研究室」を中心に、医療従事者の暗黙的知の構造化研究やハイスループット匿名化研究等を行う「つくば未来情報医学研究センター（仮称）」の設置準備委員会を立ち上げている。
- つくば臨床医学研究開発機構（T-CReD0）を通じて筑波研究学園都市を中心とする研究機関に存在する医療技術に関する研究成果（シーズ）の育成と臨床開発等実用化に向けた支援を行っている。
- 若手教員率の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 英語の査読付き原著論文数及び総被引用数が減少しているため、増加に向けて、一層の努力を期待する。

[図書館情報メディア系]

- 2020年3月公表のQS大学ランキングにおいて図書館情報マネジメント (Library & Information Management) 分野で、筑波大学は世界:33位/国内:1位の順位となっている。
- 若手教員の育成・登用の観点から、2020年度に実施予定の循環型戦略ポイント獲得に向け、系内に人事タスクフォースを設置し、本系の中・長期的人事戦略の検討を行っている。
- 将来構想タスクフォースにおいて、図書館(ハード)からの脱却、人間の社会的コミュニケーション研究といったビジョンを練っている。
- 2019年度はホンダ・リサーチ、楽天、アクサム、ヤマハ、博報堂プロダクツ、ヤフー、ピクシーダストテクノロジーズ等、多彩な企業との共同研究を実施し、2019年の教員一人当たりの受け入れ金額の伸び率は対前年の約130%に上っている。
- 若手教員率の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 外部資金(その他研究資金(財団等)の獲得状況)の採択件数が減少しているため、増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 大型の科研費の申請率の増加に向けて、一層の努力を期待する。

2. 学群

〔人文・文化学群〕

- 他学類の学生が履修しやすい規格化と時間割の編成を実施し、学類間でのカリキュラム共有がなされている。
 - 各学類でもクラス連絡会や授業評価アンケートによって、学生からの意見を聴取する筋道が確保されている。
 - 出前講義など学群全体の努力により、志願倍率が向上している。
 - ASIP プログラムの後継として、全学的な履修証明プログラム「TSUKUBA GLOBAL+」を開設している。
 - 留学生率が向上している。
 - 就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
 - 学生の海外渡航率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔人文・文化学群人文学類〕

- コンテンツの更新やスマートフォンへの対応のための学類ホームページの大幅なリニューアルを行い、日常的にスマートフォンで情報を得ることの多い世代にもアピールできるよう工夫している。
 - 学類の就職活動支援企画について、学生のニーズに基づき内容・開催時期を選定し、大手就職情報企業との連携を中心に見直しを進めたことで、参加者の大幅な増加につながっている。
 - ガイドラインに沿ったシラバスの作成を周知徹底するなど早急な対応を期待する。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔人文・文化学群比較文化学類〕

- インターンシップの単位化と、事前・事後指導を実施することにより就職支援の実質化を図っている。
- 国際交流協定を結んでいる海外大学へ半年から1年間程度の留学者の派遣（19件）、私費による休学留学、短期海外研修等（35件）、オハイオ州立大学生のショートステイによる学類学生との交流と同大学教員の講演会、カナダのプリンスエドワード島大学への短期研修、CiCを含む海外大学からの短期留学生受け入れ（41件）を実施し、学類の国際性を高めるとともに、学生の国際化の機会を作っている。
- 英語のみで授業を行う One-Planet Relational Studies in Literature and Culture コースを設置し専門語学教育を充実させている。
- 本学独自の海外留学支援事業「はばたけ！筑大生」についてより広報に努めるなど、海外渡航率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

〔人文・文化学群日本語・日本文化学類〕

- 国際シンポジウムの実施により、韓国、ベトナム、マレーシア、日本における日本語教育学、文化人類学、教育学、社会学等、ディシプリンを超えた交流や行政・市民団体との連携基盤が形成されている。
- 近隣の小学校、茨城県教育委員会、茨城のNPO 団体そして文部科学省「外国人児童生徒等を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」委託事業である日本語教育学会のモデル授業開発などと連携し、多角的な教育システムへと展開している。
- 学類のグローバル戦略について積極的な情報発信を期待する。

[社会・国際学群]

- グローバル科目として「地球規模課題へのアプローチ」(2単位)を開設し、国連機関、JICA、JETRO など国際的に活躍する講師陣を迎え現場での実践活動に即した講義を行っている。
 - 国連ユースボランティアプログラムへの参加を国際総合学類開設科目において単位化している。
 - 本学群を構成する社会学類、国際総合学類双方に共通する専門分野(政治学、経済学など)に関わる授業科目を可能な範囲で共通化し、学生の履修上の便宜を図っている。
 - 社会国際学教育プログラム(旧 G30)の学生が学類の日本人学生を一部交えながら全米模擬国連に出場し、団体賞を受賞している。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[社会・国際学群社会学類]

- 教員と学生が連携し、就職相談会(OB/OGによる就活相談会、4年内定者による就職相談会)をリニューアルし、内容の充実を図っている。
 - 抽象的空論に陥ることなく現実の社会を分析するために、実習、実験、工場・各種機関の見学、経営・現場当事者との対話等も重視する取組は、新聞やテレビで取り上げられ、学会報告や学会奨励賞へのチャレンジにつながるなど一定の成果を得ている。
 - 本学独自の海外留学支援事業「はばたけ!筑大生」についてより広報に努めるなど、海外渡航率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
 - TOEFL のスコアの平均点の伸びの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[社会・国際学群国際総合学類]

- 教員の新規採用にあたって英語での講義能力を重視しているため、英語での開講科目の新設も可能になっている。
- 学生の海外留学に引続き力を入れており、学生の海外渡航率は前年度より一定の上昇がみられている。
- TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間学群]

- 「人間学」（1単位必須科目：1年次科目）という学群共通科目を設定し、人間学群生としての学問への視座を広げている。
 - クラス担任制が十分に機能しており、インターンシップ等開始時期より前に具体的な進路指導をより早期的に行うなど、就職・進学決定率の向上のための対応がなされている。
 - TOEFL のスコア及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間学群教育学類]

- 人間学専門学群（仮）の創設に向けて、心理学類、障害科学類と協力しながら、基本方針等を検討している。
 - 「算数・数学教材論演習」において、CRICED の協力を得ながらインドネシアに学生を派遣するといった活動をしており、その結果、令和元年度卒業生が JASSO 海外留学支援制度（大学院学位取得型）の派遣学生に採用されるなど、海外渡航率の向上を図っている。
 - TOEFL のスコア及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間学群心理学類]

- 国家資格「公認心理師」の受験資格取得可能なカリキュラムの整備を着実に進めている。
 - 出前講義等の対面による広報活動に力を入れた結果、志願倍率が 4.9 倍から 5.5 倍へと伸びている。
 - 留学生率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間学群障害科学類]

- オハイオ州立大学（OSU）の全面的な協力を得て、初めて現地での短期研修を実施し、障害科学類生 10 名が参加している。
- 志願倍率及び留学生率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境学群]

- 生物学類における日本人学生も英語を中心として履修する GloBE コースの新設、生物資源学類の国際農業研修、地球学類の特徴である海外でのフィールド実習など、学生のグローバル教育において、次々と新しい取り組みを展開している。
 - 地球規模課題学位プログラムで中核的な役割を果たしている。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境学群生物学類]

- チュートリアル授業「寺子屋」授業で英語（又は英語対応）の講座が複数開講され、学類生にも英語でのディスカッションを経験する機会が与えられている。
 - 生物学の諸分野を幅広く英語で学び、国際的に活躍できる人材育成を目指す専門コース GloBE を新設している。
 - 英国のマンチェスター大学と約 20 年間行ってきた学生の交換留学制度から発展させたデュアルディグリープログラムの締結の交渉を進めている。
 - 留学生率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境学群生物資源学類]

- TOEFL-ITP 受験を授業評価に結びつけた結果、受験率が飛躍的に向上している。
 - 海外協定校のタイ・カセサート大学、国立台湾大学、米国・ユタ州立大学、フランス・ボルドー大学等との連携による「国際農業研修」や単位互換制度を通じて、海外で学ぶ機会を増やし、渡航率増加に結びつけることを目指している。
 - 附属坂戸高校との連携により、高校生を受け入れて大学院生を中心とした卒研指導を実施している。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境学群地球学類]

- 研究成果の社会還元を目的として、「地球科学」の面白さを一般市民に紹介するイベント「ジオカフェ」や、小学生を対象とする「ジオキッズゼミナール」を開催し、普及活動を強化している。
- TOEFL のスコア及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[理工学群]

- 理工学群共通の専門導入科目（数学、物理、化学）の授業を開始するとともに、シラバス、試験の実施、履修方針等を再検討するなど、授業の共通化を図っている。
 - 数理系科目（特に数学）の単位取得状況に問題がある学生及び学修に悩む学生を個別指導する「寺子屋」を総合政策室の下に設け、学生支援の強化を図っている。
 - 富士電機・トヨタ自動車・デンソーパワーエレクトロニクス寄附講座及び日立ハイテクアドバンスト SEM テクノロジー特別共同研究事業の2つの寄附講座を行っている。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[理工学群数学類]

- 理系共通科目の要となる「数学リテラシー」については、昨年度の内容を踏まえ、数学域教員と工学系の数学担当教員とで定期的に連絡会を開催し、シラバスの内容の再点検、試験問題の出題の工夫、学生からの意見のフィードバックなど、多角的なやり方で改善に取り組んでいる。
 - 授業についていけない学生、逆に授業内容を超えて様々な興味を持つ学生などのニーズに応えるために、「数学手習い塾」を開講している。
 - 海外渡航率及び TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[理工学群物理学類]

- 文系の学生でも理解できるレベルである SF 物理科目（力学、電磁気学）を実施している。
 - 非常勤講師の時間数及び費用を減少させる努力が見られる。
 - TOEFL のスコア及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[理工学群化学類]

- 私費外国人は、募集人員が若干名にもかかわらず志願者が多いが、定員超過率との兼ね合いで合格者数が限られてしまう状況であるため、留学生率を上昇できるような工夫について検討している。
- 化学を必要とする他学類の1年次生（全学で約500名）向けに、化学類専門導入科目の授業内容と評価方法を確立するとともに、化学類の2年次以降の授業にも繋がる内容とし、総合選抜入学者に対応できるカリキュラムを構築している。
- 志願倍率及び TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[理工学群応用理工学類]

- 総合理工学位プログラムが定員化され、英語だけで卒業できるカリキュラムの策定や、広報活動、入学選抜の実施等を主担当学類として支援している。
 - 入試問題を工学システム学類と共同作成して入試問題を統一し、入試ミスの低減及び作問にかかる教員の負担の低減を図っている。
 - 外国人の教員による少人数での英語クラスを設置し、3単位の必修科目として、科学の専門英語を継続開講している。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[理工学群工学システム学類]

- 工学システム学類に入学した学生が英語で開講される総合理工学位プログラムの講義を積極的に受講するよう、工学システム学類開講の講義との単位互換性を確保する予定になっている。
 - JABEE 認定を取得し、教育の質保証のための取り組みを継続している。
 - 日本学生支援機構及び筑波大学(はばたけ！筑大生)の支援を受け、複数の学生をカリフォルニア大学アーバイン校(UCI)へ短期派遣し、海外渡航率の向上を図っている。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[理工学群社会工学類]

- 教学マネジメント委員会を設置し、教育の質の改善を継続的に実施していくとともに、数理・データサイエンス(DS)教育強化拠点としての教育改革(社会工学カリキュラム2.0とDSケースバンクの構築)に着手している。
- 外国人学生受け入れ体制整備を図るために、1) 授業の英語化推進に意欲的な教員の授業コンテンツの英語化支援、2) 学類留学生への必要に応じたチューター支援(クラス担任)、3) 学類入学時の社工オリエンテーション資料の英訳化(オリエンテーション委員)を行っている。
- 留学生率及び TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[情報学群]

- 文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」やキャンパス 0JT 型産学連携教育推進財団との連携による「組み込み技術キャンパス 0JT」、つくば市立図書館との連携による「PBL 型図書館サービスプログラム開発」といった PBL 型授業など、産学官連携による実践的授業を推進している。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[情報学群情報科学類]

- 全学的な方針のもと、2018 年度から 3 年生向け TOEFL-ITP テストの受験を実質必修化し、全体の底上げを図っている。
 - 海外の大学における体験的実習を支援するため、2019 年度から海外インターンシップ科目を新設している。
 - 情報科学類生 3 名からなるチームが ICPC プログラミングコンテストのアジア大会を勝ち抜き世界大会に進出している。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[情報学群情報メディア創成学類]

- 国内外での学会発表やコンテスト等への学類独自の支援を継続実施しており、令和元年度は国際会議 7 名、国内会議 5 名の支援を行っている。
 - 学生への啓蒙により、特に科目との紐づけをせずに TOEFL ITP の受験率を 1 年生、3 年生ともに 100%としている。
 - 出前授業、模擬授業や教員のメディア出演等の広報活動を積極的に行った結果、志願倍率が過去 4 年間 5 倍を超えている。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[情報学群知識情報・図書館学類]

- ピッツバーグ大学との連携教育プログラムを開始し、ピッツバーグ大学 iSchool への留学という進路を意識させている。
- TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[医学群]

- 医学類では国際バカロレア・海外教育プログラム特別入試を定数化（5人）している。
 - 医学類では「研究型人材入試」を開始している。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[医学群医学類]

- グローバル人材獲得のために、特別入試（国際バカロレア特別、海外教育プログラム）を実施し、定員化（5名）している。
 - 研究に適性を有する学生を積極的に獲得し将来の研究医を養成するため、令和2年度入試から「研究型人材入試」を開始している。
 - 教養英語教育の減少を補うため、ネイティブの英語教員による「専門医学基礎演習」を開設し、2年次と3年次に新たな Medical Terminology コースを開設している。
 - TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[医学群看護学類]

- グローバルナースィングリーダーシッププログラムとして、イリノイ大学シカゴ校、モンゴル国立医科大学及びベトナムホーチミン医科薬科大学へ海外短期留学を実施している。
 - 国家試験対策の支援により、看護師及び保健師の合格率は100%となっている。
 - 志願倍率及び TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[医学群医療科学類]

- 臨床検査技師を目指す医療科学主専攻と研究職を目指す国際医療科学主専攻について、志願者数と大学院進学率のバランスを取れるような広報を行い、徐々に国際医療科学主専攻を強化していく将来構想としている。
- 学生が主体的に考え、行動できるよう「学生指導に活かすコーチング」と題したFD講演会を行い、学生から主体性を引き出すために必要な教員の指導力の向上を図っている。
- 志願倍率及び TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[体育専門学群]

- 優秀な外国人学生の受け入れを検討するため「外国人学生入試のための調査委員会」を設置している。
- パラ・アスリートの活躍により受験の問い合わせもあることから、受け入れ体制を拡充を予定している。
- 国際競技大会で活躍できる学生の増大を目標に支援体制を強化した結果、24人の学生が日本代表（年齢別代表を含む）として優れた成績を収めている。
- 留学生率及び TOEFL のスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[芸術専門学群]

- 芸術における制作や研究において必要な倫理教育のため、1年次生を対象として特許庁から意匠審査官を招いて美術・デザインを取り巻く知的財産制度（意匠権、商標、著作権等）の講義を実施している。
- 新入生の時から卒業後の進路について考える機会を確保しており、新入生から2年次を主な履修年次とした「芸術キャリア教育」（1単位）の必修授業を新設している。DACセンターと連携してプログラムを開発し、就職・進学決定率の上昇に向けて、低学年から自身のキャリアプランを作成させることを実践している。
- 入学時と異なる興味を持って、領域を超えて卒業する学生がいる。
- TOEFLのスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。

3. 研究科

〔人文社会科学研究科〕

- 学生の論文生産性が上昇している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率（後期）、学生の論文生産性、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔人文社会科学研究科哲学・思想専攻（一貫制博士課程）〕

- 研究職以外への適性があると判断される学生には、その進路に有益なさまざまな授業科目の履修を勧めるとともに、大学が持っている就職関連の情報にアクセスしやすい環境を整えるなど、就職率の向上に努めている。
 - 「海外教育研究ユニット招致プログラム」の一環で、ドイツ・ハンブルク大学の教授による英語の授業を開講するとともに、大学院生1名をハンブルク大学への短期留学生として派遣するなど交流を深めている。
 - 大学院生による外部資金への申請を促進し、新規に2名が日本学術振興会特別研究員（DC2）を獲得し、現在4名が外部資金を得ている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔人文社会科学研究科歴史・人類学専攻（一貫制博士課程）〕

- 前期課程では博物館学芸員・文書館専門職・中等教育教員（専門職）、後期課程では大学教員・研究機関研究員（研究職）などの人材養成に向けたカリキュラムマップなどの教育課程の体系性を示す資料を作成している。
- 専攻公開講座（レキジン・アトリエ）を開設し、学生が大学教員・研究機関研究員（研究職）や博物館学芸員・文書館研究員・中等教育教員（専門職）としてのキャリア形成を考えるうえで参考とするために、若手教員を中心に研究者としての歩みや就職活動に関する体験談を語る機会を設けている。
- 外国人学生率（留学生を含む）の上昇に伴い、論文生産性・学位授与率・就職進学決定率向上のための指導体制の充実を図っている。
- 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

〔人文社会科学研究科文芸・言語専攻（一貫制博士課程）〕

- 学生の国際発信力を強化するために、国際会議での研究発表を単位化する科目を新設している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、入学定員充足率、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔人文社会科学研究科現代語・現代文化専攻（区分制博士課程）〕

- 「人文学学位プログラム」内の他のサブプログラムと協力して合同で大学院説明会を実施し、学生の確保に努めている。
 - 「現代語・現代文化フォーラム」を開催し、講師を国内外から招くなど、学生・教員の研究活動の活性化を図っている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率（後期）及び学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔人文社会科学研究科国際公共政策専攻（区分制博士課程）〕

- 学生確保に向けて、現在生じている学群教育と大学院教育の分断化を解消し、学群と大学院の有機的な統合化を進めていくための組織改革の検討に着手している。
 - 法社会学・公共経済学・社会倫理学・実証刑法学の教員を新たに迎え、時代に適合した公共政策のあり方を研究教育する基盤整備を進めている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（後期）、入学定員充足率、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔人文社会科学研究科国際地域研究専攻（修士課程）〕

- 英語特別プログラム修了生と指導教員の共著論文が、世界的なトップジャーナルである『米国科学アカデミー紀要』に掲載されている。
 - 学生に研究対象国・地域への留学や現地調査を推奨しており、令和元年度中には、ASIP プログラムや世界展開力事業により、インド、中国、メキシコ、ペルー、ロシア、カザフスタンなどの新興国への留学を体験した日本人学生も多く、それぞれの修士論文研究内容の充実にその成果が反映されている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔人文社会科学研究科国際日本研究専攻（区分制博士課程）〕

- 入学定員充足率（前期）及び学位授与率（前期）が高い水準を維持している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（後期）、入学定員充足率（後期）、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[ビジネス科学研究科]

- システム情報工学研究科（リスク工学専攻）と共同で、経営システム科学専攻講義（知識・情報技術総論）を開講する取り組みを開始しており、筑波キャンパスの教員との連携を図っている。
 - 修了生アンケートでは、「情報系に強い大学院」「論理的思考と文章表現力」「財務データの分析能力」といったコースの特徴や得られたスキルが挙げられており、また、90%の修了生が報酬の増加を実現し、20%の修了生が昇進していたことが判明している。
 - リカレント教育・エクステンションプログラム・早期修了プログラム等を活用しつつ、世界トップレベルの企業との教育・研究連携を強化し、本研究科が得意とする産学横断型研究の推進に着手している。
 - 国際連携教育を推進するために、CiC 提携を見据えた共同夏季セミナー（機械学習・ビジネスゲーム等）を、ドイツポーフム大学にて開催している。
 - 海外渡航率の向上に向けて、海外発表渡航支援や TSSP(Tsukuba Short-term Study Program)などを継続実施している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率（後期）、学生の論文生産性及び学位授与率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[ビジネス科学研究科経営システム科学専攻（博士前期課程）]

- 企業経営におけるデータサイエンス分野の研究・教育のコラボレーションを目的として、エクステンションプログラム「経営学におけるデータ分析」を開発している。
 - 志願倍率及び入学定員充足率が高い水準にある。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[ビジネス科学研究科企業法学専攻（博士前期課程）]

- 学位授与率は一定の水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[ビジネス科学研究科企業科学専攻（博士後期課程）]

- ビジネスサイエンス系と MIT との国際共同ワークショップや、教員間で始まっているドイツポーフム大学との研究協力を拡充し、博士課程の学生が定期的に相互に連携できる環境整備に着手している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率及び学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[ビジネス科学研究科法曹専攻（専門職学位課程）]

○令和元年度司法試験の受験者の出身法科大学院 73 校のうち当専攻は 17 位であり、さらに、法学未修者の合格率をとってみた場合、当専攻は全国平均を上回っている。

○志願倍率が上昇している。

●学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻（専門職学位課程）]

○志願倍率、入学定員充足率及び学位授与率が一定の水準を維持している。

●就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

〔数理工学物質科学研究科〕

- トヨタ自動車・デンソー、富士電機によるパワーエレクトロニクス寄附講座が3期目に入り、所属学生が概ね30人規模で推移し、安定した醸成の段階に入っている。
 - パワーエレクトロニクスをはじめとして、ナノエレクトロニクス、ナノグリーン、高度計測等の関連分野でTIA連携大学院の代表的な取組であるサマーオープンフェスティバルも盛況で、述べ441人が参加している。
 - グルノーブル・アルプス大学との海外教育研究ユニット招致でも活発な活動が行われ、ダブルディグリープログラム履修学生が着実に増え、学術的成果にも繋がっている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、入学定員充足率（後期）、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔数理工学物質科学研究科数学専攻（区分制博士課程）〕

- 数学手習い塾を開催して1年次生における種々の学習上の障害を緩和する活動を行っている。
 - 学類生に対するキャリアパスに関する情報提供を2年次生から開始している。
 - 後期課程大学院生のキャリアデザインのため、教育職と民間企業の2系統のインターンシップを独自に開発している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率及び入学定員充足率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔数理工学物質科学研究科物理学専攻（区分制博士課程）〕

- TIA連携の一つとしてサマーオープンフェスティバルを開催している。
 - グルノーブル・アルプス大学とのダブルディグリープログラムの充実を図っている。
 - 外国人学生率の上昇に向けて、情報発信を強化するため、専攻ホームページの英語版の充実を図っている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（後期）、入学定員充足率（後期）、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔数理工学物質科学研究科化学専攻（区分制博士課程）〕

- 化学域が中心となって、化学物質取扱者のための環境安全衛生講習会を開催している。
- 博士後期課程への進学を促すために「企業研究者概論」という新しい科目を設定している。
- 令和元年度から、新規に立ち上げた前期課程の授業「企業研究者概論」の中で、企業における博士学位の重要性を教育している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率（後期）及び学位授与率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

〔数理工学物質科学研究科ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻（博士後期課程）〕

- 企業に所属する連携教員による、企業における最新の研究動向に関する講義を実施し、アカデミア以外のキャリアパスの可能性を提示し、学生の就職率の向上を図っている。
 - 本専攻は学位プログラム移行により廃止となるが、新しい学位プログラムにおいて本専攻におけるこれまでの教育活動がどう活かされているか期待したい。
-

〔数理工学物質科学研究科電子・物理工学専攻（区分制博士課程）〕

- 外国人教員が増加しており、また、グルノーブル・アルプス大学からの留学生が研究・授業・セミナーに参加しており、それに伴って、英語による教育や、学生が英語に触れる機会がより充実してきている。
 - 2020年度には、充足率114%を達成しており、そのうち社会人の早期修了プログラムへの入学者が7名と大幅に増加している。
 - 2019年度から始めた産学交流会など、大学院生と企業研究者・採用担当者との交流の機会を継続して作っており、博士号を取得して企業に就職する学生を増やす努力を続けている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（後期）、入学定員充足率（後期）、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔数理工学物質科学研究科物性・分子工学専攻（区分制博士課程）〕

- 英語で講義する科目を増やし、留学生の便宜と日本人学生の勉学の機会を与えている。
 - 課程修了時の研究成果を厳格に評価し、優れた成果を挙げた学生を表彰することで、研究へのモチベーション向上を図っている。
 - グルノーブル・アルプス大学との間の博士後期課程のダブルディグリープログラムを利用し、また他の大学との間で学生の受入、派遣を行っている。
 - 外国人の志願者を増やすために、「ホームページでの対外発信、海外の研究者への働きかけ、カリキュラムの英語化の推進、外国人修了生へのフォロー」の施策を組み合わせ、総合的な取り組みを行っている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

〔数理工学物質科学研究科物質・材料工学専攻（3年制博士課程）〕

- 志願倍率、留学生率及び学位授与率について、高い水準を維持している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[システム情報工学研究科]

- 学位プログラム化に合わせてカリキュラムの見直しを行い、抜本的な改革を実施することで、学生による研究活動の促進を図ることとしている。
 - 「達成度評価」を導入し学修成果を可視化することで、学生と指導教員が研究の進捗状況を個別にかつ随時情報共有できるようにしている。
 - 論文指導に関する学修（学会発表、論文投稿など）についても、達成度評価や単位化を通して明示的に評価することとしている。
 - UEA を配置し、コンソーシアム事務手続きに加え、教育支援を実施している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性及びインターンシップ参加率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[システム情報工学研究科社会工学専攻（区分制博士課程）]

- 入学定員充足率（前期）、留学生率（前期）及び学位授与率（前期）が高い水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（後期）、入学定員充足率（後期）及び学位授与率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[システム情報工学研究科リスク工学専攻（区分制博士課程）]

- 2019 年度には実質的に 1 年前倒して協働大学院方式に向けた客員教授・准教授 11 名をコンソーシアム参画機関から迎え、教育研究指導体制の強化及びカリキュラムの抜本的改訂を実践している。
- 入学定員充足率が高い水準にある。
- 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻（区分制博士課程）]

- 教員の博士後期課程学生受け入れに対する意識改革とインセンティブを付与するための取り組み、社会人学生の受け入れを促進するための取り組み、教員のグループ化による入学希望者の受け入れ促進、博士前期課程学生の進学を促すための施策などについて、WGを組織して実施している。
 - 進路調査において「就職活動中」や「帰国」等の回答者に対して追跡調査を行っている。就業体験率が向上しているインターンシップをさらに推進するために、企業の方を招いた説明会を実施している。
 - 高度IT専修プログラムと一般プログラムを統合し、さらに、平成25年度から実施している文部科学省「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業（enPiT）」の主要科目も取り入れ、ICTにおける実践力を養うことを目的とした「実践的ITカリキュラム」を平成29年度入学者から提供しており、令和元年度は、16名がenPiTの主要科目を履修し、さらにその内の5名は1年次において実践的ITカリキュラムを修了している。
 - ネイティブスピーカーの教員から英語プレゼンテーションに関するコメントを受けられる「CS研究セミナー」を平成27年度から実施しており、令和元年度は19名の学生が発表を行っている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（後期）、入学定員充足率（後期）、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[システム情報工学研究科知能機能システム専攻（区分制博士課程）]

- 博士前期課程を座学中心のカリキュラムから、研究成果評価型（ジャーナル論文発表や国際会議発表などの研究成果を単位化）への移行を進めてきている。
 - ジャーナル論文および国際会議発表に対して定量的な基準を設けて、ハイクオリティ論文及びハイクオリティ国際会議を指定し、それらへの成果発表を促すことにより、研究の質の向上を図っている。
 - 入学定員充足率が高い水準にある。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻（区分制博士課程）]

- 国際化推進及び優秀な外国人留学生の獲得を目指して、文科省国費留学生優先配置特別プログラムに応募し、採択されている。
- 博士後期課程の学生が修得すべき知識・能力（コンピテンス）ポイント表の整備を行い、英語での学会発表など、国際性やコミュニケーション能力の達成度について新たな基準を設定している。
- 学位プログラム化と合わせて、英語化も含めたシラバスの整備、および学生が修得すべき知識・能力（コンピテンス）ポイント表の整備を行っている。
- 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（後期）及び入学定員充足率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境科学研究科]

- グローバル人材の育成を目標とし、専攻で実施する英語による授業のみで学位取得可能な英語プログラムその他、GiCパートナー大学（国立台湾大学、ボルドー大学）を含む海外協定校とのダブルディグリープログラムならびに国際ジョイント・ディグリー・プログラムを実施し、留学生受入の向上ならびに海外留学の促進、キャンパスのグローバル環境の整備を図ってきている。
 - 社会人特別選抜入試、早期終了プログラムの制度を活用し、社会人等が学びやすい環境で学修し、学位取得する機会を拡大することにより、特に博士後期課程への入学を促進しており、入学定員充足率（後期）が向上していることから評価できる。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境科学研究科地球科学専攻（博士前期課程）]

- 平成25年度から実施している「野外実験特別ティーチングアシスタント」及び「フィールドワーク特別ティーチングアシスタント」制度を継続し、博士前期の学生を中心に野外実験特別TAの育成を行っている。
 - 入学定員充足率及び学位授与率は高い水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境科学研究科生物科学専攻（区分制博士課程）]

- 社会人早期修了プログラムの入学者は当該専攻後期課程の充足率向上に大きく貢献している。
 - 入学定員充足率及び学位授与率（後期）が向上していることから評価できる。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率（前期）及び就職・進学決定率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境科学研究科生物資源科学専攻（博士前期課程）]

- 「生物資源科学インターンシップⅠ」において附属坂戸高校におけるインターンシップを実施している。
- 入学定員充足率及び学位授与率は高い水準を維持している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境科学研究科環境科学専攻（博士前期課程）]

- 過去5年間において努力してきた競争的外部資金のJICA奨学金プログラム（JDS、ABE-Initiative、Pacific LEADS）の獲得に関し、これまでの実績を勘案し、優秀な学生の多い国地域に絞った戦略的な申請・獲得を図る将来計画を立案、実行に移している。
 - 入学定員充足率及び学位授与率について高い水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境科学研究科国際連携持続環境科学専攻（博士前期課程）]

- 筑波大ホームの第一期生である入学者は各大学割り当ての定員を充足する3名となったことから、入学定員充足率が昨年度に比べて大きく改善している。
 - 広報委員会を中心に、学内外の大学説明会での広報、HPの充実、SNS等での情報発信、科学雑誌への広告の掲載、国際経験豊富な社会人によるセミナー、マレーシアでの合同セミナーに進学候補となりうる学類生を引率するなど、さまざまな企画を実施している。
 - 学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境科学研究科山岳科学学位プログラム]

- 志願倍率及び入学定員充足率が上昇している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率及び入学定員充足率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境科学研究科地球環境科学専攻（博士後期課程）]

- 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境科学研究科地球進化科学専攻（博士後期課程）]

- 入学定員充足率が上昇しており、評価できる。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生命環境科学研究科環境バイオマス共生学専攻（一貫制博士課程）]

- 入学定員充足率が上昇しており、評価できる。
- 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境科学研究科国際地縁技術開発科学専攻（博士後期課程）]

○大学のグローバル化に関し、英語だけで履修できるプログラムとして、当専攻が単独で実施している「乾燥地資源科学プログラム」があるが、研究分野の内容をより分かりやすくするため、「生物資源工学・経済学コース」に改称し、募集を実施している。

●移行後の学位プログラムにおいて、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻（博士後期課程）]

○就職・進学決定率が上昇している。

●移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境科学研究科生物機能科学専攻（博士後期課程）]

●移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、入学定員充足率、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境科学研究科生命産業科学専攻（博士後期課程）]

●移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境科学研究科持続環境学専攻（博士後期課程）]

○志願倍率が上昇しており、一定の水準を維持している。

○学位授与率が高い水準を維持している。

●移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境科学研究科先端農業技術科学専攻（3年制博士課程）]

○就職・進学決定率が高い水準を維持している。

●移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、入学定員充足率及び学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科]

○海外渡航に係る2つの支援事業①「社会人大学院生」に特化した年2回計40名を目安にした国外の諸学会での発表支援、②年間で約10名の学生に対し厳正な審査のもと30万円を上限として、学生が自ら先方と交渉しアポを取ることで自身の論文作成や研究にかかわる活動の支援である「武者修行型学修派遣支援」を強力に推進している。

○TFを活用した教育を実施している。

●移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻（修士課程）]

○志願倍率及び入学定員充足率が上昇しており、評価できる。

●移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻（修士課程）]

○入学定員充足率が高い水準を維持している。

●移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科教育学専攻（博士前期課程）]

○学位授与率が上昇している。

●移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、入学定員充足率、学生の論文生産性及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科教育基礎学専攻（博士後期課程）]

○学位プログラムへの移行に伴って、社会人特別選抜の募集定員を新たに設定しており、さらに今後この発展形としてEd.Dプログラムの開設を計画している。

●移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、入学定員充足率、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科学校教育学専攻（博士後期課程）]

- 学位プログラムへの移行に伴って、社会人枠の募集定員を新たに設置し（6名）、社会人受験者は増加している。東京キャンパスに準備室を設置し、その準備委員会にEd.Dプログラムに参画が見込まれる心理学、障害科学、体育の教員にも参加の検討を依頼している。
 - 学生の論文生産性が高い水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率及び学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科心理専攻（博士前期課程）]

- 修了予定者に、大学の担当部局に忘れず就職先を報告・登録することについて、指導教員を通じて徹底した結果、就職進学決定率が100%となっている。
 - 志願倍率が高い水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率、学生の論文生産性及び学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科心理学専攻（博士後期課程）]

- 基礎科学としての心理学のコンピテンスを獲得した学生を、社会に貢献する領域での研究者として輩出してきている。
 - 研究成果の国際的発信への動機づけを高めるために、国際学会への参加と発表を単位化したところ、多くの制度利用者があり、また実際的な参加による効果の高まりが報告されている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、入学定員充足率及び学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科障害科学専攻（区分制博士課程）]

- 国際化を促進するため、近年継続して行っている米国オハイオ州立大学との連携では、相互に往来があり、連携の具体的な内容について協議を行っている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（前期）、入学定員充足率（前期）、学生の論文生産性（前期）及び学位授与率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科生涯発達専攻（博士前期課程）]

- 平成29年度から推進してきた、働く人への心理支援に関するプロジェクトは、平成31年4月から「働く人への心理支援開発研究センター」としての活動を開始している。
- 志願倍率及び学位授与率が高い水準を維持している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科生涯発達科学専攻（博士後期課程）]

- 志願倍率、入学定員充足率、学生の論文生産性及び学位授与率が高い水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻（3年制博士課程）]

- 国立保健医療科学院の連携教員2名および学外研究者2名の招聘により、パブリックヘルス&ヒューマン・ケア科学国際交流セミナーを開催して学際的交流を行っている。
 - 学位授与率が上昇している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻（区分制博士課程）]

- 社会人に向けた大学教育の価値の伝達、海外からの十分な志願者の獲得に努め、留学生率が向上している。
 - 「感性科学とデザイン学を融合した筑波型統合デザイン学を基礎とした国際的・社会的デザイン教育研究の方法論を議論する国際シンポジウム」を実施し、学位プログラム化後の新しい教育の国際的推進の方向を明確にしている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性、学位授与率（前期）、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科スポーツ医学専攻（3年制博士課程）]

- 志願倍率が上昇している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科生命システム医学専攻（一貫制博士課程）]

- 学生の論文生産性及び学位授与率が上昇している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科疾患制御医学専攻（一貫制博士課程）]

- 学位授与率が高い水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科看護科学専攻（区分制博士課程）]

- 就職・進学決定率が上昇している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性（前期）及び学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科体育学専攻（博士前期課程）]

- 「学会発表支援金」事業として研究助成（審査付き）を行ってきている。
 - 新入生対象に「キャリア形成のための2年間の過ごし方：高度職業人に向けて」をテーマにセミナーを開催している。
 - 志願倍率が高い水準を維持している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科体育科学専攻（博士後期課程）]

- 人間総合科学研究科戦略プロジェクト、スポーツ庁委託事業「スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト：Sports Research Innovation Project (SRIP)」における若手研究者育成プログラム、次世代健康スポーツ科学学位プログラムの授業科目を連携させている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科コーチング学専攻（3年制博士課程）]

- 海外で開催される国際学会での発表、海外の大学や研究機関での調査・研究等にかかる経費を助成支援している。
- 学生の論文生産性、学位授与率及び就職・進学決定率が高い水準を維持している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、留学生率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科芸術専攻（区分制博士課程）]

- 外国人学生率（留学生率）は、前年度に比べ 58.7%の伸び率で 19.2%となり本学大学院における KPI 数値目標 20%に迫っている。
 - 学生のキャリア形成支援に向けて、授業の一環として「特別講義」を設け、国内外で活躍する修了者との研究交流や情報交換を行い、キャリア教育としている。
 - 博士後期課程芸術専攻では、24 年間、刊行を続けてきた『芸術学研究』を、令和元年度をもって終刊とし、学生、修了生の成果発表に資するために、新たに査読付き学術誌を発刊する計画を実施している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性、学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科世界遺産専攻（博士前期課程）]

- 国際性を持った教育を実施するため、外務省の大使経験者や、国際協力機構（JICA）職員、国際自然保護連合（IUCN）、文化財保存修復研究国際センター（ICCRUM）等の勤務経験のある講師等を招き、英語による授業を実施している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻（博士後期課程）]

- 2017 年より実施してきたユネスコチェアプログラム” Capacity Building Workshop on Nature-Culture Linkages in Asia and Pacific” は、すべて英語で行われるプログラムであり、世界遺産学学位プログラムの国際遺産学分野のプログラムと位置付けると同時に、アジア太平洋地域の学生に対して筑波大学が遺産保護に関する国際プログラムを提供していることを PR する機会として活用している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程）]

- 志願倍率が上昇している。
 - 学生の論文生産性及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[人間総合科学研究科大学体育スポーツ高度化共同専攻（3 年制博士課程）]

- 大学体育スポーツに関する国際フォーラムを日台韓で開催し（昨年度は台湾師範大学）、国際的共同研究の推進及び国際交流に努めている。
- 留学生率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻（修士課程）]

○学位授与率が高い水準にある。

●就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間総合科学研究科スポーツウエルネス学位プログラム]

●移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[図書館情報メディア研究科]

- 後期課程の推薦入試を前期課程の学生に周知するといった志願倍率（後期）の上昇に向けた取組をしている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率（後期）、学生の論文生産性及び学位授与率（後期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻（区分制博士課程）]

- 英語だけで講義を受け英語だけで修士論文を提出できる英語プログラムを平成 24 年度より実施しており、留学生率を昨年度の 21.8%から 23.1%に向上することに繋がっている。
- 正規課程への社会人学生増を目指した広報活動として東京キャンパスでの大学院説明会等を実施し、社会人特別選抜の志願者数が増加している。
- 志願倍率が 3 倍を超えて優秀な内部進学希望者であっても進学できない状況が長期的に続いていることから、抜本的に改善する施策が必要とされている。
- 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率（後期）、学位授与率（後期）及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[教育研究科]

- 教育研究科は、国内の教員専修免許状を取得して中等教育教員を目指す学生が大勢を占めてきたため、ドメスティックな研究科としての色彩が強かったが、教育学（国際教育）修士プログラム（IB教員養成コース）の開設によって、外国人学生率が向上しつつある。
 - 2017年度からは中国・華東師範大学等を対象とする教育系大学院との研究教育交流への学生派遣を開始している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率及び学位授与率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[教育研究科スクールリーダーシップ開発専攻（修士課程）]

- FD活動を兼ねて、学生のキャリア支援のための教職セミナーを引き続き開催するとともに、学生と教員の懇談会を併せて開催し、参加者の増加を図っている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[教育研究科教科教育専攻（修士課程）]

- 各教科の特性を活かした高大連携（社会科教育：附属高校や県立笠間高校、公立中学校との連携授業、理科教育：附属坂戸高校と連携した野外実習インターンシップ）、地域貢献活動（芸術科教育：夏休みアートたんけん隊）を継続して行っている。
 - 専攻における情報の盗難・漏えい防止のための体制を継続して整備し、情報セキュリティを強化している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[教育研究科教育学（国際教育）修士プログラム]

- 附属坂戸高等学校及びアドミッション・センターとの連携を強化し、ディプロマ・プログラム（DP）の実施や国際バカロレア（IB）特別入試にかかる情報共有・研究交流を促進している。
- 令和元年度に本プログラム主催で、国際バカロレア教育シンポジウム「IB生のコンピテンシーとキャリアについて」を開催し、IB校の教員や研究者とのネットワークの拡充に努めている。

4. グローバル教育院

[グローバル教育院地球規模課題学位プログラム（学士課程）]

- BPGI の発足により、自然科学・人文社会科学の分野を超えた筑波大学オールラウンド教育プログラムが始動し、全学群の代表からなるプログラム運営が実現している。
 - PBL・チュートリアル教育を先行的に導入している。
 - 「①本学の学士課程における英語プログラム全体の中での BPGI の再定義の必要性」及び「③専任教員の確保を含め、教育体制の見直し」について、一層の推進を期待する。
-

[グローバル教育院ヒューマンバイオロジー学位プログラム（一貫制博士課程）]

- ディプロマ・サプリメントを定めるなど学位の国際的質保証、世界から多様かつ優秀な学生を受け入れる入学者選抜実施、適正技術教育・海外インターンシップなどグローバルリーダーを育成する科目を実施している。
 - 学生による達成度自己評価システム(GLiD)を開発・運用している。
 - 国内外の同窓生のネットワークを整備している。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、入学定員充足率、学生の論文生産性、学位授与率及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[グローバル教育院エンパワーメント情報学プログラム（一貫制博士課程）]

- 分野横断体制によって、アーティスト4名、看護学1名、デザイン1名、心理学を専門とする学生1名が人間情報学の学位を取得し実績を上げている。
 - 補助金終了後は、システム情報工学研究群に所属し自走するため、学生に対する門戸を広げることを計画している。
 - 学生の論文の質は極めて高く、論文賞などの学術賞受賞数はこれまでに26件に上っている。
 - 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率、入学定員充足率及び学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
-

[グローバル教育院ライフイノベーション学位プログラム（区分制博士課程）]

- 令和2年度からの領域新設に向けてスイス連邦工科大学を含む国内外の大学・研究機関から教員の参画準備を進めている。
- 国内外の大学・研究機関との交流・連携、公的機関の研究制度、文部科学省の国費外国人留学生制度を活用し、留学生の受け入れを促進している。
- 後期課程では社会人学生の在籍が多く、学位取得後も引き続き所属先（民間企業、研究機関）で活躍している。
- 移行後の学位プログラムにおいて、学生の論文生産性及び就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 移行後の学位プログラムにおいて、志願倍率（前期）、入学定員充足率（前期）及び学位授与率（前期）の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[グローバル教育院ヒューマニクス学位プログラム（一貫制博士課程）]

○ダブルメンター制及びリバースマンター制による学生指導を行っている。

●志願倍率、入学定員充足率及び学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

5. センター

[計算科学研究センター]

- 東京大学情報基盤センターと共同運用するスーパーコンピュータ Oakforest-PACS のストレージシステムが、2019年6月に I0500 ベンチマークにおける最高スループット性能で世界1位にランクされている。
 - 新スパコン Cygnus は、東京大学との共用マシン Oakforest-PACS を除くと、それまでの独自スパコン COMA の性能を 2.4 倍に引き上げた超高性能システムであり、GPU と FPGA を併せ持つという独自のアーキテクチャが世界でも注目されている。
 - 計算メディカルサイエンス推進事業の一部として、睡眠データのビッグデータ処理とデータ基盤技術に基づく共同研究資金を得ている。
 - 学際共同利用プログラムにより 78 課題のプロジェクトを採択し共同研究を実施、学術論文 305 件が発表されている。
 - 承継職員以外に、センター運営費や外部資金により、任期付助教 1 名、研究員 26 名を雇用しており、さらなる増員も計画している。
 - この分野の日本の論文貢献度が低いので、本センターが先導できる可能性を期待する。
 - 女性教員の国際的人事を期待する。
 - 英文の査読付き原著論文の総数の増加に向けて、一層の努力を期待する。
-

[生存ダイナミクス研究センター]

- 優秀な教授の招聘が必要であることから、助教に 10 年任期制を導入している。
- 公募型 TARA プロジェクトを学外向けに行い、学外から 16 件を採択している。
- ツクバ・トップ・ランナー (TTR) 制度の利用を積極的に進め、本制度の適用を認定された事例も出ている。
- JST さきがけに採択されるなど、ハイインパクトな成果が出ている。

[つくば機能植物イノベーション研究センター]

- JST-OPERA に採択され、4社とともに産学共同研究を開始している。
 - 国内拠点機能の維持・強化への取組として、実用化候補作物作出に繋がる共同研究を39件採択・実施し、海外連携機関利用型課題としてベトナムでの共同研究1件の継続支援に加え、新規に米国ミシガン州立大学との共同研究課題2件を実施している。
 - 民間企業との特別共同研究事業により、次世代野菜の開発と栽培技術の共同研究を進めており、令和元年度からはゲノム編集植物開発と世界初の直接食べるゲノム編集作物となるトマトの社会実装を進めている。
 - 農林水産省からの出向により T-PIRC 専任の産学連携担当 URA1 名を採用し、産学連携を推進する支援体制を強化している。
 - Nature などの高い IF ジャーナル等に掲載された場合は、プレスリリースの勧奨による見える化を図っている。
 - 若手教員数、英文の査読付き原著論文の総数及び受託研究の増加に向けて、一層の努力を期待する。
-

[アイソトープ環境動態研究センター]

- 2019年度から、ネットワーク共同利用・共同研究拠点として文部科学省に認定されており、共同研究公募を開始し、98件の共同研究を採択して6機関によるネットワーク拠点事業がスタートしている。
- SIP「災害時や危機的渇水時における非常時地下水利用システムの開発」、SATREPS「チェルノブイリ災害後の環境管理支援技術の確立」等の大型事業の他、日本原子力研究開発機構、福島大学等からの受託研究2件を実施している。
- 国際連携担当として助教1名を採用し、国際的な教育活動を実施し、拠点事業の若手共同研究においては、公募資格をネットワーク外の35歳以下の研究者及び学生の申請も可能とする等、若手研究者が研究活動へ参画しやすいように配慮し、さらに月1回開催されるセミナーでは、他の研究者とのディスカッションの場を提供している。
- 査読付き原著論文の総数及び被引用数の増加に向けて、一層の努力を期待する。

Ⅲ 各種資料

1 管理運営関係

(1) 沿革

- 昭 37. 9 東京教育大学、5学部の統合移転候補地の調査を決定
38. 9 研究学園都市を筑波地区に建設することを閣議了解
42. 7 東京教育大学、「総合大学として発展することを期し、条件付きで筑波に土地を希望する」ことを決定
42. 9 筑波地区への移転予定機関として、東京教育大学、東京医科歯科大学医学部附属病院霞ヶ浦分院等 36 機関を閣議了解
44. 7 東京教育大学、「筑波における新大学のビジョンの実現を期して筑波に移転する」旨を表明
44. 11 文部省に筑波新大学創設準備調査会を設置
45. 5 筑波研究学園都市建設法成立
46. 6 東京教育大学、「筑波新大学に関する基本計画案」を決定
46. 7 筑波新大学創設準備調査会、「筑波新大学のあり方について」文部大臣に報告
46. 10 文部省に筑波新大学創設準備会を設置
47. 5 筑波研究学園都市に新設移転する研究教育機関として、筑波新大学（仮称）等 42 機関を閣議決定、東京教育大学に筑波新大学創設準備室を設置
47. 8 政府機関の移転を繰り上げ、昭和 50 年度までに完了することを閣議了解
48. 2 国立学校設置法等の一部を改正する法律案を閣議決定
48. 10 筑波大学設置「国立学校設置法等の一部を改正する法律（昭和 48 年法律第 103 号）」
三輪知雄、学長に就任
第一学群「人文学類、社会学類、自然科学類」、医学専門学群、体育専門学群、26 学系、
体育センター、農林技術センター、附属図書館、保健管理センターを設置
49. 4 外国語センター、加速器センター、計算センター（昭 53. 4 学術情報処理センターに改組）、企画調査室を設置
50. 4 第二学群「比較文化学類、人間学類、生物学類、農林学類（平 6. 4 生物資源学類に改称）」、
芸術専門学群、大学院修士課程「地域研究研究科（平成 20. 4 人文社会科学研究科に改組・再編）」、
大学院博士課程「哲学・思想研究科、歴史・人類学研究科、文芸・言語研究科、社会科学研究科、
生物科学研究科、数学研究科、物理学研究科、化学研究科、地球科学研究科」、
教育機器センター、アイソトープセンター、水理実験センター（平 12. 4 陸域環境研究センター（～平 22. 3）に転換）、
附属病院創設準備室を設置
50. 10 国民体力特別プロジェクト研究組織（～昭 55. 3）を設置
51. 4 「（修士課程）経営・政策科学研究科（平 17. 4 システム情報工学研究科に改組・再編）、
体育研究科（平 20. 4 人間総合科学研究科に改組・再編）」、「（博士課程）教育学研究科、
心理学研究科、心身障害学研究科、農学研究科、体育科学研究科、芸術学研究科」を設置
51. 5 低温センター、分析センター、動物実験センター（平成 13. 4 生命科学動物資源センターに転換）、
下田臨海実験センター、附属病院を設置

51. 8 宮島龍興、学長に就任
52. 4 第三学群「社会工学類、情報学類、基礎工学類（平 10.4 工学基礎学類に改組）」、「(修士課程) 教育研究科（平 20.4 人間総合科学研究科に一部改組・再編）、環境科学研究科（平 19.4 生命環境科学研究科に改組・再編）、芸術研究科（平 19.4 人間総合科学研究科に改組・再編）」、工作センター、菅平高原実験センターを設置
52. 5 核物性特別プロジェクト研究組織（～昭 57.3）を設置
53. 3 東京教育大学閉学
53. 4 「(修士課程) 理工学研究科（平 16.4 数理物質科学研究科、平 17.4 システム情報工学研究科及び生命環境科学研究科に改組・再編）」、「(博士課程) 社会工学研究科」、理療科教員養成施設、学校教育部、附属 10 学校を設置
53. 5 ラテンアメリカ特別プロジェクト研究組織（～昭 58.3）を設置
53. 10 筑波大学医療技術短期大学部を併設
54. 4 「(修士課程) 医科学研究科（平 18.4 人間総合科学研究科に改組・再編）」、プラズマ研究センターを設置
55. 4 福田信之、学長に就任
「(博士課程) 医学研究科」、粒子線医科学センター（～平 2.3）、運動処方特別プロジェクト研究組織（～昭 57.3）を設置
56. 4 「(博士課程) 工学研究科」を設置
57. 4 熱帯農林資源特別プロジェクト研究組織（～昭 62.3）、老化特別プロジェクト研究組織（～昭 62.3）を設置
58. 4 「(第三学群) 国際関係学類（平 7.4 国際総合学類に改組）」、本能特別プロジェクト研究組織（～昭 63.3）を設置
59. 4 留学生教育センター（平 3.4 留学生センターに改称）、遺伝子実験センターを設置
60. 4 「(第二学群) 日本語・日本文化学類」を設置
61. 4 阿南功一、学長に就任
大学研究センターを設置
62. 5 物質の進化特別プロジェクト研究組織（～平 4.3）、変換技術開発特別プロジェクト研究組織（～平 4.3）を設置
63. 4 代謝特別プロジェクト研究組織（～平 5.3）を設置
- 平元. 4 大学院修士課程に夜間開講の専攻を設置
大学院修士課程において昼夜開講制を実施
2. 6 陽子線医学利用研究センター（～平 12.3）を設置
3. 4 「(第三学群) 工学システム学類」を設置
4. 4 江崎玲於奈、学長に就任
「(博士課程) 国際政治経済学研究科」、計算物理学研究センター（～平 14.3）、新国際システム特別プロジェクト研究組織（～平 9.3）、循環器系バイオシステム特別プロジェクト研究組織（～平 9.3）を設置
大学院博士課程において連携大学院方式（第一号連携大学院方式）を実施
5. 4 「(修士課程) バイオシステム研究科（平 17.4 生命環境科学研究科に改組・再編）」、地球環境変化特別プロジェクト研究組織（～平 10.3）を設置

- 6 . 5 先端学際領域研究センター（平 22. 10 生命領域学際研究センターに改組）
- 7 . 4 大学院博士課程において昼夜開講制を実施
- 8 . 4 大学院博士課程に夜間開講の専攻（後期 3 年博士課程）を設置
- 9 . 4 東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織（～平 14. 3）、感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織（～平 14. 3）を設置
10. 4 北原保雄、学長に就任
動的脳機能とこころのアメニティ特別プロジェクト研究組織（～平 15. 3）を設置
11. 4 構造工学系を機能工学系に改称、アドミッションセンターを設置
12. 4 「(博士課程) 生命環境科学研究科、数理物質科学研究科、システム情報工学研究科（社会工学研究科、生物科学研究科、農学研究科、数学研究科、物理学研究科、化学研究科、地球科学研究科、工学研究科の改組）」、陽子線医学利用研究センター（～平 22. 3）を設置
13. 4 「(博士課程) 人文社会科学研究科、ビジネス科学研究科、人間総合科学研究科（哲学・思想研究科、歴史・人類学研究科、文芸・言語研究科、教育学研究科、心理学研究科、心身障害学研究科、社会科学研究科、国際政治経済学研究科、経営・政策科学研究科（経営システム科学専攻、企業法学専攻及び企業科学専攻）、医学研究科、体育科学研究科及び芸術学研究科の改組）」を設置
14. 4 産学リエゾン共同研究センター、教育開発国際協力研究センター、計算物理学研究センター（～平 24. 3；平 16. 4 計算科学研究センターに改組）、ナノサイエンス特別プロジェクト研究組織（～平 19. 3）、獲得性環境因子の生体応答システム特別プロジェクト研究組織（～平 19. 3）の設置
大学院修士課程において連携大学院方式を実施
14. 10 図書館情報大学と統合「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成 14 年法律第 23 号）」
医学専門学群「医学類、看護・医療科学類」、図書館情報専門学群、「(博士課程) 図書館情報メディア研究科」、図書館情報学系、知的コミュニティ基盤研究センター（～平 24. 3）を設置
15. 4 学際物質科学研究センターを設置（～平 25. 3）
比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト研究組織（～平 20. 3）を設置
16. 4 国立大学法人筑波大学設置「国立大学法人法（平成 15 年法律第 112 号）」
岩崎洋一、学長に就任
看護科学系、特別支援教育研究センター、北アフリカ研究センター、学術情報メディアセンター（教育機器センター及び学術情報処理センターを統合）、研究基盤総合センター（加速器センター、低温センター、アイソトープセンター、分析センター及び工作センターを統合）、附属久里浜養護学校、大学院修士課程芸術研究科「世界遺産専攻」を設置
大学院博士課程において連携大学院方式（第二号連携大学院方式）を実施（数理物質科学研究科物質・材料工学専攻）
大学院博士課程数理物質科学研究科を 5 年一貫制博士課程から区分制博士課程に転換
17. 4 大学院専門職学位課程「ビジネス科学研究科法曹専攻、国際経営プロフェSSIONAL 専攻」、大学院博士課程生命環境科学研究科「生命産業科学専攻」を設置

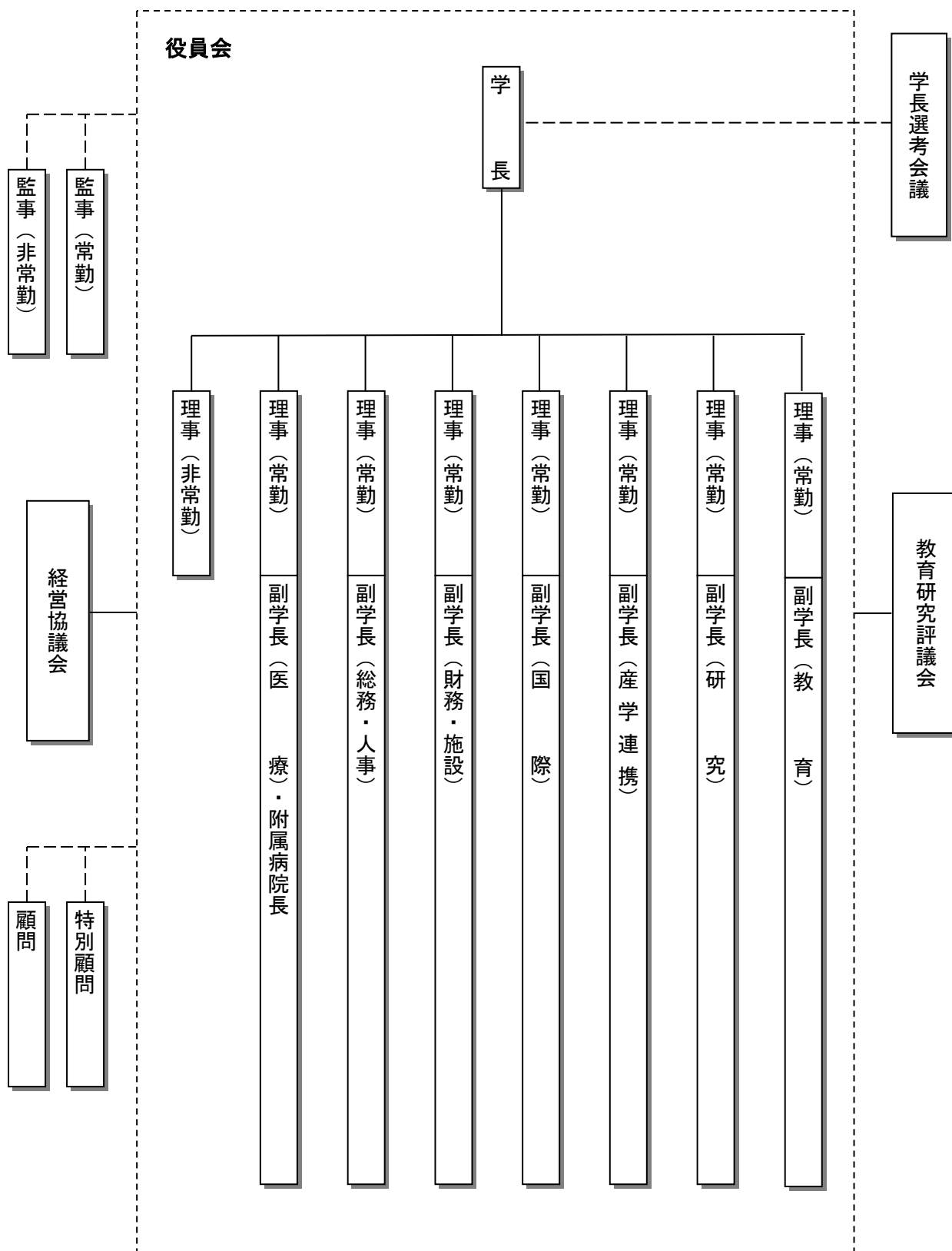
- 大学院博士課程において連携大学院方式（第二号連携大学院方式）を実施（生命環境科学研究科先端農業技術科学専攻）
- 大学院博士課程システム情報工学研究科、大学院博士課程生命環境科学研究科（構造生物科学専攻、情報生物科学専攻、国際地縁技術開発科学専攻、生物圏資源科学専攻、生物機能科学専攻）を5年一貫制博士課程から区分制博士課程に転換
18. 4 大学院修士課程教育研究科「スクールリーダーシップ開発専攻」、大学院博士課程人間総合科学研究科「フロンティア医科学専攻（修士課程）、コーチング学専攻（後期のみの博士課程）、世界文化遺産学専攻（後期のみの博士課程）」、アイソトープ総合センターを設置
18. 10 次世代医療研究開発・教育統合センターを設置
19. 4 学群改組を実施（9学群23学類により編制）
- 人文・文化学群「人文学類、比較文化学類、日本語・日本文化学類」、社会・国際学群「社会学類、国際総合学類」、人間学群「教育学類、心理学類、障害科学類」、生命環境学群「生物学類、生物資源学類、地球学類」、理工学群「数学類、物理学類、化学類、応用理工学類、工学システム学類、社会工学類」、情報学群「情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類」、医学群「医学類、看護学類、医療科学類」、体育専門学群、芸術専門学群
- 大学院博士課程生命環境科学研究科（地球環境科学専攻、地球進化科学専攻）、大学院博士課程人間総合科学研究科（芸術学専攻）を5年一貫制から区分制に転換
- 大学院博士課程生命環境科学研究科「地球科学専攻（博士前期課程）、環境科学専攻（博士前期課程）、地球環境科学専攻（博士後期課程）、地球進化科学専攻（博士後期課程）、持続環境学専攻（博士後期課程）」、大学院博士課程人間総合科学研究科「看護科学専攻（修士課程）、世界遺産専攻（博士前期課程）、芸術専攻（博士前・後期課程）」を設置
- 附属盲学校、聾学校、大塚養護学校、桐が丘養護学校、久里浜養護学校を特別支援学校に変更
- 「学校教育法等の一部を改正する法律（平成18年法律第80号）」
20. 4 大学院人文社会科学研究科（現代文化・公共政策専攻、国際政治経済学専攻、社会科学専攻）、大学院博士課程人間総合科学研究科（教育学専攻、学校教育学専攻、心理学専攻、感性認知脳科学専攻、体育科学専攻）を5年一貫制から区分制に、大学院博士課程人間総合科学研究科（ヒューマン・ケア科学専攻、スポーツ医学専攻）を5年一貫制から後期3年博士課程に転換
- 大学院人文社会科学研究科「現代語・現代文化専攻、国際公共政策専攻、経済学専攻、法学専攻（以上、博士前・後期課程）、国際地域研究専攻（博士前期課程）、国際日本研究専攻（博士後期課程）」、大学院博士課程人間総合科学研究科「障害科学専攻（博士前・後期課程）心理専攻、生涯発達専攻、体育学専攻、スポーツ健康システム・マネジメント専攻（以上、博士前期課程）、教育基礎学専攻、生涯発達科学専攻、生命システム医学専攻、疾患制御医学専攻（以上、博士後期課程）」を設置
- 大学院修士課程教育研究科「特別支援教育専攻」を設置
21. 4 山田信博、学長に就任
- 大学院博士課程人間総合科学研究科「看護科学専攻（博士後期課程）」を設置

23. 4 教員組織である系（人文社会系、ビジネスサイエンス系、数理物質系、システム情報系、生命環境系、人間系、体育系、芸術系、医学医療系、図書館情報メディア系）を設置
大学院博士課程生命環境科学研究科「生物科学専攻（博士後期課程）」を設置
23. 10 サイバニクス研究センターを設置
23. 12 グローバル教育院を設置
24. 3 学系を廃止
24. 4 ヒューマンバイオロジー学位プログラム（5年一貫制博士課程）を設置
大学院博士課程数理物質科学研究科「ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻（博士後期課程）」、大学院博士課程生命環境科学研究科「生命共存科学専攻（5年一貫制）」を設置
24. 12 国際統合睡眠医科学研究機構を設置
アイソトープ環境動態研究センター（アイソトープ総合センター及び陸域環境研究センターを統合）を設置
25. 4 永田恭介、学長に就任
グローバル・コモンズ機構を設置
26. 4 エンパワーメント情報学プログラム（5年一貫制博士課程）を設置
システム情報工学研究科に社会工学学位プログラム（前期2年博士課程、後期3年博士課程）、サービス工学学位プログラム（前期2年博士課程）を設置
利益相反・輸出管理マネジメント室を設置
27. 4 ライフイノベーション学位プログラム（前期2年博士課程、後期3年博士課程）を設置
グローバルコミュニケーション教育センター（外国語センター及び留学生センターを統合）を設置
高細精医療イノベーション研究コアを設置
27. 6 つくば臨床医学研究開発機構を設置
27. 7 ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センターを設置
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センターを設置
27. 10 ダイバーシティ・アクセビリティ・キャリアセンター（キャリア支援室、ダイバーシティ推進室、障害学生支援室を統合）を設置
つくばスポーツ医学・健康科学センターを設置
28. 4 リサーチアドミニストレーター研究支援室を設置
情報ガバナンス室を設置
大学戦略室を設置
筑波大学50周年史編纂委員会を設置
筑波大学アーカイブズを設置
29. 1 プレジジョン・メディシン開発研究センターを設置
29. 4 地球規模課題学位プログラム（学士）を設置
山岳科学学位プログラム（修士課程）を設置
つくば機能植物イノベーション研究センター（遺伝子実験センター・農林技術センター（農場部門）を統合）を設置
人工知能科学センターを設置

- 山岳科学センター（菅平高原実験センター及び農林技術センター演習林部門を統合）を
設置
- トランスボーダー医学研究センターを設置
- スポーツイノベーション開発研究センターを設置
- 未来社会工学開発研究センターを設置
29. 6 国際イニシアティブ推進機構を設置
29. 7 ヘルスサービス開発研究センターを設置
- オリンピック・パラリンピック総合推進室を設置
29. 9 国際ジョイントディグリープログラム・人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻
（修士課程）を開設
29. 10 エネルギー物質科学研究センター（TREMS）（学際物質科学研究センター・数理物質融合
科学センター（環境エネルギー材料研究拠点）を統合）を設置
- 宇宙史研究センターを設置
30. 4 研究センター等再編を実施（3センター群により編制）
- 先端研究センター群「計算科学研究センター、生存ダイナミクス研究センター、つくば
機能植物イノベーション研究センター、下田臨海実験センター、プラズマ研究センター、
地中海・北アフリカ研究センター、サイバニクス研究センター、アイソトープ環境動態
研究センター、人工知能科学センター、陽子線医学利用研究センター、山岳科学センタ
ー、ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター、トランスボーダー医学研究
センター、宇宙史研究センター、エネルギー物質科学研究センター、大学研究センター」、
研究支援センター群「研究基盤総合センター、生命科学動物資源センター、学術情報メ
ディアセンター」、教育等センター群「グローバルコミュニケーション教育センター、体
育センター、アドミッションセンター、保健管理センター」
- 大学経営改革室を設置
- アスレチックデパートメントを設置
30. 10 微生物サステイナビリティ研究センターを設置
31. 2 テーラーメイドQOLプログラム開発研究センターを設置
31. 4 働く人への心理支援開発研究センターを設置
- 令元. 10 オープンイノベーション国際戦略機構を設置
- イノベティブ計測技術開発研究センターを設置
- 革新的創薬開発研究センターを設置

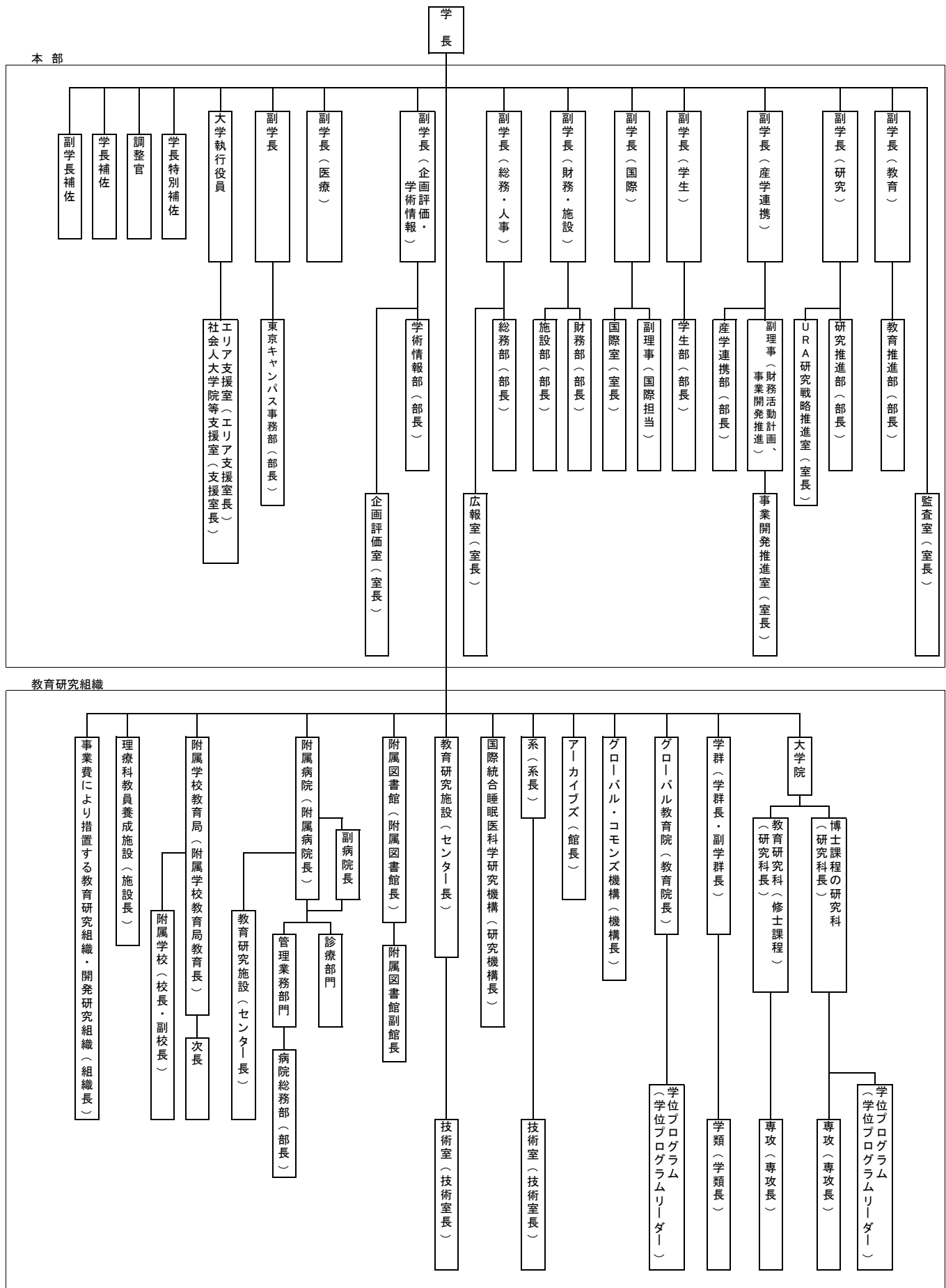
(2) 運営組織等
ア 法人運営組織

令和2年3月31日現在



イ 大学運営組織

令和2年3月31日



(3) 主要行事

入 学 式 学群(理療科教員養成施設を含む), 大学院
学群(秋学期入学), 大学院 (秋学期入学)

新入生オリエンテーション 学群(4月入学)
大学院

私費外国人研究生(4月入学)

国費外国人留学生(4月入学)

私費外国人研究生(10月入学)

国費外国人留学生(10月入学)

私費外国人研究生(12月入学)

スポーツ・デー 春 季
秋 季

入学試験等(学群)

- ・受験生のための筑波大学説明会
- ・令和2年度個別学力検査等(前期日程・後期日程)
- ・令和2年度アドミッションセンター入試
- ・令和2年度推薦入試
- ・令和元年度帰国生徒特別入試
- ・令和2年度帰国生徒特別入試(体育専門学群、芸術専門学群)
- ・令和2年度国際科学オリンピック特別入試
- ・令和2年度私費外国人留学生入試
- ・令和2年度私費外国人留学生特別コース入試
- ・令和2年度国際バカロレア特別入試
- ・令和元年度私費外国人留学生 Japan-Expert(学士)プログラム特別入試
- ・令和元年度地球規模課題学位プログラム(学士)入試
- ・令和2年度海外教育プログラム特別入試
- ・令和2年度研究型人材入試
- ・令和2年度学群編入学試験
- ・令和2年度学群編入学試験(社会・国際学群社会学類)
- ・令和2年度私費外国人留学生特別コース入試(編入学)
- ・令和2年度総合理工学位プログラム(学士)入試
- ・令和2年度大学入試センター試験

入学試験（大学院）

令和2年度大学院入学者選抜

入試期 7月期・8月期・10月期・2月期

（専ら夜間において教育を行う課程の入試、特別プログラム入試等については、上記に限らず実施）

永年勤続者（20年）表彰式

名誉教授称号授与式

学園祭（雙峰祭）

卒業式・学位記授与式

学群・大学院（9月期）

学群（理療科教員養成施設を含む）・大学院（3月期）

(4) 役員・教職員数

ア 役員・教職員数総表

令和2年3月1日現在

職名 部局名	学長	理事・ 監事	副学長・ 系長	教授	准教授	講師	助教	助手	特任助教	大学教 員計	研究員等	附属学校 教員	事務・ 技術・ 医療職員	合計
学長	1									0				1
理事・監事		10								0				10
副学長（理事でない）			3							3				3
本部（教員）				16	9	1	2			28				28
調整官										0				0
監査室										0			3	3
企画評価室										0			8	8
広報室										0			7	7
事業開発推進室										0			13	13
国際室										0			21	21
URA研究戦略推進室										0			16	16
総務部										0			80	80
財務部										0			63	63
施設部										0			40	40
教育推進部										0			79	79
学生部										0			60	60
研究推進部										0			63	63
産学連携部										0			60	60
学術情報部										0			73	73
人文社会系			1	78	80	4	45			208	7			215
人文社会エリア支援室										0			30	30
ビジネスサイエンス系			1	26	18		2		1	48				48
社会人大学院等支援室										0			18	18
数理物質系			1	69	73	20	61		1	225	9			234
数理物質エリア支援室										0			30	30
数理物質科学等技術室										0			11	11
システム情報系			1	72	79	6	52			210	13			223
システム情報エリア支援室										0			44	44
システム情報工学等技術室										0			11	11
生命環境系			1	76	76	10	67		8	238	22			260
生命環境エリア支援室										0			54	54
生命環境科学等技術室										0			21	21
人間系			1	44	29	4	24		8	110	7			117
人間エリア支援室										0			18	18
体育系			1	41	44	2	31		15	134	9			143
芸術系			1	27	20		16		1	65	2			67
体育芸術エリア支援室										0			36	36
医学医療系			1	125	100	171	102	1	2	502	11			513
医学医療エリア支援室										0			67	67
医学医療系技術室										0			36	36
図書館情報メディア系			1	20	19	5	13		1	59	1			60
図書館情報エリア支援室										0			20	20
利益相反・輸出管理マネジメント室										0			2	2
スポーツResearch&Developmentコア										0	5			5
グローバル・コモンズ機構										0			21	21
国際統合睡眠医科学研究機構				8	9		15			32	25		25	82
計算科学研究センター				16	8	3	16			43	26			69
生存ダイナミクス研究センター				6		4	9			19	5			24
つくば機能脳物イノベーション研究センター技術室										0			13	13
下田臨海実験センター										0	1			1
地中海・北アフリカ研究センター										0	3			3
サイバニクス研究センター										0				0
アイトープ環境動態研究センター										0	2		6	8
人工知能科学センター										0	3			3
研究基盤総合センター技術室										0			11	11
グローバルコミュニケーション教育センター										0	1			1
産総研・イリス・ネキギツツシタ開発研究センター										0	7			7
ヘルスサービス開発研究センター										0				0
イノベティブ計測技術開発研究センター										0				0
革新的創薬開発研究センター										0				0
働く人への心理支援開発研究センター										0				0
ゲノム・メタゲノムプログラム開発研究センター										0	3			3
未来社会工学開発研究センター										0	2			2
附属病院										0			1,172	1,172
病院総務部										0			278	278
附属学校教育局										0	1		54	55
附属学校										0		522		522
合計	1	10	13	624	564	230	455	1	37	1,924	165	522	2,564	5,186

イ 役員数

学長	理事	監事
1	8	2

ウ 大学教員異動状況

採用

	大学	研究所	企業	その他	総計
教授	12	0	2	7	21
准教授	17	3	4	4	28
講師	7	0	3	4	14
助教	64	5	5	25	99
特任助教	4	0	0	2	6
総計	104	8	14	42	168

退職

	大学	研究所	企業	定年	その他	総計
教授	5	1	2	26	10	44
准教授	14	0	7	2	3	26
講師	6	0	6	2	3	17
助教	17	3	3	0	13	36
特任助教	10	0	1	0	3	14
総計	52	4	19	30	32	137

(5) 予算決算

ア 貸借対照表

(令和2年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		
I 固定資産		
1 有形固定資産		
土地	246,462,830	
土地減損損失累計額	<u>△1,392,000</u>	245,070,830
建物	161,569,948	
建物減価償却累計額	<u>△82,935,923</u>	
建物減損損失累計額	<u>△877,644</u>	77,756,381
構築物	12,047,671	
構築物減価償却累計額	<u>△7,318,624</u>	
構築物減損損失累計額	<u>△19,627</u>	4,709,419
機械装置	112,576	
機械装置減価償却累計額	<u>△105,691</u>	6,885
工具器具備品	65,101,117	
工具器具備品減価償却累計額	<u>△52,596,356</u>	12,504,761
図書		10,324,852
美術品・收藏品		919,587
船舶	256,275	
船舶減価償却累計額	<u>△226,334</u>	29,941
車両運搬具	154,092	
車両運搬具減価償却累計額	<u>△131,546</u>	22,545
建設仮勘定		1,427,021
その他の有形固定資産		<u>6,924</u>
有形固定資産合計		352,779,147
2 無形固定資産		
商標権		59
特許権		193,524
借地権		235,000
電気施設利用権		17,496
ソフトウェア		217,291
電話加入権		8,549
特許権仮勘定		175,850
その他の仮勘定		379
その他の無形固定資産		<u>82,239</u>
無形固定資産合計		930,387
3 投資その他の資産		
投資有価証券		3,000,309
長期前払費用		9,590
破産債権、再生債権、更生債権その他これらに準ずる債権	25,198	
貸倒引当金	<u>△25,198</u>	—
長期未収附属病院収入	22,269	
徴収不能引当金	<u>△22,269</u>	—
長期未収金	46,348	
貸倒引当金	<u>△23,174</u>	23,174
その他の投資等		<u>2,141</u>
投資その他の資産合計		3,035,215
固定資産合計		<u>356,744,749</u>
II 流動資産		
現金及び預金		15,605,472
未収学生納付金収入		133,699
未収附属病院収入	5,873,944	
徴収不能引当金	<u>△11,745</u>	5,862,200
未収金	981,571	
貸倒引当金	<u>△5,238</u>	976,332
有価証券		305,040
たな卸資産		39,574
医薬品及び診療材料		206,876
前渡金		17,586
前払費用		43,533
未収収益		10,036
未収消費税等		22,530
その他の流動資産		<u>178,570</u>
流動資産合計		<u>23,401,447</u>
資産合計		<u>380,146,196</u>

負債の部

I 固定負債

資産見返負債

資産見返運営費交付金等	10,923,296	
資産見返補助金等	2,114,254	
資産見返寄附金	3,359,988	
資産見返物品受贈額	8,444,400	
建設仮勘定見返運営費交付金	71,915	
建設仮勘定見返施設費	1,361,515	
建設仮勘定見返補助金	1,528	26,276.897

長期寄附金債務		300,000
大学改革支援・学位授与機構債務負担金		214,353
長期借入金		1,949,926
長期リース債務		3,334,004
長期PFI債務		19,030,891
退職給付引当金		807,611
資産除去債務		241,326
その他の固定負債		82,498

固定負債合計 52,237,505

II 流動負債

運営費交付金債務	990,067	
預り補助金等	36,395	
寄附金債務	4,922,454	
前受受託研究費	445,224	
前受共同研究費	1,184,093	
前受受託事業費等	149,968	
前受金	27,965	
預り科学研究費補助金等	475,169	
預り金	1,182,372	
一年以内返済予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	135,853	
一年以内返済予定長期借入金	1,321,461	
リース債務	1,556,951	
PFI債務	1,735,325	
未払金	9,086,143	
未払費用	36,993	
賞与引当金	691,984	
環境対策引当金	5,070	

流動負債合計 23,983,487

負債合計 76,220,992

純資産の部

I 資本金

政府出資金	231,333,303	
-------	-------------	--

資本金合計 231,333,303

II 資本剰余金

資本剰余金	141,463,758	
損益外減価償却累計(△)	△71,307,105	
損益外減損損失累計(△)	△2,246,098	
損益外利息費用累計(△)	△25,560	

資本剰余金合計 67,884,994

III 利益剰余金

前中期目標期間繰越積立金	2,420,860	
教育研究環境等整備積立金	564,010	
積立金	1,147,002	
当期末処分利益	575,035	
(うち当期総利益	575,035)	

利益剰余金合計 4,706,906

純資産合計 303,925,204

負債純資産合計 380,146,196

イ 損益計算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(単位:千円)

経常費用			
業務費			
教育経費		6,984,606	
研究経費		6,572,411	
診療経費			
材料費	14,088,109		
委託費	3,817,865		
設備関係費	3,958,012		
研修費	13		
経費	1,087,365	22,951,364	
教育研究支援経費		2,272,540	
受託研究費		3,413,253	
共同研究費		1,681,860	
受託事業費等		1,092,978	
役員人件費		175,763	
教員人件費			
常勤教員給与	26,955,028		
非常勤教員給与	589,387	27,544,415	
職員人件費			
常勤職員給与	18,555,909		
非常勤職員給与	3,592,597	22,148,506	94,837,696
一般管理費			2,880,280
財務費用			
支払利息		376,603	
有価証券評価損		3,750	380,353
雑損			122,663
			<hr/>
経常費用合計			98,220,993
			<hr/>
経常収益			
運営費交付金収益		35,037,988	
授業料収益		8,442,536	
入学金収益		1,374,903	
検定料収益		313,776	
附属病院収益		35,084,680	
受託研究収益		4,111,359	
共同研究収益		1,927,470	
受託事業等収益		1,193,507	
施設費収益		447,324	
補助金等収益		2,105,643	
寄附金収益		2,685,420	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	1,351,890		
資産見返補助金等戻入	662,942		
資産見返寄附金戻入	714,745		
資産見返物品受贈額戻入	27,389	2,756,966	
財務収益			
受取利息		14,225	
有価証券利息		24,994	
為替差益		451	
有価証券売却益		1,754	41,423
			<hr/>

雑益			
公開講座収入	63,405		
財産貸付料収入	288,789		
学生寄宿舍収入	754,826		
職員宿舍料収入	113,443		
文献複写料収入	4,393		
研究関連収入	1,061,085		
その他の雑益	894,830	3,180,771	
経常収益合計			98,703,766
経常利益			482,773
臨時損失			
固定資産除却損	58,547		
災害損失	47,735		106,282
臨時利益			
運営費交付金収益	3,867		
施設費収益	13,528		
保険金収益	12,760		
資産見返運営費交付金等戻入	46,964		
資産見返寄附金戻入	7,186		
資産見返物品受贈額戻入	0		
資産見返補助金戻入	375	84,681	
当期純利益			461,172
目的積立金取崩額			90,502
前中期目標期間繰越積立金取崩額			23,361
当期総利益			575,035

ウ 決算報告書

令和元年度

国立大学法人筑波大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)	備 考
収 入				
運営費交付金	40,307	41,348	1,040	(注1)
施設整備費補助金	5,959	3,907	△2,052	(注2)
船舶建造費補助金	—	—	—	
補助金等収入	2,411	2,442	31	(注3)
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	114	114	—	
自己収入	45,975	46,120	145	
授業料、入学料及び検定料収入	9,296	9,180	△116	(注4)
附属病院収入	34,133	34,845	712	(注5)
財産処分収入	475	—	△475	(注6)
雑収入	2,071	2,096	25	(注7)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	13,231	13,716	485	(注8)
引当金取崩	663	686	23	(注9)
長期借入金収入	—	—	—	
貸付回収金	5	1	△4	(注10)
目的積立金取崩	577	579	2	(注11)
出資金	—	—	—	
計	109,242	108,912	△329	
支 出				
業務費	81,351	81,166	△185	(注12)
教育研究経費	47,958	46,481	△1,477	
診療経費	33,393	34,685	1,292	
施設整備費	7,861	5,809	△2,052	(注13)
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	2,411	2,441	30	(注14)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	13,231	11,116	△2,115	(注15)
貸付金	5	1	△4	(注16)
長期借入金償還金	4,384	4,383	△1	(注17)
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	—	—	—	
出資金	—	—	—	
計	109,242	104,915	△4,327	
収入－支出	—	3,997	3,997	

- (注1) 運営費交付金については、追加予算の交付などにより、予算額に比して決算額が1,040百万円多額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、一部事業を翌年度繰越のため、予算額に比して決算額が2,052百万円少額となっています。
- (注3) 補助金等収入については、予算段階では予定していなかった国からの補助金等の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が31百万円多額となっています。
- (注4) 授業料、入学料及び検定料収入については、在籍者数の減少などにより、予算額に比して決算額が116百万円少額となっています。
- (注5) 附属病院収入については、高度急性期医療の展開により、予算額に比して決算額が712百万円多額となっています。
- (注6) 財産処分収入については、事業計画の見直しにより、予算額に比して決算額が475百万円少額となっています。
- (注7) 雑収入については、資金運用利息などの増加により、予算額に比して決算額が25百万円多額となっています。
- (注8) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、積極的に資金の獲得に努めたことなどにより、予算額に比して決算額が485百万円多額となっています。
- (注9) 引当金取崩については、賞与引当金の取崩しが増加したため、予算額に比して決算額が23百万円多額となっています。
- (注10) 貸付回収金については、学生などへの貸与が予算段階の見込みより減額したため、予算額に比して決算額が4百万円少額となっています。
- (注11) 目的積立金取崩については、事業計画の見直しにより、予算額に比して決算額が2百万円多額となっています。
- (注12) 業務費については、光熱水費の使用量の節減に努めたことや、翌年度に継続して行う事業を繰越したことから、予算額に比して決算額が185百万円少額となっています。
- (注13) 施設整備費については、(注2)に示した理由を主な要因として、予算額に比して決算額が2,052百万円少額となっています。
- (注14) 補助金等については、(注3)に示した理由を主な要因として、予算額に比して決算額が30百万円多額となっています。
- (注15) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、翌年度に継続して行う事業を繰越したことから、予算額に比して決算額が2,115百万円少額となっています。
- (注16) 貸付金については、(注10)に示した理由を主な要因として、予算額に比して決算額が4百万円少額となっています。
- (注17) 長期借入金償還金については、返済日変更により、予算額に比して決算額が1百万円少額となっています。

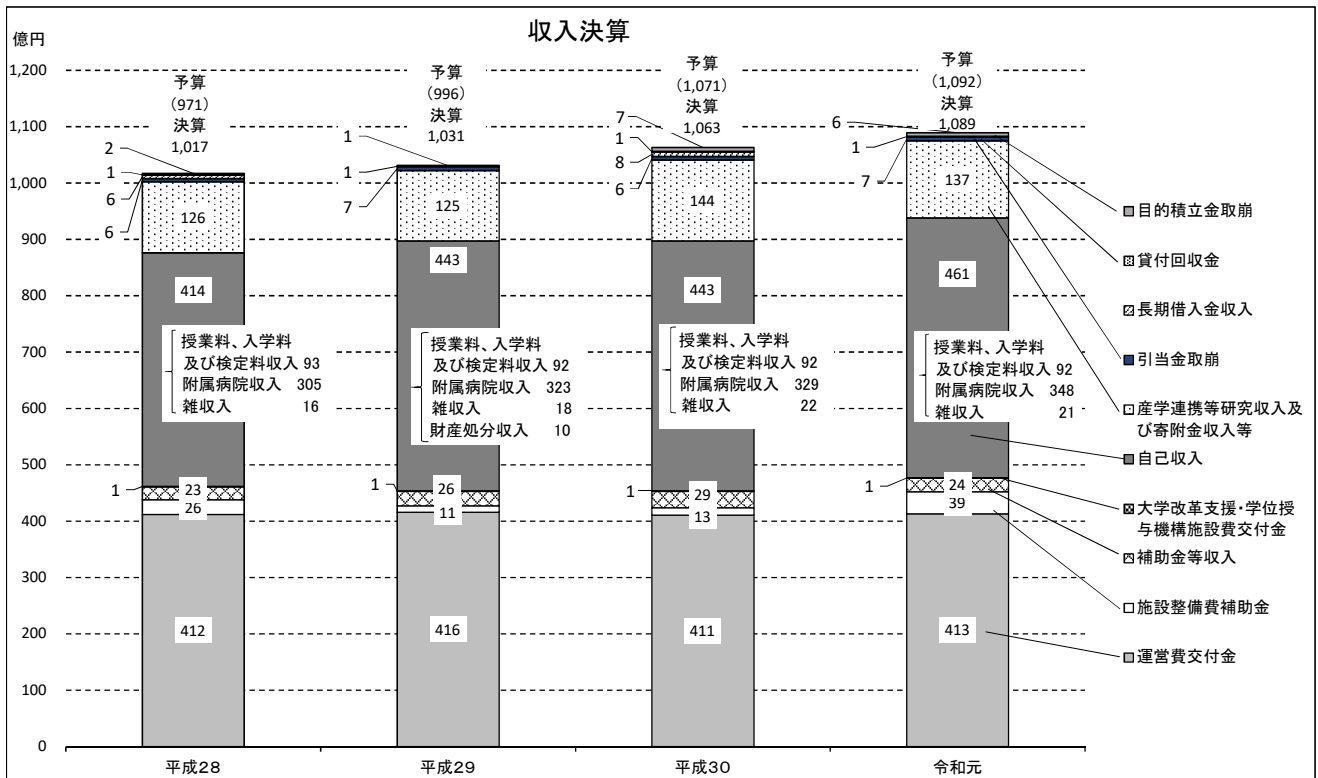
エ キャッシュ・フロー計算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

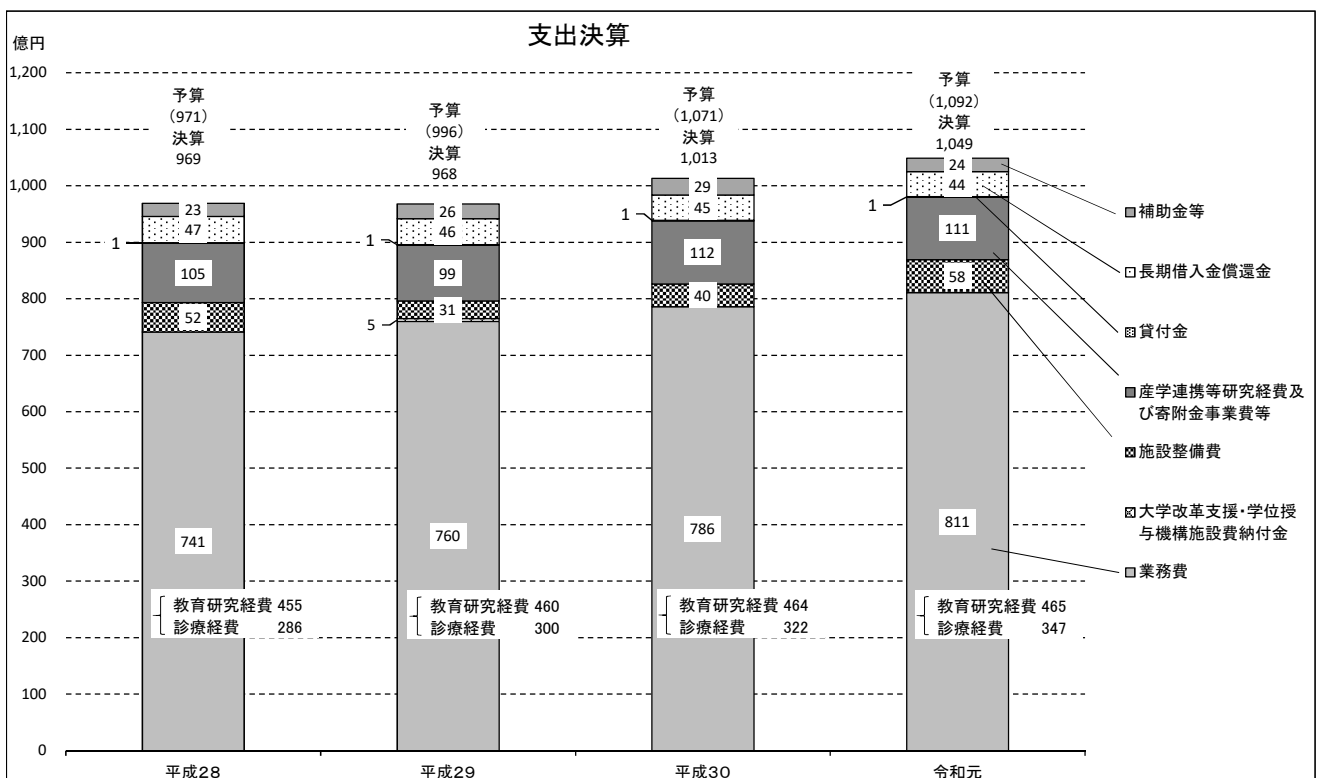
(単位:千円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
教育研究業務支出	△15,130,337
診療業務支出	△20,124,780
人件費支出	△51,721,467
その他の業務支出	△3,437,797
運営費交付金収入	39,688,654
授業料収入	7,559,531
入学金収入	1,306,941
検定料収入	313,776
附属病院収入	34,844,833
受託研究収入	4,486,510
共同研究収入	1,962,657
受託事業等収入	1,231,594
補助金等収入	2,685,827
補助金等の精算による返還金の支出	△69,378
寄附金収入	2,869,820
その他の業務収入	3,156,361
預り金の増加	213,290
業務活動によるキャッシュ・フロー	9,836,035
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△600,000
有価証券の売却による収入	310,544
有価証券の償還による収入	3,500,000
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	△7,771,336
定期預金の預入による支出	△35,700,000
定期預金の払戻による収入	35,900,000
施設費による収入	4,190,874
施設費の精算による返還金の支出	△169,768
資産除去債務の履行による支出	△2,980
その他の投資支出	△1,021
その他の投資収入	583
小計	△343,104
利息及び配当金の受取額	62,443
投資活動によるキャッシュ・フロー	△280,661
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△4,071,245
大学改革支援・学位授与機構債務負担金の返済による支出	△193,387
リース債務の返済による支出	△1,593,438
その他の財務支出	△1,781,229
小計	△7,639,299
利息の支払額	△462,978
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,102,277
IV 資金に係る換算差額	454
V 資金増加額	1,453,551
VI 資金期首残高	6,651,921
VII 資金期末残高	8,105,472

キ 収入支出概況

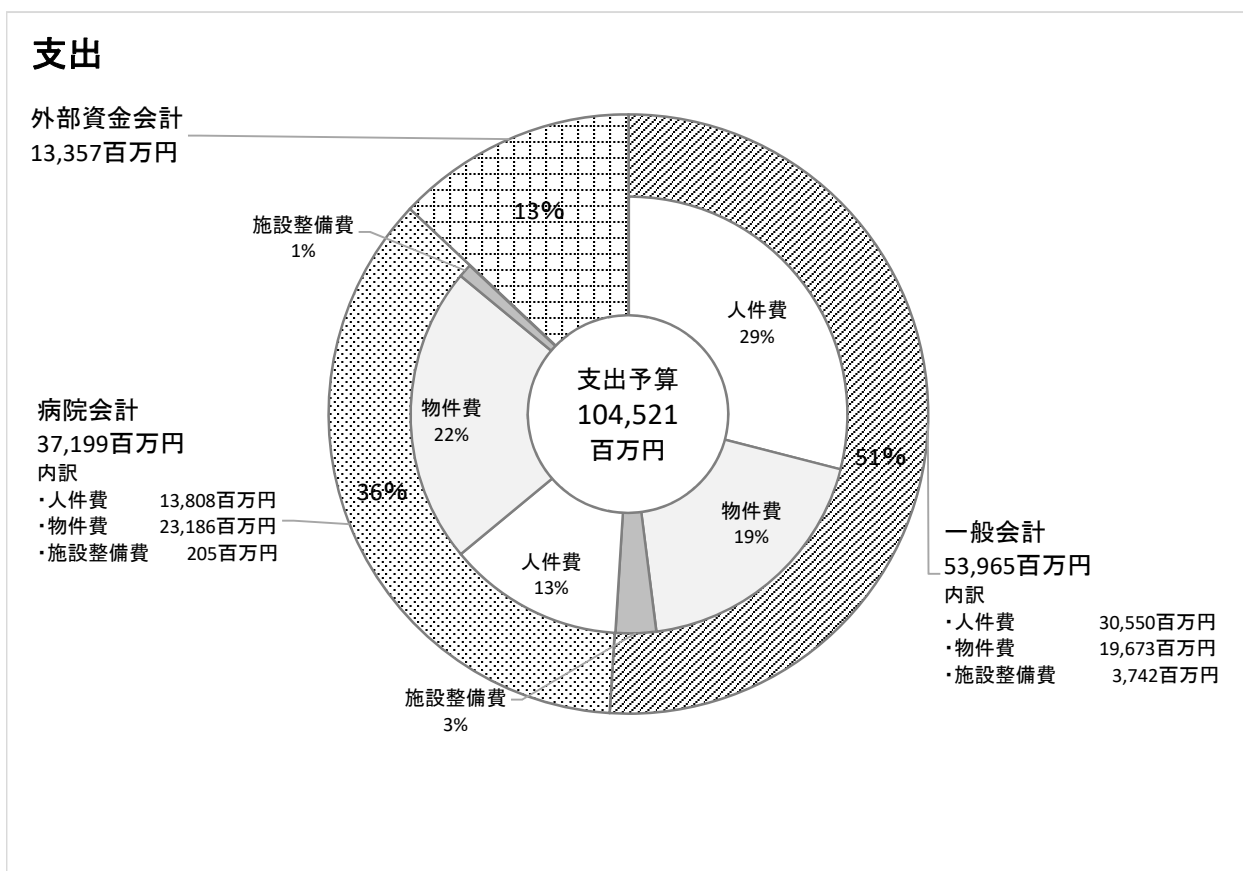
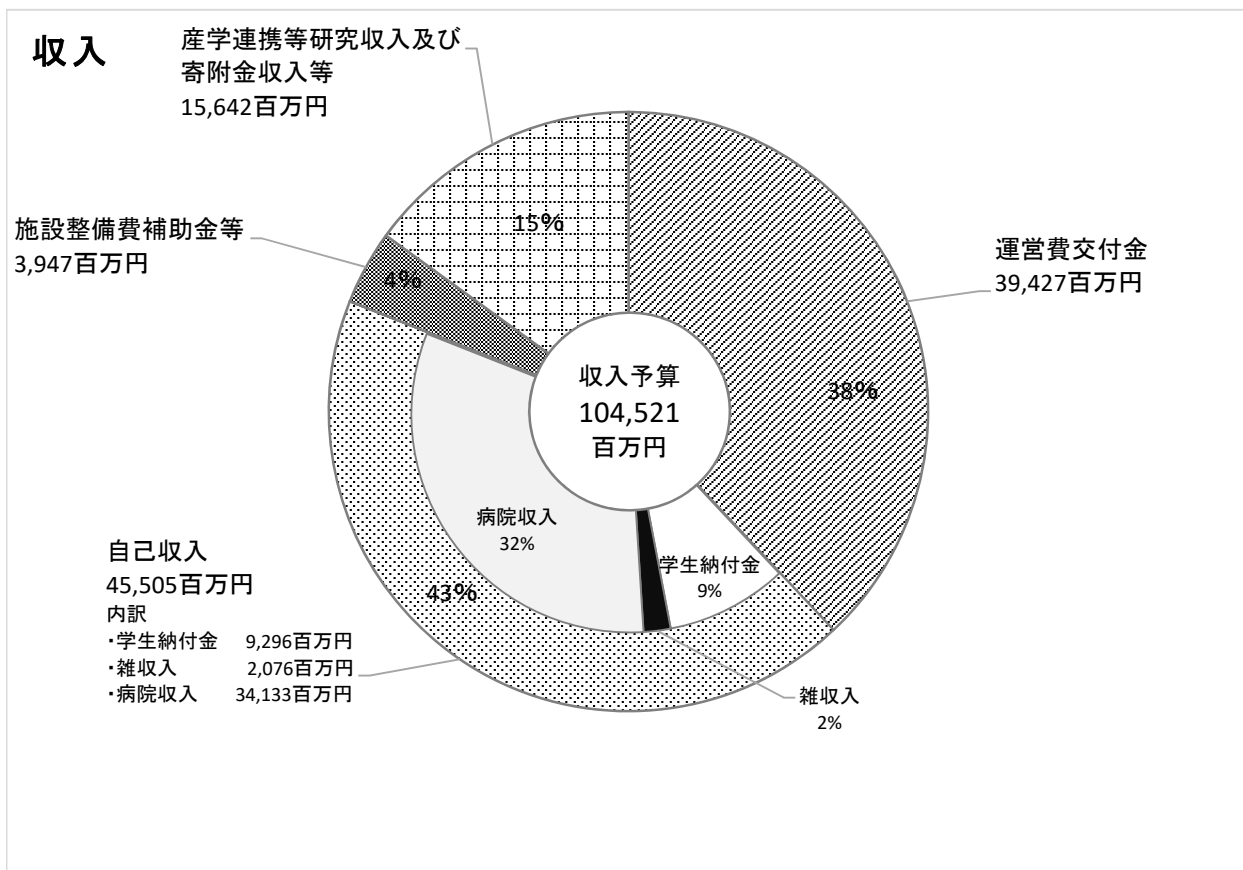


(注) 表中数字は決算額を、()は年度計画予算総額を指す。



(注) 表中数字は決算額を、()は年度計画予算総額を指す。

ク 令和元年度予算構成図(当初配分予算)



(注) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等の外部資金会計における収入と支出の差異は、支出予算において間接経費を一般会計に繰り入れているため生じたものである。

2 教育関係

(1) 学年暦

令和元年度 学年暦

事 項	学 群	大 学 院 【 】は 東京キャンパス
春学期（4月1日～9月30日）		
学年開始	4月 1日（月）	4月 1日（月）
春季休業	4月 1日（月）～ 4月 7日（日）	4月 1日（月）～ 4月 7日（日） 【 4月 1日（月）～ 4月 8日（月）】
入学式	4月 8日（月）	4月 8日（月） 【 4月 6日（土）】
新入生オリエンテーション	4月 8日（月）～ 4月10日（水）	4月 8日（月）、4月 9日（火） 【 4月 6日（土）】
春学期授業開始	4月11日（木）	4月10日（水） 【 4月 9日（火）】
春季スポーツ・デー	5月11日（土）～ 5月12日（日）	5月11日（土）～ 5月12日（日）
春A Bモジュール期末試験	6月28日（金）～ 7月 4日（木）	6月28日（金）～ 7月 4日（木）
春A B Cモジュール期末試験	8月 5日（月）～ 8月 9日（金）	8月 5日（月）～ 8月 9日（金） 【 7月30日（火）～ 8月 3日（土）】
春学期授業終了	8月 9日（金）	8月 9日（金） 【 7月27日（土）】
期末試験予備日		【 8月 6日（火）～ 8月 8日（木）】
夏季休業	8月10日（土）～ 9月30日（月）	8月10日（土）～ 9月30日（月） 【 8月 9日（金）～ 9月30日（月）】
卒業式	9月25日（水）	
大学院学位記授与式		9月25日（水）
秋学期（10月1日～3月31日）		
秋学期入学式	9月30日（月）	9月30日（月）
★1 開学記念日	10月 1日（火）	10月 1日（火）
秋学期授業開始	10月 1日（火）	10月 1日（火） 【10月 1日（火）】
筑波キャンパス電気設備点検（全学停電）	10月26日（土）～10月27日（日）	10月26日（土）～10月27日（日）
★2 学園祭	11月 2日（土）～11月 4日（月）	11月 2日（土）～11月 4日（月）
秋Aモジュール末予備日	11月11日（月）	11月11日（月）
秋季スポーツ・デー	11月16日（土）～11月17日（日）	11月16日（土）～11月17日（日）
秋A Bモジュール期末試験	12月20日（金）～12月26日（木）	12月20日（金）～12月26日（木）
冬季休業	12月27日（金）～ 1月 5日（日）	12月27日（金）～ 1月 5日（日） 【12月25日（水）～ 1月 6日（月）】
秋A B Cモジュール期末試験	2月 4日（火）、2月 7日（金）、 2月10日（月）、2月12日（水）、 2月13日（木）	2月 4日（火）、2月 7日（金）、 2月10日（月）、2月12日（水）、 2月13日（木） 【 1月28日（火）～ 1月31日（金）、 2月15日（土）】
秋学期授業終了	2月13日（木）	2月13日（木） 【 2月 8日（土）】
期末試験予備日	2月14日（金）	2月14日（金） 【 2月 4日（火）～ 2月 6日（木）】
春季休業	2月15日（土）～ 3月31日（火）	2月15日（土）～ 3月31日（火） 【 2月16日（日）～ 3月31日（火）】
卒業式	3月25日（水）	
大学院学位記授与式		3月25日（水） 【 3月28日（土）】
学年終了	3月31日（火）	3月31日（火） 【 3月31日（火）】

（備 考）

- ★1 10月1日（火）の開学記念日は、休講とせずに授業を実施する。
- ★2 学園祭の実施に伴い、11月5日（火）の授業は臨時休講とする。（東京キャンパスを除く）
- 3 定期健康診断の日程については、別に定め、実施時間に当たる学群・学類の当該年次及び研究科の授業は、臨時休講とする。（東京キャンパスを除く）
- 4 授業日数確保のため、下記のとおりの曜日を振替えて授業を実施する。（東京キャンパスを除く）
5月9日は振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。7月19日は振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。
10月18日は振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。11月6日は振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。
11月7日は振替え授業日とし、火曜日の授業を実施する。11月26日は振替え授業日とし、金曜日の授業を実施する。
1月16日は振替え授業日とし、金曜日の授業を実施する。1月22日は振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。
- 5 推薦入試の実施に伴い、11月27日（水）～11月29日（金）は全日臨時休業とする。（東京キャンパスを除く）
- 6 大学入試センター試験の実施に伴い、1月17日（金）及び1月20日（月）は全日臨時休業とする。（東京キャンパスを除く）
- 7 医学類に係る卒業日は令和2年3月10日とし、卒業式は上記日程に従い実施する。
- ※ 学期（学期の区分）は、春学期と秋学期の2学期とし、5週単位の6つ（春A、春B、春C、秋A、秋B、秋C）のモジュールで構成する。

(令和2年3月1日現在)

研究科・専攻	1年			2年			3年			4年			5年			合計		
	学生数	(女子)	一般学生	(女子)	外国人学生	(女子)	外国人留学生	(女子)	外国人留学生	(女子)	外国人留学生	(女子)	外国人留学生	(女子)	外国人留学生	(女子)	外国人留学生	(女子)
教育研究科	20	12	16	9	4	3	22	7	22	7	22	7	22	7	22	7	22	7
スクールリーダーシップ開発専攻	39	12	16	9	4	3	22	7	22	7	22	7	22	7	22	7	22	7
教科教育専攻	160	70	69	20	1	1	64	20	63	19	1	1	1	1	1	1	1	1
教育学(国際教育)修士プログラム	11	8	7	6	3	2	14	9	9	6	1	4	3					
計	199	101	92	35	8	6	100	36	94	32	2	4	3					
人文社会科学研究科 (一貫制博士課程)	30	5	2	4	1	1	5	2	3	1	2	1	5	4	4	4	4	4
哲学・思想専攻	60	14	7	6	8	4	11	4	5	1	1	6	3	10	3	8	2	2
歴史・人類学専攻	100	15	10	11	4	3	18	7	9	2	7	9	5	18	12	7	7	7
文芸・言語専攻	190	34	19	21	13	7	34	13	17	4	4	17	9	33	15	24	9	9
計	72	42	23	7	35	18	38	14	9	2	1	17	9	33	15	24	9	9
人文社会科学研究科 (修士課程)	72	42	23	7	35	18	38	14	9	2	1	17	9	33	15	24	9	9
計	72	42	23	7	35	18	38	14	9	2	1	17	9	33	15	24	9	9
人文社会科学研究科 (博士前期課程)	20	11	3	9	2	2	8	2	8	2	2	8	2	8	2	8	2	8
現代語・現代文化専攻	30	13	9	3	10	8	16	8	12	4	4	4	4	4	4	4	4	4
国際公共政策専攻	50	35	27	5	30	24	46	34	13	11	33	23	33	23	33	23	33	23
国際地域研究専攻	100	59	39	17	42	33	70	44	33	17	37	27	37	27	37	27	37	27
計	24	6	2	5	1	1	6	4	5	3	1	1	14	8	14	8	14	8
現代語・現代文化専攻	30	5	1	3	1	1	6	4	3	2	1	2	2	14	5	10	3	2
国際公共政策専攻	57	16	12	2	14	11	21	11	7	3	14	8	46	31	14	9	1	31
法学専攻	111	27	15	10	16	11	33	19	15	8	17	11	74	44	38	20	3	33
計	60	31	10	31	10	10	41	9	40	8	1	1	41	9	40	8	1	41
経営システム科学専攻	60	25	9	25	9	42	11	41	10	1	1	42	11	41	10	1	1	42
企業法専攻	120	56	19	56	19	83	20	81	18	2	2	83	20	81	18	2	2	83
計	69	20	5	20	5	22	6	22	6	6	6	22	6	22	6	6	6	22
企業科学専攻	69	20	5	20	5	22	6	22	6	6	6	22	6	22	6	6	6	22
計	108	32	10	32	10	32	11	31	11	1	40	6	39	6	1	40	6	39
法曹専攻(法科大学院)	108	32	10	32	10	32	11	31	11	1	40	6	39	6	1	40	6	39
計	60	31	9	24	6	3	35	13	23	6	9	4	3	3	3	3	3	3
国際経営プログラム専攻	60	31	9	24	6	3	35	13	23	6	9	4	3	3	3	3	3	3
計	54	21	21	21	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
数専攻	100	54	5	53	5	62	7	60	6	2	2	1	62	7	60	6	2	62
物理学専攻	96	47	11	40	8	7	3	47	13	44	10	3	3	3	3	3	3	3
化学専攻	108	69	8	53	4	1	15	3	71	6	60	3	11	3	11	3	11	3
電子・物理工学専攻	122	77	12	59	9	17	3	71	16	55	11	16	5	16	5	16	5	16
物性・分子工学専攻	480	268	36	226	26	3	9	276	42	244	30	32	12	32	12	32	12	32
計	36	7	1	6	1	1	3	2	2	2	5	5	5	5	5	5	5	5
数学専攻	60	9	2	9	2	7	1	6	1	1	14	1	8	1	2	4	4	4
物理学専攻	48	10	8	8	2	2	4	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1
化学専攻	75	5	1	2	3	1	8	1	4	1	3	1	8	2	7	2	1	8
ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻	48	12	2	7	1	4	2	8	1	4	4	1	11	1	5	1	5	1
電子・物理工学専攻	39	17	4	8	1	9	3	3	2	2	3	2	5	2	2	3	2	5
物性・分子工学専攻	306	60	10	40	3	19	7	33	5	19	1	13	4	48	7	30	3	15
計	27	18	7	1	17	7	13	1	5	8	1	19	3	4	1	15	2	15
物質・材料工学専攻	60	44	8	31	2	13	6	38	5	30	2	8	3	38	5	30	2	38
リスク工学専攻	226	136	16	99	6	36	10	155	15	117	5	38	10	155	15	117	5	155
コンピュータサイエンス専攻	216	128	7	108	4	18	3	115	13	90	9	24	4	115	13	90	9	115
知能機能システム専攻	136	86	6	77	6	9	6	77	6	95	13	86	10	95	13	86	10	95
構造エネルギー工学専攻	216	106	26	73	11	1	32	14	117	36	72	12	2	1	43	23	43	23
社会工学専攻(社会工学学位プログラム)	216	24	8	21	5	3	27	6	22	3	3	5	3	5	3	5	3	5
社会工学専攻(社会工学学位プログラム)	854	524	71	409	34	4	1	111	36	547	88	417	41	3	1	127	46	127
計																		

ウ 科目等履修生・研究生・特別聴講学生・特別研究学生

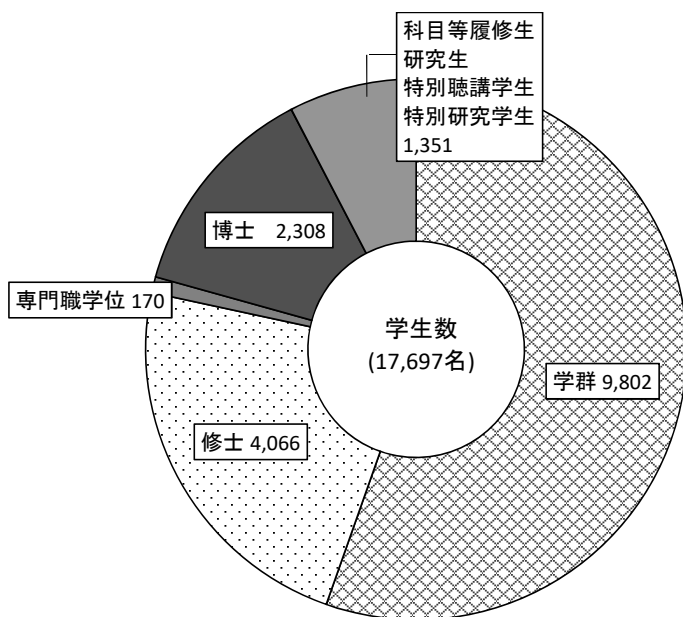
(令和元年度)

所 属		科目等履修生	研究生	特別聴講学生	特別研究学生	計	
学 群	人文・文化	人文学類	21 (8)		31 (24) ※30 ※(23)	52 (32) ※30 ※(23)	
		比較文化学類	5 (3)	1 (1)	41 (26) ※41 ※(26)	47 (30) ※41 ※(26)	
		日本語・日本文化学類	2 (2)		52 (35) ※51 ※(35)	54 (37) ※51 ※(35)	
	国際学・社会学群	社会学類	3 (2)	1	19 (9) ※18 ※(8)	23 (11) ※18 ※(8)	
		国際総合学類			36 (23) ※34 ※(22)	36 (23) ※34 ※(22)	
	学人	教育学類	19 (10)	13 (6)	2 (1) ※2 ※(1)	34 (17) ※2 ※(1)	
		心理学類	1 (1)		3 (1) ※3 ※(1)	4 (2) ※3 ※(1)	
		障害科学類	5 (1)	2 (1)	2 (1) ※2 ※(1)	9 (3) ※2 ※(1)	
	生命環境	生物学類	3	1	7 (5) ※7 ※(5)	11 (5) ※7 ※(5)	
		生物資源学類	6 (2)		50 (27) ※50 ※(27)	56 (29) ※50 ※(27)	
		地球学類	4 (1)		7 (4) ※4 ※(3)	11 (5) ※4 ※(3)	
	理工学群	数学類	2			2 (0) ※0 ※(0)	
		物理学類	2	1 (1)		3 (1) ※0 ※(0)	
		化学類	1			1 (0) ※0 ※(0)	
		応用理工学類	2 (1)	2	5 (1) ※5 ※(1)	9 (2) ※5 ※(1)	
		工学システム学類	1	3 (2)	3 (2) ※3 ※(2)	7 (4) ※3 ※(2)	
		社会工学類			7 (4) ※7 ※(4)	7 (4) ※7 ※(4)	
	情報学群	情報科学類	2	1 (1)	4 (2) ※4 ※(2)	7 (3) ※4 ※(2)	
		情報メディア創成学類	1	1	2 (1) ※1	4 (1) ※1 ※(0)	
		知識情報・図書館学類	1 (1)	1 (1)	1 (1) ※1 ※(1)	3 (3) ※1 ※(1)	
	医学群	医学類		1	4 (2)	5 (2) ※0 ※(0)	
		看護学類				0 (0) ※0 ※(0)	
		医療科学類	1		1 (0) ※1	2 (0) ※1 ※(0)	
	体育専門学群	26 (10) ※1	17 (6)	1 (0) ※1	44 (16) ※2 ※(0)		
	芸術専門学群	24 (22) ※1 ※(1)		14 (7) ※13 ※(7)	38 (29) ※14 ※(8)		
	学 群 計		132 (64) ※2 ※(1)	45 (19) ※0 ※(0)	292 (176) ※278 ※(169)	0 (0) ※0 ※(0)	469 (259) ※280 ※(170)
	大 学 院	修士・博士前期・専門職学位課程	教育研究科	3 (2)	26 (18) ※26 ※(18)		29 (20) ※26 ※(18)
人文社会科学研究科 (修士・博士前期課程)			1 (1)	55 (42) ※55 ※(42)	12 (7) ※12 ※(7)	22 (14) ※22 ※(14)	90 (64) ※89 ※(63)
ビジネス科学研究科 (博士前期・専門職学位課程)			46 (13) ※2 ※(1)	1	2		49 (13) ※2 ※(1)
数理物質科学研究科 (博士前期課程)			3	55 (14) ※55 ※(14)	15 (1) ※2	13 (9) ※12 ※(8)	86 (24) ※69 ※(22)
システム情報工学研究科 (博士前期課程)			4 (3) ※2 ※(1)	147 (47) ※144 ※(45)	6 (5) ※6 ※(5)	17 (7) ※12 ※(3)	174 (62) ※164 ※(54)
生命環境科学研究科 (博士前期課程)			1	73 (41) ※72 ※(41)	7 (4) ※7 ※(4)	12 (8) ※12 ※(8)	93 (53) ※91 ※(53)
人間総合科学研究科 (修士・博士前期課程)			63 (37) ※1 ※(1)	115 (64) ※108 ※(59)	6 (5) ※6 ※(5)	11 (7) ※11 ※(7)	195 (113) ※126 ※(72)
図書館情報メディア研究科 (博士前期課程)				16 (7) ※15 ※(6)	1 (1) ※1 ※(1)	1	18 (8) ※17 ※(7)
小 計			121 (56) ※3 ※(3)	488 (233) ※475 ※(225)	49 (23) ※34 ※(22)	76 (45) ※70 ※(40)	734 (357) ※584 ※(290)
一貫制・博士後期・3年制博士課程			人文社会科学研究科 (一貫制博士課程)	2 (1)	18 (13) ※18 ※(13)	5 (2) ※5 ※(2)	25 (18) ※25 ※(18)
		人文社会科学研究科 (博士後期課程)	1 (1) ※1 ※(1)	4 (3) ※3 ※(2)		2 (2) ※2 ※(2)	7 (6) ※6 ※(5)
		ビジネス科学研究科 (博士後期課程)	1	4 (2)			5 (2) ※0 ※(0)
		数理物質科学研究科 (博士後期・3年制博士課程)		10 (2) ※9 ※(2)		3 (1) ※3 ※(1)	13 (3) ※12 ※(3)
		システム情報工学研究科 (博士後期課程)		7 (2) ※6 ※(2)		4 (1) ※4 ※(1)	11 (3) ※10 ※(3)
		生命環境科学研究科 (博士後期・3年制博士課程)		9 (5) ※7 ※(4)		7 (5) ※6 ※(5)	16 (10) ※13 ※(9)
		生命環境科学研究科 (一貫制博士課程)		2 (1) ※2 ※(1)		1	3 (1) ※3 ※(1)
人間総合科学研究科 (博士後期・3年制博士課程)		1 (1)	26 (13) ※13 ※(7)		5 (4) ※5 ※(4)	32 (18) ※18 ※(11)	
人間総合科学研究科 (医学の課程)		8 (3) ※6 ※(3)		3 (2)	11 (5) ※6 ※(3)		
図書館情報メディア研究科 (博士後期課程)					0 (0) ※0 ※(0)		
小 計	5 (3) ※1 ※(1)	88 (44) ※64 ※(34)	5 (2) ※5 ※(2)	50 (33) ※46 ※(31)	148 (82) ※116 ※(68)		
大 学 院 計		126 (59) ※6 ※(4)	576 (277) ※539 ※(259)	54 (25) ※39 ※(24)	126 (78) ※116 ※(71)	892 (439) ※700 ※(358)	
合 計		258 (123) ※8 ※(5)	621 (296) ※539 ※(259)	346 (201) ※317 ※(193)	126 (78) ※116 ※(71)	1,351 (698) ※980 ※(528)	

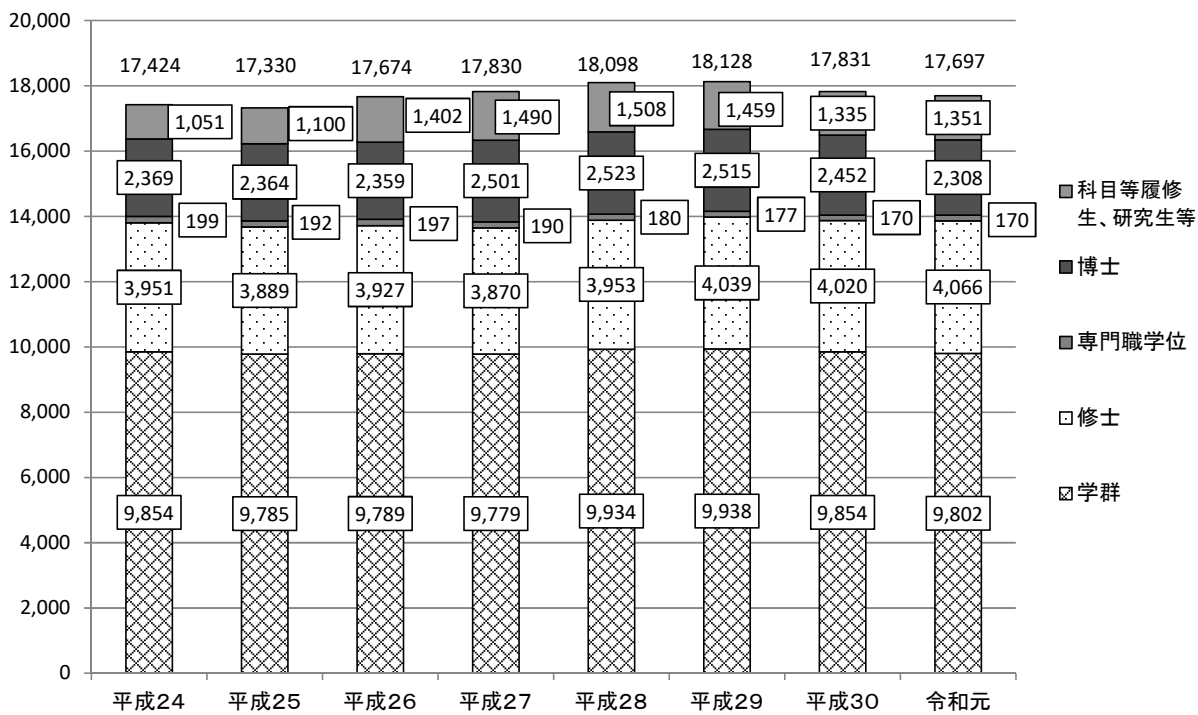
(注) 1 () は女子を、※は外国人留学生(ただし、科目等履修生については、外国人の履修者)を、それぞれの内数で示す。
2 日本語・日本文化研修留学生は、平成28年入学者までを学群の科目等履修生、平成29年度入学者より学群の特別聴講学生として受け入れている。

エ 学生数の内訳及び近年の推移

【令和元年度 学生数の内訳】



【近年の推移】



オ 附属学校の定員・現員

(令和2年3月31日現在)

学 校 名	入学定員	総定員	現 員							計	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
附属小学校	128	768	128	124	124	126	124	124	750		
附属中学校	200	600	204	207	197				608		
附属駒場中学校	120	360	123	121	123				367		
附属高等学校	240	720	242	233	234				709		
附属駒場高等学校	160	480	163	160	162				485		
附属坂戸高等学校	160	480	158	159	155				472		
附属 視覚 特別 支援 学校	幼稚部	5	10	8	4				12		
	小学部	9	54	6	2	7	4	8	4	31	
	中学部	12	36	12	12	12				36	
	高等部	16	56	17	16	18				51	
	高等部 専攻科	鍼灸手技療法科	16	48	6	12	8				26
		音楽科	8	16	2	3					5
		理学療法科	8	24	2	4	6				12
		鍼灸手技療法研修科	8	8	0						0
小 計	82	252							173		
附属 聴覚 特別 支援 学校	幼稚部	10	30	8	7	6				21	
	小学部	12	72	7	10	11	12	12	12	64	
	中学部	12	36	14	13	14				41	
	高等部	24	72	27	26	22				75	
	高等部 専攻科	造形芸術科	8	16	4	3					7
		ビジネス情報科	8	16	8	4					12
		歯科技工科	10	30	4	1	7				12
	小 計	84	272							232	
附属 大塚 特別 支援 学校	幼稚部	5	10	1	8					9	
	小学部	4	24	3	4	4	4	4	4	23	
	中学部	6	18	6	6	6				18	
	高等部	8	24	7	8	8				23	
	小 計	23	76							73	
附属 桐が丘 特別 支援 学校	小学部	8	63	7	10	13	5	8	13	56	
	中学部	10	39	12	9	9				30	
	高等部	12	39	11	8	10				29	
	小 計	30	141							115	
附属 久里浜 特別 支援 学校	幼稚部	6	18	5	5	7				17	
	小学部	6	36	4	6	6	6	6	6	34	
	小 計	12	54							51	
附属学校合計		1,239	4,203							4,035	

(3) 開設授業科目

ア 学群

学群・学類		令和元
人文・文化学群	学群コア	7
	人文学類	627
	比較文化学類	385
	日本語・日本文化学類	154
社会・国際学群	学群共通	
	社会学類	283
	国際総合学類	146
	社会国際学教育プログラム	83
人間学群	学群コア	6
	教育学類	124
	心理学類	65
	障害科学類	100
生命環境学群	学群コア	16
	生物学類	190
	生物資源学類	263
	地球学類	138
	生命環境学際プログラム	164
理工学群	学群共通科目	80
	数学類	119
	物理学類	73
	化学類	67
	応用理工学類	226
	工学システム学類	286
	社会工学類	195
情報学群	学群共通科目	38
	情報科学類	108
	情報メディア創成学類	96
	知識情報・図書館学類	127
医学群	医学類	56
	看護学類	129
	医療科学類	103
	国際医療科学人養成プログラム	39
体育専門学群		325
芸術専門学群		490
グローバル教育院 地球規模課題学位プログラム		4
共通	総合科目	302
	体育	321
	外国語	870
	国語	54
	芸術	13
	情報	130
	日本語・日本事情等 教職科目及び博物館に 関する科目	192
	全学群対象	14
	自由科目（特設）	30
	計	

注：①本表は、開設授業科目一覧で開設された5月現在の開設授業科目数

②総合科目には、フレッシュマンセミナー含む。

③「情報」は平成25年度から「情報処理」より名称変更

④外国語には、短期留学生用の日本語科目を含む。

⑤日本語・日本文化研修留学生・外国人留学生等用の補講科目は以下のとおり（平成27年度から集計記載）

⑥日本語・日本事情等科目は平成28年度から廃止し、拡充の上、外国語（日本語）及び総合科目へ移行。

注⑤の科目	令和元
	173

イ 大学院

大学院共通科目			82
教育研究科	修士課程	基礎科目	1
		教科教育専攻	377
		スクールリーダーシップ開発専攻	39
		教育学(国際教育)修士プログラム	24
人文社会科学研究科	一貫制博士課程	哲学・思想専攻	46
		歴史・人類学専攻	349
		文芸・言語専攻	801
	修士課程	国際地域研究専攻	406
	博士前期課程	現代語・現代文化専攻	49
		国際公共政策専攻	161
		国際日本研究専攻 ^{※1}	281
	博士後期課程	現代語・現代文化専攻	65
		国際公共政策専攻	108
		国際日本研究専攻 ^{※2}	308
数理物質科学研究科	博士前期課程	数理物質科学研究科共通	7
		数学専攻	80
		物理学専攻	266
		化学専攻	350
		電子・物理工学専攻	118
		物性・分子工学専攻	171
	博士後期課程	数学専攻	59
		物理学専攻	138
		化学専攻	179
		ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻	32
		電子・物理工学専攻	12
		物性・分子工学専攻	61
	3年生博士課程	物質・材料工学専攻	20
システム情報工学研究科	博士前期課程	研究科共通科目	2
		社会工学専攻	82
		リスク工学専攻	52
		コンピュータサイエンス専攻	61
		知能機能システム専攻	65
		構造エネルギー工学専攻	39
	博士後期課程	研究科共通科目	12
		社会工学専攻	18
		リスク工学専攻	21
		コンピュータサイエンス専攻	7
		知能機能システム専攻	17
		構造エネルギー工学専攻	2
生命環境科学研究科	博士前期課程	自然保護寄付講座	40
		地球科学専攻	117
		生物科学専攻前期	98
		生物資源科学専攻	531
		環境科学専攻	88
		山岳科学学位プログラム	57
		国際連携持続環境科学専攻	32
	博士後期課程	地球環境科学専攻	39
		地球進化科学専攻	55
		生物科学専攻	67
		国際地縁技術開発科学専攻	85
		生物圏資源科学専攻	78
		生物機能科学専攻	73
		生命産業科学専攻	51
		持続環境学専攻	13
	3年生博士課程	先端農業技術科学専攻	18
	一貫制博士課程	環境バイオマス共生学専攻	40
スポーツ国際開発学共同専攻	修士課程	スポーツ国際開発学共同専攻	38
		フロンティア医科学専攻	93
		国際連携食料健康科学専攻	48
	博士前期課程	教育学専攻	57
		心理専攻	72
		障害科学専攻	105
		感性認知脳科学専攻	39
		体育学専攻	424

人間総合科学研究科(筑波)		芸術専攻	235	
		世界遺産専攻	33	
		看護科学専攻	87	
	博士後期課程		教育基礎学専攻	39
			学校教育学専攻	30
			心理学専攻	23
			障害科学専攻	24
			感性認知脳科学専攻	54
			体育科学専攻	16
			芸術専攻	8
			世界文化遺産学専攻	10
			看護科学専攻	25
		3年生博士課程		ヒューマン・ケア科学専攻
			スポーツ医学専攻	5
			コーチング学専攻	18
			大学体育スポーツ高度化共同専攻	13
	一貫制博士課程		生命システム医学専攻	74
		疾患制御医学専攻	63	
		関東がん専門医療人養成プログラム	42	
人間総合科学研究科(東京)	修士課程	スポーツ健康システム・マネジメント専攻	64	
	博士前期課程	生涯発達専攻	95	
	博士後期課程	生涯発達科学専攻	35	
	3年生博士課程	スポーツウエルネス学位プログラム	8	
図書館情報メディア研究科	博士前期課程	図書館情報メディア専攻	100	
	博士後期課程	図書館情報メディア専攻	81	
ビジネス科学研究科	博士前期課程	経営システム科学専攻	64	
		企業法学専攻	126	
	博士後期課程	企業科学専攻	161	
		専門職学位課程	法曹専攻	86
グローバル教育院	一貫制博士課程	国際経営プロフェッショナル専攻	91	
		ヒューマンバイオロジー学位プログラム	53	
		エンパワーメント情報学プログラム	49	
		ヒューマニクス学位プログラム	79	
	博士前期課程	ライフイノベーション学位プログラム	43	
博士後期課程	ライフイノベーション学位プログラム	18		
合計			9364	

※1日・独・韓3大学共同学位プログラムの37科目含む

※2インターファカルティ教育研究イニシアティブの51科目含む

(4) 卒業・修了者等数

ア 学群卒業生

(令和2年3月31日現在)

学群・学類		卒業 年次 定員	編入学 定員	本年度卒業生(学位「学士」取得者)数		累計	
				学位記	計		
人文・ 学文化	人文学類	120		人文学	107 (60) ※2	107 (60) ※2	925 (496) ※2
	比較文化学類	80		文学	0 (0)		672 (477) ※9
	日本語・日本文化学類	40		比較文化	92 (61) ※2	92 (61) ※2	322 (241) ※4
	小計	240	<0>	文学	42 (33) ※2	42 (33) ※2	1,919 (1,214) ※15
社会・ 国際学群	社会学類	80	<10>	社会学	25 (8)	108 (38) ※8	752 (294) ※29
				法学	26 (9)		
				政治学	27 (8) ※1		
				経済学	24 (8) ※1		
	国際総合学類	80		国際関係学	6 (5) ※6	95 (48) ※4	674 (400) ※39
国際関係学	49 (27) ※1						
国際開発学	43 (19)						
小計	160	<10>	国際社会学	3 (2) ※3	203 (86) ※12	1,426 (694) ※68	
人間学群	教育学類	35		教育学	32 (16)	32 (16) ※0	284 (129) ※1
	心理学類	50		心理学	46 (27) ※1	46 (27) ※1	394 (229) ※5
	障害科学類	35		障害科学	11 (4)	36 (21) ※0	289 (212) ※1
				特別支援教育学	17 (11)		
小計	120	<0>	社会福祉学	8 (6)	114 (64) ※1	967 (570) ※7	
生命 学環境	生物学類	80		理学	96 (48) ※16	96 (48) ※16	690 (308) ※32
	生物資源学類	120	<10>	生物資源学	131 (74) ※18	155 (89) ※22	1,138 (622) ※63
	地球学類	50		農学	24 (15) ※4	55 (17) ※4	438 (138) ※8
	小計	250	<10>	理学	55 (17) ※4		
理工学群	数学類	40		理学	35 (6)	35 (6) ※0	340 (50) ※6
	物理学類	60		理学	64 (6) ※2	64 (6) ※2	495 (50) ※17
	化学類	50		理学	46 (15) ※1	46 (15) ※1	429 (119) ※6
	応用理工学類	120	<10>	工学	137 (20) ※4	137 (20) ※4	1,080 (122) ※46
	工学システム学類	130		工学	130 (15) ※3	130 (15) ※3	1,126 (90) ※42
	社会工学類	120		社会工学	121 (33) ※1	121 (33) ※1	1,008 (200) ※27
	小計	520	<10>	社会工学	533 (95) ※11	533 (95) ※11	4,478 (631) ※144
情報学群	情報科学類	80	<10>	情報科学	29 (0) ※1	89 (7) ※1	727 (46) ※24
	情報メディア創成学類	50	<10>	情報工	60 (7)		497 (126) ※7
	知識情報・図書館学類	100	<10>	情報メディア科学	63 (18)	63 (18)	878 (513) ※4
	小計	230	<30>	図書館情報学	115 (73) ※1	115 (73) ※1	2,102 (685) ※35
医学群	医学類	121	<5>	医学	267 (98) ※2	267 (98) ※2	631 (212)
	看護学類	70	<10>	看護学	120 (35)	120 (35)	621 (594)
	医療科学類	37	<3>	医療科	28 (21)	41 (31) ※2	307 (203) ※10
				国際医療科	13 (10) ※2		
小計	228	<18>	国際医療科	238 (143) ※2	238 (143) ※3	1,559 (1,009) ※10	
体育	専門学群	240		体育学	242 (73) ※1	242 (73) ※1	9,774 (2,548) ※7
芸術	専門学群	100		芸術学	109 (86) ※1	109 (86) ※1	3,992 (2,485) ※22
第一学群	人文学類			人文学	0 (0)	0 (0)	3,965 (1,916) ※15
	社会学類			社会学	0	0 (0)	3,669 (1,197) ※37
				法学	0		
				政治学	0		
自然学類			経済学	0	0 (0)	6,828 (1,374) ※17	
小計			理学	0 (0)	0 (0)	14,462 (4,487) ※69	
第二学群	比較文化学類			文学	0	0 (0)	2,758 (1,693) ※15
	日本語・日本文化学類			比較文化	0	0 (0)	1,454 (1,110) ※18
	人間学類			人間科	0	0 (0)	3,949 (2,242) ※17
	生物学類			生物資源学	0	0 (0)	2,686 (1,099) ※20
	生物資源学類			農学	0	0 (0)	2,474 (1,155) ※16
	農林学類			農学	0	0 (0)	2,057 (514) ※4
小計			農学	0 (0)	0 (0)	15,378 (7,813) ※90	
第三学群	社会工学類			社会工学	0	0 (0)	3,835 (559) ※57
	国際総合学類			国際関係学	0	0 (0)	1,242 (777) ※70
	国際関係学類			国際関係学	0	0 (0)	1,001 (466) ※64
	情報学類			情報科学	0	0 (0)	3,017 (377) ※67
	工学システム学類			情報工	0	0 (0)	1,988 (165) ※47
	工学基礎学類			工学	0	0 (0)	1,215 (76) ※11
	基礎工学類			工学	0	0 (0)	3,765 (500) ※20
	小計			工学	0 (0)	0 (0)	16,063 (2,920) ※336
医学 専門学群	医学専門学群			医学	0	0 (0)	3,259 (906) ※7
	看護学類			看護学	0 (0)	0 (0)	315 (297)
	医療科学類			医療科	0	0 (0)	160 (111)
	小計			医療科	0 (0)	0 (0)	3,734 (1,314) ※7
図書館 情報 専門学群	図書館情報専門学群			図書館情報学	0	0 (0)	696 (436) ※7
	図情大からの移籍学生			図書館情報学	0	0 (0)	3,819 (2,550) ※34
小計			図書館情報学	0 (0)	0 (0)	4,515 (2,986) ※41	
合計	2,088	<78>		2,253 (953) ※78	2,253 (953) ※78	82,635 (30,424) ※954	

- (注) 1. ()は女子を、※は外国人留学生を、それぞれ内数で示し、< >は編入学定員を外数で示す。
 2. 卒業生数には、第2学期推薦入学者等の年度途中卒業生58名を含む。
 3. 累計には、東京教育大学からの移籍学生を含む。
 4. 第二学群農林学類は、平成6年度から生物資源学類へ名称変更。
 5. 第三学群国際総合学類は、平成7年度に国際関係学類を改組。
 6. 第三学群工学基礎学類は、平成10年度に基礎工学類を改組。
 7. 図情大からの移籍学生の累計は、平成15年度をもって閉学した図書館情報大学の卒業生を含む。

イ 大学院修了者等

(ア) 修士課程修了者

(令和2年3月31日現在)

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度修了者数	累 計
地域研究	地域研究	国際学修士		563 (287) ※ 207
		修士(国際学)		8 (6)
		修士(地域研究)		1,002 (615) ※ 335
教 育	障害児教育	教育学修士		290 (125) ※ 18
		修士(教育学)		595 (415) ※ 45
	スクールリーダーシップ開発	修士(教育学)	15 (5)	212 (81) ※ 15
		教育学修士		735 (189) ※ 42
	教科教育	修士(教育学)	52 (15)	2,188 (843) ※ 67
		教育学修士		30 (12)
	カウンセリング	修士(教育学)		2 (2)
		修士(カウンセリング)		395 (257) ※ 2
		修士(リハビリテーション)		403 (228)
		修士(学術)		1
	特別支援教育	修士(特別支援教育学)		101 (71) ※ 9
教育学(国際教育)修士プログラム	修士(教育学)	10 (6) ※ 3	22 (15) ※ 5	
経営・政策科学	経営・政策科学	経済学修士		540 (48) ※ 128
		修士(経済学)		333 (65) ※ 60
		修士(ビジネス)		109 (32) ※ 49
		修士(社会工学)		56 (5) ※ 6
		修士(経営科学)		272 (67) ※ 136
		修士(公共政策)		1
	経営システム科学	経営学修士		25 (2)
		修士(経営学)		256 (47)
	企業法学	修士(経営システム科学)		121 (19)
		修士(法学)		320 (47)
理工学	理工学	工学修士		772 (30) ※ 56
		修士(工学)		2,326 (181) ※ 197
		理学修士		411 (44) ※ 6
		修士(理学)		733 (118) ※ 16
環境科学	環境科学	学術修士		922 (127) ※ 36
		修士(学術)		91 (21) ※ 3
		修士(環境科学)		1,686 (590) ※ 185
バイオシステム	バイオシステム	修士(学術)		851 (299) ※ 90
医科学	医科学	医科学修士		242 (63) ※ 7
		修士(医科学)		681 (352) ※ 32
体 育	体育方法学	体育学修士		251 (60) ※ 14
		修士(体育学)		429 (123) ※ 71
	コーチ学	体育学修士		328 (25) ※ 15
		修士(体育学)		679 (120) ※ 54
	健康教育学	体育学修士		218 (42) ※ 12
		修士(体育学)		429 (182) ※ 33
	スポーツ健康科学	修士(体育学)		235 (81) ※ 6
スポーツ科学	修士(体育学)		379 (97) ※ 27	
スポーツ健康システム・マネジメント	修士(体育学)		58 (11)	
芸 術	美 術	芸術学修士		175 (45) ※ 9
		修士(芸術学)		440 (210) ※ 40
	デザイン	芸術学修士		190 (49) ※ 43
		修士(芸術学)		28 (15) ※ 3
		修士(デザイン学)		481 (171) ※ 159
	世界遺産	修士(世界遺産学)		34 (31) ※ 2
		修士(学術)		20 (14) ※ 2

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度修了者数	累 計
人文社会科学	現代語・現代文化	修士(文学)	2	30 (19) ※ 2
		修士(言語学)	4 (1)	46 (22) ※ 7
		修士(学術)	1 (1)	14 (10) ※ 2
	国際公共政策	修士(国際政治経済学)	6 (3) ※ 1	43 (24) ※ 20
		修士(政治学)	1 (1)	12 (3) ※ 2
		修士(社会学)	7 (4) ※ 3	62 (33) ※ 21
		修士(国際公共政策)	1	48 (20) ※ 35
	国際地域研究	修士(国際学)	11 (8) ※ 11	488 (324) ※ 370
		修士(経済学)	13 (2) ※ 13	50 (15) ※ 49
		修士(地域研究)	13 (7) ※ 7	68 (37) ※ 40
		修士(公共政策)		12 (6) ※ 12
		修士(学術)		14 (11) ※ 11
	国際日本研究	修士(国際日本研究)	4 (2) ※ 4	14 (10) ※ 13
		修士(社会科学)	14 (11) ※ 11	63 (45) ※ 50
		修士(人文科学)	8 (6) ※ 8	53 (40) ※ 49
		修士(日本語教育学)	10 (8) ※ 5	36 (28) ※ 24
		修士(学術)	2 (1) ※ 2	8 (3) ※ 6
法学	修士(法学)		29 (17) ※ 14	
経済学	修士(経済学)		40 (14) ※ 34	
数理物質科学	数学	修士(理学)	25	250 (19) ※ 8
		修士(数学)		86 (7) ※ 2
	物理学	修士(理学)	58 (7) ※ 2	676 (64) ※ 19
		修士(物理学)		43 (6) ※ 4
	化学	修士(理学)	46 (13) ※ 3	647 (161) ※ 20
		修士(理学)		146 (34) ※ 4
	物質創成先端科学	修士(数学)		1
		修士(物理学)		2
		修士(工学)		101 (6) ※ 9
	電子・物理工学	修士(工学)	64 (7) ※ 10	869 (70) ※ 88
物性・分子工学	修士(工学)	66 (15) ※ 14	995 (117) ※ 96	
システム情報工学	社会システム工学	修士(工学)		221 (40) ※ 49
		修士(社会学)		224 (48) ※ 25
		修士(社会経済)		24 (1) ※ 9
	経営・政策科学	修士(ビジネス)		414 (181) ※ 272
		修士(公共政策)		26 (7) ※ 9
	リスク工学	修士(工学)	31 (3) ※ 7	377 (41) ※ 61
		修士(社会工学)	2 (1)	44 (9) ※ 5
	コンピュータサイエンス	修士(工学)	143 (14) ※ 37	1,642 (165) ※ 364
	知能機能システム	修士(工学)	107 (13) ※ 24	1,436 (126) ※ 198
	社会工学	修士(社会工学)	104 (33) ※ 37	448 (182) ※ 206
修士(サービス工学)		26 (6) ※ 5	96 (24) ※ 15	
構造エネルギー工学	修士(工学)	92 (13) ※ 9	1,073 (60) ※ 65	
生命環境科学	生物科学	修士(生物科学)		39 (18) ※ 7
		修士(理学)	30 (14) ※ 5	543 (232) ※ 37
	生物資源科学	修士(学術)	1	66 (30) ※ 21
		修士(生物工学)	21 (10) ※ 6	275 (120) ※ 64
		修士(生物資源工学)	17 (9) ※ 14	174 (79) ※ 93
		修士(農学)	85 (41) ※ 12	1,260 (595) ※ 188
		修士(バイオディプロマシー)	1 (1) ※ 1	6 (4) ※ 3
	環境科学	修士(環境科学)	76 (31) ※ 57	912 (362) ※ 376
		修士(理学)	61 (26) ※ 11	489 (155) ※ 68
	地球科学	修士(地球科学)		7 (1)
修士(地球環境科学)			1	
山岳科学学位プログラム		修士(山岳科学)	9 (2)	14 (3)
国際連携持続環境科学	修士(持続環境科学)	1 (1) ※ 1	1 (1) ※ 1	
ビジネス科学	企業法学	修士(法学)	28 (6)	502 (109) ※ 1
	経営システム科学	修士(経営システム科学)	2 (1)	54 (7)
		修士(経営学)	24 (7)	465 (94) ※ 1

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度修了者数	累 計
人間総合科学	スポーツ健康システム・マネジメント	修士(体育学)	12 (2)	145 (48) ※ 2
		修士(保健学)	10 (8)	122 (88) ※ 3
	スポーツ国際開発学共同	修士(スポーツ国際開発学)	4 (2)	18 (6)
		修士(医科学)	52 (30) ※ 10	648 (315) ※ 67
	フロンティア医科学	修士(公衆衛生学)	12 (10) ※ 8	109 (76) ※ 50
		修士(ヒューマン・ケア科学)	4 (3) ※ 3	40 (28) ※ 10
	教育学	修士(教育学)	14 (8) ※ 3	141 (78) ※ 51
	心理	修士(心理学)	12 (9)	175 (110) ※ 14
	障害科学	修士(障害科学)	15 (9) ※ 4	256 (177) ※ 56
		修士(特別支援教育学)	22 (16) ※ 4	97 (71) ※ 14
	生涯発達	修士(カウンセリング)	23 (17)	252 (176)
		修士(リハビリテーション)	26 (14)	255 (135)
	感性認知脳科学	修士(感性科学)	2 (1)	53 (24) ※ 17
		修士(行動科学)	1	62 (37) ※ 8
		修士(神経科学)	5 (3) ※ 1	40 (20) ※ 6
		修士(学術)	2 (1) ※ 1	3 (1) ※ 1
	体育学	修士(体育学)	112 (33) ※ 3	1,312 (386) ※ 66
		修士(スポーツ・オリンピック学)	22 (11) ※ 17	77 (38) ※ 63
		修士(スポーツ国際開発学)		2 (1)
		修士(コーチング学)	1	12 (4)
	看護科学	修士(看護科学)	10 (10)	171 (156) ※ 9
	芸術	修士(芸術学)	25 (16) ※ 2	367 (265) ※ 32
		修士(デザイン学)	27 (22) ※ 7	390 (213) ※ 105
	世界遺産	修士(世界遺産学)	7 (5) ※ 3	108 (79) ※ 38
		修士(学術)	7 (6) ※ 4	80 (56) ※ 14
	国際連携食料健康科学	修士(食料健康科学)	13 (9) ※ 10	13 (9) ※ 10
図書館情報メディア	図書館情報メディア	修士(図書館情報学)	19 (12) ※ 8	307 (197) ※ 46
		修士(情報学)	28 (4) ※ 4	367 (123) ※ 72
		修士(学術)		22 (12) ※ 4
グローバル教育院	ライフイノベーション 学位プログラム	修士(食料革新学)	6 (4) ※ 3	17 (10) ※ 14
		修士(病態機構学)		6 (4) ※ 6
		修士(医科学)		4 (1) ※ 1
		修士(環境制御学)	2 (1) ※ 2	3 (2) ※ 3
計			1,789 (621) ※ 420	43,176 (13,430) ※ 6,173

(注) 1 ()は女子を、※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され、単に「修士」とすることとされた。

(イ) 博士課程修了者

(令和2年3月31日現在)

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度修了者数	果	計	
人文社会科学	哲学・思想	博士(文学)	2(1)	35(11)※	3	
	歴史・人類学	博士(文学)		41(21)※	8	
	文芸・言語	博士(文学)	1(1)※	1	63(36)※	32
		博士(言語学)	7(4)※	5	94(55)※	46
	現代文化・公共政策	博士(言語学)			15(10)※	6
		博士(文学)			7(3)※	1
		博士(学術)			4(2)	
	経済学	博士(政治学)			14(8)※	5
		博士(経済学)			1	
	社会科学	博士(経済学)			3	※ 2
		博士(社会学)			16(8)※	5
		博士(法学)			2(1)※	1
	国際政治経済学	博士(国際政治経済学)			31(11)※	21
	現代語・現代文化	博士(文学)	1(1)		5(5)	
		博士(言語学)	1		22(8)	
		博士(学術)	1(1)		1(1)	
	法学	博士(法学)			2	※ 1
		博士(国際政治経済学)			3(1)※	1
	国際公共政策	博士(政治学)			6(3)※	3
		博士(社会学)	1		3(1)	
博士(国際公共政策)				5(2)※	3	
博士(学術)				1(1)		
国際日本研究	博士(学術)			23(12)※	16	
	博士(国際日本研究)	1(1)		21(14)※	14	
	博士(社会学)	6(3)※	5	11(6)※	8	
	博士(人文科学)	1	※ 1	4(3)※	4	
	博士(日本語教育学)	1		2(1)※	1	
ビジネス科学	企業科学	博士(システム・マネジメント)	1(1)	44(7)		
		博士(経営学)	5(1)	67(10)		
		博士(法学)		33(6)		
数理物質科学	数学	博士(理学)	2	68(6)※	6	
		博士(数学)		11		
	物理学	博士(理学)	4	※ 1	135(9)※	9
		博士(物理学)			14(1)※	1
	化学	博士(理学)	5		126(15)※	9
		博士(理学)			30(6)※	6
	物質創成先端科学	博士(工学)			9	※ 3
		博士(工学)			162(13)※	32
	電子・物理工学	博士(工学)	8(1)※	6	140(13)※	46
物性・分子工学	博士(工学)	5(1)※	3	50(1)※	10	
ナノサイエンス・ナノテクノロジー	博士(工学)	6	※ 1	21(8)※	3	
物質・材料工学	博士(理学)	2(1)		158(35)※	103	
	博士(工学)	15(1)※	10			
システム情報工学	社会システム工学	博士(工学)		12(2)※	4	
		博士(社会工学)		18(4)※	7	
		博士(社会経済)		10(3)※	5	
	社会システム・マネジメント	博士(マネジメント)			12(5)※	8
		博士(社会経済)	1		10(2)※	1
		博士(社会工学)	1(1)		16(2)※	2
	リスク工学	博士(工学)			42(8)※	16
		博士(社会工学)	2	※ 1	69(8)※	15
	コンピュータサイエンス	博士(工学)	9(1)※	2	6(1)※	2
	知能機能システム	博士(工学)	12(2)※	2	226(18)※	76
	構造エネルギー工学	博士(工学)	13(4)※	4	214(19)※	48
	社会工学(社会工学学位プログラム)	博士(社会工学)	10(1)※	5	129(14)※	35
	計量ファイナンス・マネジメント	博士(ファイナンス)			37(9)※	14
博士(マネジメント)				2(1)※	2	
博士(社会工学)				4(2)※	4	
生命環境科学	地球環境科学	博士(工学)		2		
		博士(理学)	6(3)※	4	106(33)※	44
	地球進化科学	博士(理学)	3		47(13)※	13
		博士(理学)	9(3)※	2	78(24)※	14
	生物科学	博士(生物科学)	15(6)		67(18)※	2
		博士(学術)			10	
構造生物科学	博士(理学)			44(11)※	2	
	博士(生物科学)			2		

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計
生命環境科学	情報生物科学	博士（理学）		83（ 27）※ 5
		博士（生物科学）		5（ 2）※ 1
	生命共存科学	博士（理学）		68（ 18）※ 25
		博士（農学）		11（ 3）※ 1
	環境バイオマス共生学	博士（生命共存科学）		7（ 1）※ 4
		博士（学術）	3 ※ 2	10（ 2）※ 6
	国際地緑技術開発科学	博士（学術）	1	38（ 18）※ 20
		博士（生物資源工学）	4 ※ 4	57（ 22）※ 53
	生物圏資源科学	博士（農学）	3 ※ 1	96（ 34）※ 37
		博士（学術）	2 ※ 2	25（ 12）※ 18
	生物機能科学	博士（農学）	11（ 4）※ 4	159（ 48）※ 71
		博士（生物工学）	6	98（ 25）※ 29
	生命産業科学	博士（農学）	3（ 1）※ 2	96（ 30）※ 13
		博士（学術）		23（ 5）
	持続環境学	博士（農学）	2（ 1）※ 1	40（ 16）※ 16
		博士（生物科学）	5（ 2）	22（ 15）※ 8
先端農業技術科学	博士（生物工学）	3（ 3）※ 3	82（ 32）※ 53	
	博士（学術）		14（ 4）※ 4	
持続環境学	博士（環境学）	19（ 12）※ 11	181（ 72）※ 113	
先端農業技術科学	博士（農学）	1（ 1）	58（ 20）※ 12	
人間総合科学	教育学	博士（教育学）		2
	学校教育学	博士（教育学）	2（ 1）	23（ 12）※ 5
	教育基礎学	博士（教育学）	1	10（ 7）※ 3
	心理学	博士（心理学）	3（ 2）	54（ 20）※ 2
		博士（学術）		2 ※ 1
	障害科学	博士（障害科学）	1	44（ 24）※ 3
	心身障害学	博士（心身障害学）		15（ 10）※ 3
	ヒューマン・ケア科学	博士（ヒューマン・ケア科学）	13（ 12）※ 1	135（ 100）※ 10
		博士（心理学）	4（ 2）	41（ 14）※ 1
		博士（心身障害学）		1（ 1）※ 1
		博士（教育学）	1（ 1）※ 1	11（ 5）※ 2
		博士（体育科学）	1（ 1）	5（ 2）
		博士（医学）		3（ 2）
	生涯発達科学	博士（学術）	1	30（ 24）※ 2
		博士（公衆衛生学）	1（ 1）	1（ 1）
		博士（カウンセリング科学）	1	25（ 14）
	感性認知脳科学	博士（生涯発達科学）	3（ 1）	24（ 13）
		博士（リハビリテーション科学）	2	23（ 7）
	スポーツ医学	博士（感性科学）		27（ 12）※ 19
		博士（神経科学）	3（ 1）※ 1	37（ 13）※ 3
		博士（行動科学）	7（ 6）※ 1	35（ 20）※ 3
		博士（学術）		6（ 4）※ 2
	先端応用医学	博士（スポーツ医学）	8（ 5）※ 3	141（ 50）※ 25
		博士（医学）		2（ 1）※ 1
	分子情報・生体統御医学	博士（学術）		2
	病態制御医学	博士（医学）		105（ 21）※ 11
	機能制御医学	博士（医学）		76（ 36）※ 18
	社会環境医学	博士（医学）		79（ 26）※ 9
	生命システム医学	博士（医学）		53（ 17）※ 4
	疾患制御医学	博士（医学）		69（ 31）※ 11
	看護科学	博士（医学）	23（ 12）※ 15	162（ 67）※ 52
	体育科学	博士（医学）	38（ 14）※ 3	383（ 109）※ 27
		博士（看護科学）	1（ 1）	34（ 28）※ 1
芸術	博士（体育科学）	8 ※ 1	108（ 19）※ 16	
	博士（健康スポーツ科学）	1 ※ 1	5（ 1）※ 1	
世界文化遺産学	博士（学術）	1	18（ 5）※ 4	
	博士（芸術学）		70（ 39）※ 11	
コーチング学	博士（デザイン学）	5（ 2）※ 2	33（ 18）※ 14	
	博士（世界遺産学）	1（ 1）※ 1	17（ 12）※ 6	
芸術学	博士（学術）	2（ 1）	19（ 14）※ 8	
	博士（コーチング学）	5（ 3）	44（ 10）※ 2	
スポーツウエルネス学位プログラム	博士（芸術学）		19（ 9）※ 3	
	博士（デザイン学）		17（ 7）※ 9	
大学体育スポーツ高度化共同	博士（スポーツウエルネス学）	2	4（ 1）	
	博士（体育スポーツ学）	3（ 1）	6（ 3）	

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計	
図書館情報メディア	図書館情報メディア	博士（図書館情報学）	3（ 2）※ 1	36（ 21）※ 7	
		博士（情報学）	3（ 1）※ 1	46（ 14）※ 14	
		博士（学術）	1（ 1）	22（ 14）※ 5	
グローバル教育院	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	博士（人間生物学）	12（ 7）※ 11	40（ 20）※ 25	
	エンパワーメント情報学プログラム	博士（人間情報学）	10 ※ 4	26（ 5）※ 12	
	ライフイノベーション学位プログラム	博士（医科学）	4（ 2）※ 3	5（ 2）※ 3	
		博士（食料革新学）	5（ 4）※ 5	7（ 5）※ 6	
		博士（病態機構学）	2（ 1）	6 1 ※ 1	
		博士（環境制御学）	2（ 2）※ 2	2（ 2）※ 2	
哲学・思想	哲学	文学博士		3	
		博士（文学）		5（ 1）※ 1	
	倫理学	文学博士		8（ 1）※ 2	
		博士（文学）		2	
	宗教学・比較思想学	博士（学術）		3 ※ 2	
		文学博士		2	
歴史・人類学	史学	博士（文学）		3	
		博士（学術）		11（ 2）※ 8	
文芸・言語	文学	文学博士		9（ 4）※ 3	
		博士（文学）		3（ 1）※ 1	
	各国文学	文学博士		6（ 2）※ 6	
		博士（学術）		9（ 2）※ 3	
教育学	教育学	博士（学術）		2（ 1）※ 1	
		文学博士		2（ 1）※ 2	
	教育基礎学	博士（学術）		22（ 13）※ 14	
心身障害学	教育学	博士（学術）		2（ 2）※ 1	
		文学博士		2（ 2）※ 1	
	学校教育学	博士（学術）		11（ 4）※ 2	
心理学	心理学	博士（学術）		6（ 2）※ 5	
		文学博士		8（ 3）※ 7	
	心身障害学	博士（言語学）		47（ 22）※ 35	
社会科学	教育学	教育学博士		3 ※ 2	
		博士（教育学）		6（ 4）※ 5	
	心理学	教育学博士		12（ 8）※ 10	
		博士（心理学）		2 ※ 2	
社会工学	心身障害学	博士（教育学）		17（ 7）※ 14	
		博士（心身障害学）		6（ 1）	
	心身障害学	博士（心身障害学）		44（ 13）※ 5	
		学術博士		4（ 1）※ 2	
社会科学	法学	教育学博士		22（ 10）※ 2	
		博士（教育学）		24（ 11）※ 6	
	経済学	博士（心身障害学）		25（ 15）※ 6	
		学術博士		1（ 1）	
社会工学	法学	博士（学術）		1	
		法学博士		11 ※ 2	
	経済学	博士（法学）		23（ 3）※ 11	
		経済学博士		1 ※ 1	
	社会学	博士（経済学）		7（ 1）※ 4	
		社会学博士		8（ 2）※ 5	
	計量計画学	博士（社会学）		24（ 3）※ 17	
		経済学博士		1	
	社会工学	計量計画学	学術博士		1 ※ 1
			博士（社会経済）		13（ 3）※ 8
博士（経営工学）				1	
経営工学		学術博士		10（ 1）※ 8	
		博士（経営工学）		27（ 6）※ 18	
都市・地域計画学		博士（社会経済）		1 ※ 1	
		学術博士		11（ 1）※ 8	
計量ファイナンス・マネジメント		博士（社会工学）		3 ※ 1	
		博士（都市・地域計画）		30（ 3）※ 20	
都市・環境システム		博士（経営学）		6（ 1）※ 4	
	博士（計量ファイナンス）		1		
	社会経済システム	博士（社会経済）		3（ 1）※ 3	
	博士（社会工学）		9（ 2）		
システム情報数理	博士（都市・環境システム）		2 ※ 2		
	博士（数理工学）		1 ※ 1		

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計
国際政治経済学	国際政治経済学	博士（学術）		2（ 1 ）※ 1
		博士（国際政治経済学）		21（ 4 ）※ 15
経営・政策科学	企業科学	博士（法学）		5（ 1 ）
		博士（経営学）		8（ 3 ）
		博士（システムズ・マネジメント）		10（ 1 ）
生物科学	生物学	理学博士		36（ 2 ）※ 6
		博士（理学）		56（ 16 ）※ 5
		博士（生物科学）		3
	生物物理化学	理学博士		34（ 4 ）※ 2
		博士（理学）		85（ 23 ）※ 9
		博士（学術）		8（ 1 ）
		博士（生物科学）		1
農 学	農林学	農学博士		41（ 4 ）※ 13
		博士（農学）		87（ 9 ）※ 35
	農林工学	農学博士		21 ※ 10
		博士（農学）		99（ 13 ）※ 53
	応用生物化学	農学博士		59（ 6 ）※ 18
		博士（農学）		175（ 41 ）※ 50
		学術博士		7
		博士（学術）		42（ 8 ）※ 5
数 学	数 学	理学博士		19 ※ 1
		博士（理学）		53（ 6 ）※ 6
		博士（数学）		17（ 1 ）※ 3
物理学	物理学	理学博士		119（ 2 ）※ 3
		博士（理学）		122（ 7 ）※ 9
		博士（物理学）		21（ 1 ）※ 1
		学術博士		1
化 学	化 学	理学博士		98（ 6 ）※ 6
		博士（理学）		94（ 9 ）※ 7
地球科学	地理学・水文学	理学博士		46（ 3 ）※ 19
		博士（理学）		50（ 8 ）※ 15
	地質学	理学博士		28（ 3 ）※ 6
		博士（理学）		75（ 15 ）※ 28
工 学	物理工学	工学博士		32 ※ 8
		博士（工学）		102（ 3 ）※ 21
	物質工学	工学博士		21 ※ 3
		博士（工学）		132（ 6 ）※ 31
	構造工学	工学博士		18 ※ 3
	博士（工学）		86（ 6 ）※ 26	
	知能機能工学	博士（工学）		54（ 4 ）※ 9
電子・情報工学	工学博士		21 ※ 8	
博士（工学）		134（ 9 ）※ 42		
医 学	形態系	医学博士		19（ 1 ）
		博士（医学）		103（ 24 ）※ 17
	生化系	医学博士		30（ 4 ）※ 1
		博士（医学）		114（ 42 ）※ 13
	生理系	医学博士		53（ 3 ）※ 2
		博士（医学）		173（ 50 ）※ 24
	生物系	医学博士		19（ 4 ）※ 1
		博士（医学）		67（ 19 ）※ 7
環境生態系	医学博士		34（ 6 ）※ 2	
	博士（医学）		81（ 36 ）※ 7	
体育科学	体育科学	教育学博士		30（ 3 ）※ 12
		博士（体育科学）		88（ 11 ）※ 22
		学術博士		5
		博士（学術）		20（ 6 ）※ 6
芸術学	芸術学	学術博士		4（ 1 ）※ 1
		博士（芸術学）		34（ 25 ）※ 9
		博士（デザイン学）		39（ 11 ）※ 23
計			404（ 151 ）※ 140	9,633（ 2,503 ）※ 2,467

(注) 1 () は女子を, ※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され, 単に「博士」とすることとされた。

(ウ) 博士課程修士学位授与者

(令和2年3月31日現在)

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度授与者数	累 計
人文社会科学	哲学・思想	修士(文学)	4 (2) ※ 1	110 (45) ※ 15
		修士(文学)	12 (5) ※ 5	171 (73) ※ 21
	歴史・人類学	修士(言語学)	11 (4) ※ 5	191 (105) ※ 66
		修士(文学)	5 (3) ※ 2	129 (72) ※ 37
	文芸・言語	修士(学術)	1 (1) ※ 1	8 (7) ※ 3
		修士(学術)		16 (8) ※ 3
		修士(言語学)		26 (16) ※ 7
		修士(政治学)		28 (13) ※ 10
	現代文化公共政策	修士(文学)		17 (11) ※ 1
		修士(経済学)		10 (2) ※ 2
		修士(社会学)		21 (14) ※ 5
	社会科学	修士(法学)		24 (16) ※ 4
		修士(国際政治経済学)		94 (36) ※ 76
		修士(学術)		2 (2)
数理物質科学	数学	修士(理学)		43 (1)
		修士(数学)		4
	物理学	修士(理学)		58 (5)
		修士(物理学)		13 (1)
	化学	修士(理学)		66 (14) ※ 2
		修士(理学)		36 (6)
	物質創成先端科学	修士(工学)		22 (2)
		修士(物理学)		3
	電子・物理工学	修士(工学)		66 (3)
	物性・分子工学	修士(工学)		76 (7) ※ 2
システム情報工学	社会システム工学	修士(社会経済)		7 ※ 1
		修士(社会学)		53 (8) ※ 6
		修士(工学)		27 (2) ※ 6
	リスク工学	修士(工学)		48 (5) ※ 4
		修士(社会工学)		5 (1)
	コンピュータサイエンス	修士(工学)		159 (11) ※ 15
	知能機能システム	修士(工学)		134 (9) ※ 6
	構造エネルギー工学	修士(工学)		101 (5) ※ 1
	計量ファイナンス・マネジメント	修士(ファイナンス)		15 ※ 1
		修士(マネジメント)		3 (1) ※ 3
修士(社会工学)			10	
生命環境科学	地球環境科学	修士(理学)		79 (25) ※ 4
		修士(地球環境科学)		3 (2)
	地球進化科学	修士(理学)		63 (20) ※ 4
		修士(地球科学)		1
	構造生物科学	修士(理学)		36 (13)
		修士(生物科学)		3 (2) ※ 1
	情報生物科学	修士(理学)		98 (37)
		修士(生物科学)		8 (1)
	生命共存科学	修士(理学)		120 (44) ※ 10
		修士(農学)		29 (5) ※ 1
		修士(生命共存科学)		19 (6) ※ 6
	環境バイオマス共生学	修士(学術)		1
		修士(農学)	3 (1) ※ 1	15 (8) ※ 2
		修士(理学)	7 (2) ※ 5	58 (20) ※ 13
		修士(学術)		1
	国際地縁技術開発科学	修士(農学)		54 (24) ※ 6
修士(生物資源工学)			16 (4) ※ 7	
修士(学術)			14 (7) ※ 3	
生物圏資源科学	修士(農学)		89 (31) ※ 15	
	修士(学術)		4 (3) ※ 1	
生物機能科学	修士(農学)		38 (12) ※ 1	
	修士(生物工学)		25 (5) ※ 2	
	修士(学術)		3	
人間総合科学	教育学	修士(教育学)		37 (20) ※ 8
	学校教育学	修士(教育学)		37 (13) ※ 4
	心理学	修士(心理学)		46 (20)
	心身障害学	修士(学術)		1
		修士(心身障害学)		46 (24) ※ 4

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度授与者数	累 計
人間総合科学	ヒューマン・ケア科学	修士(ヒューマン・ケア科学)		43 (40) ※ 10
		修士(教育学)		5 (4)
		修士(心理学)		51 (28) ※ 1
		修士(体育科学)		2 (1)
		修士(心身障害学)		1
	感性認知脳科学	修士(学術)		2 (1)
		修士(感性科学)		18 (7) ※ 8
		修士(行動科学)		28 (18) ※ 2
		修士(神経科学)		26 (11) ※ 1
	スポーツ医学	修士(スポーツ医学)		54 (15) ※ 16
	体育科学	修士(学術)		6 (3)
		修士(体育科学)		62 (11) ※ 9
	芸術学	修士(デザイン学)		17 (8) ※ 5
		修士(学術)		1
修士(芸術学)			36 (26) ※ 5	
グローバル教育院	エンパワーメント情報学プログラム	修士(人間情報学)	10 (1) ※ 2	10 (1) ※ 2
哲学・思想	哲 学	文学修士		19 (1)
		修士(文学)		18 (3) ※ 1
	哲学・思想	修士(文学)		1
		文学修士		20 (3) ※ 6
	倫理学	修士(文学)		18 (4) ※ 2
		修士(学術)		5 ※ 4
	宗教学・比較思想学	文学修士		30 (9) ※ 7
		修士(文学)		20 (3) ※ 1
修士(学術)			3 (1)	
歴史・人類学	史 学	文学修士		88 (14) ※ 12
		修士(文学)		71 (23) ※ 2
		修士(学術)		10 (3) ※ 2
	文化人類学	文学修士		65 (16) ※ 10
		修士(文学)		48 (10) ※ 3
		修士(学術)		5 (3) ※ 2
文芸・言語	文 学	文学修士		20 (7) ※ 2
		修士(文学)		23 (11) ※ 7
		修士(学術)		1 (1) ※ 1
	各国文学	文学修士		107 (39) ※ 12
		修士(文学)		65 (22) ※ 4
		修士(学術)		10 (4) ※ 9
	言語学	文学修士		118 (24) ※ 16
		修士(言語学)		117 (56) ※ 36
		修士(学術)		5 (4) ※ 1
教育学	教育学	教育学修士		65 (4) ※ 4
	教育基礎学	教育学修士		29 (10) ※ 4
		修士(教育学)		64 (21) ※ 5
	学校教育学	教育学修士		37 (6) ※ 5
		修士(教育学)		62 (18) ※ 11
心理学	心理学	教育学修士		94 (19) ※ 6
		修士(心理学)		111 (48) ※ 9
心身障害学	心身障害学	教育学修士		71 (16) ※ 4
		修士(教育学)		23 (12) ※ 4
		修士(心身障害学)		48 (22) ※ 4
社会科学	法 学	法学修士		17 (5) ※ 2
		修士(法学)		35 (9) ※ 14
	経済学	経済学修士		12 ※ 2
		修士(経済学)		21 (7) ※ 7
	社会学	社会学修士		23 (6) ※ 8
		修士(社会学)		37 (12) ※ 15
計量計画学	経済学修士		2 (1)	
社会工学	計量計画学	学術修士		11 ※ 1
		修士(社会経済)		19 (2) ※ 7
	経営工学	学術修士		19 ※ 5
		修士(経営工学)		38 (8) ※ 15
	都市・地域計画学	学術修士		8 (1) ※ 1
		修士(都市・地域計画)		32 (5) ※ 12
社会経済システム	修士(社会経済)		7 ※ 1	

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度授与者数	累 計
社会工学	システム情報数理	修士(社会工学)		1
		修士(数理工学)		12 (1) ※ 3
	都市・環境システム	修士(社会工学)		12 (6)
		修士(都市・環境システム)		7 (1) ※ 1
	計量ファイナンス・マネジメント	修士(社会工学)		3
		修士(計量ファイナンス)		10 (2) ※ 2
		修士(経営学)		5 (2) ※ 3
国際政治経済学	国際政治経済学	修士(国際政治経済学)		52 (18) ※ 34
		修士(学術)		57 (24) ※ 33
生物科学	生物学	理学修士		52 (7) ※ 4
		修士(理学)		78 (27) ※ 1
		修士(生物科学)		6 (1)
	生物物理化学	理学修士		74 (16) ※ 2
		修士(理学)		113 (44) ※ 2
		修士(生物科学)		1 (1)
農 学	農林学	農学修士		64 (2) ※ 14
		修士(農学)		122 (29) ※ 18
	農林工学	農学修士		47 (1) ※ 8
		修士(農学)		80 (15) ※ 13
	応用生物化学	農学修士		112 (13) ※ 10
		修士(農学)		177 (51) ※ 12
数 学	数 学	理学修士		90 (2) ※ 2
		修士(理学)		76 (11) ※ 2
		修士(数学)		46 (5)
物理学	物理学	理学修士		178 (6) ※ 1
		修士(理学)		156 (9)
		修士(物理学)		54 (5)
化 学	化 学	理学修士		111 (13) ※ 4
		修士(理学)		117 (19) ※ 1
		修士(化学)		3 (1)
地球科学	地理学・水文学	理学修士		83 (5) ※ 15
		修士(理学)		79 (11) ※ 2
		修士(地球科学)		1
	地質学	理学修士		42 (6) ※ 6
		修士(理学)		74 (14) ※ 19
		修士(地球科学)		1
工 学	物理工学	工学修士		53
		修士(工学)		155 (4) ※ 1
	物質工学	工学修士		58 (4)
		修士(工学)		172 (10) ※ 2
	構造工学	工学修士		63 (1)
		修士(工学)		171 (7) ※ 3
知能機能工学	修士(工学)		101 (4) ※ 1	
電子・情報工学	工学修士		60 (1) ※ 2	
	修士(工学)		203 (11) ※ 9	
体育科学	体育科学	教育学修士		96 (11) ※ 23
		修士(体育科学)		118 (24) ※ 27
芸術学	芸術学	学術修士		34 (15) ※ 2
		修士(芸術学)		35 (22) ※ 5
		修士(デザイン学)		23 (9) ※ 9
計			53 (19) ※ 22	8,412 (2,005) ※ 1,030

(注) 1 () は女子を, ※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され, 単に「修士」とすることとされた。

(エ) 論文博士学位授与者

(令和2年3月31日現在)

	学位(専攻分野の名称)	本年度授与者数	累 計
平成3年6月までの 学位授与数	文学博士		72 (4) ※ 11
	教育学博士		86 (13) ※ 12
	法学博士		1
	経済学博士		2
	社会学博士		2 (1) ※ 1
	理学博士		290 (19) ※ 11
	農学博士		67 (1) ※ 6
	工学博士		33 (1)
	学術博士		22 (1) ※ 3
	医学博士		122 (13) ※ 1
	平成3年7月以降の 学位授与数	博士(文学)	4 (1)
博士(言語学)		2 (1) ※ 1	75 (17) ※ 12
博士(国際日本研究)			3 (1) ※ 3
博士(教育学)		4 (2)	117 (21) ※ 9
博士(心理学)		1 (1)	81 (30) ※ 3
博士(心身障害学)			27 (9) ※ 1
博士(法学)		1	25 (3) ※ 4
博士(政治学)			3 (2) ※ 1
博士(経済学)			11 (1)
博士(社会学)			23 (9) ※ 2
博士(経営学)			8 (2)
博士(社会工学)			3 ※ 1
博士(社会経済)			10 ※ 1
博士(経営工学)			6 (1) ※ 1
博士(数理工学)			1 ※ 1
博士(都市・地域計画)			4 (1) ※ 2
博士(ファイナンス)			1
博士(マネジメント)			1
博士(システムズ・マネジメント)			5 (1)
博士(国際政治経済学)			15 (10) ※ 7
博士(理学)			282 (45) ※ 20
博士(生物科学)		1 (1)	7 (4) ※ 1
博士(数学)			8 (2)
博士(物理学)			1
博士(化学)			2 (1)
博士(地球科学)			1 ※ 1
博士(農学)		3 (2) ※ 2	231 (34) ※ 30
博士(生物資源工学)			5 ※ 1
博士(生物工学)		1	20 (6) ※ 4
博士(工学)		1 ※ 1	313 (24) ※ 38
博士(環境学)			1 ※ 1
博士(生命共存科学)			1
博士(感性科学)			10 (3) ※ 1
博士(障害科学)		4 (4)	10 (5)
博士(行動科学)		1	9 (3)
博士(神経科学)			5 (1)
博士(リハビリテーション科学)			2 (1)
博士(スポーツ医学)		1	13 (3)
博士(医学)		6 (1)	404 (72) ※ 7
博士(看護科学)			1
博士(体育科学)		3	108 (9) ※ 7
博士(ヒューマン・ケア科学)			5 (5)
博士(芸術学)			34 (7) ※ 1
博士(世界遺産学)			1
博士(コーチング学)		1 (1)	10 (1)
博士(デザイン学)			19 (7) ※ 2
博士(学術)	1 (1)	82 (25) ※ 13	
博士(図書館情報学)	1 (1)	9 (4) ※ 2	
博士(情報学)	1 (1)	10 (2) ※ 1	
計	37 (17) ※ 4	2,958 (471) ※ 243	

(注) 1 () は女子を, ※は外国人をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され, 単に「博士」とすることとされた。

(オ) 専門職課程修了者

(令和2年3月31日現在)

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度修了者数	累 計
ビジネス科学	国際経営プロフェッショナル	国際経営修士(専門職)	30 (12) ※ 3	423 (154) ※ 53
	法曹(法科大学院)	法務博士(専門職)	20 (3)	358 (75)
計			50 (15) ※ 3	781 (229) ※ 53

(注) 1 ()は女子を, ※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

(5) 入学者選抜

ア 学群

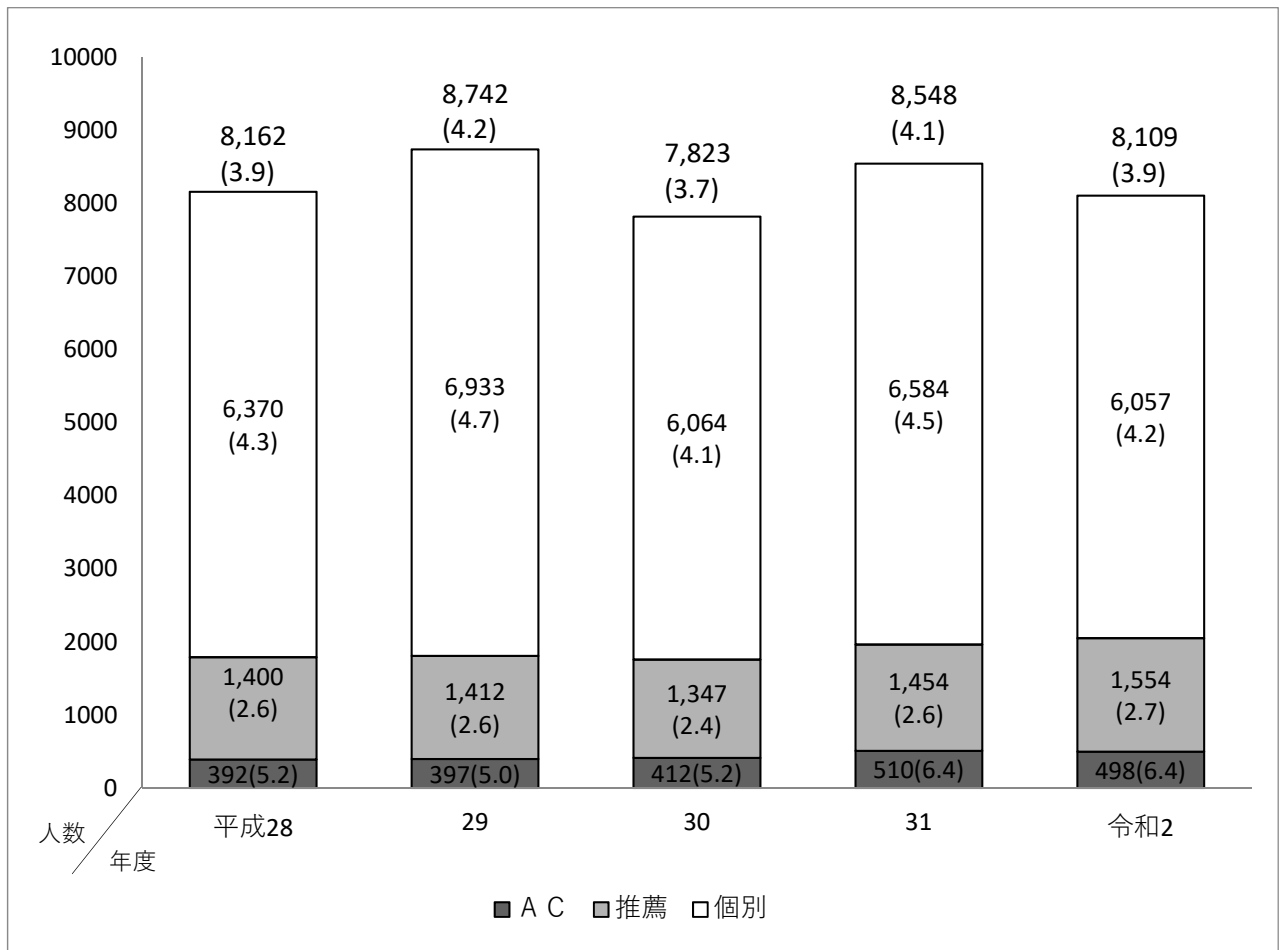
(ア) 令和2年度入学者選抜 (4月入学)

(令和2年4月1日現在)

学群・学類	入学定員	アドミッションセンター入試 (国際科学オリンピック特別入試、 国際バカロレア特別入試、 海外教育プログラム特別入試、 研究型人材入試を含む)				推薦入試 (帰国生徒特別入試(体育、芸術)を含む)				個別学力検査等 (前期日程・後期日程)※				私費外国人留学生入試			合格者 数計	入学者数計		
		募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数				
人文・文化学群	人文学類	120	5	(19)	(2)	(1)	28	57	29	28	87	461	98	89	10	1	1	(60)	(57)	#(0)
	比較文化学類	80	5	(25)	(2)	(2)	20	46	21	21	55	147	42	37	4	2	2	(60)	(55)	
	日本語・ 日本文学学類	40	3	(7)	(1)	(1)	10	27	10	10	27	59	20	19	0	0	0	(30)	(29)	#(1)
	小計	240	13	(51)	(5)	(4)	58	130	60	59	169	813	195	174	21	5	5	(150)	(141)	#(1)
社会・国際学群	社会学類	80		(0)	(0)	(0)	16	50	16	16	64	108	22	20				(34)	(32)	
	国際総合学類	80		(2)	(0)	(0)	20	61	21	20	60	78	28	25				(47)	(43)	
	小計	160		(2)	(0)	(0)	36	111	37	36	124	186	50	45				(81)	(75)	
人間学群	教育学類	35		(0)	(0)	(0)	7	42	7	7	28	98	31	29	5	0	0	(18)	(18)	#(1)
	心理学類	50		(0)	(0)	(0)	12	45	12	12	38	168	41	40	16	0	0	(35)	(35)	#(0)
	障害科学類	35		(0)	(0)	(0)	15	29	15	15	20	91	22	20	1	0	0	(23)	(23)	#(1)
	小計	120		(0)	(0)	(0)	34	116	34	34	86	357	94	89	22	0	0	(76)	(76)	#(2)
生命環境学群	生物学類	80	8	(14)	(1)	(1)	20	45	23	23	52	146	24	21	(11)	(0)	(0)	(38)	(35)	
	生物資源学類	120	4	(10)	(2)	(2)	33	53	33	33	83	148	46	44	3	1	0	(73)	(70)	
	地球学類	50	2	(7)	(0)	(0)	10	24	10	10	38	45	13	13	(0)	(0)	(0)	(16)	(16)	
	小計	250	14	(31)	(3)	(3)	63	122	66	66	173	339	83	78	(14)	(1)	0	(127)	(121)	
理工学群	数学類	40	2	(2)	(0)	(0)	10	19	10	10	28	11	5	5	(1)	(0)	(0)	(6)	(6)	
	物理学類	60		(0)	(0)	(0)	15	33	16	16	45	26	6	6	(2)	(0)	(0)	(9)	(9)	
	化学類	50	2	(2)	(0)	(0)	13	31	13	13	35	30	7	7	(6)	(0)	(0)	(12)	(12)	
	応用理工学類	120		(1)	(0)	(0)	16	36	16	16	104	49	11	8	(0)	(0)	(0)	(14)	(11)	#(0)
	工学システム 学類	130	8	(8)	(1)	(1)	20	96	20	20	102	43	8	8	(3)	(1)	(0)	(10)	(9)	#(0)
	社会工学類	120		(1)	(0)	(0)	22	53	22	22	98	82	25	24	(4)	(1)	(1)	(33)	(32)	
	小計	520	12	(14)	(1)	(1)	96	268	97	97	412	241	62	58	(16)	(2)	(1)	(84)	(79)	#(0)
情報学群	情報科学類	80	8	(2)	(0)	(0)	10	43	10	10	62	27	5	4	(6)	(0)	(0)	(7)	(6)	#(1)
	情報メディア 創成学類	50	4	(9)	(0)	(0)	8	31	9	9	38	46	8	8	(1)	(1)	(1)	(12)	(12)	
	知識情報・ 図書館学類	100	5	(6)	(2)	(1)	40	65	40	40	55	68	17	16	(4)	(2)	(1)	(47)	(44)	
	小計	230	17	(17)	(2)	(1)	58	139	59	59	155	141	30	28	(11)	(3)	(2)	(66)	(62)	#(1)
医学群	医学類	134	5	(16)	(2)	(0)	61	278	65	65	68	74	28	25				(49)	(44)	
	看護学類	70		(0)	(0)	(0)	25	70	25	25	45	92	47	46	(0)	(0)	(0)	(71)	(70)	
	医療科学類	37		(0)	(0)	(0)	12	19	12	12	25	36	18	17	(1)	(0)	(0)	(27)	(26)	
	小計	241	5	(16)	(2)	(0)	98	367	102	102	138	202	93	88	(1)	(0)	(0)	(147)	(140)	
体育専門学群	240	12	(47)	(8)	(8)	88	141	92	92	140	110	33	32	(0)	(0)	(0)	(77)	(76)		
芸術専門学群	100	5	(38)	(3)	(2)	35	160	36	36	60	282	56	54	(4)	(0)	(0)	(84)	(81)		
合計	2,101	78	(216)	(24)	(19)	566	1,554	583	581	1,457	2,053	553	522	(66)	(9)	(6)	(892)	(851)	#(4)	
前年度合計	2,102	80	(211)	(22)	(21)	563	1,454	574	568	1,459	2,181	534	504	(87)	(9)	(6)	(880)	(843)	#(1)	

(注)1. ()内は、女子を内数で、入学者数計欄中#は国費、外国政府派遣または日韓共同理工系留学生を外数で示す。
 2. アドミッションセンター入試とは、書類選考と面接・口述試験によって、多面的・総合的に評価する自己推薦型の入試である。
 3. ※には欠員補充第2次募集(生物学類)による志願者数、合格者数、入学者数を含む。

[志願者数の推移]



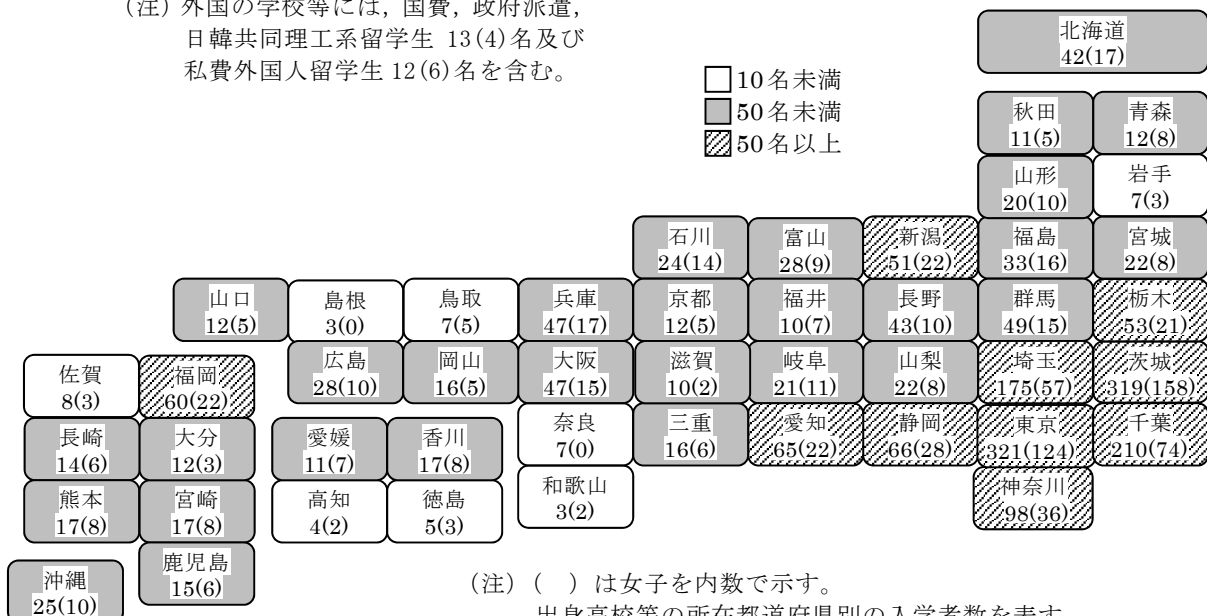
(注) () は、志願倍率を示す。
私費外国人留学生入試を除く。

[令和2年度都道府県等別入学者数]

令和2年4月1日現在

高卒認定試験	6(1)
外国の学校等	31(12)
文部科学大臣の指定した者	1(1)

(注) 外国の学校等には、国費、政府派遣、日韓共同理工系留学生 13(4)名及び私費外国人留学生 12(6)名を含む。



(注) () は女子を内数で示す。
出身高校等の所在都道府県別の入学者数を表す。

(イ) 令和元年度入学者選抜（秋学期入学）

(令和元年10月1日現在)

学群・学類	帰国生徒特別入試(10月入学)			学群英語コース入試			Japan-Expert(学士)プログラム特別入試		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
人文・文化学群									
人文学類									
比較文化学類									
日本語・日本文化学類							(1) 8	(1) 2	(1) 2
小計							(1) 8	(1) 2	(1) 2
社会・国際学群									
社会学類	(2) 5	(0) 0	(0) 0	(34) 52	(2) 5	(2) 3			
国際総合学類	(5) 7	(1) 1	(0) 0	(23) 42	(4) 4	(3) 3			
小計	(7) 12	(1) 1	(0) 0	(57) 94	(6) 9	(5) 6			
人間学群									
教育学類									
心理学類									
障害科学類									
小計									
生命環境学群									
生物学類	(0) 0			(24) 41	(6) 6	(4) 4			
生物資源学類	(0) 0			(7) 18	(6) 10	(3) 6	(5) 11	(1) 3	(1) 3
地球学類	(0) 0			(4) 9	(1) 3	(1) 2			
小計	(0) 0			(35) 68	(13) 19	(8) 12	(5) 11	(1) 3	(1) 3
生命環境学群									
生物学類【3年次編入】				(1) 2	(0) 1	(0) 1			
生物資源学類【3年次編入】				(0) 2	(0) 2	(0) 2			
地球学類【3年次編入】				(0) 0	(0) 0	(0) 0			
小計				(1) 4	(0) 3	(0) 3			
理工学群									
数学類									
物理学類									
化学類									
応用理工学類									
工学システム学類									
社会工学類									
小計									
情報学群									
情報科学類									
情報メディア創成学類									
知識情報・図書館学類									
小計									
医学群									
医学類									
看護学類							(4) 8	(2) 3	(2) 3
医療科学類【3年次編入】				(0) 0					
小計				(0) 0			(4) 8	(2) 3	(2) 3
体育専門学群									
芸術専門学群							(5) 6	(1) 1	(1) 1
合計	(7) 12	(1) 1	(0) 0	(93) 166	(19) 31	(13) 21	(15) 33	(5) 9	(5) 9
前年度合計	(8) 17	(3) 4	(2) 2	(82) 153	(17) 28	(10) 20	(25) 49	(5) 8	(5) 8

(注) 1. ()内は、女子を内数で示す。

2. 帰国生徒特別入試とは、海外帰国生徒(海外で2年以上継続在学)の学校推薦入試選抜を行うものである。(旧第2学期推薦入試)

3. 学群英語コース入試とは、英語で授業を受け学位が取得できるコースの入試である。

(入学時期は令和元年9月。生命環境学群及び医学群医療科学類では3年次編入を実施)

地球規模課題学位プログラム(学士)入試			
	志願者数	合格者数	入学者数
合計	(23) 46	(9) 10	(8) 9
前年度合計	(11) 21	(6) 9	(5) 7

総合理工学位プログラム(学士)入試			
	志願者数	合格者数	入学者数
合計	(5) 31	(3) 7	(0) 3

(ウ) 編入学

(令和2年4月1日現在)

学群・学類	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
人文・文化学群	人文学類			
	比較文化学類			
	日本語・日本文化学類			
	小計			
社会・国際学群	社会学類	10 (38)	(8)	(7)
	国際総合学類		13	10
	小計	10 (38)	(8)	(7)
人間学群	教育学類			
	心理学類			
	障害科学類			
	小計			
生命環境学群	生物学類	若干名 (4)	(1)	(1)
	生物資源学類	10 (18)	4	4
	地球学類	若干名 (19)	5	5
	小計	10 (32)	10	10
理工学群	数学類	若干名 (3)	(1)	(1)
	物理学類	若干名 (6)	1	1
	化学類	若干名 (2)	(0)	(0)
	応用理工学類	10 (6)	1	1
	工学システム学類	若干名 (4)	(0)	(0)
	社会工学類	若干名 (68)	10	6
	小計	10 (20)	(3)	(3)
			175	45
情報学群	情報科学類 (単願)		(1)	(0)
	情報科学類 (併願 第1志望)		36	5
	情報科学類 (併願 第2志望)	10	57	12
	情報メディア創成学類 (単願)		(4)	(0)
	情報メディア創成学類 (併願 第1志望)		23	4
	情報メディア創成学類 (併願 第2志望)	10	61	9
	知識情報・図書館学類	10	23	10
	小計	30	31	10
医学群	医学類	5 (41)	(2)	(1)
	看護学類	10 (118)	7	5
	医療科学類	3 (22)	(8)	(8)
	小計	18 (69)	(10)	(9)
体育専門学群				
芸術専門学群				
合計	78	(184)	(38)	(34)
		704	137	102
前年度合計	78	(185)	(38)	(35)
		702	120	97

(注) 1. ()内は、女子を内数で示す。

2. 編入学とは、大学等に2年以上在学した者で、2年又は3年次に入学するものである。

イ 大学院
(ア) 令和2年大学院入学選抜

入学試験実施結果(研究科による募集)

課程	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	受験者数	外国人留学生内数	合格者数	外国人留学生内数	女子内数	辞退者数	入学者数	外国人留学生内数	女子内数	外国人留学生内数
修士課程	196 [0]	272 [0]	127	45	254 [0]	182 [0]	85	22	32 [0]	150 [0]	69	19	19
博士前期課程	1,329 [38]	2,215 [51]	754	403	2,126 [50]	1,451 [33]	430	182	126 [11]	1,325 [22]	402	168	168
専門職学位課程	66	201	58	15	191	81	22	4	10	71	19	2	2
一貫制博士課程	37 [1]	73 [0]	30	26	71 [0]	52 [0]	19	12	3 [0]	49 [0]	17	11	11
一貫制博士課程(3年次編入)		2 [0]	2	2	2 [0]	2 [0]	1	2	0 [0]	2 [0]	1	2	2
博士後期課程	355 [30]	237 [9]	76	56	234 [9]	188 [9]	61	52	8 [0]	180 [9]	56	49	49
3年制博士課程	42 [11]	66 [24]	27	17	65 [24]	46 [12]	21	10	2 [1]	44 [11]	21	8	8
医学を履修する博士課程	62 [0]	51 [0]	15	4	50 [0]	49 [0]	15	4	2 [0]	47 [0]	15	4	4
合計	2,087 [80]	3,117 [84]	1,088	568	2,993 [83]	2,051 [54]	654	288	183 [12]	1,868 [42]	600	263	263

- 注) 1. ()内は、連携大学院方式を内数で示す。
2. 特別プログラム等の対象者は除く。
3. 研究科で募集する入学試験の入学者は、全て対応する学術院の入学者となる。

入学試験実施結果(学術院による募集)

課程	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	受験者数	外国人留学生内数	合格者数	外国人留学生内数	女子内数	辞退者数	入学者数	外国人留学生内数	女子内数	外国人留学生内数
修士課程	8 [0]	38 [0]	23	16	38 [0]	24 [0]	13	8	1 [0]	23 [0]	12	8	8
博士前期課程	187 [0]	532 [18]	233	355	483 [15]	324 [9]	141	206	28 [1]	296 [8]	124	191	191
一貫制博士課程	10 [0]	17 [0]	7	12	17 [0]	15 [0]	7	11	1 [0]	14 [0]	7	10	10
一貫制博士課程(3年次編入)		1 [0]	0	0	1 [0]	1 [0]	0	0	1 [0]	0 [0]	0	0	0
博士後期課程	293 [5]	287 [17]	109	81	278 [17]	233 [11]	84	61	8 [0]	225 [11]	81	59	59
3年制博士課程	6 [0]	18 [2]	9	0	18 [2]	15 [2]	9	0	0 [0]	15 [2]	9	0	0
医学を履修する博士課程	31 [0]	30 [0]	9	2	30 [0]	29 [0]	9	2	2 [0]	27 [0]	8	1	1
合計	535 [5]	923 [37]	390	466	865 [34]	641 [22]	263	288	41 [1]	600 [21]	241	269	269

- 注) 1. ()内は、連携大学院方式を内数で示す。
2. 特別プログラム等の対象者は除く。

入学試験実施結果(研究科による募集)

研究科	課程	専攻	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	
人文社会科学	一貫制	哲学・思想	3	6	1	1	6	1	1	4	0	0	0	4	0	0	
		歴史・人類学	6	23	11	13	21	9	11	10	5	4	0	0	10	5	4
		文芸・言語	7	9	3	4	9	3	4	7	1	3	1	1	6	1	3
		小計	16	38	15	18	36	13	16	21	6	7	1	20	6	7	
	修士	国際地域研究	14	11	5	8	10	5	7	6	3	4	0	6	3	4	
		小計	14	11	5	8	10	5	7	6	3	4	0	6	3	4	
	博士前期	現代語・現代文化	7	15	10	5	14	9	5	10	7	2	2	2	8	6	1
		国際公共政策	15	37	24	23	36	23	22	16	10	7	2	2	14	9	6
		国際日本研究	15	58	46	56	55	44	53	20	17	18	0	20	17	18	
		小計	37	110	80	84	105	76	80	46	34	27	4	42	32	25	
	博士後期	国際日本研究	14	8	7	3	8	7	3	8	7	3	1	7	7	6	2
		小計	14	8	7	3	8	7	3	8	7	3	1	7	7	6	2
		計	81	167	107	113	159	101	106	81	50	41	6	75	47	38	

注) 1. 修士課程国際地域研究専攻には、特別プログラムの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を除く。

2. 研究科で募集する入学試験の入学者は、全て対応する学術院の入学者となる。

研究科	課程	専攻	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
ビジネス科学	博士前期	※経営システム科学	30	100	27	3	92	25	3	36	9	1	5	31	9	1
		※企業法学	30	30	5	0	30	5	0	22	4	0	4	4	18	3
		小計	60	130	32	3	122	30	3	58	13	1	9	49	12	1
	博士後期	※企業科学	23	31	6	0	31	6	0	14	4	0	0	14	4	0
		小計	23	31	6	0	31	6	0	14	4	0	0	14	4	0
	専門職学位	※法曹	36	122	27	0	114	26	0	46	11	0	4	42	10	0
		※国際経営プロフェッショナル	30	79	31	15	77	31	14	35	11	4	6	29	9	2
		小計	66	201	58	15	191	57	14	81	22	4	10	71	19	2
		計	149	362	96	18	344	93	17	153	39	5	19	134	35	3

注) 1. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。

2. 研究科で募集する入学試験の入学者は、全て対応する学術院の入学者となる。

研究科	課程	専攻	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	受検者数	女子内数	外国人留学生内数	合格者数	女子内数	外国人留学生内数	辞退者数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数		
数理解物質科学	博士前期	数学	26	37	3	1	37	3	1	30	1	0	6	24	1	0	
		社会人特別選抜	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		物理学	48 [4]	96	12	8	90	12	7	68	9	3	13	55	7	3	3
		社会人特別選抜	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		化学	46 [3]	55 [2]	16	5	53 [2]	15	4	46 [2]	11	2	3 [1]	43 [1]	10	2	0
		社会人特別選抜	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電子・物理工学	50 [1]	87	13	13	81	12	11	63	9	4	6	57	8	4	4
		社会人特別選抜	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		物性・分子工学	57 [1]	91 [2]	20	15	86 [2]	18	14	64	10	6	2	62	10	6	6
		社会人特別選抜	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	小計	236 [9]	367 [4]	64	42	348 [4]	60	37	272 [2]	40	15	30 [1]	242 [1]	36	15	15	
	博士後期	数学	10	4	0	0	4	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0
		社会人特別選抜	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		物理学	10 [1]	5	1	1	5	1	1	3	0	0	0	3	0	0	0
		社会人特別選抜	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		化学	16 [2]	4 [1]	2	0	4 [1]	2	0	4 [1]	2	0	1	3 [1]	2	0	0
		社会人特別選抜	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ナノサイエンス・ナノテクノロジー	25 [3]	4	0	0	4	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0
		社会人特別選抜	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電子・物理工学	14 [1]	4	0	2	4	0	2	4	0	2	0	4	0	2	0
社会人特別選抜		10 [1]	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
物性・分子工学	10	10	1	6	10	1	6	10	1	6	1	9	1	6	1		
社会人特別選抜	若干名	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0		
小計	85 [8]	33 [1]	5	9	33 [1]	5	9	30 [1]	4	8	2 [0]	28 [1]	4	8	8		
3年制博士	物質・材料工学	5 [5]	22 [22]	6	15	22 [22]	6	15	10 [10]	2	8	1 [1]	9 [9]	2	7	7	
	社会人特別選抜	若干名	1 [1]	0	0	1 [1]	0	0	1 [1]	0	0	0 [0]	1 [1]	0	0	0	
	小計	5 [5]	23 [23]	6	15	23 [23]	6	15	11 [11]	2	8	1 [1]	10 [10]	2	7	7	
計	326 [22]	423 [28]	75	66	404 [28]	71	61	313 [14]	46	31	33 [2]	280 [12]	42	30	30		

注) 1. []内は、連携大学院方式を内数で示す。
2. 研究科で募集する入学試験の入学者は、全て対応する学術院の入学者となる。

研究科	課程	専攻	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	受験者数	女子内数	外国人留学生内数	合格者数	女子内数	外国人留学生内数	辞退者数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数	
システム情報工学	博士前期	社会工学	85 [3]	130 [1]	39	35	128 [1]	39	102 [1]	27	21	13 [0]	89 [1]	24	19	
		社会人特別選抜	3 [3]	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0
		リスケ工学	27	34	8	3	34	8	3	32	8	3	2	30	8	3
		社会人特別選抜	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
		コンピュータサイエンス	106 [2]	159 [3]	23	28	154 [3]	23	27	117 [1]	15	10	10 [1]	107 [0]	13	8
		社会人特別選抜	1	6	2	2	6	2	2	5	2	2	2	3	1	2
		知能機能システム	104 [4]	148 [11]	16	16	143 [11]	15	15	120 [8]	12	12	14 [1]	106 [7]	11	7
		社会人特別選抜	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0
		構造エネルギー工学	65 [2]	111 [21]	12	14	108 [21]	12	14	93 [14]	11	10	18 [6]	75 [8]	9	10
		社会人特別選抜	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	394 [11]	592 [36]	100	99	577 [36]	99	97	473 [24]	75	59	59 [8]	414 [16]	66	50	
	博士後期	社会工学	14 [3]	10 [1]	1	6	9 [1]	1	5	8 [1]	1	5	0 [0]	8 [1]	1	5
		社会人特別選抜	2 [3]	4	0	0	4	0	0	4	0	0	0	4	0	0
		リスケ工学	9	4	0	2	4	0	2	4	0	2	0	4	0	2
		社会人特別選抜	1	7	2	1	7	2	1	7	2	1	0	7	2	1
		コンピュータサイエンス	21 [2]	17	3	12	17	3	12	16	3	11	1	15	2	10
		社会人特別選抜	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
		知能機能システム	21 [4]	13 [3]	0	6	11 [3]	0	5	10 [3]	0	5	0 [0]	10 [3]	0	5
		社会人特別選抜	1	4	2	0	4	2	0	3	1	0	0	3	1	0
		構造エネルギー工学	13 [2]	5	2	2	5	2	2	5	2	2	0	5	2	2
社会人特別選抜		1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	0	2	0	1	
小計	85 [11]	67 [4]	11	31	64 [4]	11	29	60 [4]	10	28	2 [0]	58 [4]	8	26		
計	479 [22]	659 [40]	111	130	641 [40]	110	126	533 [28]	85	87	61 [8]	472 [20]	74	76		

注) 1. []内は、連携大学院方式を内数で示す。

2. 研究科で募集する入学試験の入学者は、全て対応する学術院の入学者となる。

研究科	課程	専攻	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	女子内数	受験者数	外国人留学生内数	女子内数	合格者数	外国人留学生内数	女子内数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数
生命環境科学	一貫制	環境バイオマス共生学	21 [1]	20	10	1	20	10	10	20	1	10	20	10	1
		小計	21 [1]	20 [0]	10	1	20 [0]	10	10	20 [0]	1	10	20 [0]	10	1
		地球科学	39 [3]	52 [3]	15	11	46 [2]	13	10	42 [2]	8	12	39 [1]	12	8
		生物科学	47	47 [2]	23	5	46 [2]	23	5	44 [2]	2	5	42 [1]	21	5
		社会人特別選抜	2 [6]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		生物資源科学	92	113 [1]	56	4	111 [1]	55	4	109 [1]	53	3	101 [1]	47	3
		社会人特別選抜	14	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		環境科学	33	28	10	8	28	10	8	25	8	6	23	8	6
		社会人特別選抜	6 [1]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		国際連携持続環境科学	3	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		山岳科学位プログラム		8	3	0	8	3	0	8	3	0	8	3	0
		社会人特別選抜	若干名	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		小計	236 [18]	251 [6]	107	28	242 [5]	104	27	231 [5]	99	22	216 [3]	91	22
		地球進化科学	4	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		社会人特別選抜	若干名	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		生物科学	4 [1]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人特別選抜	若干名	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		国際地縁技術開発科学	18 [3]	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1
		社会人特別選抜	4	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0
		生物圏資源科学	16 [2]	5	0	1	5	0	1	5	0	1	4	0	1
		社会人特別選抜	4	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		生物機能科学	17 [3]	3 [1]	0	0	3 [1]	0	0	3 [1]	0	0	3 [1]	0	0
		社会人特別選抜	4	3	2	0	3	2	0	3	2	0	3	2	0
		生命産業科学	10	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0
		社会人特別選抜	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		持続環境学	6 [1]	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4
		社会人特別選抜	2	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1
		小計	91 [11]	27 [1]	6	8	27 [1]	6	8	27 [1]	6	8	26 [1]	6	8
		先端農業技術科学	6 [6]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	6 [6]	0 [0]	0	0	0 [0]	0	0	0 [0]	0	0	0 [0]	0	0
		計	354 [36]	298 [7]	123	37	289 [6]	120	36	278 [6]	115	31	262 [4]	107	31

注) 1. ()内は、連携大学院方式を内数で示す。なお、博士前期課程山岳科学学位プログラムについては、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。

2. 研究科で募集する入学試験の入学者は、全て対応する学院の入学者となる。

研究科	課程	専攻	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	女子内数	受験者数	外国人留学生内数	女子内数	合格者数	外国人留学生内数	女子内数	入学者数	外国人留学生内数	女子内数	外国人留学生内数			
教育	修士	スクールリーディング開発	20	19	11	4	17	4	10	13	4	8	11	3	8	3			
		社会人特別選抜		4	2	0	4	2	0	2	4	0	2	2	0	2	0		
		教科教育		73	22	3	67	21	3	21	58	18	18	50	2	15	2		
		社会人特別選抜		11	2	1	11	2	1	2	8	1	1	6	1	1	1		
		教育学(国際教育)修士プログラム		18	14	13	18	14	13	14	8	7	5	3	5	5	3		
		社会人特別選抜		7	3	0	7	3	0	3	4	2	0	3	1	3	1		
		計		100	132	54	21	124	21	52	95	21	38	11	77	18	31	9	
		人間総合科学	修士	フロンティア医科学	50	82	48	15	73	42	15	47	15	28	6	33	6	14	19
				社会人特別選抜		8	3	0	8	3	0	3	5	2	0	5	0	2	0
				スポーツ健康システム・マネジメント ※		34	14	0	34	14	0	14	24	11	0	24	0	11	0
スポーツ国際開発学共同				5	5	3	5	3	1	3	5	3	1	5	0	3	1		
国際連携食料健康科学				3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
小計				82	129	68	16	120	62	16	81	62	44	7	14	7	14	6	
教育学				15	14	6	5	13	5	5	8	3	2	0	8	3	2		
心理				14	49	35	3	48	35	3	12	7	0	12	7	0	7		
障害科学				35	32	19	6	31	19	6	28	17	5	1	27	17	5		
社会人特別選抜				2	2	1	0	2	1	0	2	1	0	0	2	1	0		
博士前期	博士前期	感性認知脳科学	14	30	13	5	29	4	12	17	2	7	4	17	2	7	4		
		看護科学		15	13	2	14	12	2	10	8	2	1	9	7	1			
		社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		体育学		208	49	21	205	47	21	114	30	10	3	111	29	10			
		社会人特別選抜		15	19	3	7	19	3	7	15	3	4	0	15	3			
		芸術		45	98	66	51	89	60	43	58	40	15	57	40	15			
		社会人特別選抜		15	13	7	8	13	7	8	5	3	3	0	5	3			
		世界遺産		15	30	17	20	28	15	19	18	10	10	1	17	9			
		生涯発達 ※		46	182	109	0	172	101	0	47	26	0	47	26	0			
		小計		329	692	338	128	663	317	119	334	155	55	7	327	152			
医学の課程	博士後期	教育基礎学	6	9	4	1	9	4	1	6	4	1	0	6	4				
		学校教育学		14	9	1	14	9	1	10	7	1	0	10	7				
		心理学		1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0				
		感性認知脳科学		10	7	4	7	4	2	7	3	4	2	6	3				
		看護科学		8	8	8	0	8	8	0	7	7	0	7	7				
		生涯発達科学 ※		6	21	12	0	21	12	0	8	4	0	8	4				
		小計		36	60	37	4	60	37	4	39	3	26	4	38	3			
		生命システム医学		28	11	6	2	11	6	2	10	6	2	1	9	6			
		社会人特別選抜		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
		疾患制御医学		34	18	4	2	18	4	2	18	4	2	0	18	4			
3年制博士	3年制博士	社会人特別選抜		21	5	0	21	5	0	21	5	0	1	20	5				
		小計		62	51	15	4	50	15	4	49	15	4	2	47	15			
		ヒューマン・ケア科学		18	19	11	12	18	11	12	17	11	1	16	11				
		スポーツ医学		10	10	3	1	10	3	1	10	3	1	10	3				
		大学体育スポーツ高度化共同		3	6	3	0	6	3	0	4	3	0	4	3				
		スポーツウェルネス学位プログラム ※		8	8	3	0	8	3	0	4	2	0	4	2				
		小計		31	43	21	2	42	21	2	35	11	19	2	34	11			
		計		540	975	479	154	935	452	145	538	16	72	25	513	6			

研究科	課程	専攻	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	受検者数	外国人留学生内数	合格者数	外国人留学生内数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数	
図書館情報メディア	博士前期	図書館情報メディア	37	61	28	57	17	30	11	28	11	2	
		社企人特別選抜	若干名	8	4	8	4	3	2	0	3	2	0
	博士後期	図書館情報メディア	37	69	32	65	30	33	13	2	31	12	1
		社企人特別選抜	若干名	2	9	4	9	4	8	4	7	3	1
	計		58	80	36	76	34	43	17	3	40	15	2

注) 1. [] 内は、連携大学院方式内数で示す。なお、修士課程プログラム(医学専攻、博士前期課程心理学専攻、感性認知脳科学専攻、博士後期課程心理学専攻、博士後期課程心理学専攻、医学の課程生命システム医学専攻及び疾患制御医学専攻、3年制博士課程ヒューマンケア科学専攻、スポーツ医学専攻)については、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。

2. 教育研究科の定員には、現職教員1年制プログラムを含む。

3. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。

4. 修士課程スポーツ国際開発共同専攻及び3年制博士課程大体育学スポーツ高度化共同専攻には、鹿屋体育大学を主として在籍する者を除く。

5. 修士課程プログラム(医学専攻、博士前期課程教育専攻、医学の課程疾患制御医学専攻)には、特別プログラムの志願者数、受検者数、合格者数、入学者数を除く。

6. 研究科で募集する入学試験の入学者は、全て対応する学術院の入学者となる。

教育院	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	受検者数	外国人留学生内数	合格者数	外国人留学生内数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数
グローバル教育院	一貫制	ヒューマンバイオロジー学位プログラム		3	2	3	2	2	2	2	1	2
		エンパワーメント情報プログラム		4	0	4	0	4	0	4	0	0
		ヒューマンクス学位プログラム		8	2	8	2	5	1	3	0	1
	一貫制(3年次編入)	小 計		15	5	15	5	11	3	4	2	9
		エンパワーメント情報プログラム		2	1	2	1	2	1	2	0	2
	博士前期	小 計		2	1	2	1	2	1	2	0	2
		ライフイノベーション学位プログラム		4	1	4	1	4	1	1	0	4
	博士後期	小 計		4	1	4	1	4	1	1	0	4
		ライフイノベーション学位プログラム		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計			21	7	21	7	17	5	7	2	15

注) 1. ヒューマンクス学位プログラム、エンパワーメント情報プログラム(3年次編入)を除く学位プログラムの入学者は、全て対応する学術院の入学者となる。

入学試験実施結果(学術院による募集)

学術院	研究群	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	女子内数	外国人留学生内数	受験者数	女子内数	外国人留学生内数	合格者数	女子内数	外国人留学生内数	辞退者数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数		
人文社会ビジネス科学	人文社会科学	博士前期	人文学	22	29	17	16	27	15	15	21	13	10	4	17	10	7		
			国際公共政策	7	17	16	15	14	13	12	5	6	5	5	1	5	4	4	
			国際日本研究	14	40	26	34	36	23	32	20	12	20	18	3	17	9	15	
			社会人特別選抜	若干名	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0
			小計	43	88	60	66	79	52	60	48	31	33	8	40	24	26	4	
		博士後期	人文学	42	16	7	6	16	7	6	11	5	4	1	10	4	4	4	
			国際公共政策	10	7	3	3	7	3	3	4	2	2	1	1	3	1	2	
			国際日本研究	6	8	4	7	8	4	7	7	3	6	1	6	1	6	3	5
			社会人特別選抜	若干名	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
			小計	58	32	14	16	32	14	16	23	10	12	3	20	8	11	8	11
計	101	120	74	82	111	66	76	71	41	45	11	60	32	37	32	37			

学術院	研究群	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	女子内数	外国人留学生内数	受験者数	女子内数	外国人留学生内数	合格者数	女子内数	外国人留学生内数	辞退者数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数	
人文社会ビジネス科学	ビジネス科学	博士前期	※法学	11	19	6	0	19	6	0	8	2	0	1	7	1	0	
			小計	11	19	6	0	19	6	0	8	2	0	1	7	1	0	
		博士後期	※法学	若干名	6	9	3	0	5	0	0	3	0	0	1	2	0	0
			※経営学	6	9	3	0	8	2	0	6	2	0	0	0	6	2	0
			小計	6	15	4	0	13	2	0	9	2	0	1	8	2	0	
計	17	34	10	0	32	8	0	17	4	0	2	15	3	0	3	0		

注)1. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。

学 術 院	研 究 群	課 程	学 位 プ ロ グ ラ ム (サ ブ プ ロ グ ラ ム)	募 集 人 員	志 願 者 数	女 子 内 数	外 国 人 留 学 生 内 数	受 験 者 数	女 子 内 数	外 国 人 留 学 生 内 数	合 格 者 数	女 子 内 数	外 国 人 留 学 生 内 数	辞 退 者 数	入 学 者 数	女 子 内 数	外 国 人 留 学 生 内 数				
理 工 情 報 生 命	数 理 物 質 科 学	博 士 前 期	数 学	6	4	1	2	3	1	1	2	0	0	1	0	2	0	1			
			社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			物 理 学	若 干 名	12	2	4	10	4	1	4	1	4	7	1	2	0	7	1	2	
			社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			化 学	10	6	2	4	6	2	4	6	2	4	6	2	4	0	6	2	4	
			社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			応 用 工 学 (電 子 ・ 物 理 工 学)	18	3	14	16	3	12	12	2	8	0	12	2	8	0	12	2	8	
			社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			応 用 工 学 (物 性 ・ 分 子 工 学)	25	25	6	15	23	4	6	13	14	1	13	5	8	1	13	1	5	
			社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0
		国 際 マ テ リ ア ル ス イ ン ノ ベ シ ョ ン	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小 計	25	66	14	40	59	5	13	35	42	2	42	10	24	1	41	10	24		
		博 士 後 期	数 学	4	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
			社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			物 理 学	14	7	1	2	7	1	2	7	1	2	7	1	2	1	6	1	2	
			社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
			化 学	11	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
			社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
			応 用 工 学 (電 子 ・ 物 理 工 学)	8	3	1	3	3	1	3	3	1	3	3	1	3	0	3	1	3	
社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名		7	0	0	7	0	7	0	0	7	0	0	0	0	7	0	0			
応 用 工 学 (物 性 ・ 分 子 工 学)	3		3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	0	3	1	2			
社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
小 計	4	10	3	6	10	10	3	6	10	10	4	4	2	0	4	4	2				
応 用 工 学 (NIMS 連 係 物 質 ・ 材 料 工 学)	若 干 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
国 際 マ テ リ ア ル ス イ ン ノ ベ シ ョ ン	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
社 会 人 特 別 選 抜	若 干 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
小 計	47	35	6	13	34	10	6	13	28	4	28	4	9	1	27	4	9				
計	72	101	20	53	93	15	19	48	70	6	70	14	33	2	68	14	33				

注) 1. () 内は、連携大学院方式を内数で示す。なお、博士前期課程物理工学学位プログラム、博士前期課程化学学位プログラム、応用理工学学位プログラム電子・物理工学サブプログラム、応用理工学学位プログラム物性・分子工学サブプログラム、国際マテリアルズイノベーションプログラムについては、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。
2. 博士前期課程応用理工学学位プログラム電子・物理工学サブプログラムには、特別プログラムの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を除く。

学術院	研究群	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	女子内数	受験者数	外国人留学生内数	女子内数	合格者数	外国人留学生内数	女子内数	入学者数	外国人留学生内数	女子内数	外国人留学生内数				
理工情報生命	システム情報工学	一貫制	エンバワーマンメント情報学	4名+若 干名	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				
			小計	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2			
				社会学	若干名	47	23	41	18	38	34	22	11	25	11	23	11	20	20		
				社会人特別選抜	3名+若 干名	4	2	1	4	4	2	1	4	4	2	4	2	1	1		
				サービスイ工学	若干名	6	4	5	4	6	5	4	5	5	3	5	3	4	4		
				社会人特別選抜	5名+若 干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
				リスクレジットエンジニア工学	若干名	6	1	4	6	6	1	4	6	6	1	6	1	4	4		
				社会人特別選抜	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
				情報理工	若干名	49	1	7	36	44	1	7	32	28	1	26	1	4	18		
				社会人特別選抜	若干名	2	1	0	2	2	1	0	2	2	1	1	1	1	0		
				知能機能システム	若干名	39	8	7	28	33	5	6	23	18	3	12	2	16	3	10	
				社会人特別選抜	若干名	2	1	0	2	2	1	0	2	2	1	1	1	0	1	1	
				構造エネルギー工学	若干名	14	1	3	10	13	1	2	9	4	1	3	0	4	1	3	
				社会人特別選抜	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
				ライフサイエンス(生物情報)	若干名	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
				小計	11	169	11	48	127	148	8	41	110	94	5	26	86	4	25	61	
						社会学	8名+若 干名	3	2	3	3	2	3	3	2	3	2	3	2	3	2
						社会人特別選抜	2名+若 干名	5	3	0	5	3	0	5	3	0	5	3	0	3	0
						リスクレジットエンジニア工学	2名+若 干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
						社会人特別選抜	若干名	3	0	0	3	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
						情報理工	4名+若 干名	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	3	2	2	2
						社会人特別選抜	4名+若 干名	11	1	0	11	1	0	11	1	0	11	1	1	0	1
						知能機能システム	2名+若 干名	4	1	1	4	1	2	4	1	2	4	1	2	1	2
						社会人特別選抜	1名+若 干名	5	2	1	5	2	1	4	1	1	4	1	1	1	1
						構造エネルギー工学	7名+若 干名	4	0	2	4	0	2	4	0	2	4	0	4	0	2
			社会人特別選抜	2名+若 干名	5	0	1	5	0	1	5	0	1	5	0	5	0	1			
			ライフサイエンス(生物情報)	2	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0			
			小計	34	46	2	11	46	2	11	44	2	10	44	2	10	11				
			小計	45	215	13	59	138	194	10	138	7	36	130	6	35	72				

注1. ()内は、連携大学院方式を内数で示す。なお、博士前期課程サービスイ工学学位プログラム、博士前期課程・博士後期課程社会工学学位プログラム、情報理工学位プログラム、知能機能システム学位プログラム、構造エネルギー工学学位プログラムについては、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。
注2. 博士前期課程・博士後期課程情報理工学位プログラム、構造エネルギー工学学位プログラム、博士後期課程リスクレジットエンジニア工学学位プログラム、博士後期課程システム学位プログラムには、特別プログラムの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を除く。

学術院	研究群	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	受験者数	外国人留学生内数	合格者数	外国人留学生内数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数		
理工情報生命	生命地球科学	博士前期	生物学	若干名	6	2	3	6	3	6	3	5	1	3	
			社会人特別選抜	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			生物資源科学	9	32	18	22	31	18	22	27	19	24	12	18
			社会人特別選抜	若干名	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
			地球科学	16	9	12	14	8	11	12	7	10	12	7	10
			環境科学	26	14	20	24	14	20	20	20	13	18	12	16
			社会人特別選抜	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			山岳科学	11	2	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1
			社会人特別選抜	若干名	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
			ライフ/ノバーション(食料革新)	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
		ライフ/ノバーション(環境制御)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ライフ/ノバーション(生体分子材料)	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		小計	53	85	47	61	82	46	60	72	41	53	66	36	51
		博士後期	生物学	21	7	1	7	1	7	1	7	1	7	1	1
			社会人特別選抜	若干名	8	4	0	8	4	0	8	4	0	8	4
			農学	21	8	3	2	8	3	2	8	3	2	7	3
			社会人特別選抜	4	9	4	0	9	4	0	9	4	0	9	4
			生命農学	7	2	2	1	2	2	1	2	2	1	2	2
			社会人特別選抜	2	6	2	0	5	2	0	5	2	0	5	2
			生命産業科学	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社会人特別選抜	若干名		6	0	0	6	0	0	4	0	1	3	0		
地球科学	17		7	3	0	6	2	0	6	2	0	6	2		
社会人特別選抜	若干名		2	1	1	2	1	0	2	1	0	2	1		
環境学	3	8	3	8	8	3	8	5	3	5	5	3			
社会人特別選抜	2	4	1	0	3	0	3	0	3	0	3	0			
ライフ/ノバーション(食料革新)	4	3	2	2	3	2	3	2	2	1	2	1			
ライフ/ノバーション(環境制御)	4	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1			
ライフ/ノバーション(生体分子材料)	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
小計	91	72	27	16	69	25	16	64	3	25	61	3	24		
計	144	157	74	77	151	71	76	136	3	66	127	3	60		

注)1. []内は、連携大学院方式を内数で示す。なお、博士前期課程・博士後期課程・生物資源科学学位プログラム、地球科学学位プログラム、博士前期課程生物資源科学学位プログラム、環境科学学位プログラム、博士後期課程生物資源科学学位プログラム、山岳科学学位プログラム、博士後期課程農学学位プログラム、生命農学学位プログラム、環境科学学位プログラムについては、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。

学術院	専攻	課程	募集人員	志願者数	外国人留学生内数	受験者数	外国人留学生内数	合格者数	外国人留学生内数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数
理工情報生命	国際連携持続環境科学	博士前期	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計			3	0	0	0	0	0	0	0	0	0

学術院	研究群	課程	学位プログラム (サブプログラム)	募集人員	志願者数	外国人 留学生 内数	女子 内数	受験者数	外国人 留学生 内数	女子 内数	合格者数	外国人 留学生 内数	女子 内数	辞退者数	入学者数	外国人 留学生 内数	女子 内数		
人間総合科学	人間総合科学	一貫制	ヒューマンバイオロジー 小計	6	7	3	3	5	5	3	6	5	3	1	5	4	3		
		修士	フロンティア医科学 社会人特別選抜 公衆衛生学 社会人特別選抜 小計	6 3 若干名 5 若干名	7 20 4 10 4	3 11 2 8 2	3 11 2 8 2	5 20 0 7 16	5 9 0 10 3	7 20 4 10 4	3 11 2 8 2	6 15 2 4 24	5 9 0 7 16	3 8 1 3 13	1 1 0 0 1	5 14 2 4 23	4 6 0 2 8	3 7 0 3 10	
		博士前期	教育学(教育基礎科学) 心理学 障害科学 社会人特別選抜 ニューロサイエンス 看護科学 社会人特別選抜 デザイン学 情報学 社会人特別選抜 ライフイノベーション(病態機構) ライフイノベーション(創薬開発) 小計	2 4 8 若干名 5 5 若干名 20 若干名 2	6 14 8 0 5 4 9 45 10 3	3 11 5 0 2 3 7 18 5 3	3 11 5 0 2 3 7 30 5 3	3 12 6 0 2 4 9 40 10 3	3 12 8 0 2 4 7 30 10 3	6 12 8 0 5 11 7 40 10 3	3 10 5 0 2 3 6 17 5 3	4 11 8 0 4 11 3 20 8 3	3 11 6 0 2 4 9 30 5 3	2 10 5 0 2 4 7 30 5 3	1 1 1 0 1 1 1 0 1 0	3 11 7 3 5 11 3 20 8 3	3 6 8 0 2 4 7 40 10 3	3 10 6 0 2 4 7 30 5 3	3 11 6 0 2 4 7 30 5 3
		博士後期	教育学 社会人特別選抜 心理学 障害科学 ニューロサイエンス 看護科学 体育科学 芸術学 社会人特別選抜 デザイン学 世界遺産学 情報学 社会人特別選抜 ライフイノベーション(病態機構) ライフイノベーション(創薬開発) 小計	4 若干名 6 10 若干名 1 15 7 若干名 4 5 2 若干名 3	3 2 1 17 2 0 17 11 4 13 12 2 2 0 1	2 1 1 12 2 0 4 6 4 7 9 0 0 0	2 1 1 12 2 0 4 6 4 7 9 0 0 0	2 1 1 15 2 0 4 11 4 13 8 2 0 0	2 1 1 12 2 0 4 6 4 7 9 0 0 0	2 1 1 15 2 0 4 11 4 13 8 2 0 0	0 0 0 17 2 0 4 6 4 7 9 0 0 0	0 0 0 12 2 0 4 11 4 13 8 2 0 0	0 0 0 20 8 0 15 6 10 2 0 0	0 0 0 30 6 0 4 15 4 20 8 0	0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 20 8 0 15 6 10 2 0 0	0 0 0 30 6 0 4 15 4 20 8 0	0 0 0 30 6 0 4 15 4 20 8 0	0 0 0 30 6 0 4 15 4 20 8 0
		3年制博士	ヒューマンケア科学 パブリックヘルス スポーツ医学 ノーチング学 小計	若干名 若干名 若干名 6	3 7 0 8	2 3 0 4	0 3 0 4	0 3 0 4	0 7 0 8	0 7 0 8	0 3 0 4	0 6 0 6	0 6 0 6	0 3 0 4	0 0 0 0	0 6 0 6	0 3 0 4	0 3 0 4	
		医学の課程	医学 社会人特別選抜 小計	31 149	15 285	3 149	3 149	3 149	3 149	15 273	3 149	3 144	15 199	3 102	3 98	2 8	15 171	3 60	3 93

注1. ()内は、連携大学院方式名内数で示す。なお、博士前期課程・博士後期課程心理学学位プログラム、ニューロサイエンス学位プログラム、デザイン学学位プログラム、デサイン学学位プログラム、スポーツ医学学位プログラム、医学の課程医学学位プログラムについては、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。

学術院	専攻	課程	募集人員	志願者数	外国人留学生内数		受験者数	外国人留学生内数		合格者数	外国人留学生内数		辞退者数	入学者数	外国人留学生内数		
					女子内数	外国人留学生内数		女子内数	外国人留学生内数		女子内数	外国人留学生内数			女子内数	外国人留学生内数	
人間総合科学	国際連携食料健康科学	修士 小計	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計																

教育院	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	外国人留学生内数		受験者数	外国人留学生内数		合格者数	外国人留学生内数		辞退者数	入学者数	外国人留学生内数	
					女子内数	外国人留学生内数		女子内数	外国人留学生内数		女子内数	外国人留学生内数			女子内数	外国人留学生内数
グローバル教育院	一貫制	ヒューマニクス学位プログラム		8	2	5	8	2	5	7	2	5	0	7	2	5
			小計	8	2	5	8	2	5	7	2	5	0	7	2	5
	一貫制 (3年次編入)	エンパワーメント情報プログラム		1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
			小計	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
	計		9	2	5	9	2	5	8	2	5	1	7	2	5	

(イ)その他

研究科(改組再編前の組織)で募集する入学試験の実施結果

令和2年4月1日現在

※ 研究科で募集する入学試験の入学者は、全て対応する学術院の入学者となる。

研究科	課程	専攻	募集人員	志願者数	外国人 留学生 内数	女子 内数	受験者数	外国人 留学生 内数	女子 内数	合格者数	外国人 留学生 内数	女子 内数	辞退者数	入学者数	外国人 留学生 内数	女子 内数
-----	----	----	------	------	------------------	----------	------	------------------	----------	------	------------------	----------	------	------	------------------	----------

【人文社会科学研究科 ASIP】

人文社会科学	修士	国際地域研究		2	2	2	2	0	2	2	0	2	0	2	0	2
計				2	2	2	2	0	2	2	0	2	0	2	0	2

【人間総合科学研究科 東北師範大学とのダブルディグリープログラム】

人間総合科学	博士前期	教育学		1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1
計				1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1

【人間総合科学研究科 鹿屋体育大学との共同専攻(主として鹿屋体育大学に在籍)】

人間総合科学	3年制博士	大学体育スポーツ高度化共同		1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0
計				1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0

【人間総合科学研究科 マスター・オブ・パブリックヘルスプログラム】

人間総合科学	修士	フロンティア医科学		3	2	3	2	2	2	1	2	1	0	1	1	1
計				3	2	3	2	2	2	1	2	1	0	1	1	1

【人間総合科学研究科 海外居住者特別選抜】

人間総合科学	修士	フロンティア医科学		3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	3	3	3
	医学の課程	疾患制御医学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1
計				5	5	5	5	5	5	5	5	5	1	4	4	4

学術院(改組再編後の組織)で募集する入学試験の実施結果

学術院	研究群	課程	学位プログラム (サブプログラム)	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
-----	-----	----	----------------------	------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	------	----------	------------------

【理工情報生命学術院数理学部科学研究群 グルノーブル・アルプス大学とのダブル・ディグリープログラムに基づき派遣される大学院学生を募集する外国人留学生特別選抜】

理工情報生命	数理物質科学	博士前期	応用理工学(電子・物理工学)		1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
					1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
		計																

【理工情報生命学術院システム情報工学研究群 海外居住者対象特別選抜】

理工情報生命	システム情報工学	博士後期	情報理工 知能機能システム		2	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0
					1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
		計			3	0	0	3	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0

【理工情報生命学術院システム情報工学研究群 フロンティアインフォマティクス国際プログラム】

理工情報生命	システム情報工学	博士前期	情報理工		3	2	3	3	2	3	3	2	3	0	3	2	3	0
		博士後期	情報理工		4	1	4	4	1	4	4	1	4	1	3	0	3	0
		計			7	3	7	7	3	7	7	3	7	1	6	2	6	2

【理工情報生命学術院システム情報工学研究群 少人数PBLによる分野融合レジリエンス工学人材育成プログラム】

理工情報生命	システム情報工学	博士前期	構造エネルギー工学		4	1	4	4	1	4	3	0	3	0	3	0	3	0
		博士後期	リスク・レジリエンス工学		1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0
			構造エネルギー工学		6	1	6	6	1	6	4	1	4	1	3	1	3	1
		計			11	2	11	11	2	11	8	1	8	2	6	1	6	1

学術院	専攻	課程	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
-----	----	----	------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	------	----------	------------------

【人間総合科学学術院 鹿屋体育大学との共同専攻(主として鹿屋体育大学に在籍)】

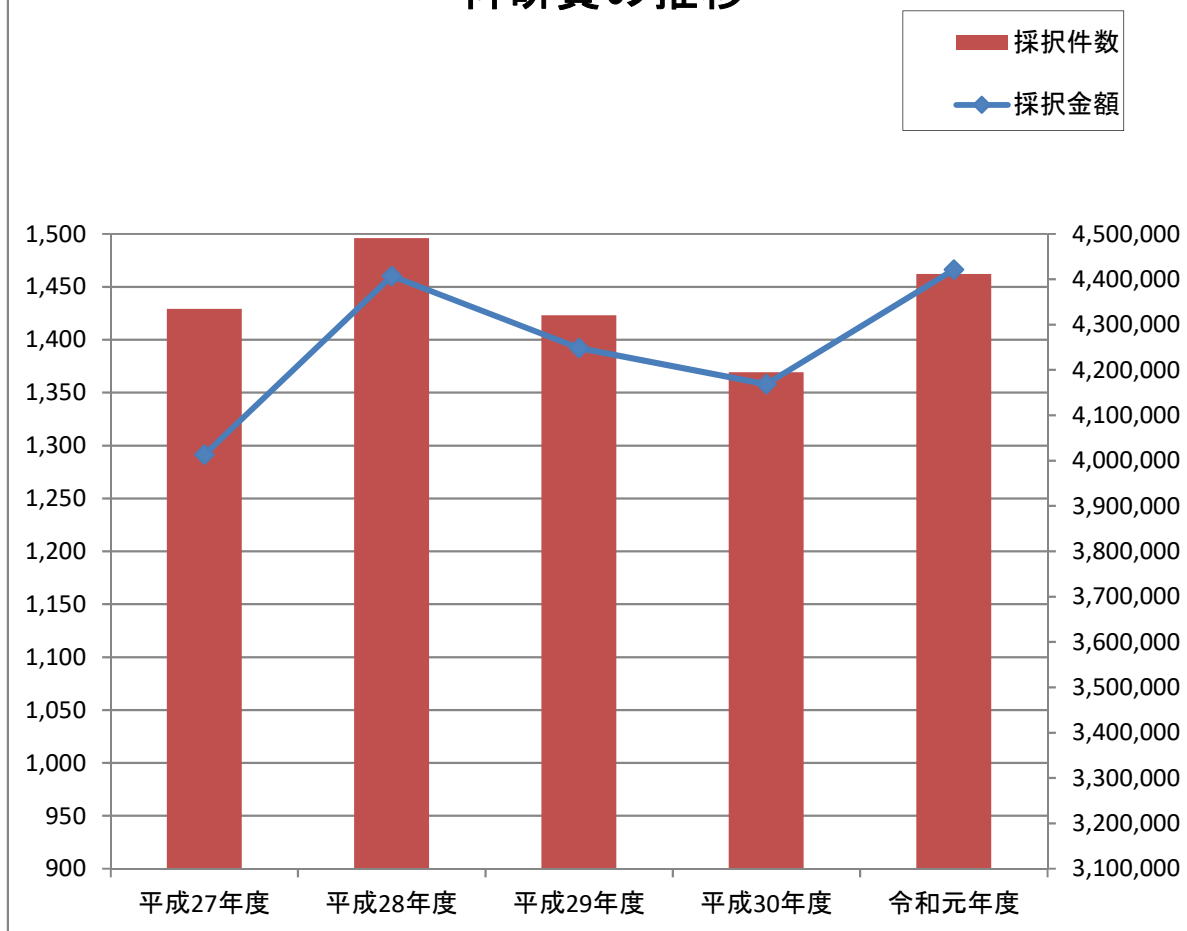
人間総合科学	スポーツ国際開発学共同 大学体育スポーツ高度化共同	修士 3年制博士		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	1
		計		2	1	0	2	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1

3 研究関係
(1) 科学研究費助成事業採択状況(新規+継続分)
了 総括表

種目 系等	特別推進研究		新学術領域研究		基礎研究(S)		基礎研究(A)		基礎研究(B)		国際共同研究加 速基金(国際共 同研究強化 (B))		国際共同研究加 速基金(国際共 同研究)		基礎研究(C)		若手研究(A)		若手研究(B)		若手研究		研究活動 スタタ下支 援		挑戦的 萌芽研究		挑戦的 研究(萌芽)		挑戦的 研究(開 拓)		研究成果公 開促進費		特別研究員 奨励費		合計		
	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数	金額	件 数
人文社会系	0	0	5	72,670	0	0	2	14,430	16	65,430	1	5,460	0	0	60	60,060	0	0	5	4,290	17	20,150	5	5,590	0	0	3	8,320	0	0	3	3,590	19	15,930	136	275,920	
ビジネス サイエンス系	0	0	0	0	0	0	2	14,820	5	17,420	0	0	0	0	16	16,250	0	0	0	0	3	2,860	0	0	0	0	5	9,490	0	0	0	0	0	0	31	60,840	
数理工学系	2	259,480	17	84,890	2	54,600	9	97,260	35	182,130	2	4,420	0	0	54	73,190	2	5,590	5	4,290	16	29,120	1	1,430	0	0	18	41,600	0	0	1	430	25	22,640	189	861,070	
システム 情報系	0	0	2	15,960	1	35,490	10	109,070	44	210,460	1	5,850	0	0	56	70,850	4	17,160	10	8,320	19	27,950	2	2,860	0	0	20	40,690	2	15,860	0	0	17	15,400	188	575,920	
生命環境系	0	0	10	146,250	1	17,940	9	89,310	47	236,080	3	6,370	0	0	51	71,240	1	2,860	13	8,970	11	18,070	5	7,020	0	0	11	32,760	0	0	0	0	43	41,013	205	677,883	
人間系	0	0	3	8,840	1	39,520	3	29,250	9	49,270	1	4,940	0	0	36	44,070	2	9,360	2	1,560	16	23,530	1	1,430	0	0	9	26,910	0	0	2	2,100	17	14,700	102	255,480	
体育系	0	0	2	23,140	0	0	2	21,970	7	40,950	0	0	0	0	23	30,290	1	7,150	3	2,340	19	29,774	1	1,430	0	0	2	5,200	0	0	0	0	8	7,900	68	170,144	
芸術系	0	0	0	0	0	0	2	19,370	7	24,050	3	5,200	0	0	15	17,810	0	0	1	650	3	3,900	3	3,640	0	0	1	1,690	0	0	0	0	7	6,040	42	82,350	
医学医療系	0	0	9	143,130	1	41,860	4	60,840	42	220,460	1	5,460	1	19,500	140	199,420	1	7,280	10	10,790	53	89,478	7	8,560	0	0	18	47,450	1	2,600	0	0	16	16,150	304	872,018	
図書館情報 学系	0	0	0	0	0	0	1	9,880	8	26,910	0	0	0	0	19	20,150	2	9,100	3	1,950	5	8,710	0	0	0	0	3	4,810	0	0	0	0	0	0	41	81,510	
計算科学研究 センター	0	0	6	9,360	0	0	1	12,090	7	36,660	1	3,770	0	0	9	7,960	2	6,760	3	4,030	7	11,700	1	1,430	0	0	2	6,890	0	0	0	0	3	3,330	42	103,980	
生存ダイミクス 研究センター	0	0	2	33,800	1	35,360	1	9,490	3	16,510	0	0	0	0	8	9,100	1	7,280	0	0	4	7,150	1	1,430	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3,900	26	124,020	
附属病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	6,500	0	0	6	8,320	10	18,980	4	5,720	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	39,520		
国際総合腫瘍学 研究機構	1	91,000	7	37,310	0	0	0	0	6	25,740	0	0	0	0	12	20,540	0	0	2	1,690	9	16,250	2	2,860	0	0	3	8,190	0	0	0	0	7	6,865	49	210,445	
地中海・北アフリカ 研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2,990	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2,990			
ヘルスサイエンス 研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3,380	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3,380				
アレンジャー・メ ディアス開発研究セ ンター	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7,410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7,410		
藻類バイオマス・エ ネルギーシステム開 発研究センター	0	0	0	0	0	0	1	3,510	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3,510				
人工知能科学セ ンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,040	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,040				
本部任用教員等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5,200	0	0	0	0	3	4,420	0	0	0	0	1	2,080	0	0	0	0	0	8	11,700			
合計	3	350,480	63	575,250	7	224,770	47	491,290	237	1,159,500	13	41,470	1	19,500	507	652,630	16	72,540	63	57,200	200	318,452	33	43,420	0	0	96	236,080	3	18,460	6	6,120	167	153,868	1,462	4,421,030	

※ 本学から申請し、内定を受けた課題の数、金額を集計している。
 ※ 転入・転出状況を反映した。
 ※ 奨励研究は除く。
 ※ 本学教授等は元の所属部門に所属した。
 ※ 学長、副学長、本学任用教員等はもとめて計上。(内訳: 教育推進部(1)、利益相反・輸出管理マネジメント(1)、DACセンター(3)、グローバルコミュニケーション教育センター(1))
 ※ 間接経費を含む。
 ※ 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A)) : 5件、67,860千円(全研究期間分)の採択あり。(うち令和元年度の交付決定は0件)

科研費の推移



年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
採択件数	1,429	1,496	1,423	1,369	1,462
採択金額	4,013,175	4,407,088	4,248,540	4,168,674	4,421,030

(単位:千円)

(2) 研究プロジェクト支援経費

ア 戦略イニシアティブ (SS), (S), (A) 採択・配分状況 <令和元年度>

(ア) 総括表

(単位:千円、以下同じ。)

配分先	平成 29 年度採 択 A	平成 30 年度採 択 SS	平成 30 年度採 択 S	平成 30 年度採 択 A	配分金額
人文社会系	0	0	0	0	0
ビジネスサイエンス系	0	0	0	0	0
数理物質系	0	0	0	0	0
システム情報系	0	0	0	0	0
生命環境系	1	0	0	0	4,000
人間系	0	0	0	0	0
体育系	0	0	0	0	0
芸術系	0	0	0	0	0
医学医療系	0	0	0	0	0
図書館情報メディア系	0	0	0	0	0
計算科学研究センター	0	1	0	0	10,000
生存ダイナミクス研究センター	0	1	0	0	10,000
つくば機能植物イノベーション研究センター	0	0	1	0	7,000
下田臨海実験センター	0	0	1	0	7,000
地中海・北アフリカ研究センター	0	0	1	0	7,000
アイソトープ環境動態研究センター	0	0	1	0	7,000
人工知能科学センター	0	0	1	0	7,000
陽子線医学利用研究センター	0	0	1	0	7,000
山岳科学センター	0	0	0	1	4,000
微生物サステナビリティ研究センター	0	0	0	1	4,000
ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター	0	0	0	1	4,000
トランスボーダー医学研究センター	0	0	0	1	4,000
宇宙史研究センター	0	0	0	1	4,000
合 計	1	2	6	5	86,000

(イ) 研究代表者等

1) 継続<戦略イニシアティブSS> R1:世界級研究拠点(平成30年度採択)

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
計算科学研究センター・センター長	朴 泰祐	計算科学研究センター (重点研究センター)	10,000
生存ダイナミクス研究センター・センター長	林 純一	生存ダイナミクス研究センター (重点研究センター)	10,000

2) 継続<戦略イニシアティブS> R2：全国級研究拠点（平成30年度採択）

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
つくば機能植物イノベーション研究センター・センター長	江面 浩	つくば機能植物イノベーション研究センター	7,000
下田臨海実験センター・センター長	笹倉 靖徳	下田臨海実験センター	7,000
地中海・北アフリカ研究センター・センター長	磯田 博子	地中海・北アフリカ研究センター	7,000
アイソトープ環境動態研究センター・センター長	恩田 裕一	アイソトープ環境動態研究センター	7,000
人工知能科学センター・センター長	櫻井 鉄也	人工知能科学センター	7,000
陽子線医学利用研究センター・センター長	榮 武二	陽子線医学利用研究センター	7,000

3) 継続<戦略イニシアティブA> R3：重点育成研究拠点（平成30年度採択）

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
山岳科学センター・センター長	石田 健一郎	山岳科学センター	4,000
微生物サステナビリティ研究センター・センター長	高谷 直樹	微生物サステナビリティ研究センター	4,000
ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター・センター長	征矢 英昭	ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター	4,000
トランスボーダー医学研究センター・センター長	高橋 智	トランスボーダー医学研究センター	4,000
宇宙史研究センター・センター長	金谷 和至	宇宙史研究センター	4,000

4) 継続<戦略イニシアティブA>（平成29年度採択）

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
生命環境系・教授	野村 暢彦	ERATO (野村集団微生物制御プロジェクト)	4,000

イ プレ戦略イニシアティブ（研究拠点提案型）申請・採択・配分状況 <令和元年度>
(ア) 総括表

系	新規申請件数	新規採択件数	継続件数	配分金額
人文社会系	1	0	0	0
ビジネスサイエンス系	0	0	1	1,000
数理物質系	2	0	2	2,000
システム情報系	3	2	0	1,500
生命環境系	0	0	0	0
人間系	0	0	1	1,000
体育系	0	0	0	0

芸術系	0	0	0	0
医学医療系	3	1	0	1,000
図書館情報メディア系	0	0	0	0
合 計	9	3	4	6,500

(イ) 研究代表者等

1) 新規

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
システム情報系・教授	伊藤 誠	交通移動体の安全な自動運転のためのヒューマンマシンインタラクション研究拠点の形成	1,000
システム情報系・助教	善甫 啓一	障害支援技術研究の拠点形成に向けた取り組み	500
医学医療系・教授	島野 仁	持続的脂質医学研究拠点形成	1,000

2) 継続 (平成 30 年度採択)

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
ビジネスサイエンス系・教授	山田 雄二	市場取引とオープン化を基盤とするビジネスイノベーション支援のためのデータサイエンス研究拠点の形成	1,000
数理物質系・教授	重川 秀実	極限量子計測・量子生命科学	1,000
人間系・教授	小川 園子	ソーシャル・ニューロダイバーシティ科学研究拠点の創成と推進	1,000

3) 継続 (平成 29 年度採択)

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
数理物質系・教授	守友 浩	次世代物質・デバイス戦略開発拠点	1,000

ウ 研究基盤支援プログラムSタイプ（スタートアップ支援）申請・採択・配分状況
（令和元年度）

（ア）総括表

組織名	Sタイプ							
	令和元年度採択 （採択1年目）			平成30年度採択 （採択2年目）		平成29年度採択 （採択3年目）		配分金額 （合計）
	申請 件数	採択 件数	配分金額	継続 件数	配分金額	継続 件数	配分金額	
人文社会系	3	1	650,000	1	1,000,000	0	0	1,650,000
ビジネスサイエンス系	0	0		0	0	0	0	0
数理物質系	1	1	1,000,000	1	1,000,000	2	1,980,000	3,980,000
システム情報系	3	1	1,000,000	0	0	1	983,200	1,983,200
生命環境系	2	0		1	1,000,000	0	0	1,000,000
人間系	1	0		0	0	0	0	0
体育系	1	1	1,000,000	0	0	0	0	1,000,000
芸術系	2	0		0	0	0	0	0
医学医療系	2	0		2	2,000,000	1	1,000,000	3,000,000
図書館情報メディア系	1	1	1,000,000	0	0	0	0	1,000,000
計算科学研究センター	1	0		0	0	0	0	0
生存ダイナミクス研究センター	1	0		0	0	0	0	0
合 計	18	5	4,650,000	5	5,000,000	4	3,963,200	13,613,200

（イ）採択状況

	所属部局・職	氏 名	研 究 課 題 名	令和元年度 配分金額	
S タイプ （採 択 1 年 目）	人文社会系	助教	土方 裕子	北米で働く日本人駐在員の英語語用論的能力の発達:「助言」で使用する方略を中心に	650,000
	数理物質系	助教	丸山 実那	原子種-空隙-外場による原子層ヘテロ積層系の電子物性制御	1,000,000
	システム情報系	准教授	町田 文雄	フォッグコンピューティング応用システムに対するスケーラブル信頼性設計技術の研究	1,000,000
	体育系	助教	下山 寛之	潜在的な低エナジーアベイラビリティを検出するため為の新規バイオマーカーの探索	1,000,000
	図書館情報メディア系	准教授	加藤 誠	統計データの引用分析とそれに基づく誤引用特定手法の開発	1,000,000
S タイプ （採 択 2 年 目）	人文社会系	助教	関 能徳	経済投票における財政政策に関する有権者の選好の役割: 多国籍統計分析とサーベイ実験	1,000,000
	数理物質系	准教授	藤岡 淳	強相関トポロジカル半金属における電子・光機能性の開拓	1,000,000
	生命環境系	准教授	平川 秀彦	ゲル状多酵素複合体のサイズ制御	1,000,000
	医学医療系	准教授	宮腰 昌利	病原性細菌のRNA制御ネットワークの解明	1,000,000
	医学医療系	助教	黒川 宏美	エリスロポエチンを用いた新規抗がん剤効果増強効果のin vivo検討と機序解明	1,000,000
S タイプ （採 択 3 年 目）	数理物質系	准教授	伊藤 良一	グラフェンの多孔質化による高効率エネルギーデバイスの開発	1,000,000
	数理物質系	助教	飯田 崇史	無機シンチレータを用いた地下素粒子実験による宇宙史解明への挑戦	980,000
	システム情報系	准教授	安藝 裕久	需要家とアグリゲータの参入を想定した需要サイド電力システム運用シミュレーション モデルの開発	983,200
	医学医療系	講師	日下部 学	医原性リンパ増殖性疾患の遺伝子変異と治療反応性の解明	1,000,000

エ 研究基盤支援プログラムAタイプ（若手研究者研究奨励費）申請・採択・配分状況
 （令和元年度）

（ア）総括表

（単位：千円）

所 属	申請件数					採択件数					配分額
	准教授	講師	助教	研究員	計	准教授	講師	助教	研究員	計	
人文社会系	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
ビジネスサイエンス系	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
数理物質系	0	0	3	0	3	0	0	1	0	1	980
システム情報系	0	0	2	0	2	0	0	1	0	1	988
生命環境系	0	0	2	2	4	0	0	1	0	1	1,000
人間系	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1,000
体育系	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	995
芸術系	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
医学医療系	0	0	6	2	8	0	0	3	1	4	4,000
図書館情報メディア系	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
国際統合睡眠医科学研究機構	0	0	1	2	3	0	0	0	2	2	2,000
計算科学研究センター	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	750
生存ダイナミクス研究センター	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1	1,000
合計	1	0	18	10	29	1	0	7	5	13	12,713

(イ) 採択状況

(単位:千円)

A タイプ	所属部局・職		氏名	研究課題名	配分額
	数理物質系	助教	森口 哲朗	中性子星の構造解明に向けた不安定核のスキン厚導出手法の開発	980
	システム情報系	助教	木下 陽平	ハイブリッド大気遅延補正によるInSARでの微小地殻変動シグナル検出:2018年房総半島沖スロースリップイベントを事例として	988
	生命環境系	助教	篠崎 良仁	果実における内部組織発達メカニズムの解明	1,000
	人間系	研究員	初鹿野 徹	思春期のテストステロンの作用が社会行動神経ネットワークの構築・修飾に果たす役割	1,000
	体育系	研究員	藤本 知臣	運動時低体温症の発生メカニズムの解明-運動時温度感覚に着目して-	995
	医学医療系	助教	Zaboronok Alexander	悪性脳腫瘍に対する加速器中性子捕捉療法のための新規ホウ素ナノ粒子化合物の開発	1,000
	医学医療系	研究員	大野 博	脂肪酸伸長酵素Elovl6の神経新生における役割	1,000
	医学医療系	助教	土屋 貴徳	集団ゲノムデータに基づき変異を避けることによる遺伝子治療用gRNA設計手法の確立	1,000
	医学医療系	助教	瀬戸川 剛	化学遺伝学的手法による霊長類の行動決定に関わる神経回路の解明	1,000
	国際統合睡眠医科学研究機構	研究員	齊藤 夕貴	モノアミン系ニューロンに投射するオレキシンニューロンの制御機構の解明	1,000
	国際統合睡眠医科学研究機構	研究員	Yoan Cherasse	Elucidation of the molecular mechanisms of zinc-induced sleep	1,000
	計算科学研究センター	准教授	原田 隆平	中分子環状ペプチドの膜透過性を評価する分子シミュレーション技術の創出	750
生存ダイナミクス研究センター	助教	堀越 直樹	滑膜肉腫におけるエピゲノム異常の構造生物学的研究	1,000	

オ 研究基盤支援プログラムBタイプ（ステップ・アップ支援）申請・採択・配分状況
（令和元年度）

（ア）総括表

（単位：千円）

組織名	Bタイプ		
	申請件数	採択件数	配分金額
人文社会系	4	3	2,800
数理物質系	2	2	1,755
システム情報系	3	2	1,500
生命環境系	5	5	4,350
人間系	1	1	806
医学医療系	1	1	900
図書館情報メディア系	1	1	627
計算科学研究センター	2	2	1,900
合 計	19	17	14,638

（イ）採択状況

（単位：千円）

	所属部局・職		氏 名	研 究 課 題 名	配 分 額
	B タ イ プ	人文社会系	教授	小野 正樹	日本語母語話者と非母語話者がわかり合えるための日本語の基盤研究
人文社会系		准教授	滝沢 誠	東日本太平洋岸域における前期古墳の展開と広域ネットワークの形成に関する研究	1,000
人文社会系		助教	前田 修	古代西アジアにおける黒曜石・土器・ビチュメン交易の複合的考古学研究	900
数理物質系		准教授	磯部 高範	次世代高速パワーデバイスによるモータ駆動用正弦波電圧出力インバータ	855
数理物質系		助教	丹羽 秀治	ナトリウム二次電池正極材料の複合的電子状態解析	900
システム情報系		教授	相山 康道	高速機敏な環境接触作業を可能にする衝突安全ロボット関節機構の開発と制御	800
システム情報系		准教授	境野 翔	機能的電気刺激を用いた身体運動の同期による技能伝承	700
生命環境系		准教授	大津 巖生	システイン生産大腸菌を利用したエルゴチオネイン発酵生産	900
生命環境系		教授	松倉 千昭	“茎”における同化産物転流制御の実態解明～葉と果実の間で何が起きているのか？	900
生命環境系		准教授	UTADA ANDREW	Quantifying colonization, physicochemical forces, and biofilm mechanics of an oil-degrading bacterium at the oil-water interface	900
生命環境系	准教授	桑山 秀一	抗ガン剤増強薬開発を目指したカフェインによる細胞死経路関連遺伝子の探索	750	

生命環境系	准教授	野口 良造	流れの可視化による食品有機性油分含有排水の物理化学的管閉塞メカニズムの解明	900
人間系	准教授	宮本 昌子	ことばの教室入級審査・重複例の支援に役立つ発話・言語障害包括アセスメントの開発	806
医学医療系	教授	佐藤 幸夫	耐圧強度・組織追従性に優れた生体親和性呼吸器外科用接着剤の開発	900
図書館情報メディア系	准教授	辻 慶太	公共図書館における図書の購入・除籍に関する推薦システムの開発	627
計算科学研究センター	助教	松枝 未遠	準リアルタイム複数モデル・初期値アンサンブルによる顕著現象の予測改善に関する研究	1,000
計算科学研究センター	教授	天笠 俊之	セマンティクスを考慮した IoT/CPS のためのデータ連携アーキテクチャ	900

カ 研究基盤支援プログラムCタイプ(ステップ・アップ強化)配分状況 〈令和元年度〉

(千円)

採択部局	配分額
人文社会系	300
システム情報系	2,100
生命環境系	561
人間系	500
芸術系	2,000
医学医療系	1,000
計算科学研究センター	250
合計	6,711

(3) その他の研究費

ア 受託研究費

(金額：円)

部 局 名	受託研究費		医薬品等受託研究費		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
人文社会系	1	9,907,700			1	9,907,700
ビジネスサイエンス系	3	2,544,300			3	2,544,300
数理工学系	37	376,988,960			37	376,988,960
システム情報系	66	519,828,215			66	519,828,215
生命環境系	54	611,875,525			54	611,875,525
人間系	8	21,480,162			8	21,480,162
体育系	16	214,800,477			16	214,800,477
芸術系	3	13,254,809			3	13,254,809
医学医療系	55	397,330,337			55	397,330,337
図書館情報メディア系	6	150,443,900			6	150,443,900
計算科学研究センター	19	396,086,423			19	396,086,423
生存ダイナミクス研究センター	5	67,064,636			5	67,064,636
アイソトープ環境動態研究センター	2	17,190,910			2	17,190,910
国際統合睡眠医科学研究機構	15	273,204,179			15	273,204,179
地中海・北アフリカ研究センター	1	24,443,900			1	24,443,900
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター	2	211,285,000			2	211,285,000
人工知能科学センター	1	44,423,000			1	44,423,000
プレジジョン・デザイン開発研究センター	1	3,900,000			1	3,900,000
ヘルスサービス開発研究センター	4	25,850,250			4	25,850,250
テラーメイドQOLプログラム開発研究センター	2	45,794,800			2	45,794,800
附属病院（つくば臨床医学研究開発機構）	120	1,210,782,928	322	115,669,000	442	1,326,451,928
合 計	421	4,638,480,411	322	115,669,000	743	4,754,149,411

※医薬品等受託研究費は、産学連携等実施状況調査における治験等受入実績の件数、金額である。

〔過去5年間の推移〕

(金額：千円)

		27	28	29	30	31
		受託研究費	件数	322	357	400
	金額	4,928,020	4,940,870	4,260,627	4,734,611	4,638,480
医薬品等受託研究費	件数	288	314	291	328	322
	金額	129,271	182,124	57,027	133,071	115,669
合 計	件数	610	671	691	772	743
	金額	5,057,291	5,122,994	4,317,654	4,867,683	4,754,149

※医薬品等受託研究費は、産学連携等実施状況調査における治験等受入実績の件数、金額である。

イ 寄附金(学術研究関係)および研究助成金 <(令和元年度)平成31年度>

(金額:円)

部 局 名	1. 寄附金 (学術研究関係)		2. 研究助成金		3. 寄附研究部門		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
人文社会系	3	1,800,000	10	89,117,486	0	0	13	90,917,486
ビジネスサイエンス系	4	4,900,000	5	3,050,000	0	0	9	7,950,000
教理物質系	20	11,997,725	32	64,280,000	0	0	52	76,277,725
システム情報系	36	29,041,005	20	19,204,048	0	0	56	48,245,053
生命環境系	30	31,110,840	34	45,227,270	0	0	64	76,338,110
人間系	4	3,070,000	2	1,850,000	0	0	6	4,920,000
人間系(東京地区)	0	0	4	3,637,000	0	0	4	3,637,000
体育系	25	22,719,099	12	13,920,000	0	0	37	36,639,099
芸術系	6	1,828,320	6	4,355,524	0	0	12	6,183,844
医学医療系	337	253,988,900	150	148,804,780	1	40,000,000	488	442,793,680
図書館情報メディア系	3	2,816,033	5	5,200,000	0	0	8	8,016,033
国際統合睡眠医科学研究機構	0	0	13	12,700,000	0	0	13	12,700,000
計算科学研究センター	1	400,000	0	0	0	0	1	400,000
生存ダイナミクス研究センター	2	2,250,000	11	18,700,000	0	0	13	20,950,000
プラズマ研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
人工知能科学研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
下田臨海実験センター	0	0	0	0	0	0	0	0
アイトープ環境動態研究センター	1	597,700	0	0	0	0	1	597,700
地中海・北アフリカ研究センター	4	4,547,358	0	0	0	0	4	4,547,358
つくば機能植物イノベーション研究センター	1	650,281	0	0	0	0	1	650,281
サイバニクス研究センター	1	2,000,000	0	0	0	0	1	2,000,000
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター	2	23,000,000	0	0	0	0	2	23,000,000
プレジジョン・メディシン開発研究センター	2	6,461,048	5	8,000,000	0	0	7	14,461,048
未来社会工学開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツイノベーション開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルスケアシステム開発研究センター	5	20,797,880	2	1,200,000	0	0	7	21,997,880
テラーメイドQOLプログラム開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
働く人への心理支援開発研究センター	4	5,700,000	0	0	0	0	4	5,700,000
イノベティブ計測技術開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
革新的創薬開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
高細精医療イノベーション研究コア	1	500,000	0	0	0	0	1	500,000
研究基盤総合センター	0	0	0	0	0	0	0	0
つくば臨床医学研究開発機構	0	0	0	0	0	0	0	0
グローバルコミュニケーション教育センター	0	0	0	0	0	0	0	0
学術情報メディアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0
附属病院	6	4,810,000	20	19,000,000	7	553,172,000	33	576,982,000
附属学校	0	0	2	1,180,000	0	0	2	1,180,000
計	498	434,986,189	333	459,426,108	8	593,172,000	839	1,487,584,297

定義

1. 寄附金(学術研究関係)……国立大学法人筑波大学寄附金等取扱規程第2条第1項
2. 研究助成金……国立大学法人筑波大学寄附金等取扱規程第2条第2項
3. 寄附研究部門……国立大学法人筑波大学寄附講座及び寄附研究部門取扱規程第2条第2項

(4) 日本学術振興会特別研究員採用状況

区 分 \ 年 度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用
S P D		0		0		0		0		0		1
P D	62	9	51	8	61	8	30	5	34	8	44	14
D C	337	72	328	70	320	58	277	64	296	65	342	52
計	399	81	379	78	381	66	307	69	330	73	386	67

区 分 \ 年 度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用
R P D	7	0	6	3	7	3	13	0	5	0	8	4

(5)国際テニュアトラック採用状況 <令和元年度>

配置組織名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
計算科学研究センター		4					2
生命領域学際研究センター(～30.3) 生存ダイナミクス研究センター(30.4～)	2		1				1
人文社会国際比較研究機構 (人文社会系)		3					
数理物質融合科学センター (数理物質系)		3	1				
地球・人類共生科学研究機構 (生命環境系)		2	1				
数理物質系		1	1				1
生命環境系		1					2
人間系		1					
体育系		1					
医学医療系		3					
合計	2	19	4	0	0	0	6

(6) 論文数等

ア 査読付き論文数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	合計
大学全体	3214	3326	3455	3636	3624	17255
主要部局別						
人文社会系	36	32	36	40	31	175
ビジネスサイエンス系	39	27	45	41	44	196
数理物質系	787	808	734	779	778	3886
システム情報系	475	486	522	534	513	2530
生命環境系	471	479	414	455	468	2287
人間系	56	48	53	57	50	264
体育系	117	122	120	136	128	623
芸術系	11	9	20	27	13	80
医学医療系	741	794	828	871	815	4049
図書館情報メディア系	44	91	91	77	75	378
計算科学研究センター	160	150	161	181	169	821
生存ダイナミクス研究センター	44	50	43	46	40	223

イ TOP1%ジャーナル掲載論文数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	合計
大学全体	69	89	77	76	100	411
主要部局別						
人文社会系	1	2	1	2	0	175
ビジネスサイエンス系	0	0	0	0	1	196
数理物質系	17	25	15	15	20	3886
システム情報系	6	14	9	6	8	2530
生命環境系	20	25	15	9	13	2287
人間系	3	2	3	2	1	264
体育系	1	6	6	3	8	623
芸術系	0	0	0	0	0	80
医学医療系	16	22	25	31	28	4049
図書館情報メディア系	0	1	0	0	0	378
計算科学研究センター	2	5	2	1	2	821
生存ダイナミクス研究センター	1	1	1	1	6	223

ウ 学術図書数

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	合計
大学全体	90	82	92	75	39	378
主要部局別						
人文社会系	2	2	9	1	1	175
ビジネスサイエンス系	0	1	0	1	1	196
数理物質系	7	11	8	2	2	3886
システム情報系	8	8	9	7	2	2530
生命環境系	17	14	10	9	9	2287
人間系	1	0	5	5	1	264
体育系	3	3	2	4	5	623
芸術系	1	0	1	0	2	80
医学医療系	16	14	12	11	3	4049
図書館情報メディア系	1	0	1	0	0	378
計算科学研究センター	3	0	0	4	1	821
生存ダイナミクス研究センター	0	0	0	2	0	223

エ 産学共著論文等実績

(2017年 - 2019年)

種類	論文数	被引用数	被引用率
産学共著論文	681	10,161	14.9
国際共著論文	3,572	41,680	11.7
国内共著論文	4,705	20,116	4.3
学内共著論文	1,979	5,443	2.8
単著論文	459	814	1.8

※ Scivalを利用して抽出

※ データ抽出日 令和2年9月15日

(7) 各種受賞学会賞等

所属	氏名	受賞名	受賞月
人文社会系	卯城 祐司	2019年度大学英語教育学会賞（論文部門）	R1. 8
人文社会系	モリス・ジェームズ・ハリー	Surveillance Studies Network Early Career Researcher Award 2018	R1. 5
人文社会系	金谷 優	日本英語学会賞（著書）	R1. 11
人文社会系	根本 達	2019年度（第7回）日本南アジア学会賞	R1. 10
数理物質系	所 裕子	日本物理学会 第1回米沢富美子記念賞	R2. 3
数理物質系	近藤 剛弘	1st International Symposium Hydrogenomics combined with 14th International Symposium Hydrogen & Energy Best Poster Award 2020	R2. 1
数理物質系	小島 隆彦	日本化学会第37回学術賞	R2. 1
数理物質系	藤田 健志	有機合成化学協会 令和元年度有機合成化学奨励賞	R1. 12
数理物質系	菱田 真史	日本化学会コロイドおよび界面化学部会 平成31年度科学奨励賞	R1. 11
数理物質系	菱田 真史	Stig Sunner Memorial Award	R1. 8
数理物質系	藤岡 淳	日本物理学会若手奨励賞	R1. 10
数理物質系	青嶋 誠	ABRAHAM WALD PRIZE in Sequential Analysis 2019	R1. 6
数理物質系	矢田 和善	ABRAHAM WALD PRIZE in Sequential Analysis 2019	R1. 6
数理物質系	鈴木 義和	日本セラミックス協会フェロー	R1. 6
数理物質系	鈴木 義和	平成30年度 粉体粉末冶金協会 研究進歩賞	R1. 6
数理物質系	山本 洋平	2019年度第43回 レーザー学会奨励賞	R1. 5
数理物質系	藤谷 忠博	石油学会学会賞	R1. 5
数理物質系	重川 秀実	紫綬褒章	R1. 5

システム情報系	谷口 守	日本不動産学会学会賞・著作賞	R1.12
システム情報系	金川 哲也	The 16th International Conference on Flow Dynamics Best Presentation Award for Young Researcher	R1.12
システム情報系	嶋村 耕平	高柳健次郎財団 研究奨励賞	R1.11
システム情報系	イリチュ (佐藤) 美佳	Complex Adaptive Systems2019 Best Paper Award	R1.11
システム情報系	山海 嘉之	紫綬褒章	R1.11
システム情報系	Tuan Phung-Duc	Best Paper Award: 14th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2019)	R1.8
システム情報系	和田 健太郎	土木学会 論文奨励賞	R1.6
システム情報系	谷口 守	日本都市計画学会 論文賞	R1.5
システム情報系	金川 哲也	日本機械学会奨励賞(研究)	H31.4
システム情報系	合原 一究	平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	H31.4
生命環境系	菅谷 純子	独立行政法人日本学術振興会 平成30年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当)及び国際事業委員会書面審査員の表彰	R1.6
生命環境系	呉羽 正昭	2018年度第12回日本観光研究学会学会賞 観光著作賞(学術)	R1.5
生命環境系	磯田 博子	Research Award	R1.11
生命環境系	高橋 将人	日本生物工学会 第27回 生物工学論文賞	R1.9
生命環境系	青柳 秀紀	日本生物工学会 第27回 生物工学論文賞	R1.9
生命環境系	壽崎 拓哉	日本植物学会 奨励賞	R1.9
生命環境系	堀江 健生	令和元年度日本動物学会奨励賞	R1.9
人間系	徳永 智子	第8回日本教育社会学会奨励賞【著書の部】	R1.9
人間系	飯田 順子	第26回日本行動医学会学術総会優秀演題賞	R1.12

人間系	大塚 泰正	第26回日本行動医学会学術総会優秀演題賞	R1.12
人間系	藤 桂	第26回日本行動医学会学術総会優秀演題賞	R1.12
人間系	堀口 康太	第26回日本行動医学会学術総会優秀演題賞	R1.12
体育系	大熊 燦雨	2019年東北アジア体育・スポーツ史学会第13回大会最優秀論文賞	R1.8
芸術系	RodrigoQueiroku hniFERNANDES	キッズデザイン賞	R1.8
芸術系	池田 真利子	地理空間学会奨励賞	R1.6
芸術系	三田村 駿右	第22回文化庁メディア芸術祭 功労賞	R1.6
医学医療系	道喜 将太郎	第29回体力・栄養・免疫学会【倉掛賞】優秀演題賞	R1.8
医学医療系	ザボロノクアレクサン ドル	The 15th Kenichi Uemura Award (Second Place)	R1.8
医学医療系	道喜 将太郎	日本産業衛生学会 産業衛生学雑誌優秀論文賞	R1.5
医学医療系	石井 一弘	第48回医療功労賞	R2.2
医学医療系（トランスポーター医学 研究センター）	國松 淳	日本生理学会奨励賞	R2.3
図書館情報メディア系	関 洋平	国際規格開発賞	R1.12
図書館情報メディア系	松原 正樹	AIPネットワークラボ長賞	H31.4
計算科学研究センター	朴 泰祐	Asia HPC Leadership Award (SCA20)	R2.2
計算科学研究センター	原田 隆平	分子シミュレーション学会学術賞	R1.12
計算科学研究センター	佐藤 駿丞	第14回日本物理学会若手奨励賞	R1.10
計算科学研究センター	KaiWen	ASIAN NUCLEAR PHYSICS ASSOCIATION & AAPPS-DNP AWARD FOR YOUNG SCIENTIST	R1.8
国際統合睡眠医科学研究機構	征矢 晋吾	第10回武田科学振興財団薬科学シンポジウム Excellent Poster Award	R2.1

国際統合睡眠医科学研究機構	征矢 晋吾	次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム2019 若手優秀発表賞	R1.12
国際統合睡眠医科学研究機構	斉藤 毅	SelectBIO Flow Chemistry Asia 2019 Reaction Chemistry & Engineering poster prize	R1.11
国際統合睡眠医科学研究機構	林 悠	第9回フロンティアサロン永瀬賞 特別賞	R1.8
国際統合睡眠医科学研究機構	齊藤 夕貴	第24回日本睡眠学会研究奨励賞	R1.5
附属病院	星 拓男	日本臨床麻酔学会誌賞	R1.11

4 産学連携関係

(1) 民間等との共同研究費

ア 総表

(金額：円)

部 局 名	件 数	研究員 受入数	金 額
人文社会系	1	0	2,000,000
ビジネスサイエンス系	6	0	8,662,500
数理物質系	57	11	249,567,909
システム情報系	89	1	204,594,456
生命環境系	97	19	255,001,688
人間系	8	0	7,388,400
体育系	66	0	66,888,913
芸術系	7	3	14,061,280
医学医療系	62	9	123,506,750
図書館情報メディア系	9	1	90,041,230
計算科学研究センター	10	0	29,960,000
プラズマ研究センター	27	0	168,274,000
生存ダイナミクス研究センター	8	1	73,772,000
国際産学連携本部	8	4	215,926,430
学術情報メディアセンター	5	1	1,548,500
サイバニクス研究センター	1	0	4,400,000
国際統合睡眠医科学研究機構	18	4	82,208,000
附属病院（つくば臨床医学研究開発機構）	18	1	382,339,983
陽子線医学利用研究センター	1	0	0
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター	4	0	36,880,000
アイソトープ環境動態研究センター	2	0	2,000,000
ヘルスサービス開発研究センター	5	3	33,160,000
スポーツイノベーション開発研究センター	1	0	1,630,200
テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター	4	0	2,640,000
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター	1	0	550,000
計	515	58	2,057,002,239

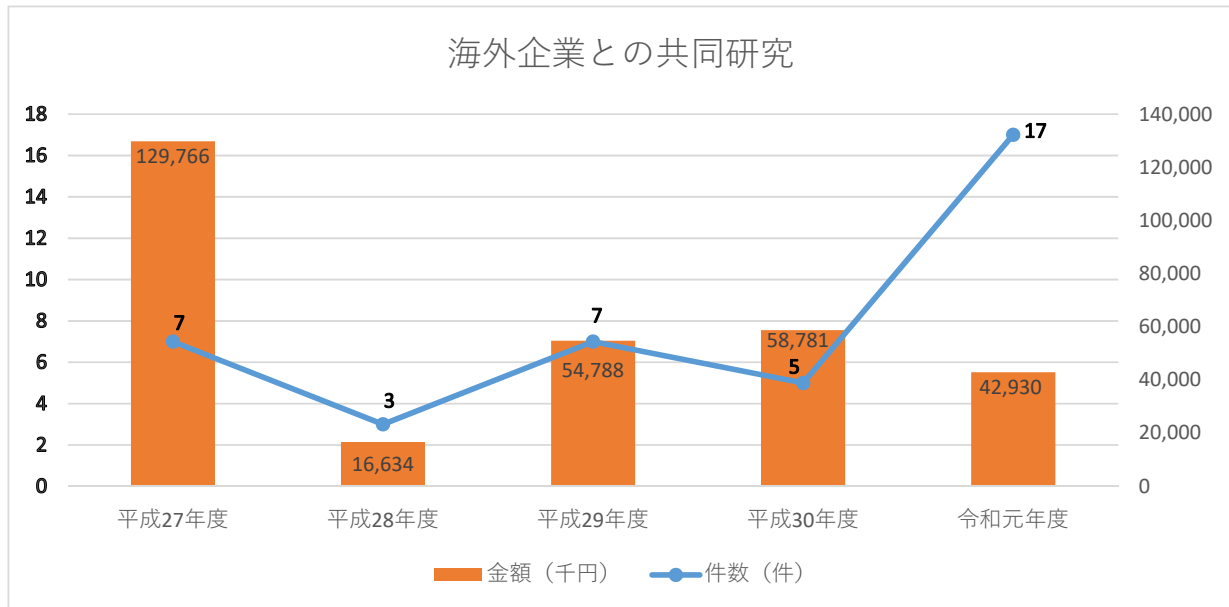
〔過去5年間の推移〕

(金額：千円)

年度	27	28	29	30	31
項					
件 数	394	472	516	542	515
金 額	1,466,370	1,318,676	1,410,848	2,077,818	2,057,002

イ 海外企業との共同研究

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数（件）	7	3	7	5	17
金額（千円）	129766	16634	54788	58781	42930



(2) 産学連携推進プロジェクト申請・採択・配分状況(令和元年度)

ア 総括表

(単位:千円)

系等	つくば産学連携強化プロジェクト			共同研究実用化プーストプロジェクト			産学連携推進プロジェクト						合計		
							共同研究プロジェクト			ベンチャー創業プロジェクト					
	申請件数	採択件数	採択金額	申請件数	採択件数	採択金額	申請件数	採択件数	採択金額	申請件数	採択件数	採択金額	申請件数	採択件数	採択金額
人文社会系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ビジネスサイエンス系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
数理工学系	16 (0)	9 (0)	8,500 (0)	3 (0)	2 (0)	5,000 (0)	6 (1)	2 (1)	500 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	25 (1)	13 (1)	14,000 (0)
システム情報系	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	3,000 (0)	10 (4)	7 (4)	1,500 (0)	5 (3)	4 (3)	500 (0)	20 (7)	12 (7)	5,000 (0)
生命環境系	22 (0)	13 (0)	13,000 (0)	3 (0)	1 (0)	2,000 (0)	4 (2)	4 (2)	1,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (2)	18 (2)	16,000 (0)
人間系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
体育系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2,000 (0)
芸術系	1 (0)	1 (0)	500 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	500 (0)
医学医療系	9 (0)	5 (0)	5,000 (0)	3 (0)	1 (0)	4,000 (0)	2 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (1)	7 (1)	9,000 (0)
図書館情報メディア系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2,000 (0)
国際統合睡眠医科学研究機構	1 (0)	1 (0)	1,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1,000 (0)
生存ダイナミクス研究センター	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
つくば機能植物イノベーション研究センター	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
大学発ベンチャー企業等	/	/	/	/	/	/	/	/	/	6 (0)	3 (0)	0 (0)	6 (0)	3 (0)	0 (0)
合計	53 (0)	29 (0)	28,000 (0)	14 (0)	7 (0)	18,000 (0)	22 (8)	14 (8)	3,000 (0)	11 (3)	7 (3)	500 (0)	100 (11)	57 (11)	49,500 (0)

注) ()内の数字は、継続研究課題の申請件数、採択件数及び採択金額で内数。

イ 種目別採択状況

(単位:千円)

種類	研究代表者		プロジェクト名	配分額	
	配分先(所属)・職	氏名			
共同研究実用化ブーストプロジェクト	元年度新規採択分(採択研究)	数理物質系 教授	山本洋平	室温印刷技術による自然素材エレクトロニクスデバイス・インターフェイスの構築	3,000
		数理物質系 准教授	後藤博正	バイオカーボンヘリカルコイルを用いた電磁波遮断材料の実用化	2,000
		システム情報系 准教授	亀田敏弘	長寿命低軌道超小型観測衛星の実用化と活用に関する研究	3,000
		生命環境系 助教	蓑田歩	耐酸性を強化したパラジウム選択的吸着材の開発	2,000
		体育系 研究員	尹之恩	高精度認知機能評価法と認知機能向上運動を融合した高齢者のための新・認知機能管理システムの構築	2,000
		医学医療系 講師	松井裕史	藻由来カロテノイド色素内包ナノ粒子による新規抗酸化薬剤の効果検証	4,000
		図書館情報メディア系 准教授	手塚太郎	深層学習によるパーキンソン病の早期スクリーニング技術の開発	2,000
元年度新規採択分(共同研究プロジェクト)	元年度新規採択分(共同研究プロジェクト)	数理物質系 講師	柏木隆成	宇宙産業に向けた高強度・狭線幅テラヘルツ波発振器の開発	500 (ILC等施設利用)
		システム情報系 教授	相山康道	ロボット作業機に関する研究 - 床下で作業する移動マニピュレータの高機能化とより良い操作手法の研究	500 (ILC等施設利用)
		システム情報系 教授	中内靖	水中ドローンと連動する海洋IoT システムの開発	500 (ILC等施設利用)
		システム情報系 准教授	山際伸一	高性能ストリームデータ圧縮技術を利用した高解像度映像編集のためのアクセラレータハードウェアの開発	500 (ILC等施設利用)
		生命環境系 教授	高谷直樹	うちで健康チェック:セルフメディケーション推進特別研究事業	500 (ILC等施設利用)
		生命環境系 准教授	大津厳生		500 (ILC等施設利用)
		生命環境系 准教授	坂本和一	健康長寿に向けた植物生理機能物質の生理作用解析と機能性ヘルスケア製品の開発	500 (ILC等施設利用)

種類	研究代表者		プロジェクト名	配分額
	配分先(所属)・職	氏名		
産学連携推進プロジェクト	30年度継続採択分(共同研究プロジェクト)	数理工学系 助教	森 龍也	テラヘルツ分光による機能性ガラスの新規物性評価法の普及のための基盤構築とニーズ探索 0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 教授	伊藤 誠	視野障害者運転能力の評価と支援 0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 教授	岡島 敬一	雰囲気熱処理炉排気ガス有効活用のためのレジリエント燃料電池発電システムの開発 0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 准教授	山口 佳樹	AI支援型システムの学習効率を高めるフレームワーク構築 0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 准教授	横田 茂	宇宙輸送機用の次世代大電力電気推進機の開発 0 (ILC等施設利用)
		生物環境系 助教	石賀 康博	セルロースナノファイバーを用いた植物保護資材の開発 0 (ILC等施設利用)
		生物環境系 助教	養田 歩	硫酸性温泉紅藻を利用した低濃度貴金属リサイクルシステムの開発 0 (ILC等施設利用)
		医学医療系 教授	新井 哲明	機能的近赤外分光分析法 (Functional near-infrared spectroscopy : fNIRS) による認知症および軽度認知機能障害 (MCI) における認知機能の低下、およびその抑制効果をモニターする計測法の開発 0 (ILC等施設利用)
	元年度新規採択分(ベンチャー創業者プロジェクト)	システム情報系 教授	星野聖	眼のほぼ横に設置した小型カメラを用いた視線追跡と眼球回旋運動の同時計測システム開発と事業化 500 (ILC等施設利用)
		人間総合科学研究科	遠山寛人	超高精細イメージでの文化財の保存と活用 0 (ILC等施設利用)
		株式会社デバイスラボ	大毛利健治	雑音制御エレクトロニクスのための研究開発 0 (ILC等施設利用)
		株式会社Sportip	高久侑也	スポーツ・トレーニング指導AIの研究開発 0 (ILC等施設利用)
	(ベンチャー創業者プロジェクト)	システム情報系 教授	櫻井 鉄也	次世代精密シミュレーションのための数理解析ソフトウェア開発 0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 教授	鈴木 健嗣	在宅嚙下機能スクリーニングを実現する嚙下機能サービス開発 0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 助教	善甫 啓一	知覚拡張技術のサービス化と社会実装 0 (ILC等施設利用)

(3) 取得特許等（令和2年年3月31日現在）

ア 発明等の届け出状況

年度	発明等の届け出数	発明者に権利帰属	法人(国)に権利帰属数
26	142	28	114
27	102	20	82
28	132	6	115
29	125	12	113
30	128	14	114
R1	139	20	119

イ 現有特許件数

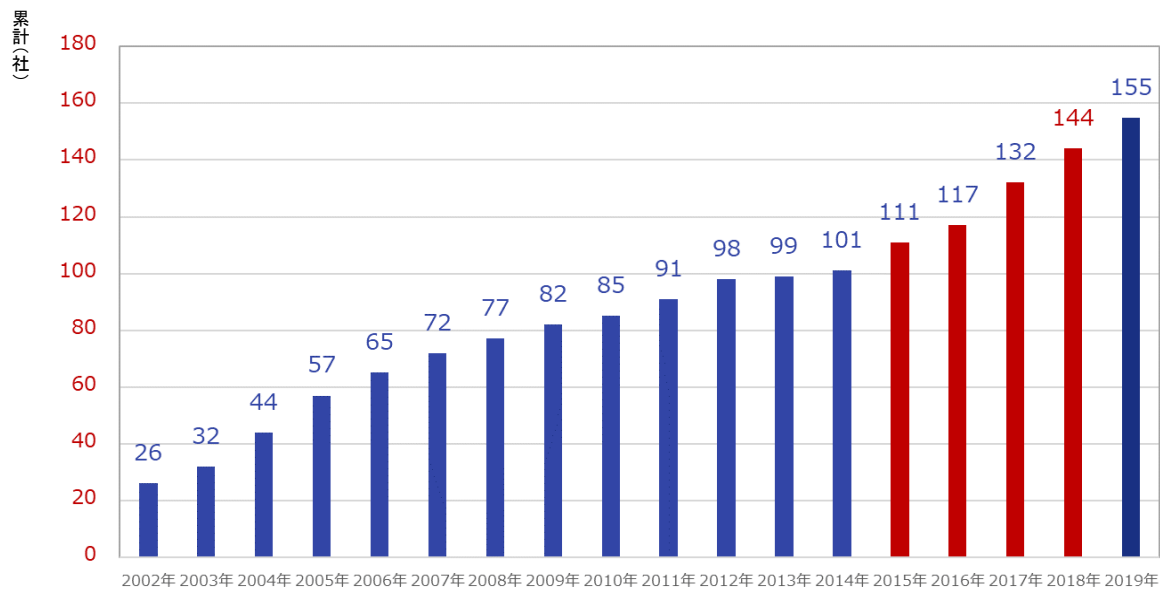
	国内特許件数	外国特許件数	合計
登録済	453	378	831
申請中	304	192	496

(4)アントレプレナーシップ教育実施状況

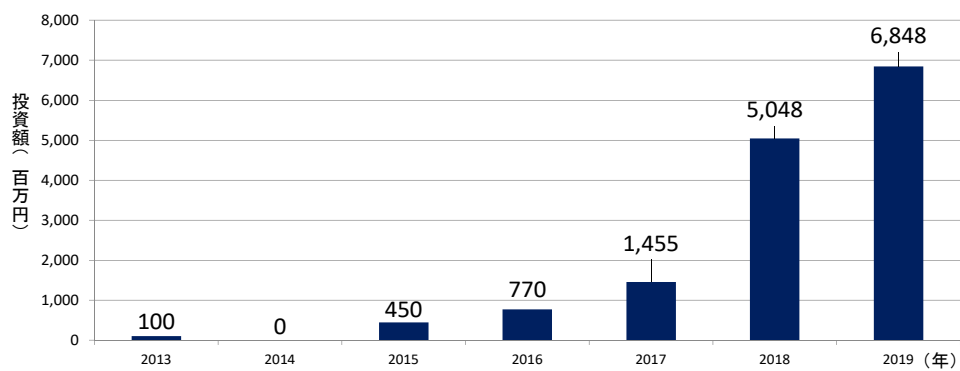
	次世代起業家養成講座	次世代起業家養成のための経営・知財知識講座	TCC-Basic	TCC-Advanced	EDGE-NEXT	
			※2018年度からEDGE-NEXTの ①基礎編アイデアベースとして実施	※2018年度からEDGE-NEXTの ②発展編アイデアベースとして実施	※2018年度から ③基礎編研究成果ベースとして実施	※2017年度から ④発展編研究成果ベースとして実施
2019	131	23	56	21	45	41
2018			50	26	39	29
2017			38	22		56
2016			32	21		

(5) 大学発ベンチャー

ア 大学発ベンチャー累計設立数



イ 大学発ベンチャー資金調達額



5 学生生活関係
 (1) 学生の表彰

令和元年6月

(団体)

No.	団体名称 代表者	適用 条項	表 彰 に 価 す る 行 為
1	筑波大学代表 ICPC チーム 「iwiwi」 【代表者】 情報学群情報科学類 (3年次) こいけ ゆうき 小池 悠生	第4条 第1項 第2号	2018-2019年シーズンの国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM-ICPC)において、横浜開催の地区大会(4位)と台北開催の地区大会(5位)を勝ち抜いて、2019年4月1日開催のワールドファイナル(世界大会)に出場した。世界大会で6問を正答し、21位(日本からの参加4大学のうち2位)を獲得した。

令和元年9月

No.	所属(年次) 氏 名	適用 条項	表 彰 に 価 す る 行 為
1	生命環境科学研究科 博士後期課程 持続環境学専攻 (3年次) フ チリ Hu Qili	第4条 第1項 第1号	環境分野において一流国際誌 Chemical Engineering Journal (インパクト係数 6.74) などの著名な国際誌等に学术论文 6 編が掲載された(筆頭著者としての論文は 5 編)。
2	生命環境科学研究科 博士後期課程 持続環境学専攻 (3年次) ゲン デン 原 田	第4条 第1項 第1号	汚泥処理・バイオマス資源化分野において著名な国際誌 (Applied Energy (IF:7.9) ;本分野最高峰の学術誌) 等に学术论文 7 編(筆頭著者としての論文 4 編) が掲載された。

令和2年3月
(大学院)

No.	所属 (年次) 氏名	適用 条項	表彰に値する行為
1	教育研究科 教科教育専攻 (1年次) くらまえ ともこ 藏前 智子	第4条 第1項 第1号	1. 日本数学教育学会の第52回秋期研究大会に投稿した次の研究論文が審査の結果、論文発表として採択された。 「数学の学習指導に関する教師と生徒の認識についての一考察—TIMSS2015の調査結果に基づく分析を通して—」(日本数学教育学会第52回秋期研究大会発表集録, pp.9-16, 2019年) 2. 日本数学教育学会 学会賞(大学院生研究奨励部門)を受賞した。
2	ビジネス科学研究科 博士後期課程 企業科学専攻 (3年次) なかがわ けい 中川 慧	第4条 第1項 第1号	・日本テクニカルアナリストジャーナル 2016年 優秀論文賞, 2017年 佳作 ・人工知能学会 2018年 研究会優秀賞 ・日本FP学会 2018年 優秀論文賞 など関連の研究成果について学会から表彰された。
3	数理物質科学研究科 博士後期課程 電子・物理工学専攻 (3年次) こ かいりゅう 胡 凱龍	第4条 第1項 第1号	・学術誌への論文掲載や学会発表 筆頭論文3報、国際学会プロシーディングス1報と共著論文7報出版し、筆頭論文3報うち2報は国際的に評価されている雑誌(ACS Energy Letters、Journal of Materials Chemistry A)に掲載された。
4	数理物質科学研究科 博士後期課程 物性・分子工学専攻 (3年次) えぐち なおと 江口 直人	第4条 第1項 第1号	1) Interdisciplinary workshop Science and Patent 2017 9. 26 Rafael Kiebooms Prize 2) 日本磁気科学会 研究奨励賞 2019. 11. 13 (35才以下の口頭発表での若手研究者対象)

5	システム情報工学 研究科 博士後期課程 構造エネルギー 工学専攻 (3年次) くぼ がい 久保 凱	第4条 第1項 第1号	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付論文7件を公表しており、そのうち1件が、固体力学分野において権威ある International Journal of Mechanical Sciences (IF : 4.134) に第一著者として掲載された。 ・機械工学分野において権威ある学術団体である日本機械学会から三浦賞が授与された。 ・日本計算工学会から計算工学講演会ベストペーパーアワードを授与された。
6	システム情報工学 研究科 博士後期課程 社会工学専攻社会工学 学位プログラム (3年次) よう めいそう 楊 明聡	第4条 第1項 第1号	査読付き国際学術雑誌論文および国際会議論文は計6編を発表した。 [1]M. Yang, Q. Wu, K. Guo, and Y. Zhang: Evaluation of Device Cost, Power Consumption and Network Performance in Spatially and Spectrally Flexible SDM Optical Networks, IEEE/OSA J. Lightwave Technology, Vol. 37, No. 20, pp. 5259-5272, (October 2019). (2018年 IF 4.162, SNIP 1.923, SJR 1.449) [2]M. Yang, Q. Wu, K. Guo, and Y. Zhang: Evaluation of Network CAPEX and Performance in SDM Optical Networks, Proc. IEEE 24th OptoElectronics and Communications Conf./Int. Conf. Photonics in Switching and Computing (OECC/PSC 2019), 3 pages, Fukuoka, Japan (July 2019). [3]M. Yang, Q. Wu, and Y. Zhang: Joint Assignment of Spatial Granularity Routing, Modulation, and Spectrum in SDM-EONs: Minimizing the Network CAPEX Considering Spectrum, WSS, and Laser Resources, IEEE/OSA J. Lightwave Technology, Vol. 36, No. 18, pp. 4153-4166, (September 2018). (2018年 IF 4.162, SNIP 1.923, SJR 1.449) 他3件

7	<p>システム情報工学 研究科 博士後期課程 コンピュータ サイエンス専攻 (3年次)</p> <p>藤井 達哉</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>[審査付き論文・レター]</p> <p>1. T. Fujii, K. Shouno, "A Reduction of the Number of Components Included in Direct Simulation Type Active Complex Filter," IEICE Trans., Vol. E102-A, No. 06, pp842-844, Jun. 2019.</p> <p>2. 藤井達哉, 庄野和宏, "片側接地の虚数抵抗を用いた複素 RiCR フィルタの一構成," 電気学会論文誌(C), Vol. 139, No. 1, pp. 2-11, Jan. 2019.</p> <p>[審査付き国際会議発表]</p> <p>3. T. Fujii, K. Araki, K. Shouno, "Synthesis of a Wideband Complex Filter Suitable for Its Active Realization Using CCII's," ISCIT2019, pp. 205-210, Sep. 2019.</p> <p>[受賞]</p> <p>4. Best Paper Award 受賞 (審査付き国際会議 ITC-CSCC2017 の論文に対し 2018 年 7 月受賞)</p>
8	<p>生命環境科学研究科 博士後期課程 地球環境科学専攻 (3年次)</p> <p>王 汝慈 (WANG RUCI)</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p><u>学術誌への論文掲載</u></p> <p>1) Ruci WANG, Yuji MURAYAMA, Spontaneous simulation of land surface temperature in Tianjin city, China, Tsukuba Geoenvironmental Sciences, 14, pp. 37-44, 2018</p> <p>2) Ruci Wang, Hao Hou and Yuji Murayama, Scenario-Based Simulation of Tianjin City Using a Cellular Automata-Markov Model, Sustainability, 10, 2633, 2018 (IF: 2.592)</p> <p>3) Ruci Wang, Ahmed Derdouri and Yuji Murayama, Spatiotemporal Simulation of Future Land Use/Cover Change Scenarios in the Tokyo Metropolitan Area, Sustainability, 10, 2056, 2018 (IF: 2.592)</p> <p>4) Ruci Wang and Yuji Murayama, Change of Land Use/Cover in Tianjin City Based on the Markov and Cellular Automata Models, ISPRS International Journal of Geo-Information, 6, 150, 2017 (IF: 1.840)</p>
9	<p>生命環境科学研究科 博士後期課程 生物科学専攻 (3年次)</p> <p>城倉 圭</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p><u>学術誌への論文掲載</u></p> <p>1) Kei Jokura, Daisuke Shibata, Katsushi Yamaguchi, Kogiku Shiba, Yumiko Makino, Shuji Shigenobu, Kazuo Inaba, Current Biology, 29, 3510-3516, 2019 (IF: 9.193)</p> <p><u>学会発表における表彰</u></p> <p>1) 生物物理学会学生発表賞、第 56 回日本生物物理学会年会、2018.9.16</p>

10	<p>生命環境科学研究科 博士前期課程 環境科学専攻 (2年次)</p> <p>わたなべ れいや 渡邊 黎也</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>学術誌への論文掲載</p> <p>1) 渡邊黎也・日下石碧・横井智之 (2019) 水田内の環境と周辺の景観が水生昆虫群集 (コウチュウ目・カメムシ目) に与える影響. 保全生態学研究, 24: 49-60. (IF: 0.13)</p> <p>2) Watanabe R (2019) Field observation of predation on a horsehair worm (Gordioida: Chordodidae) by a diving beetle larva <i>Cybister brevis</i> Aubé (Coleoptera: Dytiscidae). <i>Entomological Science</i>, 22: 230-232. (IF: 1.073)</p> <p>3) Watanabe R, Fujino Y, Yokoi T (2019) Predation of frog eggs by the water strider <i>Gerris latiabdominis</i> Miyamoto (Hemiptera: Gerridae), <i>Entomological Science</i> (in print). (IF: 1.073)</p> <p>学会発表における表彰</p> <p>1) 第9回琵琶湖地域の水田生物研究会 優秀ポスター賞 (ポスターが1年間、琵琶湖博物館内に展示)</p> <p>2) 2018年度水戸昆虫研究会 敢闘賞</p>
11	<p>人間総合科学研究科 一貫制博士課程 疾患制御医学専攻 (4年次)</p> <p>さとう いずみ 佐藤 泉</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>関節リウマチの病態に迫り、また新たな治療法開発にもつながる重要な発見を行い、その成果を筆頭著者として当該分野におけるトップジャーナルである <i>Annals of the Rheumatic Diseases</i> 誌 (インパクトファクター: 14.299) に発表した (Kurata I※, Matsumoto I, et al. Potential involvement of OX40 in the regulation of autoantibody sialylation in arthritis. <i>Ann Rheum Dis</i>. 2019, 78:1488-1496)。</p>
12	<p>人間総合科学研究科 博士後期課程 体育科学専攻 (3年次)</p> <p>そる じえん 薛 載勲</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>睡眠薬の服用 (スボレキサント、プロチゾラム、プラセボ) が夜間強制覚醒時の身体・認知機能へ及ぼす影響を調べるために、健康な成人男性 30 名を対象に無作為順で行うクロスオーバー実験を実施した。研究の結果、既存の睡眠薬 (プロチゾラム) とはその作用機序が異なる新しい睡眠薬 (スボレキサント) は、夜間服用後における身体・認知機能への悪影響が少ないことを明らかにした。</p> <p>*Seol J., Fujii Y., Park I., Suzuki Y., Kawana F., Yajima K., Fukusumi S., Okura T., Satoh M., Tokuyama K., Kokubo T., Yanagisawa M. Distinct effects of orexin receptor antagonist and GABAA agonist on sleep and physical/cognitive functions after forced awakening. <i>PNAS</i>, 2019; 116(48): 24353-24358.</p>
13	<p>人間総合科学研究科 博士後期課程 学校教育学専攻 (3年次)</p> <p>すなだ ひろき 砂田 大樹</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>公益社団法人日本数学教育学会が主催する第 51 回秋期研究大会において、「数学教育再構成運動における東部地区の役割と『数学 第一類・第二類』の編纂過程」という論文題目で研究発表した論文が、第 51 回秋期研究大会で発表された研究の中で特に優れた研究であることが認められ、令和元年 11 月 16 日に日本数学教育学会より学会賞 (大学院生研究奨励部門) を受賞した。</p>
14	<p>人間総合科学研究科 3年制博士課程 コーチング学専攻 (1年次)</p> <p>みやち ひでたか 宮地 秀享</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>2019 オーストラリア・メルボルンワールドカップ 鉄棒 優勝 2019 カタール・ドーハワールドカップ 鉄棒 2位 2019 ドイツ・コトブスワールドカップ 鉄棒 優勝</p>

(学群)

No.	所属 (年次) 氏 名	適用 条項	表 彰 に 価 す る 行 為
1	生命環境学群 生物学類 (4年次) あいだ はやと 會田 勇斗	第4条 第1項 第1号	<p><学術誌への論文掲載> (<i>Chemistry Letters</i> IF:1, 485)</p> <p>1. Hayato Aida, Ryuhei Harada, Yasuteru Shigeta, <i>Chemistry Letters</i>, 48, 325-328 (2019)</p> <p>2. Ryuhei Harada, Hayato Aida, Yasuteru Shigeta, <i>Chemistry Letters</i>, 47, 1300-1303 (2018)</p> <p><受賞歴> 會田勇斗, 第57回日本生物物理学会年会 学生発表賞 (會田勇斗, 原田隆平, 重田育照, 第57回日本生物物理学会 (ポスター番号 1Pos025))</p>
2	生命環境学群 生物資源学類 (4年次) みやざわ けんと 宮澤 研人	第4条 第1項 第1号	<p>西表島の生葉上地衣類相を調査する中で、日本新産種を発見し、投稿論文“Miyazawa, K., Ohmura, Y. and Yamaoka, Y. <i>Aulaxina microphana</i> (Graphidaceae, Lichenized Ascomycota), New to Japan.” (短報) としてまとめ、植物分類学とその関連分野では日本を代表する学術雑誌の一つとして高く評価されている <i>The Journal of Japanese Botany</i> への掲載 (2019年10月28日受理) が決定した。</p> <p>また、平成30年度先導的研究者体験プログラムとして、研究題目：入笠山およびその周辺における地衣類フロアの解明」を実施し、2019年1月に開催された研究発表会ではその成果が評価され、「優秀賞」を受賞した。</p>
3	理工学群 工学システム学類 (3年次) いしづか れおな 石塚 怜央奈	第4条 第1項 第1号	<p>(1) 査読付き論文2編採択 (内1編は Impact Factor = 0.42 の厳格国際誌)</p> <p>(2) 査読なし論文1編採択</p> <p>(3) 国際会議2件発表 (内1件は米国音響学会主催の90年の歴史を有する参加者千人規模の会)</p> <p>(4) 国内会議3件で発表</p>
4	理工学群 社会工学類 (4年次) なかむら あやね 中村 彩音	第4条 第1項 第1号	<p>1) 中村 彩音, フンドックトゥアン, 安東 弘泰, 待ち行列理論を用いたカーシェアリングとライドシェアリングの混合モデルに関する検討, 2019年度日本 OR 学会秋季発表会.</p> <p>2) Nakamura, A., Phung-Duc, T. and Ando, H. (2019), “Queueing Analysis for a Mixed Model of Carsharing and Ridesharing,” <i>Proc. of ASMTA2019, Lecture Notes in Computer Science</i>.</p> <p>3) 中村 彩音, Phung-Duc Tuan, 安東 弘泰, 待ち行列理論を用いたカーシェアリングとライドシェアリングの混合モデル, 2019年度待ち行列シンポジウム</p> <p>他3件</p>

5	<p>理工学群 応用理工学類 (4年次)</p> <p>おちあい ゆうすけ 落合 祐介</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>○国際会議 1) Structure and Conductance of Atomic-Sized PtIr Wires Studied by In Situ Transmission Electron Microscopy, Poster (30P-7-55L) Yusuke Ochiai, Takuya Obi, Yuuki Tsuruoka, and Tokushi Kizuka 2019, 10, 30 32nd International Microprocesses and Nanotechnology Conference, International Conference Center Hiroshima, Hiroshima, Japan ○国内会議 1) その場電子顕微鏡法によるPtIr単原子先鋭化チップ形成過程の観察 落合祐介、小尾拓野、靄岡侑生、木塚徳志 2019, 9, 13 第165回日本金属学会秋期講演大会、岡山大学 2) パルス通電によるPtIr単原子プローブ作製のその場電子顕微鏡法観察 落合祐介、小尾拓野、靄岡侑生、木塚徳志 2019, 10, 30 2019年日本表面真空学会学術講演会、つくば国際会議場 3) その場電子顕微鏡法によるPtIrナノ接点の構造とコンダクタンス評価 落合祐介、小尾拓野、靄岡侑生、木塚徳志 2019, 10, 30 2019年日本表面真空学会学術講演会、つくば国際会議場</p>
6	<p>情報学群 情報科学類 (3年次)</p> <p>こいけ ゆうき 小池 悠生</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>1. 国際大学対抗プログラミングコンテスト ICPC アジア地区ジャカルタ大会に3名1組のチームとして参加して、第2位を獲得した。(参加80チーム) 2. 筆頭著者として、論文「ノンインタラクティブな秘密計算上でのセット極大マッチの列挙」を執筆し、コンピュータセキュリティシンポジウム2019において学生論文賞を受賞した。</p>

7	<p>情報学群 情報メディア 創成学類 (4年次)</p> <p>たなか こうじろう 田中 康二郎</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>(1) 『鏡の奥の精霊 -The Spirit in Mirror-』 (インスタレーション) 【受賞】 (3件) ・【電波の日・情報通信月間】 記念中央式典「地域発デジタルコンテンツ」総務大臣奨励賞 (2019年6月3日 主催: 総務省) ・北九州デジタルクリエイターコンテスト2019 インスタレーション部門 入選 (2019年3月15日 主催: 北九州デジタルクリエイターコンテスト実行委員会、北九州市、福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会議、西日本工業大学) ・いばらきデジタルコンテンツ・ソフトウェア大賞2018 デジタルアート優秀賞 (2018年12月25日 主催: 茨城県、茨城県高度情報化推進協議会、一般社団法人茨城県情報サービス産業協会)</p> <p>(2) 『恋の詩』 (映像) 【受賞】 (1件) ・第5回つくばショートムービーコンペティション2020 つくば部門つくば市長賞 (2018年2月24日 主催: つくばショートムービーコンペティション実行委員会、つくば市、筑波学院大学)</p> <p>(3) 『There is One-san!!!』 (VRインタラクレーション) 【受賞】 (1件) ・VRすきまアワード オキュフェス賞 (2018年3月4日 主催: VRすきまガールズ・おきゅたん (bot) / まいてい 999 協賛: NPO法人オキュフェス / クラスター株式会社 / 株式会社よむネコ)</p>
8	<p>医学群 医学類 (6年次)</p> <p>ごしま ゆうき 五島 祐樹</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>1) 査読付き国際誌 PLoS ONE (インパクトファクター 2.776) に筆頭著者として下記の論文が2020年1月17日に受理された。 Goshima Y, Nakaoka S, Ohashi K, Sakamaki H, Shibuya K, Shibuya A. A mathematical model for dynamics of soluble form of DNAM-1 as a biomarker for graft-versus-host disease.</p> <p>2) 特許出願 (特願 2019-108657, 2019年6月11日) 「移植片対宿主病 (GVHD) の予測方法および GVHD を予測するコンピュータープログラム」、出願人: 筑波大学、発明者: 五島 祐樹、渋谷 和子、渋谷 彰</p>
9	<p>医学群 医学類 (6年次)</p> <p>えびはら けんじ 海老原 賢治</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>査読付きの国際誌 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis (インパクトファクター 3.478) に筆頭著者として下記の論文を投稿し、2019年11月12日、正式に受理された。 Moderate levels of N-terminal pro-B-type natriuretic peptide is associated with increased risks of total and ischemic strokes among Japanese: The Circulatory Risk in Communities Study. 更に、第253回日本循環器学会関東甲信越地方会において Student Award 最優秀賞を受賞した。</p>
10	<p>体育専門学群 (4年次)</p> <p>かじはら ゆうみ 梶原 悠未</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>①自転車競技 2019-2020トラックワールドカップ第4戦ニュージーランド大会、オムニアム1位 (優勝、金メダル、2大会連続)、2019年12月8日 ②自転車競技 2019-2020トラックワールドカップ第3戦香港大会、オムニアム1位 (優勝、金メダル)、2019年12月1日 ③自転車競技アジア選手権 1919、トラック大会、韓国大会、オムニアム1位 (優勝、金メダル、4連覇)、2019年10月19日 ④自転車競技アジア選手権 2019、2019ロードアジア選手権大会、ウズベキスタン大会、U23ロードレース1位 (優勝、金メダル)、2019年4月27日</p>

11	体育専門学群 (4年次) 瀬立 モニカ	第4条 第1項 第2号	パラカヌー世界選手権 女子 KL1 (200m カヤック) 5位 パラカヌーワールドカップ第1戦 女子 KL1 (200m カヤック) 6位
12	体育専門学群 (4年次) 山下 潤	第4条 第1項 第2号	<ul style="list-style-type: none"> ・ドーハ世界陸上世界選手権大会 200m 出場 ・ユニバーシアード ナポリ大会 4×100m リレー金メダル
13	体育専門学群 (3年次) 南 萌華	第4条 第1項 第2号	サッカー女子日本代表 (なでしこジャパン) 選手として、ワールドカップ2019, 東アジア選手権2019に出場し、優秀な成績を収めた。 ①FIFA女子サッカーワールドカップ2019 フランス大会, ベスト16, 2019年6月25日 ②EAFF女子サッカーE-1 東アジア選手権2019 韓国大会, 優勝, 大会 MVP 受賞, 2019年12月17日
14	体育専門学群 (4年次) 阿部 航斗	第4条 第1項 第2号	第30回ユニバーシアード夏季競技 ナポリ大会 (男子サッカー競技) 優勝
15	体育専門学群 (4年次) 高嶺 朋樹	第4条 第1項 第2号	第30回ユニバーシアード夏季競技 ナポリ大会 (男子サッカー競技) 優勝
16	体育専門学群 (4年次) 三苫 薫	第4条 第1項 第2号	第30回ユニバーシアード夏季競技 ナポリ大会 (男子サッカー競技) 優勝
17	体育専門学群 (4年次) 山川 哲史	第4条 第1項 第2号	第30回ユニバーシアード夏季競技 ナポリ大会 (男子サッカー競技) 優勝

18	<p>体育専門学群 (2年次)</p> <p>つのだ りょうたろう 角田 涼太郎</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>第30回ユニバーシアード夏季競技 ナポリ大会(男子サッカー競技) 優勝</p>
19	<p>体育専門学群 (2年次)</p> <p>やまはら れおん 山原 怜音</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>第30回ユニバーシアード夏季競技 ナポリ大会(男子サッカー競技) 優勝</p>
20	<p>体育専門学群 (3年次)</p> <p>にくま ひでと 仁熊 秀斗</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>第30回ユニバーシアード夏季競技大会2019 男子ラグビー7人制競技 優勝</p>
21	<p>体育専門学群 (2年次)</p> <p>まつなが かんた 松永 貫汰</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>第30回ユニバーシアード夏季競技大会2019 男子ラグビー7人制競技 優勝</p>
22	<p>体育専門学群 (2年次)</p> <p>ちば れみな 千葉 玲海菜</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>第30回ユニバーシアード競技大会(2019/ナポリ)に、サッカー(女子)代表として出場し、準優勝(銀メダル)した。</p>
23	<p>体育専門学群 (4年次)</p> <p>たじま ごうき 田嶋 剛希</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>第30回ユニバーシアード競技大会(2019年7月4~7日/イタリア・ナポリ)柔道男子90kg級出場、国別団体(男子)3位</p>
24	<p>体育専門学群 (3年次)</p> <p>いしごうおか ひでゆき 石郷岡 秀征</p>	<p>第4条 第1項 第2号</p>	<p>第30回ユニバーシアード競技大会(2019年7月4~7日/イタリア・ナポリ)柔道男子73kg級7位、国別団体(男子)3位</p>

(団体)

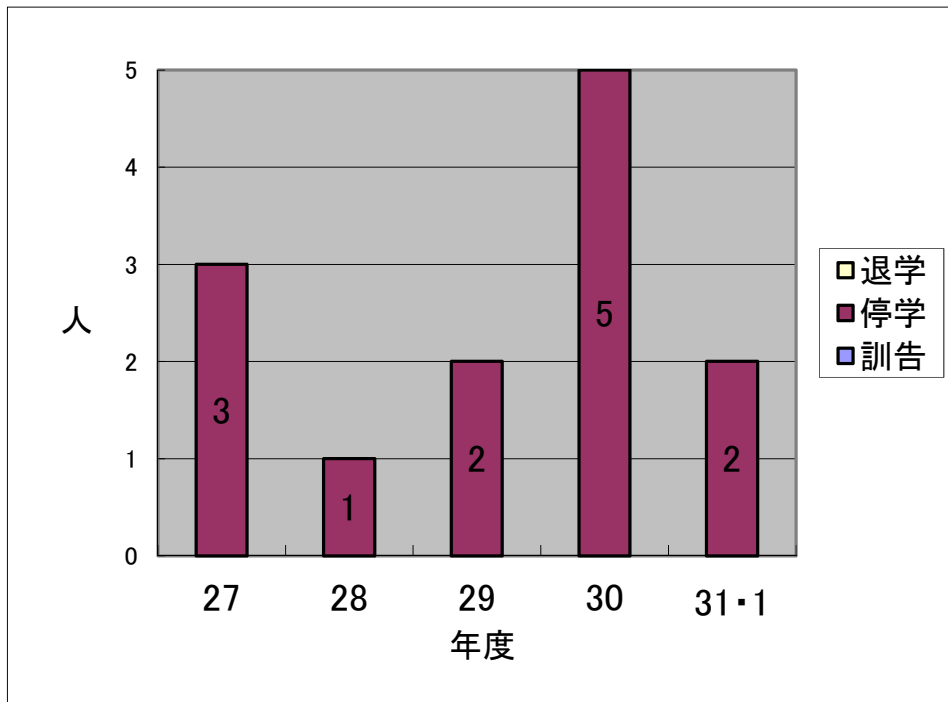
No.	団体名称 代表者	適用 条項	表 彰 に 価 す る 行 為
1	CFA Institute Research Challenge 筑 波大学大学院チームA (5人) 【代表者】 ビジネス科学研究科 専門職学位課程 国際経営 プロフェッショナル 専攻 (2年次) グエン ティ トゥ ズン Tu-Dung Thi Nguyen	第4条 第1項 第1号	ファイナンスの授業の一環として国際経営プロフェッショナル専攻 学生5人からなるチームがCFA協会主催リサーチチャレンジ国内大会 2019に参加しニチレイ賞(準優勝)を受賞した。
2	筑波大学アカペラサー クル Doo-Wop(はらけー じ) 【代表者】 生命環境学群 生物資源学類 (4年次) はら けいじ 原 圭司	第4条 第1項 第2号	・「2019 Vocal Asia Festival Kagawa」にて開催された「2019 Asian Cup A Cappella Competition (2019年アジア杯アカペラ国際コンク ール)」において、アジア各国から選抜された8チーム中、3位入賞(2019 年8月9日 香川県) ・アカペライベント「伊達な街四丁目アカペラストリート2018」にて、 動画審査から選ばれた団体において行われる「CLIMAX STAGE」におい て、「BEST of DATEAKA」を受賞(2018年10月7日 宮城県仙台市) ・アカペライベント「第3回 国際アカペラ・フェスティバル～FUJI A CAPPELLA FESTIVAL～」において、最優秀バンド賞を受賞(2019年9 月8日 山梨県) ・アカペライベント「第4回カマクラ・アカペラ・サミット」におい て、最優秀賞を受賞(2019年9月 神奈川県鎌倉市)

※ 適用条項は、「筑波大学学生表彰に関する規程」第4条第1項の各号の規定による。

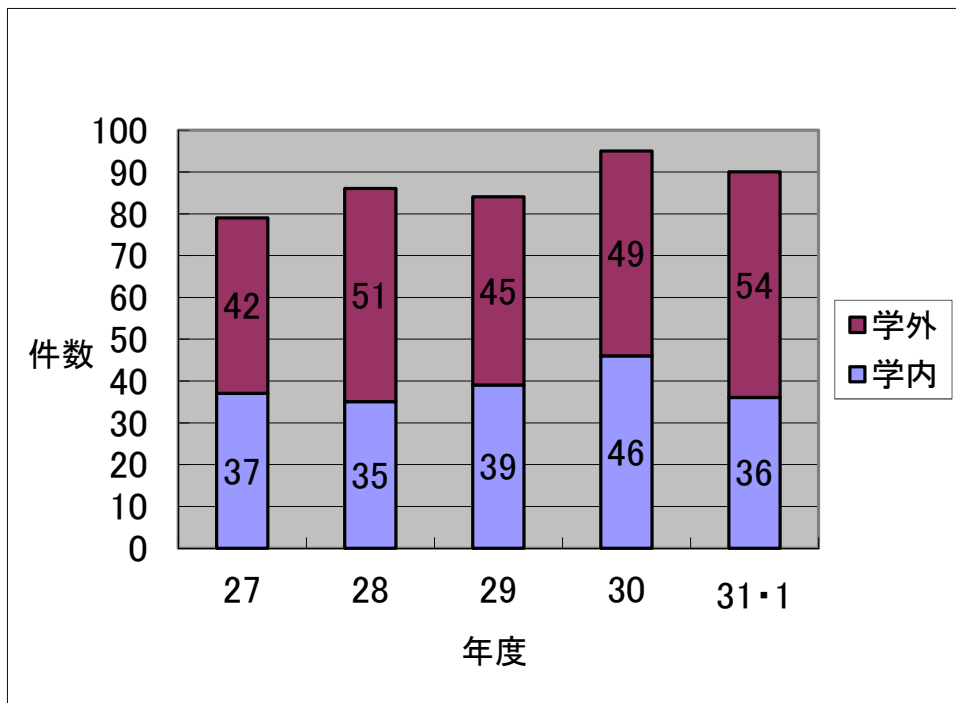
第4条 学生表彰は、次の各号のいずれかに該当する学生又は学生団体に対し行うことができる。

- (1) 筑波大学における卒業論文、修士論文又は博士論文、卒業制作又は修了制作、研究その他の学修の
成果が優れていると認められるもの
- (2) 筑波大学における課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、筑波大学の課外活動の振興に功績があ
ったと認められるもの
- (3) 社会活動において顕著な功績があったと認められるもの
- (4) その他前3号と同等の学生表彰に価する功績があったと認められるもの

(2) 学生の懲戒



(3) 学生の交通事故



(4) 奨学生数

ア 日本学生支援機構奨学生

(ア) 学群

(令和2年3月1日現在)

学群 ・ 学類		学生数	第一種	第二種	貸与併用	給付	計	比率 (%)
人文・文化学群	人文学類	529	64	53	12	5	134	25.3
	比較文化学類	365	50	22	7	2	81	22.2
	日本語・日本文化学類	172	24	15	3	1	43	25.0
	小計	1,066	138	90	22	8	258	24.2
社会・国際学群	社会学類	369	39	36	5	3	83	22.5
	国際総合学類	362	53	31	10	4	98	27.1
	小計	731	92	67	15	7	181	24.8
人間学群	教育学類	152	20	10	4	3	37	24.3
	心理学類	214	28	22	2	5	57	26.6
	障害科学類	152	20	12	6	2	40	26.3
	小計	518	68	44	12	10	134	25.9
生命環境学群	生物学類	337	33	24	6	4	67	19.9
	生物資源学類	531	61	34	12	4	111	20.9
	地球学類	212	15	34	3	3	55	25.9
	小計	1,080	109	92	21	11	233	21.6
理工学群	数学類	164	25	19	1	2	47	28.7
	物理学類	259	31	21	5	2	59	22.8
	化学類	204	17	17	4	3	41	20.1
	応用理工学類	524	73	42	11	2	128	24.4
	工学システム学類	553	56	42	14	5	117	21.2
	社会工学類	514	55	48	7	6	116	22.6
	小計	2,218	257	189	42	20	508	22.9
情報学群	情報科学類	374	56	29	10	1	96	25.7
	情報メディア創成学類	250	32	23	4	2	61	24.4
	知識情報・図書館学類	450	66	29	11	4	110	24.4
	小計	1,074	154	81	25	7	267	24.9
医学群	医学類	834	39	43	15	1	98	11.8
	看護学類	309	47	36	11	2	96	31.1
	医療科学類	156	29	13	7	0	49	31.4
	小計	1,299	115	92	33	3	243	18.7
体育専門学群		1,019	143	143	50	9	345	33.9
芸術専門学群		452	67	51	19	6	143	31.6
合 計		9,457	1,143	849	239	81	2,312	24.4

(注) 1. 学生数は、外国人留学生を除いた数である。

2. 令和元年度の貸与月額、次のとおりである。

第一種（自宅外通学） 51,000円, 30,000円からの選択制

第一種（自宅通学） 45,000円, 30,000円からの選択制

第二種 30,000円, 50,000円, 80,000円, 100,000円, 120,000円からの選択制

3. 令和元年度の給付月額は、次のとおりである。

自宅外通学 20,000円

自宅通学 0円

(イ) 大学院

(令和2年3月1日現在)

課程・研究科	学生数	奨学生数				比率 (%)	
		第一種	第二種	併用	計		
貫修士課程 （修士相当） ・ 博士前期	教育研究科	189	49	1	1	51	27.0
	人文社会科学研究科	105	23	2	1	26	24.8
	ビジネス科学研究科	305	2	4	0	6	2.0
	数理工学科学研究科	473	182	0	14	196	41.4
	システム情報工学研究科	833	336	12	18	366	43.9
	生命環境科学研究科	480	161	1	13	175	36.5
	人間総合科学研究科	811	205	8	11	224	27.6
	図書館情報メディア研究科	79	19	1	4	24	30.4
	グローバル教育院	31	2	0	0	2	6.5
	小計	3,306	979	29	62	1,070	32.4
当博士課程 （博士後期） ・ 一貫制博士相	人文社会科学研究科	151	23	0	3	26	17.2
	ビジネス科学研究科	131	1	1	0	2	1.5
	数理工学科学研究科	104	30	0	0	30	28.8
	システム情報工学研究科	171	24	0	1	25	14.6
	生命環境科学研究科	184	29	1	1	31	16.8
	人間総合科学研究科	831	85	4	7	96	11.6
	図書館情報メディア研究科	64	4	0	1	5	7.8
	グローバル教育院	31	0	0	0	0	0.0
	小計	1,667	196	6	13	215	12.9
合計	4,973	1,175	35	75	1,285	25.8	

(注) 1. 学生数は、外国人留学生を除いた数である。

2. 専門職学位課程は、修士課程に含む。

3. 令和元年度の貸与月額は、次のとおりである。

第一種（修士課程・博士前期課程）	1・2年	50,000円・88,000円からの選択制
第一種（一貫制博士課程）	1・2年	50,000円・88,000円からの選択制
第一種（一貫制博士課程）	3～5年	80,000円・122,000円からの選択制
第一種（博士後期課程・博士医学課程）	1～4年	80,000円・122,000円からの選択制
第二種		50,000円, 80,000円, 100,000円, 130,000円, 150,000円からの選択制

イ 地方公共団体・民間育英団体奨学生

(令和2年3月1日現在)

奨学団体	学 群						大 学 院						合 計	
	給 与		貸 与		小 計		給 与		貸 与		小 計			
	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数
地方公共団体	4	5	8	12	14	17	0	0	0	0	0	0	14	17
民間育英団体	49	140	7	20	56	160	40	90	2	2	42	92	98	252
合 計	53	145	15	32	68	177	40	90	2	2	42	92	110	269

令和元年6月1日現在
* ()内は前年同月の数

(5) 学生団体数及び加入者数

系別	課外活動団体		一般学生団体		計	
	団体数	加入者数	団体数	加入者数	団体数	加入者数
文化系	35 (37)	1,369 (1,497)	63 (65)	1,578 (1,650)	98 (102)	2,947 (3,147)
体育系	72 (71)	3,534 (3,412)	34 (33)	1,771 (1,838)	106 (104)	5,305 (5,250)
芸術系	30 (29)	1,417 (1,318)	12 (13)	400 (478)	42 (42)	1,817 (1,796)
合 計	137 (137)	6,320 (6,227)	109 (111)	3,749 (3,966)	246 (248)	10,069 (10,193)

- (注) 1. 課外活動団体：学長が認定した学生団体のうち、援助・育成に値するもの
2. 一般学生団体：学長が認定した学生団体のうち、課外活動団体以外のもの

(6) 課外活動団体の主な成績

【文化系】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
E. S. S.	TIDL 本選	神原智佳	優勝	
	SIF 本選	宮田康平	準優勝	
囲碁部	令和元年度春季関東学生囲碁団体戦	団体	7位	一般3部
	令和元年度秋季関東学生囲碁団体戦	団体	2位	一般3部
宇宙工学研究会	2019年スペースプロープコンテスト	団体	銀賞	
歌留多部	第64回団体対抗戦(九州職域)	団体	優勝	
将棋部	関東大学将棋連盟 春季団体戦	団体	4位	BII級
	関東大学将棋連盟 秋季団体戦	団体	6位	BII級
つくば鳥人間の会	第42回鳥人間コンテスト選手権大会	団体	6位	人カプロペラ機部門

【芸術系】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
吹奏楽団	第54回茨城県アンサンブルコンテスト大学部門	クラリネット八重奏 打楽器四重奏	金賞 銀賞	
舞踏研究会	第64回東部日本学生競技ダンス選手権大会II部戦	中島・稲垣	11位	クイックステップ*

【体育会：部会】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
合気道部	第57回全日本合気道演武大会	団体	参加	演武披露
	第59回全国学生合気道演武大会	団体	参加	演武披露
アイススケート部	第12回関東学生秋季フィギュアスケート交流戦	杉本理紗	初級3位	
男子アイスホッケー部	秩父宮杯第67回関東大学アイスホッケー選手権大会	団体	準優勝	
	2019年度関東大学アイスホッケーリーグ戦	団体	優勝	Div. II
	令和元年度関東国公立大学アイスホッケーリーグ戦	団体	優勝	
アメリカンフットボール部	関東大学秋季リーグ戦(3部B)	団体	優勝	3部B*ロック
オリエンテーリング部	2019年度日本学生オリエンテーリング選手権大会	増澤すず 小牧弘季	WE 2位 ME 1位	スプリント競技
		宮本和奏 小牧弘季	WE 1位 ME 2位	ロング・ディスタンス競技
	第45回全日本オリエンテーリング選手権大会	増澤すず 小牧弘季	W21E 3位 M20E 1位	
	第46回全日本オリエンテーリング選手権大会	増澤すず 宮本和奏	W21E 1位 W21E 3位	ロング・ディスタンス競技
第12回全日本スプリントオリエンテーリング選手権大会	増澤すず 小牧弘季	WEF 3位 MEF 1位		

空手道部	第68回関東甲信越大学体育大会	男子団体	準優勝	
弓道部	第49回全関東学生弓道選手権大会	女子団体 佐藤碧紀 菊地凜	3位 準優勝 3位	女子個人 男子個人
	関東学生弓道選手権大会春季トーナメント決勝大会	男子団体 女子団体	優勝 準優勝	
	関東学生弓道選手権大会決勝大会	男子団体 女子団体	準優勝 優勝	
	第68回関東甲信越大学体育大会	男子団体 女子団体	優勝 準優勝	
剣道部	第67回全日本剣道選手権大会	松崎賢士郎	準優勝	
	第58回全日本女子剣道選手権大会	竹中美帆	3位	
	第67回全日本学生剣道選手権大会	星子啓太 松崎賢士郎 白鳥湧也	優勝 準優勝 3位	
	第67回全日本学生剣道優勝大会	男子団体	準優勝	
	第68回関東学生剣道優勝大会	男子団体	優勝	
	第45回関東女子学生剣道優勝大会	団体	準優勝	
	第65回関東学生剣道新人戦大会	男子団体	優勝	
硬式庭球部	2019年度全日本大学対抗テニス王座決定戦	女子団体	優勝	
	全日本学生テニス選手権大会	慶野勇太	3位	男子シングルス
	2019年度関東学生テニス選手権大会	岩井真優	優勝	女子シングルス
	2019年度関東学生テニストーナメント大会	慶野勇太 慶野・加藤	優勝 優勝	男子シングルス 男子ダブルス
	Midwest Wheelchair Championships(米) (車いすテニス国際大会)	船水 梓緒里	準優勝	女子シングルス
硬式野球部	首都大学野球2019年春季リーグ戦	団体	2位	1部
	首都大学野球 2019年秋季リーグ戦	団体	3位	1部
	第68回関東甲信越大学体育大会	団体	優勝	
サイクリング部	アジア選手権トラック2020	梶原悠未	優勝	女子エリートオムニアム
	2019ロードアジア選手権	梶原悠未	金メダル	女子U23
	2019-2020トラックワールドカップ	梶原悠未	金メダル	第2, 3, 4戦
	第88回全日本自転車競技選手権大会 ロード・レース	梶原悠未	優勝	女子タイムトライアル、 個人ロードレース U23
	第88回全日本自転車競技選手権大会 オムニアム	梶原悠未	総合優勝	女子エリートオムニアム
	2019年度全日本学生トラックレースシ リーズ第6戦	古賀太暁	1位	男子1kmタイムトライアル
蹴球部	第30回ユニバーシアード競技大会(イタリア)	阿部航斗 高嶺朋樹 三苦薫	金メダル	
	第47回トゥーロン国際大会2019	三苦薫	準優勝	U-22
	第68回全日本大学サッカー選手権大会	団体	ベスト8	
	アミハイタリアカップ 2019 第8回関東大学サッ カートーナメント大会	団体	4位	
	JR東日本カップ 2019第93回関東大学サッ カーリーグ戦1部	団体	6位	

女子サッカー部	第30回ユニバーシアード競技大会(イタリア)	千葉玲海菜	銀メダル	
	第25回関東女子サッカーリーグ戦	団体	優勝	2部
	第33回関東大学女子サッカーリーグ戦	団体	7位	1部
	第25回茨城県女子サッカー選手権大会	団体	優勝	
柔道部	第30回ユニバーシアード競技大会(イタリア)	田嶋剛希 石郷岡秀征	銅メダル	団体
	第68回全日本学生柔道優勝大会	男子団体	準優勝	
	全日本学生柔道体重別団体優勝大会	女子団体	準優勝	
	全日本学生柔道体重別選手権大会	中江美裕	準優勝	女子70kg級
	2019年関東学生柔道優勝大会	男子団体 女子団体	優勝 優勝	1部 5人制
	2019年度関東学生柔道体重別選手権大会	湯本祥真 佐々木卓摩 高木一石	準優勝 準優勝 準優勝	男子66kg級 男子100kg級 男子100kg超級
	第68回関東甲信越大学体育大会	男子団体	優勝	
準硬式野球部	東都大学準硬式野球春季リーグ	団体	優勝	3部
	東都大学準硬式野球秋季リーグ	団体	優勝	3部
	第68回関東甲信越大学体育大会	団体	優勝	
水泳部	第30回ユニバーシアード競技大会(イタリア)	山田周汰	4位	男子高飛込シンクロナイズト*
	第95回 日本選手権水泳競技大会飛込競技	山田周汰	2位	男子高飛込
	第95回日本学生選手権大会水泳競技大会飛込競技	山田周汰	優勝	男子高飛込
	第95回日本学生選手権大会水泳競技大会競泳競技	新野杏奈	2位	女子100mバタフライ
	第95回日本学生選手権大会水泳競技大会水球競技	男子	3位	
	第66回全国国公立大学選手権水泳競技大会	男子 女子	総合優勝 総合優勝	
	2019年度関東学生水球リーグ	男子	4位	1部
男子ソフトボール部	関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦	団体	3位	II部
女子ソフトボール部	関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦	団体	3位	II部
体操部	第15回全日本学生ラート選手権大会	Aチーム	総合1位	
		Bチーム	総合3位	
		山田 光穂	総合2位 1位	女子 規定 自由:直転,斜転,跳躍
		萩原沙理菜	2位	女子 自由:跳躍
		大島未都来	総合3位	女子 規定
	第25回全日本ラート競技選手権大会	新庄祥弘	総合3位 1位	男子 規定 男子 自由:斜転
		松浦佑希	総合2位 1位	女子 規定 自由:跳躍
		瓜兼汐里	総合3位 2位	女子 規定 自由:斜転,跳躍 女子直転

体操競技部	第44回コト布斯大会(W杯2019/2020種目別シリーズ第5戦)	宮地秀享	優勝	男子鉄棒
	2020スタンフォードカレッジオープン	山本威吹 橘 汐芽	団体優勝	日本チーム派遣
	第73回全日本体操競技種目別選手権大会	長崎終人	4位	男子あん馬
	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子団体総合 女子団体総合	4位 3位	
	第52回東日本学生体操競技選手権大会	男子団体総合 女子団体総合	4位 3位	
	第68回関東甲信越大学体育大会	男子団体総合	優勝	
卓球部	第89回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)	男子 女子	準優勝 ベスト16	
	関東学生卓球選手権大会	村田・熊本	3位	男子ダブルス
	春季関東学生卓球リーグ戦	男子団体 女子団体	1部5位 2部1位	
	第68回関東甲信越大学体育大会	男子団体	優勝	
ダンス部	第32回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)	団体	文部科学大臣賞	
	アーティストikum-ブメント イン・トヤマ2018	A cabooNa	特別賞 富山県知事賞	
トライアスロン部	2019佐渡国際トライアスロン大会	松本滉平	3位	
	第9回日本U23トライアスロン選手権	宮崎集	1位	
	第74回国民体育大会	宮崎集	2位	
	2019関東学生トライアスロン選手権	男子団体 女子団体	8位 6位	
軟式庭球部	東都大学ソフトテニス秋季リーグ	男子団体 女子団体	3位 5位	
	関東学生ソフトテニス秋季リーグ	男子団体 女子団体	3部5位 4部1位	
	第68回関東甲信越大学体育大会	男子団体 女子団体 石川・森川 金子・湯川	4位 1位 1位 1位	男子ダブルス 女子ダブルス
馬術部	関東学生馬術大会総合馬術競技	団体	7位	
	総合馬術ホーストライアルシリーズ6月	柳川剛貴	1位	EV90
	第11回北関東学生馬術大会	団体戦	1位	
男子バスケットボール部	第71回全日本大学バスケットボール選手権大会	団体	優勝	
	第68回関東大学バスケットボール選手権大会	団体	準優勝	
	第59回関東大学バスケットボール新人戦	団体	3位	
	第95回関東大学バスケットボールリーグ戦	団体	5位	1部
	第68回関東甲信越大学体育大会	団体	優勝	
女子バスケットボール部	第30回ユニバーシアード競技大会(イタリア)	佐藤由瑠果	4位	
	第71回全日本大学バスケットボール選手権大会	団体	ベスト16	
	第53回関東大学女子バスケットボール選手権大会	団体	ベスト16	
	第69回関東大学女子バスケットボールリーグ戦	団体	4位	1部
	第36回秋季バスケットボールJr大会	団体	2位	
	第68回関東甲信越大学体育大会	団体	優勝	

バドミントン部	第70回全日本学生バドミントン選手権大会	香山未帆 大関・大石	優勝 ベスト8	女子シングルス 女子ダブルス
	第62回東日本学生バドミントン選手権大会	女子団体 香山未帆 大関・大石	優勝 優勝 ベスト4	女子シングルス 女子ダブルス
	2019年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦	男子団体	優勝	2部
	第68回関東甲信越大学体育大会	男子団体 女子団体	優勝 優勝	
	第7回全日本学生バドミントンミックス ダブルス選手権大会	西野・大石 鈴木・香山	ベスト8 ベスト8	
男子バレーボール部	第72回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会	団体	準優勝	
	第38回東日本バレーボール大学選手権大会	団体	優勝	
	2019年春季関東大学バレーボールリーグ戦	団体	5位	1部
	第68回関東甲信越大学体育大会	団体	優勝	
女子バレーボール部	第66回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会	団体	優勝	
	第38回東日本バレーボール大学選手権大会	団体	3位	
	2019年春季関東大学女子バレーボールリーグ戦	団体	3位	1部
	第68回関東甲信越大学体育大会	団体	準優勝	
男子ハンドボール部	高松宮記念杯男子62回全日本学生選手権	団体	優勝	
	関東学生ハンドボール春季リーグ戦	団体	優勝	1部
	菅記念ミニミニカップ春季大会	団体	優勝	
女子ハンドボール部	高松宮記念杯女子55回全日本学生選手権	団体	準優勝	
	関東学生ハンドボール春季リーグ戦	団体	2位	1部
	関東学生ハンドボール秋季リーグ戦	団体	3位	1部
フィールドホッケー部	2019年関東学生ホッケー秋季リーグ	男子団体	4位	3部
ライフセービング部	第34回全日本学生ライフセービング選手権大会	鶴木海緒	3位	女子サーフスキーレース
	神奈川県ライフセービング・ブール競技会	雨宮利明	3位	男子50mマネンキョーリ
ラグビー部	第30回ユニバーシアード競技大会(イタリア)	仁熊秀人 松永貫汰	金メダル	7人制
	第56回全国大学ラグビーフットボール選手権大会	団体	ベスト8	
	2019年度関東大学対抗戦	団体	3位	Aグループ
	関東大学春季大会	団体	3位	Bグループ
	第41回関東大学ジュニア選手権	団体	1位	カテゴリー2
男子ラクロス部	第32回関東学生ラクロスリーグ戦	団体	5位	2部Bブロック
	第2回男子スーパーカップ	団体	3位	
女子ラクロス部	第32回関東学生ラクロスリーグ戦	団体	2位	3部Bブロック
	第7回女子ラクロスVリーグ	団体	優勝	

陸上競技部	第30回ユニバーシアード競技大会(イタリア)	山下潤	金メダル	4x100mR
	第23回アジア陸上競技選手権大会	高良彩花	2位	女子走り幅跳び
	天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子総合 女子総合	3位 優勝	
	第98回関東学生陸上競技対校選手権大会	男子1部 男子3部 女子1部 女子2部	7位 2位 優勝 優勝	
	第68回関東甲信越大学体育大会	男子 女子	優勝 優勝	
	第96回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	団体	6位	26年ぶり本選出場
	第25回関東大学女子駅伝対校選手権大会	団体	10位	

【体育系：同好会・医学】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
サッカー同好会	スポーツマネジメント 国公立ROUND	団体	優勝	
	スポーツマネジメント 夏大会	団体	準優勝	
トランポリン同好会	第52回東日本学生トランポリン競技選手権	志岐友晶 下妻康平	8位 9位	Cクラス男子
	第9回茨城県チャレンジカップ	上原透流 下妻康平	3位 7位	個人：大学生・一般男子
		矢島あおば	5位	
バスケットボール同好会	茨城県社会人バスケットボール選手権大会	女子団体 男子団体	3位 ベスト16	
バドミントン同好会	第39回UBSシングルス大会	上山竜之介 後藤瑛太 今井美里 鈴木千紘	2位 2位 2位 3位	男子Aクラス 男子Bクラス 女子Cクラス 女子Cクラス
	第40回USBダブルス大会	猪股・横山	2位	女子Aクラス
バレーボール同好会	春季関東排球同好会リーグ戦	男子Bチーム 女子Aチーム	3位 ベスト8	
	夏季理工系リーグ	男子	3位	2部リーグ
医学アイスホッケー部	第62回東日本医科学生総合体育大会	団体	優勝	
医学弓道部	第62回東日本医科学生総合体育大会	福家実乃里	優勝	女子個人戦
	第15回花弓会	団体	準優勝	
	第38回関東医学部予科学生弓道大会	団体 中谷恵人	優勝 優勝	男子個人戦
医学剣道部	看護学生交流剣道大会	富永涼風	優勝	女子個人戦
医学硬式庭球部	第62回東日本医科学生総合体育大会	男子団体 女子団体	優勝 ベスト8	
	関東医科歯科リーグ春季団体戦	男子 女子	1部2位 2部4位	
医学ゴルフ部	第62回東日本医科学生総合体育大会	男子団体 山城泰介	2位 優勝	男子個人
医学サッカー部	医歯薬獣春季サッカーリーグ大会	団体	準優勝	
	東日本医科学生サッカーリーグ大会	団体	ベスト8	

医学準硬式野球部	北関東大学準硬式野球連盟春季リーグ戦	団体	4位	東地区
医学水泳部	第62回東日本医科学生総合体育大会	男子総合 女子総合	8位 3位	
	東日本医歯薬看護学生水泳競技大会	男子総合 女子総合	8位 4位	
	第68回関東甲信越大学体育大会	男子総合 女子総合	4位 1位	
医学スキー部	第47回関東中部国公立十大学医学部対抗スキー大会	寺門美咲	1位 3位	女子個人総合、SL 女子GS
		山崎健太	3位 3位	男子OP SL 男子OP GS
		酒井直希	3位	男子新人戦
医学ソフトテニス部	秋期関東医科歯科リーグ	男子部	1位	4部
	春期関東医科歯科リーグ	女子部	2位	3部
医学卓球部	秋季関東医科学生卓球大会	男子団体	5位	
医学バドミントン部	第62回東日本医科学生総合体育大会	男子団体 石井・入江 石井達也	優勝 優勝 優勝	男子ダブルス 男子シングルス
	関東コメディカルリーグ	女子団体 男子団体	優勝 3位	
医学バレーボール部	関東医歯薬春季リーグ	男子団体	1部2位	
	関東医科リーグ	男子団体	3位	
医学ハンドボール部	第62回東日本医科学生総合体育大会	男子部	準優勝	
	関東医歯薬獣系大学秋季大会	男子部 女子部	優勝 優勝	
医学ヨット部	第62回東日本医科学生総合体育大会	団体	準優勝	
医学ラグビー部	第67回関東医歯薬ラグビーリーグ	団体	I部優勝	
医学陸上競技部	第62回東日本医科学生総合体育大会	男子総合 女子総合	準優勝 準優勝	
	第73回全関東医歯薬獣医科大学対抗陸上競技大会	男子総合 女子総合	準優勝 優勝	
	第36回関東医科大学対抗陸上競技大会	男子総合 女子総合	準優勝 優勝	

【一般学生団体】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
チェスサークル Café・Rejansu	全日本学生選手権2019	三津井理公	優勝	
カヌークラブ	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	八角周平	4位	男子200m
	2019年度SUBARU日本カヌースプリント選手権大会	八角周平	2位	男子500mB決勝

(7) 就職等状況

ア 学群

① 令和元年度学群・学類卒業生進路状況

(令和2年5月1日現在)

学群・学類	卒業者	進学者	就職者	就職者の内訳					その他		
				企業	教員	公務員	独法等	研修医	研究生等・留学	資格・試験等準備 他	
人文・文化学群	人文学類	107 (60) [2] (1)	17 (6) [1]	79 (48)	62 (38)	3	11 (8)	3 (2)	/	1	10 (6) [1] (1)
	比較文化学類	92 (61) [2] (2)	11 (6) [1] (1)	67 (50)	54 (39)	2 (2)	10 (8)	1 (1)	/		14 (5) [1] (1)
	日本語・日本文化学類	42 (33) [2] (1)	5 (5) [1] (1)	36 (28)	29 (23)	4 (3)	3 (2)		/		1 [1]
社会学群・国際	社会学類	108 (38) [8] (6)	14 (4) [4] (3)	88 (31) [2] (1)	77 (26) [2] (1)		9 (3)	2 (2)	/		6 (3) [2] (2)
	国際総合学類	95 (48) [4] (3)	17 (8) [2] (2)	68 (37)	61 (32)		5 (3)	2 (2)	/		10 (3) [2] (1)
人間学群	教育学類	32 (16)	9 (3)	19 (12)	10 (7)	6 (4)	3 (1)		/		4 (1)
	心理学類	46 (27) [1]	14 (8)	28 (17)	20 (10)		6 (5)	2 (2)	/		4 (2) [1]
	障害科学類	36 (21)	16 (7)	18 (14)	10 (8)	4 (4)	4 (2)		/		2
生命環境学群	生物学類	96 (48) [16] (10)	71 (34) [9] (5)	18 (11) [2] (2)	15 (9) [2] (2)		3 (2)		/	1	6 (3) [5] (3)
	生物資源学類	155 (89) [22] (13)	101 (58) [9] (8)	40 (25) [3] (3)	31 (19) [2] (2)	1 (1)	7 (4)	1 (1) [1] (1)	/	1 [1]	13 (6) [9] (2)
	地球学類	55 (17) [4] (3)	33 (6) [1] (1)	17 (9)	11 (7)		6 (2)		/		5 (2) [3] (2)
理工学群	数学類	35 (6)	21 (1)	13 (4)	7 (2)	6 (2)			/		1 (1)
	物理学類	64 (6) [2]	40 (2) [2]	17 (2)	15 (1)	1	1 (1)		/		7 (2)
	化学類	46 (15) [1]	38 (9)	7 (6)	7 (6)				/		1 [1]
	応用理工学類	137 (20) [4] (1)	116 (17) [2] (1)	13 (2) [1]	12 (1) [1]		1 (1)		/		8 (1) [1]
	工学システム学類	130 (15) [3]	115 (13) [2]	13 (2)	12 (1)		1 (1)		/		2 [1]
	社会工学類	121 (33) [1]	70 (13)	43 (20)	39 (18)		4 (2)		/		8 [1]
情報学群	情報科学類	89 (7) [1]	66 (7) [1]	17	17				/		6
	情報メディア創成学類	63 (18)	39 (7)	22 (11)	21 (11)		1		/		2
	知識情報・図書館学類	115 (73) [1] (1)	17 (6)	92 (64) [1] (1)	70 (46) [1] (1)	1 (1)	15 (12)	6 (5)	/		6 (3)
医学群	医学類	120 (35)	1 (1)	113 (33)					113 (33)		6 (1)
	看護学類	77 (77)	7 (7)	65 (65)	52 (52)	4 (4)	9 (9)		/	1 (1)	4 (4)
	医療科学類	41 (31) [2] (1)	21 (17) [1] (1)	18 (14)	17 (13)		1 (1)		/		2 [1]
体育専門学群	242 (73) [1]	56 (16)	167 (51) [1]	140 (36) [1]	17 (10)	9 (5)	1	/	1	18 (6)	
芸術専門学群	109 (86) [1] (1)	40 (33) [1] (1)	54 (41)	49 (36)	1 (1)	4 (4)		/		15 (12)	
学群合計	2,253 (953) [78] (43)	955 (294) [37] (24)	1,132 (597) [10] (7)	838 (441) [9] (6)	50 (32)	113 (76)	18 (15) [1] (1)	113 (33)	5 (1) [1]	161 (61) [30] (12)	

(注) ()内は、女子を内数で示す
[]は、留学生を内数で示す
< >は留學生のうち女子を内数で示す

平成30年度卒業生

学群合計	2,266 (922) [63] (34)	934 (235) [29] (9)	1,141 (591) [3] (1)	840 (448) [3] (1)	52 (26)	120 (65)	18 (10)	111 (42)	8 (5) [1] (1)	183 (91) [30] (23)
------	--------------------------	-----------------------	------------------------	----------------------	---------	----------	---------	----------	------------------	-----------------------

② 産業分類別進路状況(学群)

(令和2年5月1日現在)

学群・学類	企業 (自営業を含む)													教員	公務員					合計	平成30年度最終 (同期)
	農業	林業	漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	物品賃貸業	不動産業・サービス業		分類不能産業	小計	国家公務員 (国大法除)	独立行政法人等	地方公務員		
人文・文化学群	人文学類				1	3	16		5	3	5	1	28	62	3	1	3	10	14	79	89
	比較文化学類					1	12		2	4	4	3	28	54	2	2	1	8	11	67	47
	日本語・日本文化学類					1	3	1	1	2	4	1	16	29	4			3	3	36	28
社会学群	社会学類					2	7		6	7	12	4	39	77		2	2	7	11	88	72
	国際総合学類					1	16	1	3	12	4	3	21	61		3	2	2	7	68	80
人間学群	教育学類					2						8	10	6	1		2	3	19	24	
	心理学類				1		1		1	2		1	14	20		2	2	4	8	28	33
	障害科学類					1			1		1		7	10	4	2	3	4	18	22	
生命環境学群	生物学類					7		1				7	15		1		2	3	18	18	
	生物資源学類	1				1	10			3	1	15	31	1	4	1	3	8	40	37	
	地球学類					3			1	1		6	11		2		4	6	17	12	
理工学群	数学類					1				2		4	7	6					13	20	
	物理学類					5		1		1		8	15	1			1	1	17	14	
	化学類					2		1	1		1	2	7						7	10	
	応用理工学類					4				1	1	6	12				1	1	13	15	
	工学システム学類					6		1				5	12				1	1	13	15	
	社会工学類					3	5	1	3	1	4	4	18	39				4	4	43	33
情報学群	情報科学類							3				14	17						17	39	
	情報メディア創成学類					1			1			19	21				1	1	22	25	
	知識情報・図書館学類					5		5	5	3	1	51	70	1		6	15	21	92	93	
医学群	医学類																				
	看護学類					1						51	52	4			9	9	65	69	
	医療科学類					2		1				14	17				1	1	18	17	
体育専門学群					9	34	5	12	12	14	4	50	140	17	1	1	8	10	167	165	
芸術専門学群					3	12		1	7	1		25	49	1			4	4	54	53	
学群合計	1			3	24	155	8	48	61	58	24	456	838	50	21	18	92	131	1019	1030	
				(1)	(7)	(73)	(4)	(20)	(34)	(25)	(12)	(265)	(441)	(32)	(13)	(15)	(63)	(91)	(564)		(549)
平成30年度最終 (同期)	1			33	144	7	52	66	67	21	449	840	52	23	18	97	138	1030			
				(21)	(72)	(4)	(27)	(38)	(29)	(8)	(249)	(448)	(26)	(11)	(10)	(54)	(75)	(549)			

(注) ()内は女子を内数で示す

(イ) 大学院

① 令和元年度修了者の進路状況

研究科	修了者	進学者	就職者	就職者の内訳				研究員	博士特別研究員	その他		
				企業	教員	公務員	独法等			職務復帰	帰国	研究生等・留学
人文社会科学 (一貫制博士課程)	10 [6]		1		1			2	2 [1]	4 [4]	4 [4]	
人文社会科学 (博士後期課程)	13 [6]		2 (1)		2 (1)			1 [1]	2 [1]	4 [4]	4 [4]	2
ビジネス科学 (博士後期課程)	6											
ビジネス科学 (専門職学位課程)	20											
数理物質科学 (博士後期課程)	32 [11]		13 [4]		7 [3]		3 (1)	6 [1]	5 [3]	4 [4]	4 [4]	3 [2]
数理物質科学 (3年制博士課程)	15 [10]		3 [2]		1 [1]		2 [1]	6 [5]		3 [3]		
システム情報工学 (博士後期課程)	48 [14]		13 [5]		6 [2]		3 (1)	6 [3]	5 [3]	2 [2]		1 [1]
生命環境科学 (一貫制博士課程)	3		3				1 [1]					
生命環境科学 (博士後期課程)	92 [34]		13 [5]		5 [1]		2 (1)	14 [5]	2 (1)	12 [12]	12 [12]	7 [3]
生命環境科学 (3年制博士課程)	1											
人間総合科学 (一貫制博士課程)	61 [18]		24 [6]		20 [5]		3 (1)	6 [2]		5 [5]	5 [5]	5 [4]
人間総合科学 (博士後期課程)	42 [7]		16 [1]		2 (1)		11 [3]	5 [2]	4 [2]	3 [3]	3 [3]	2 [1]
人間総合科学 (3年制博士課程)	39 [5]	1 (1)	16 [2]		4 [1]		10 [1]	4 [1]		2 [2]	2 [2]	1
図書館情報メディア (博士後期課程)	7 [2]		6 [2]				3 [2]					
グローバル教育院 (一貫制博士課程)	22 [15]		19 [13]		11 [5]		3 (2)	2 [1]		2 [2]	1 [1]	
グローバル教育院 (博士後期課程)	13 [10]		5 [3]		2 (1)					2 [1]	6 [6]	
博士合計	424 [140]	1 (1)	134 [45]		58 [18]		38 [7]	52 [20]	15 [7]	155 [13]	46 [46]	21 [9]

(注)1 ()内は女子を内数で示す

2 []は、留学生を内数で示す ()は留学生のうち女子を内数で示す

平成30年度修了者

博士合計	498 [139]	1	163 [29]		90 [16]		51 [5]	5 [3]	61 [24]	27 [8]	149 [12]	63 [63]	33 [3]
------	--------------	---	-------------	--	------------	--	-----------	----------	------------	-----------	-------------	------------	-----------

② 産業分類別進路状況 (大学院)

(令和2年5月1日現在)

研究科	企業(自営業を含む)													公務員					合計	平成30年度最終(同期)		
	農業	林業	漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	不動産業・物品賃貸業	サービス業	分類不能産業	小計	教員	(国家公務員(国大法除))	国家公務員			独立行政法人等	地方公務員
教育研究科						3			1		1		4	9	44				2	2	55	60
人間総合科学研究科(修士課程)						19			1	1	1		17	39	1	3	2		5	45	44	
人文社会科学研究所(修士課程)					2				2	1		5	10					1	1	11	9	
人文社会科学研究所(博士前期課程)					2				4			17	23	3	1	2		3	29	33		
ビジネス科学研究科(博士前期課程)									(1)			(15)	(16)		1			1	1	(24)		
数理物質科学研究科(博士前期課程)					2	130	3	9	2	3		48	197	4	1	2	1	4	205	203		
システム情報工学研究所(博士前期課程)					19	144	8	54	5	6	7	169	412	2	3	3	2	8	422	392		
生命環境科学研究科(博士前期課程)	2	1	2		6	68	2	9	11	2	1	60	164	5	5	12	4	21	190	167		
人間総合科学研究科(博士前期課程)					2	21	1	3	10	3	3	68	111	40	4	5	9	18	169	157		
図書館情報メディア研究所(博士前期課程)					6			2	3	1		17	29	1	1	3		4	34	44		
グローバル教育院(博士前期課程)					2				1				3						3	2		
ビジネス科学研究科(国際経営)																					(2)	
修士合計	2	1	2		29	397	14	79	39	18	11	405	997	100	19	29	19	67	1164	1,111		
平成30年度最終(同期)	3		1		30	415	14	71	24	23	9	359	949	92	19	28	23	70	1,111	343		

研究科	企業(自営業を含む)													公務員					合計	平成30年度最終(同期)	
	農業	林業	漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	不動産業・物品賃貸業	サービス業	分類不能産業	小計	教員	(国家公務員(国大法除))	国家公務員			独立行政法人等
人文社会科学研究所(一貫制博士課程)															1					1	5
人文社会科学研究所(博士後期課程)															2					2	(2)
ビジネス科学研究科(博士後期課程)															(1)					(1)	4
数理物質科学研究科(一貫制博士課程)																					(3)
数理物質科学研究科(博士後期課程)						6						1	7	3		3		3	13	25	
数理物質科学研究科(3年制博士課程)						1							1			2		2	3	(2)	
システム情報工学研究所(一貫制博士課程)																					3
システム情報工学研究所(博士後期課程)						3						3	6	3	2	2		4	13	(1)	
生命環境科学研究科(一貫制博士課程)																1	2		3	3	11
生命環境科学研究科(博士後期課程)					1	2						2	5	2		6		6	13	(1)	
生命環境科学研究科(3年制博士課程)						(1)						(1)	(2)		(2)		(2)	(4)		(8)	
人間総合科学研究科(一貫制博士課程)						2						17	20	3	1	1		1	24	34	
人間総合科学研究科(博士後期課程)						1						1	2	11		3		3	16	(8)	
人間総合科学研究科(3年制博士課程)												(1)	(1)	(3)	(1)	(1)		(5)	23	(14)	
人間総合科学研究科(博士後期課程)											1	3	4	10	2	2		2	16	(7)	
図書館情報メディア研究所(博士後期課程)												(1)	(3)	(4)	(5)	(2)	(2)	(11)		(1)	
グローバル教育院(一貫制博士課程)					1	3			1			6	11	2	6		8	19	(1)		
グローバル教育院(博士後期課程)						(1)						(2)	(3)	(1)	(3)	(4)	(7)		(4)		
グローバル教育院(3年制博士課程)						2						2	2		3		3	5	(1)		
ビジネス科学研究科(法曹)						(1)						(1)	(1)		(2)		(2)	(3)		1	
博士合計					2	20		1	1			33	58	38	5	33		38	134	163	
平成30年度最終(同期)					1	36		3	2			48	90	51	3	17	2	22	163	54	

(注) ()内は女子を内数で示す

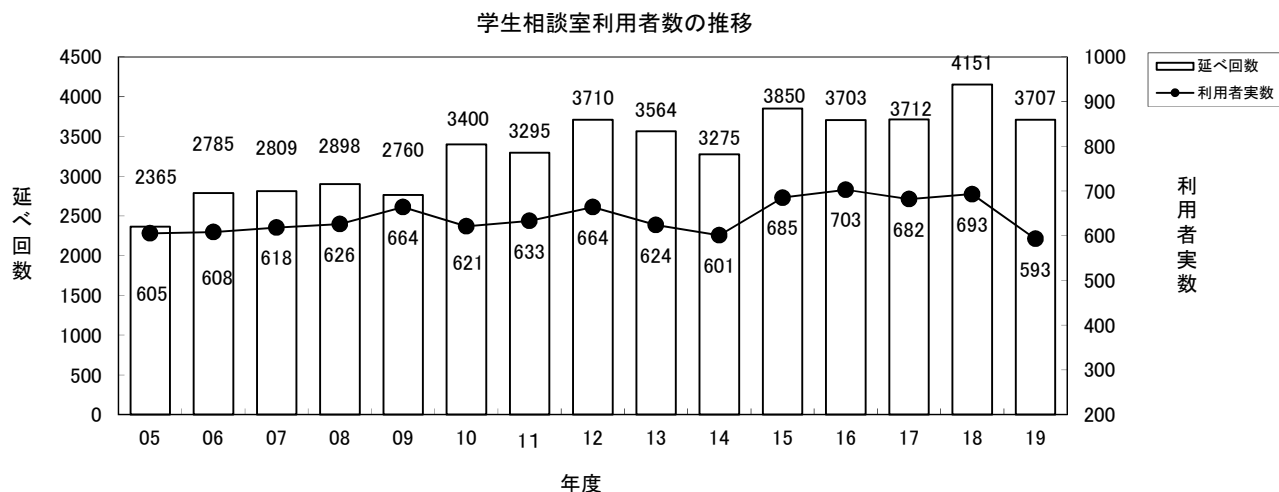
(8) 学生相談利用状況

ア 学生相談内訳

区分		修学	進路	友人関係	異性	結婚	家庭	情緒性格	人生問題	経済	住居	その他の問題	UPI呼出面接 *(1)	合計	実数
学群	人文・文化学群	73	7	5	15			322	5			15	17	459	64
	社会・国際学群	2	2		1		1	13		1		5	5	30	17
	人間学群	17	26	11	2		6	244		2		11	10	329	50
	生命環境学群	79	15	3	6		5	125				1	20	254	56
	理工学群	152	22	4	7		16	279	14	4		19	19	536	84
	情報学群	62	10		2		10	356				5	15	460	65
	医学群	22	6	1	6		5	66				9	10	125	32
	体育専門学群	3		1				14				10	5	33	14
	芸術専門学群	21	4		3		1	220	5			6	6	266	33
	小計	431	92	25	42		44	1,639	24	7		81	107	2,492	415
大学院生	教育研究科	3	3					12	11			4		33	5
	人文社会科学研究科	6		5	4	5	15	55	13			14		117	16
	人間総合科学研究科	50	4	1	5		11	216				17		304	46
	生命環境科学研究科	47	33		1		6	201	16			5		309	39
	数理工学科学研究科	34	5	8			1	21	2			1		72	16
	システム情報工学研究科	45	45	4			1	168	1			7		271	36
	図書館メディア研究科							49						49	7
	ビジネス科学研究科	1												1	1
	グローバル教育院	10	3		2			28				1		44	8
	小計	196	93	18	12	5	34	750	43			49		1,200	174
研究生	2					1	4						7	1	
その他	2										6		8	3	
合計	631	185	43	54	5	79	2,393	67	7		136	107	3,707	593	

実数	110	35	14	15	1	17	265	8	1		20	107	593
----	-----	----	----	----	---	----	-----	---	---	--	----	-----	-----

(※)UPI(University Personality Inventory)とは、大学生の心の健康調査をいう。



イ 総合相談窓口の利用状況

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	計
相談	349	42	3	34	7	435
問い合わせ	145	36	1	15	20	217
苦情要望	3	2	1		1	7
その他	14			3		17
計	511	80	5	52	28	676

各相談窓口内訳

・ スチューデントプラザ

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	計
相談	295	34	3	29		361
問い合わせ	134	27	1	14	18	194
苦情要望	3	2	1		1	7
その他	4	2		1		7
計	436	65	5	44	19	569

・ 春日

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	計
相談	54	8		12		74
問い合わせ	11	9		1	2	23
苦情要望						0
その他	10					10
計	75	17	0	13	2	107

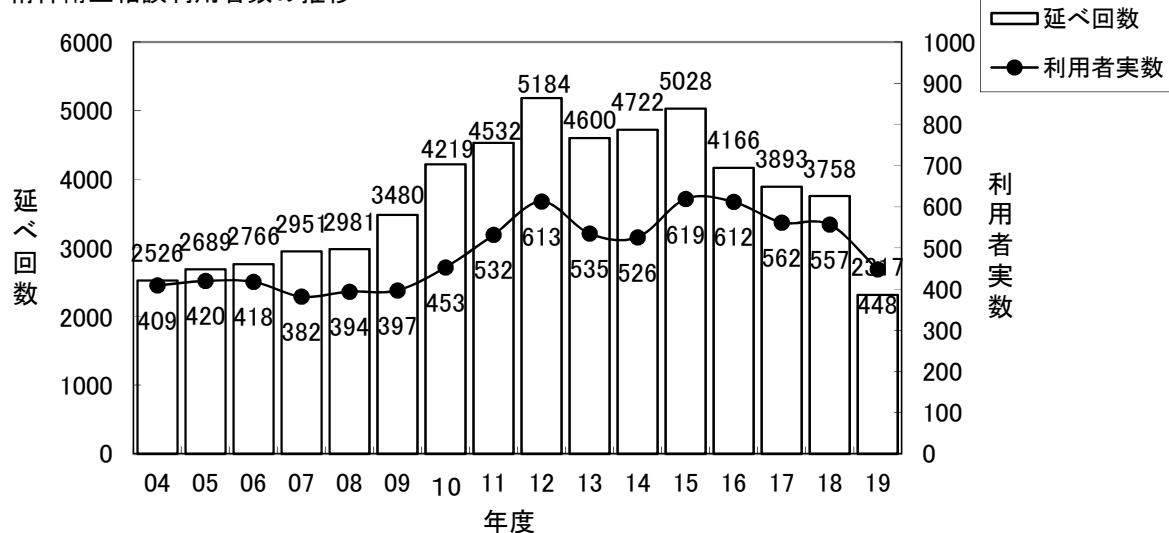
ウ 精神衛生相談利用状況

(ア) 精神衛生相談内訳

区 分		延 数	実 数	
学群学生	人文・文化学群	人 文 学 類	168	27
		比 較 文 化 学 類	85	16
		日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	42	4
	社会・国際学群	社 会 学 類	45	7
		国 際 総 合 学 類	15	4
	人間学群	教 育 学 類	15	5
		心 理 学 類	44	12
		障 害 科 学 学 類	21	8
	生命環境学群	生 物 学 類	85	20
		生 物 資 源 学 類	49	14
		地 球 学 類	11	3
	理工学群	数 学 類	17	2
		物 理 学 類	25	6
		化 学 類	17	3
		応 用 理 工 学 類	55	10
		工 学 シ ス テ ム 学 類	61	11
	情報学群	社 会 工 学 類	68	12
		情 報 科 学 類	94	16
		情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	43	8
	医学群	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	86	18
		医 学 類 (旧 医 専 含 む)	42	13
		看 護 学 類	32	6
	医学群	医 療 科 学 類	14	1
		体 育 専 門 学 群	7	3
	芸術	芸 術 専 門 学 群	176	27
		小 計	1,317	256
	大学院生	修 士 (前 期) 課 程	518	100
博 士 (後 期) 課 程		411	73	
小 計		929	173	
研 究 生	67	18		
そ の 他	4	1		
合 計	2,317	448		

(注)その他は教職員、家族等である。

精神衛生相談利用者数の推移



(イ) ICD-10分類による学生の診断別件数（実数）

器質性精神障害

F06	1
F07	1
F09	2
計	4

成人の人格および行動の障害

F60	4
F64	1
計	5

心理的発達障害

F81	1
F84	14
計	15

広汎性発達障害

統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害

F20	9
F21	1
計	10

統合失調症

小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

F90	18
F94	1
F98	1
計	20

多動性障害

気分障害

F31	19
F32	68
F33	10
F34	11
F38	2
計	110

躁うつ病

うつ病

反復性うつ病

持続性気分障害

その他

問題なし	9
計	9

合計	445
----	-----

神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

F40	12
F40.1	1
F41	23
F42	17
F43	170
F44	5
F45	8
F48	1
計	237

社会不安障害など

パニック障害など

適応障害

生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群

F50	7
F51	27
F54	1
計	35

摂食障害

非器質性睡眠障害

6 国際交流関係

(1) 教職員等の交流

(令和元年度)

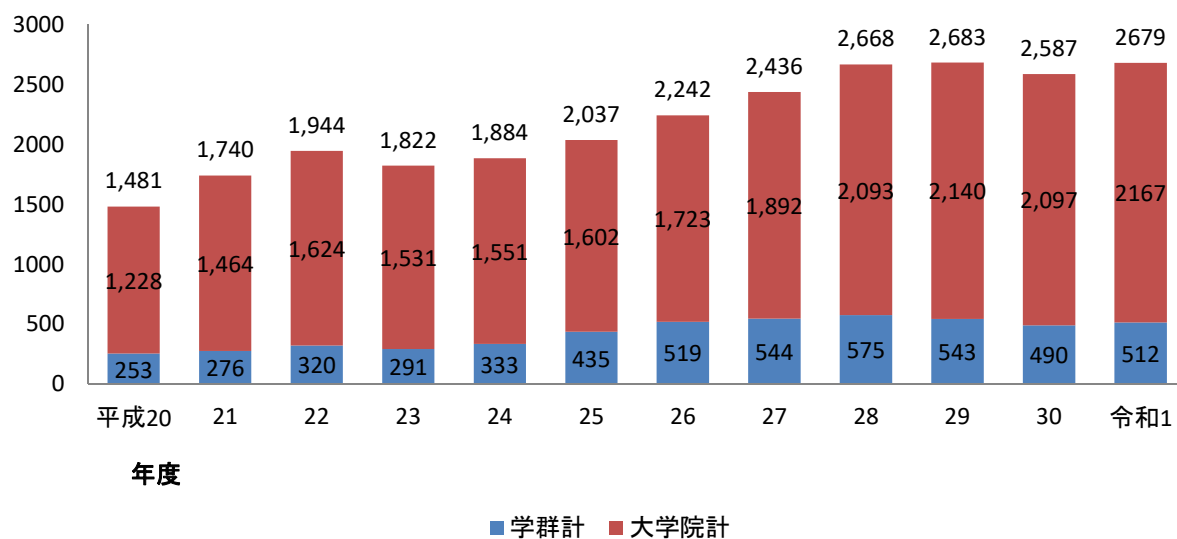
交流組織		外国人研究者等の受入数								合計	教職員等の海外派遣数			合計
		雇用者				雇用者以外					自機 関資 金	外 部 資 金	そ の 他	
		外 国 人 研 究 員	外 国 人 教 員	そ の 他	小 計	自 機 関 資 金	外 部 資 金	そ の 他	小 計					
学群	人文・文化学群	0	11	0	11	12	0	0	12	23	0	0	0	0
	社会・国際学群	0	4	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	人間学群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	生命環境学群	0	2	0	2	0	0	1	1	3	0	0	0	0
	理工学群	0	2	0	2	0	1	0	1	3	0	0	0	0
	情報学群	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	医学群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	体育専門学群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
修士専門課程	芸術専門学群	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	3
	教育研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
博士課程	人文社会科学研究科	0	14	0	14	0	2	0	2	16	0	0	0	0
	ビジネス科学研究科	0	10	0	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0
	数理物質科学研究科	0	1	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0
	システム情報工学研究科	0	5	0	5	0	1	2	3	8	0	1	0	1
	生命環境科学研究科	0	9	0	9	2	6	3	11	20	0	3	0	3
	人間総合科学研究科	0	9	0	9	4	0	0	4	13	0	4	0	4
	図書館情報メディア研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グローバル教育院	グローバル教育院	0	60	0	60	18	1	0	19	79	1	0	0	1
系	人文社会系	5	30	3	38	3	18	5	26	64	41	165	34	240
	ビジネスサイエンス系	0	5	0	5	5	1	0	6	11	10	36	7	53
	数理物質系	13	25	1	39	41	32	29	102	141	60	157	17	234
	システム情報系	7	13	0	20	5	24	52	81	101	61	225	15	301
	生命環境系	8	25	1	34	22	66	128	216	250	83	118	23	224
	人間系	3	9	0	12	3	3	22	28	40	53	81	10	144
	体育系	12	9	0	21	6	26	5	37	58	35	90	31	156
	芸術系	1	4	0	5	2	10	8	20	25	23	62	14	99
	医学医療系	9	19	0	28	12	17	11	40	68	111	256	29	396
	図書館情報メディア系	1	5	0	6	2	5	6	13	19	19	63	7	89
センター等	計算科学研究センター	4	3	0	7	32	11	13	56	63	36	130	5	171
	生存ダイナミクス研究センター	0	2	0	2	2	9	4	15	17	8	10	0	18
	つくば機能植物イノベーション研究センター	0	0	0	0	0	4	25	29	29	26	15	4	45
	下田臨海実験センター	1	0	0	1	0	9	9	18	19	2	12	0	14
	プラズマ研究センター	1	0	0	1	2	0	0	2	3	4	1	0	5
	地中海・北アフリカ研究センター	1	0	0	1	1	6	0	7	8	2	16	0	18
	サイバニクス研究センター	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3	11	2	16
	研究基盤総合センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	4
	アイトープ環境動態研究センター	2	0	0	2	3	3	30	36	38	9	6	18	33
	人工知能科学センター	2	0	0	2	2	1	0	3	5	3	4	0	7
	陽子線医学利用研究センター	0	0	0	0	2	1	0	3	3	1	10	0	11
	遺伝子実験センター	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	0	0	0
	山岳科学センター	0	0	0	0	2	3	1	6	6	5	12	5	22
	ヒューマン・ハイパフォーマンス先端科学研究センター	0	0	0	0	10	0	2	12	12	1	0	0	1
	トランスボーダー医学研究センター	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0
	宇宙史研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	7	1	17
	エネルギー物質科学研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	21	1	32
	大学研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	生命科学動物資源センター	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	3	5
	学術情報メディアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5
	グローバルコミュニケーション教育センター	0	28	0	28	2	0	0	2	30	21	21	9	51
	体育センター	0	1	0	1	0	0	0	0	1	18	11	15	44
	アドミッションセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	保健管理センター	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	薬類/バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター	1	0	0	1	0	2	1	3	4	0	3	0	3
	プレジジョン・メディスン開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	アスレチックパフォーマンスイノベーション開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	1	7
ヘルスサービス開発研究センター	4	0	0	4	0	0	0	0	4	0	3	1	4	
テラーメイドQOLプログラム開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	
国際統合睡眠医学研究機構	国際統合睡眠医学研究機構	12	6	2	20	0	6	7	13	33	1	35	2	38
附属図書館	附属図書館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
附属病院	附属病院	0	0	9	9	0	4	0	4	13	5	41	2	48
附属学校教育局	附属学校教育局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
附属学校	附属学校	0	10	4	14	0	0	37	37	51	37	34	4	75
本部・事務・技術職他	本部・事務・技術職他	0	7	15	22	64	16	60	140	162	160	106	4	270
合計		87	332	36	455	260	288	466	1,014	1,469	868	1,791	265	2,924

(2) 学生の交流

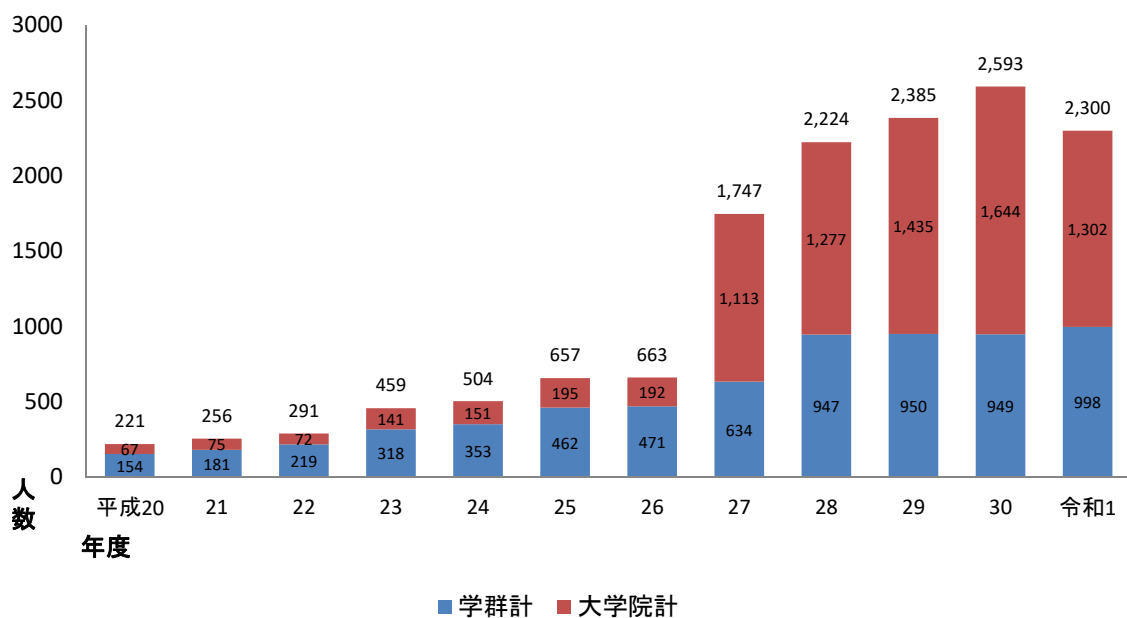
区 分		外国人留学生の受入れ数			学生の海外派遣数	合 計
		正 規 生	非 正 規 生	小 計		
人文・文化学群	人 文 学 類	4	17	21	54	75
	比 較 文 化 学 類	7	27	34	54	88
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	11	39	50	36	86
社会・国際学群	社 会 学 類	30	11	41	32	73
	国 際 総 合 学 類	37	19	56	142	198
人間学群	教 育 学 類	1	1	2	23	25
	心 理 学 類	4	2	6	7	13
	障 害 科 学 類	1	1	2	18	20
生命環境学群	生 物 学 類	43	5	48	47	95
	生 物 資 源 学 類	64	29	93	94	187
	地 球 学 類	15	1	16	41	57
理工学群	数 学 類	3		3	1	4
	物 理 学 類	8		8	12	20
	化 学 類	5		5	8	13
	応 用 理 工 学 類	18	2	20	14	34
	工 学 シ ス テ ム 学 類	16	2	18	41	59
	社 会 工 学 類	6	6	12	35	47
	総合理工学位プログラム	3		3	0	3
情報学群	情 報 科 学 類	11	2	13	20	33
	情 報 メ テ ィ ア 創 成 学 類	5	1	6	19	25
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	7		7	31	38
医学群	医 学 類	2		2	43	45
	看 護 学 類	9		9	36	45
	医 療 科 学 学 類	2	1	3	39	42
体 育 専 門 学 群	1		1	100	101	
芸 術 専 門 学 群	12	6	18	51	69	
グローバル教育院	地球規模課題学位プログラム	15		15	0	15
学 群 計		340	172	512	998	1,510
修士課程	教 育 研 究 科	12	25	37	22	59
博 士 課 程	人 文 社 会 科 学 研 究 科	274	110	384	137	521
	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科			0	9	9
	数 理 物 質 科 学 研 究 科	158	62	220	148	368
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科	325	153	478	239	717
	生 命 環 境 科 学 研 究 科	393	97	490	301	791
	人 間 総 合 科 学 研 究 科	311	132	443	335	778
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科	32	14	46	35	81
	グ ロ ー バ ル 教 育 院	65		65	55	120
	博 士 課 程 小 計	1,558	568	2,126	1,259	3,385
専 門 職 位 課 程	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科	4		4	21	25
	専 門 職 位 課 程 小 計	4		4	21	25
大 学 院 計		1,574	593	2,167	1,302	3,469
合 計		1,914	765	2,679	2,300	4,979

(注)外国人留学生については、令和元年12月1日現在の現員を示す。

【留学生受入数の推移】(H30年度までは各年度の3月1日現在データ、
R1年度以降は各年度の12月1日現在データ)



【留学生派遣数の推移】(各年度延べ人数)



注：平成27年度より、学内の支援による短期海外出張等も含めた。

(3) 国際交流協定

(令和元年度)

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
中国	河北農業大学	部局間	2017/12/12 ~ 2022/12/11	研究者 学生	両機関に共通するすべての領域(主に生命環境科学、食料バイオ科学、バイオ環境科学、バイオシステム科学、地域システム経済学)
	華中師範大学	部局間	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学生	情報セキュリティ、人工知能、ビッグデータ解析、及びその関連分野
	華東師範大学	全学	2017/7/25 ~ 2022/7/24	研究者 学生	全領域(特に、理学・工学、日本語・日本文化、中国語・中国文化、生命環境、体育)
	吉林大学	全学	2018/2/7 ~ 2023/2/6	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域
	吉林農業大学	部局間	2014/2/25 ~ 2019/2/24	研究者 学生	農業生物科学、農業経済社会学、応用生化学、生物資源環境工学、その他関連分野
	湖南大学	部局間	2016/8/22 ~ 2021/8/21	研究者 学生	人文科学及び社会科学(文学、語学、社会学、文化学、国際関係学)
	江南大学	部局間	2015/9/28 ~ 2020/9/27	研究者 学生	生物技術、生命科学分野及びその関連分野
	香港科技大学	全学	2017/9/1 ~ 2022/8/31	研究者 学生	全領域
	香港中文大学	全学	2015/2/17 ~ 2020/2/16	研究者 学生	協議により決定
	香港理工大学	部局間	2014/11/11 ~ 2019/11/10	学生	社会学全領域
	四川大学	部局間	2018/3/16 ~ 2023/3/15	研究者 学生	半導体材料とデバイス及び関連分野
	上海外国語大学	部局間	2019/3/4 ~ 2024/3/3	研究者 学生	日本語・日本文化を中心とする人文社会系分野
	上海図書館	部局間	2015/1/5 ~ 2020/1/4	研究者 学生	図書館情報学及び関連分野
	清華大学	部局間	2017/2/27 ~ 2022/2/26	研究者 学生	都市計画・建築計画
	清華大学	部局間	2018/5/10 ~ 2023/5/9	研究者 学生	環境科学・工学、生命科学、生態学、及び関連分野
	西安外国語大学	部局間	2016/11/1 ~ 2021/10/31	研究者 学生	日本語・日本文化を中心とする人文社会系分野
	西安交通大学	全学	2018/2/21 ~ 2023/2/20	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域
	西北農林科技大学	部局間	2017/11/1 ~ 2022/10/31	研究者 学生	両機関に共通するすべての領域(主に生命環境科学、食料バイオ科学、バイオ環境科学、バイオシステム科学、地域システム経済学)
	蘇州大学	部局間	2017/11/13 ~ 2022/11/12	研究者 学生	体育、スポーツ科学
	大連大学	部局間	2017/2/18 ~ 2022/2/17	研究者 学生	日本語・日本文化を中心とした人文科学、社会科学及び関連分野
	大連民族大学	全学	2018/3/1 ~ 2023/2/28	研究者 学生	全学
	中央美術学院	全学	2018/9/22 ~ 2023/9/21	研究者 学生	全領域(特に芸術および社会工学)
	中国科学院 地理科学・資源研究所	部局間	2012/4/1 ~ 2017/3/31	研究者 学生	生命環境科学及び関連分野
	中国科学技術大学	全学	2014/4/6 ~ 2019/4/5	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域
	中国原子能科学研究院	部局間	2012/8/1 ~ 2017/7/31	研究者 学生	加速器科学及び関連分野
	中国人民大学	部局間	2018/10/1 ~ 2023/9/30	研究者 学生	日本語・日本文化を中心とする人文社会系分野
	中国地質大学	部局間	2015/11/23 ~ 2020/11/22	研究者 学生	環境科学、環境工学、生命環境科学及びエネルギー資源
	中国美術学院	部局間	2018/5/19 ~ 2023/5/18	研究者 学生	芸術諸分野
	鄭州大学	部局間	2015/11/28 ~ 2020/11/27	研究者 学生	環境科学、環境工学、衛生環境医学、生命環境科学など
	東北師範大学	全学	2019/4/10 ~ 2024/4/9	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域
	東北大学	部局間	2017/7/1 ~ 2020/6/30	研究者 学生	経営学、経済学及び関連分野
	同濟大学	部局間	2015/8/1 ~ 2020/7/31	研究者 学生	環境科学、環境工学、水環境及び関連分野
内蒙古農牧業科学院	部局間	2016/4/12 ~ 2021/4/11	研究者 学生	畜産学・草学及び関連分野	
南開大学	全学	2019/9/5 ~ 2024/9/4	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域	
南京農業大学	部局間	2019/2/1 ~ 2024/1/31	研究者 学生	農業、生命環境科学及びその関連分野	
復旦大学	全学	2018/9/13 ~ 2023/9/12	研究者 学生	人文社会科学、生命環境科学、人工知能科学及び関連分野	
福建師範大学	部局間	2016/11/1 ~ 2021/10/31	研究者 学生	日本語・日本文化を中心とする人文社会系分野	

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	北京師範大学	全学	2016/4/28 ~ 2021/4/27	研究生	全領域
	北京大学	全学	2016/10/12 ~ 2021/10/11	研究生	両大学におけるすべての分野
	蘭州大学	部局間	2016/8/17 ~ 2021/8/16	研究生	原子核物理学及び関連分野
	厦門大学	全学	2018/5/21 ~ 2023/5/20	研究生	両大学に共通する全ての領域
	浙江科技学院	部局間	2018/7/1 ~ 2023/6/30	研究生	両機関に共通するすべての領域(主に生命環境科学)
	浙江大学	全学	2017/11/9 ~ 2022/11/8	研究生	両大学に共通する全ての領域
	澳門大学	部局間	2020/4/1 ~ 2025/3/31	学生	人文科学及び関連分野
台湾	高雄医学大学	部局間	2019/9/3 ~ 2024/9/2	研究生	医学(臨床医学、基礎医学、社会医学)及び関連分野
	国立嘉義大学	部局間	2019/6/17 ~ 2024/6/16	研究生	人文社会科学(教育学、心理学、特別支援教育及びその関連分野を含む)
	国立交通大学	部局間	2015/8/25 ~ 2020/8/24	研究生	ナノエレクトロニクス関連分野での教育及び研究
	国立交通大学	部局間	2017/8/2 ~ 2022/8/1	研究生	医学、工学
	国立彰化師範大学	部局間	2018/3/7 ~ 2023/3/6	研究生	障害科学、教育学、心理学
	国立成功大学	全学	2019/3/21 ~ 2024/3/20	研究生	全領域(基礎・応用自然科学、バイオサイエンス、医学、人文科学、社会科学、工学分野)
	国立政治大学	全学	2016/7/1 ~ 2021/6/30	研究生	両大学の全ての領域
	国立清華大学	全学	2017/11/29 ~ 2022/11/28	研究生	全領域
	国立台北大学	全学	2018/5/23 ~ 2023/5/22	研究生	全領域
	国立台湾科技大学	部局間	2018/9/30 ~ 2023/9/29	研究生	美術、構成、デザイン、感性情報学、感性デザイン学、感性人間工学
	国立台湾芸術大学	部局間	2015/7/12 ~ 2020/7/11	研究生	芸術諸分野
	国立台湾師範大学	全学	2017/12/1 ~ 2022/11/30	研究生	両大学に共通するすべての分野
	国立台湾体育運動大学	全学	2016/11/19 ~ 2021/11/18	研究生	体育、医学
	国立台湾大学	全学	2012/11/16 ~ 2017/11/15	研究生	全領域
	国立台湾大学	部局間	2015/4/20 ~ 2020/4/19	学生	農学分野
	国立台湾大学	CiC	2015/9/30 ~ 2020/9/29	研究生	CiC協定における全領域
	国立屏東科技大学	部局間	2016/11/1 ~ 2021/10/31	研究生	生命環境科学
	東呉大学	全学	2016/4/23 ~ 2021/4/22	研究生	両機関に共通するすべての領域(特に人文社会科学、図書館情報メディア科学)
	輔仁大学	全学	2019/4/16 ~ 2024/4/15	研究生	全分野(主として人文社会科学、体育学)
	韓国	ソウル市立大学校	部局間	2018/2/15 ~ 2023/2/14	研究生
ソウル大学校		部局間	2015/6/18 ~ 2020/6/17	研究生	体育・健康・スポーツ科学及び関連分野
延世大学校		全学	2019/10/1 ~ 2024/9/30	研究生	両大学に共通するすべての領域
釜山大学校		部局間	2017/2/16 ~ 2022/2/15	研究生	材料科学、物理学及び関連分野
釜山大学校		部局間	2018/8/16 ~ 2023/8/15	研究生	障害科学、教育学、心理学及びその他の関連分野
釜山大学校		部局間	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究生	図書館情報学及び関連分野
漢陽大学校		全学	2019/1/26 ~ 2024/1/25	研究生	両機関に共通する全ての領域
漢陽大学校		部局間	2019/5/28 ~ 2024/5/27	研究生	両対応組織に共通するすべての分野、高齢化社会における健康・活力増進対策
韓国科学技術院		全学	2015/6/1 ~ 2020/5/31	研究生	両機関に共通するすべての領域(主に工業デザイン、感性インターフェース、感性インタラクション、ロボット工学、情報工学、音楽情報処理)
韓国外国語大学校		部局間	2017/10/22 ~ 2022/10/21	研究生	人文科学、社会科学、地域研究、日本語・日本文化及び関連分野
韓国教員大学校		部局間	2018/4/1 ~ 2023/3/31	研究生	教育学関連分野
韓国国土研究院		部局間	2016/6/12 ~ 2021/6/11	研究者	都市及び地域計画及び関連分野

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	啓明大学校	部局間	2017/11/1 ~ 2022/10/31	研究者 研究生	人文社会科学及び関連分野
	慶熙大学校	部局間	2014/6/17 ~ 2019/6/16	研究者 研究生	健康・スポーツ科学及び関連分野
	弘益大学校	全学	2019/4/13 ~ 2024/4/12	研究者 研究生	両大学に共通する全ての領域
	高麗大学校	全学	2018/2/1 ~ 2023/1/31	学生	人文科学、社会科学及び自然科学全般（協議により決定）
	国立核融合研究所	部局間	2015/8/1 ~ 2020/7/31	研究者	プラズマ核融合科学
	仁荷大学校	部局間	2017/5/20 ~ 2022/5/19	研究者 研究生	日本語学、日本文学、韓国語学、韓国文学、応用言語学、比較文学、文化交流論及び関連分野
	大邱大学校	部局間	2018/8/24 ~ 2023/8/23	研究者 研究生	心身障害学、リハビリテーション科学及び関連分野
	忠南大学校	部局間	2016/12/6 ~ 2021/12/5	研究者 研究生	医学教育、医学研究、医学分野における産学連携方法についての交流
	忠南大学校	部局間	2017/3/21 ~ 2022/3/20	研究者 研究生	農学、生物学、地球環境科学及び関連分野
	梨花女子大学校	全学	2018/2/1 ~ 2023/1/31	研究者 研究生	全領域（両大学に共通する全ての分野）
インド	ジャワハルラル・ネール大学	部局間	2016/4/1 ~ 2021/3/31	研究者 研究生	日本研究、インド研究、日本語教育、英語教育を含む人文社会科学分野及び関連分野
	ハイデラバード大学	部局間	2016/12/14 ~ 2021/12/13	研究者 研究生	生物学、生命科学及び関連分野
	マドラス大学	部局間	2019/2/4 ~ 2022/2/3	研究者 研究生	陽電子消滅を用いた物性研究
	マナブラチャナ国際大学	部局間	2017/11/1 ~ 2022/10/31	研究者 研究生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学、スポーツ理学療法、栄養学
	青少年スポーツ省インドスポーツ協会	部局間	2018/10/29 ~ 2021/10/28	研究者	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学、オリンピック教育
インドネシア	KIBIインドネシア生命医科学団体	部局間	2018/9/21 ~ 2023/9/20	学生	生命医学分野
	インドネシア共和国海事調整省	全学	2019/2/14 ~ 2024/2/13	研究者	藻類科学技術および関連技術に関わる分野・領域
	インドネシア教育大学	部局間	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 研究生	障害科学、教育学、心理学、その他の関連分野
	インドネシア大学	全学	2014/5/22 ~ 2019/5/21	研究者 研究生	協議により決定
	ウダヤナ大学	部局間	2013/6/1 ~ 2018/5/31	研究者 研究生	医学分野
	ガジャマダ大学	全学	2018/9/1 ~ 2023/8/31	研究者 研究生	生命環境科学分野、生命科学分野、システム情報工学分野、土木工学分野、都市地域計画分野
	パジャジャラン大学	全学	2013/8/1 ~ 2018/7/31	研究者 研究生	協議により決定
	バンドン工科大学	部局間	2018/1/27 ~ 2023/1/26	研究者 研究生	生命環境科学分野
	ピヌス大学	全学	2020/3/18 ~ 2025/3/17	研究者 研究生	生命環境関連（AIMSプログラムで指定される10学問分野）
	ボゴール農科大学	部局間	2016/8/6 ~ 2021/8/5	研究者 研究生	環境科学、農学、生物工学、生命科学および関連分野
	リアウ大学	部局間	2019/10/7 ~ 2024/10/6	研究者 研究生	生命環境科学及び関連分野
	国立アイルランガ大学	全学	2020/3/10 ~ 2025/3/9	研究者 研究生	両大学に共通するすべての分野
カンボジア	王立プノンベン大学	部局間	2015/6/22 ~ 2020/6/21	研究者 研究生	生物学及び環境科学
	王立農業大学	部局間	2015/7/21 ~ 2020/7/20	研究者 研究生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
タイ	アジア工科大学院	全学	2018/9/1 ~ 2023/8/31	研究者 研究生	両機関に共通するすべての領域（主に、生命環境科学、建設工学、情報工学、社会工学、及び関連分野）
	カセサート大学	全学	2019/2/25 ~ 2024/2/24	研究者 研究生	生命環境関連（AIMSプログラムで指定される10学問分野）
	キング・モンクット工科大学トンブリ校	部局間	2016/8/1 ~ 2021/7/31	研究者 研究生	生物資源科学、環境バイオマス共生学及び関連分野
	コンケン大学	全学	2016/10/19 ~ 2021/10/18	研究者 研究生	両機関に共通する全ての領域
	コンケン大学	部局間	2017/2/8 ~ 2022/2/7	研究者 研究生	医学
	シーナカリンウィロート大学	部局間	2014/11/9 ~ 2019/11/8	研究者 研究生	健康・スポーツ科学及び関連分野
	スラナリー工科大学	部局間	2011/4/1 ~ 2016/3/31	研究者 研究生	食物、エネルギー、天然資源及び関連分野
	タイ王国司法裁判所事務局	部局間	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者	両機関に共通するすべての領域（人文社会科学研究科の各専攻、SDGs(sustainable development goals)をめぐる関連諸領域）

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	タマサート大学	部局間	2016/9/1 ~ 2021/8/31	研究者 学生	AIMSプログラム関連分野、主に 農業、食料科学技術、生物多様性、環境科学
	チェンマイ大学	全学	2020/3/5 ~ 2025/3/4	研究者 学生	生命環境関連(AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	チュラロンコン大学	部局間	2016/8/9 ~ 2021/8/8	研究者 学生	地球進化科学及び関連分野
	チュラロンコン大学	部局間	2017/4/1 ~ 2022/3/31	研究者 学生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学
	プリンスオブソンクラ大学	部局間	2018/3/11 ~ 2023/3/10	研究者 学生	物質科学、バイオマテリアル、薬学、医学及び関連分野
	プリンスオブソンクラ大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学生	生命環境関連(AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	メーファールアン大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学生	生命環境関連(AIMSプログラムで指定される10学問分野)を中心とした全分野
	メジョ大学	部局間	2011/4/1 ~ 2016/3/31	研究者 学生	生命環境科学
パキスタン	ベシヤワール農業大学	全学	2010/11/29 ~ 2015/11/28	研究者 学生	全領域(特に、農業や生物学関連領域を中心とした生命環境科学分野、地域研究や公共政策等の社会科学分野、システム情報工学分野)
バングラデシュ	バングラデシュ工科大学	部局間	2013/10/1 ~ 2018/9/30	研究者 学生	土木工学、機械工学及び関連分野
	バングラデシュ農業大学	部局間	2017/10/1 ~ 2022/9/30	研究者 学生	農業、環境科学及び関連分野
	国際下痢症研究センター	部局間	2017/6/8 ~ 2022/6/7	研究者 学生	医学(社会医学、臨床医学、基礎医学)及び関連分野
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	全学	2020/3/31 ~ 2025/3/30	研究者 学生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	セイントラサル大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学生	生命環境関連(AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	セントラルピコール州立農業大学	部局間	2014/10/1 ~ 2019/9/30	研究者 学生	生命環境関連(AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	セントラルルソン州立大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学生	生命環境関連(AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	デ・ラ・サル大学	全学	2019/5/20 ~ 2024/5/19	研究者 学生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	フィリピン大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学生	生命環境関連(AIMSプログラムで指定される10学問分野)
ブルネイ	ブルネイ・ダルサラム大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	学生	生命環境関連(AIMSプログラムで指定される10学問分野)
ベトナム	ヴァイン大学	部局間	2015/5/25 ~ 2020/5/24	研究者 学生	藻類バイオマスおよび藻類バイオマスに関連する基礎から応用までの分野
	チョライ病院	部局間	2018/9/21 ~ 2023/9/20	研究者	医学及び関連分野
	トウイロイ大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	ナムディン看護大学	部局間	2017/12/8 ~ 2022/12/7	研究者 学生	両機関に共通する全ての領域
	ハノイ医科大学	部局間	2012/10/1 ~ 2017/9/30	研究者 学生	両大学に共通するすべての分野
	フエ医科薬科大学	部局間	2011/4/28 ~ 2016/4/27	研究者 学生	両大学・研究に共通する全ての領域
	ベトナム科学技術アカデミー・バイオテクノロジー研究所	部局間	2016/7/1 ~ 2021/6/30	研究者 学生	両機関に共通する全ての領域
	ベトナム教育訓練省国際教育開発局	部局間	2014/4/21 ~ 2019/4/20	研究者 学生	生命環境科学及び関連する分野全般
	ベトナム国家大学ハノイ校 工業技術大学、経済大学、 教育大学、外国語大学、 人文社会科学大学、自然科学大学、 日越大学	全学	2015/12/12 ~ 2017/6/30	研究者 学生	全領域
	ベトナム国家大学ホーチミン校 自然科学大学、経済法科大学、 情報工科大学、国際大学、 人文社会科学大学	全学	2015/9/17 ~ 2020/9/16	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域
	ベトナム国家農業大学	部局間	2018/12/16 ~ 2023/12/15	研究者 学生	生命環境及び関連分野
	ベトナム国立図書館	部局間	2014/2/2 ~ 2019/2/1	研究者 学生	図書館システム、図書館経営、図書館員養成等、図書館関連分野
	ホーチミン市バイオテクノロジーセンター	部局間	2011/9/22 ~ 2016/9/21	学生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
	ホーチミン市バイオテクノロジーセンター	全学	2016/1/9 ~ 2021/1/8	研究者 学生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
	ホーチミン市医科薬科大学	全学	2016/9/22 ~ 2021/9/21	学生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
	ホーチミン市医科薬科大学	部局間	~		医学、医療科学、公衆衛生学、看護学、助産学を含む、ヘルスケア分野
	ホーチミン市科学技術局	部局間	2011/9/22 ~ 2016/9/21	研究者 学生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	ホーチン市師範大学	全学	2019/8/12 ~ 2024/8/11	研究者 研究生	両大学に共通する全ての領域
	ホーチン市美術大学	部局間	2019/1/21 ~ 2024/1/20	研究者 研究生	芸術、デザインの諸分野
	交通通信大学	全学	2016/9/9 ~ 2021/9/8	研究者 研究生	両機関に共通する全ての領域
	熱帯生物学研究所	部局間	2011/9/22 ~ 2016/9/21	学生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
マレーシア	ウタラマレーシア大学	部局間	2016/2/16 ~ 2021/2/15	研究者 研究生	大学の世界展開力強化推進事業担当 RIJ-TAGプログラム関連分野
	ケバンサアン・マレーシア大学	全学	2011/1/21 ~ 2016/1/20	研究者 研究生	生命環境科学、人文社会科学
	マラヤ大学	全学	2014/5/15 ~ 2019/5/14	研究者 研究生	協議により決定
	マラ工科大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 研究生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	マレーシア・プトラ大学	部局間	2018/2/1 ~ 2023/1/31	研究者 研究生	協議により決定
	マレーシアサバ大学	全学	2019/2/1 ~ 2024/1/31	研究者 研究生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	マレーシア工科大学	CiC	2016/9/19 ~ 2021/9/18	研究者 研究生	CiC協定における全領域
ミャンマー	パテイン大学	部局間	2014/12/1 ~ 2019/11/30	研究者 研究生	協議により決定
	教育省・監査及び評価局	全学	2018/1/10 ~ 2023/1/9	研究者	全学
モンゴル	フスタイ国立公園研究センター	部局間	2015/5/7 ~ 2020/5/6	研究者	環境科学及び関連分野
	モンゴル国立医科大学	部局間	2018/7/6 ~ 2023/7/5	研究者 研究生	両機関に共通する全ての領域
	モンゴル国立大学	部局間	2017/8/8 ~ 2022/8/7	研究者	法律学
	モンゴル生命科学大学	部局間	2019/7/1 ~ 2024/6/30	研究者 研究生	農学及び関連分野
ラオス	ラオス国立大学	部局間	2015/7/27 ~ 2020/7/26	研究者 研究生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
オーストラリア	アデレード大学	全学	2013/11/25 ~ 2018/11/24	研究者 研究生	両大学に共通する全ての領域(ただし、一部交流できない分野もある)
	ウーロンゴン大学	部局間	2015/11/18 ~ 2020/11/17	研究者	医学物理学
	オーストラリア国立大学	全学	2018/2/16 ~ 2023/2/15	学生	人文科学、社会科学、自然科学全般(学生交流は医学分野を除く。)
	クイーンズランド大学	全学	2014/8/20 ~ 2019/8/19	研究者 研究生	両大学に共通する全ての領域
	ジェームズクック大学	部局間	2015/5/20 ~ 2020/5/19	研究者 研究生	全領域(ただし、大学、キャンパスあるいは学部の都合により、交流できない分野もある。)
	タスマニア大学	全学	2018/1/1 ~ 2020/12/31	研究者 研究生	両機関に共通するすべての領域(特に世界遺産学、自然保護寄附講座に関する領域)
	ディーキン大学	全学	2015/9/24 ~ 2020/9/24	研究者 研究生	両機関に共通するすべての領域(とくに海洋学、生物学、自然保護寄附講座、世界遺産学に関わる領域)
	ビクトリア大学	部局間	2017/7/24 ~ 2022/7/23	研究者 研究生	健康、スポーツ科学
	フリンダース大学	部局間	2019/11/1 ~ 2024/10/31	研究者 研究生	都市イノベーション、都市開発技術、都市デザイン、環境計画及び関連分野
	モナシュ大学	全学	2015/9/1 ~ 2020/8/31	研究者 研究生	協議により決定
ニュージーランド	西オーストラリア大学	全学	2016/2/10 ~ 2021/2/9	研究者 研究生	ビジネス科学(企業法学)、農学及び食糧科学、環境学、スポーツ科学
	オークランド大学	部局間	2015/5/1 ~ 2020/4/30	研究者 研究生	健康、スポーツ科学及びその他関連分野
オタゴ大学	オタゴ大学	部局間	2013/6/30 ~ 2018/6/29	研究者 研究生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学分野及び関連分野
	オタゴ大学	部局間	2013/6/30 ~ 2018/6/29	研究者 研究生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学分野及び関連分野
カナダ	サスカチュワン大学	部局間	2016/10/27 ~ 2021/10/26	研究者 研究生	協議により決定
	ブリティッシュ・コロンビア大学	全学	2018/4/1 ~ 2023/3/31	学生	全領域
	プリンス・エドワード島大学	部局間	2018/3/28 ~ 2023/3/27	研究者 研究生	カナダ研究、日本研究を中心とした人文科学、社会科学及び関連分野
	ブロック大学	部局間	2014/10/30 ~ 2019/10/29	研究者 研究生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学、スポーツ国際開発学
	モントリオール大学	全学	2019/9/3 ~ 2024/9/2	研究者 研究生	協議により決定
米国	アラスカ大学フェアバンクス校	部局間	2015/1/11 ~ 2020/1/10	研究者 研究生	地球環境科学
	アリゾナ州立大学	部局間	2015/3/3 ~ 2020/3/2	研究者 研究生	藻類バイオマスおよび藻類バイオマスに関連する基礎から応用までの分野
	イリノイ大学・シカゴ校	部局間	2019/6/12 ~ 2024/6/11	研究者 研究生	医学医療系の研究と教育に共通する全ての領域

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	オハイオ州立大学	部局間	2016/8/30 ~ 2021/8/29	研究者 研究生	人文科学・社会科及び関連分野
	オハイオ州立大学	CiC	2018/6/14 ~ 2023/6/13	研究者 研究生	交流可能な全分野
	オハイオ州立大学	部局間	2016/7/7 ~ 2021/7/6	研究者 研究生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学
	カリフォルニア州立大学	全学	2015/5/18 ~ 2020/5/17	研究者 研究生	協議により決定
	カリフォルニア大学アーバイン校	部局間	2014/10/1 ~ 2019/9/30	研究者 研究生	システム生物学および関連分野
	カリフォルニア大学アーバイン校	部局間	2015/6/30 ~ 2018/5/31	研究者 研究生	医学、生命科学、およびその関連分野
	カリフォルニア大学アーバイン校	全学	2016/4/19 ~ 2021/4/18	研究者 研究生	医学、生命科学、スポーツ科学、システム情報およびその関連分野
	カリフォルニア大学アーバイン校	CiC	2017/1/9 ~ 2021/4/18	研究者	CiC協定における全領域 (Research Partner)
	カリフォルニア大学サンディエゴ校	全学	2016/3/4 ~ 2021/3/3	学生	両機関に共通するすべての領域(主に藻類バイオマスを基軸とした生命環境科学分野、医科学分野とその他双方の関心の一致する分野)
	ケント州立大学	部局間	2013/2/25 ~ 2018/2/24	研究者 研究生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学
	コーネル大学	部局間	2010/9/8 ~ 2015/9/7	研究者 研究生	農学全般、生物科学、生命科学、環境科学
	サンディエゴ大学	部局間	2017/3/1 ~ 2020/2/29	学生	経営学、経済学及び関連分野
	シェファード大学	部局間	2018/4/24 ~ 2023/4/23	研究者 研究生	医学の研究と教育に共通する全ての領域
	ニューメキシコ大学	部局間	2015/7/13 ~ 2020/7/12	研究者	体育・スポーツ科学
	ニューヨーク州立大学・オスウェゴ校	部局間	2016/7/1 ~ 2021/6/30	研究者 研究生	教育学、社会科学及び関連分野
	ニューヨーク州立大学・ストニブルク校	部局間	~	研究者	X線領域の放射線実験の応用
	パデュー大学	全学	2016/4/26 ~ 2021/4/25	研究者 研究生	全領域
	ハワイ大学マノア校	全学	2014/10/9 ~ 2019/10/8	研究者 研究生	協議により決定
	ハワイ大学マノア校	部局間	2017/10/1 ~ 2020/9/30	学生	経営学
	ピッツバーグ大学	部局間	2014/3/16 ~ 2019/3/15	研究者 研究生	図書館情報学、情報学
	プリンストン大学	部局間	2018/4/17 ~ 2023/4/16	研究者 研究生	核融合分野
	ミシガン州立大学	部局間	2017/11/20 ~ 2022/11/19	研究者 研究生	植物科学、作物科学研究
	ミシガン大学	部局間	2019/11/27 ~ 2024/11/26	研究者 研究生	図書館情報学及び関連分野
ユタ州立大学	部局間	2015/4/1 ~ 2020/3/31	研究者 研究生	生命科学・農学及び関連分野	
ユタ州立大学	全学	2016/2/17 ~ 2021/2/16	研究者 研究生	両大学に共通するすべての領域(特に農学、芸術学、デザイン学、物理学、宇宙開発分野)	
ルイジアナ州立工科大学	部局間	2019/9/5 ~ 2024/9/4	研究者 研究生	コンピュータサイエンスおよび関連分野	
ワシントン大学・セントルイス	部局間	2018/9/1 ~ 2023/8/31	研究者 研究生	人文・社会科学及び関連分野	
聖アンソニー看護大学	部局間	2019/9/18 ~ 2024/9/17	研究者 研究生	看護学の研究と教育に共通する全ての領域	
南インディアナ大学	部局間	2019/9/14 ~ 2024/9/13	研究者 研究生	人間学、看護学、リハビリテーション科学、ソーシャル・ワーク、医科学及び関連分野	
アルゼンチン	ブエノスアイレス大学	全学	2019/7/12 ~ 2024/7/11	研究者 研究生	両大学に共通するすべての分野
コロンビア	サンタンデル工科大学	全学	2017/1/13 ~ 2022/1/13	研究者 研究生	全学(主に藻類バイオマス・エネルギーシステムに関する分野)
	ロスアンデス大学	全学	2015/8/19 ~ 2020/8/18	研究者 研究生	協議により決定
チリ	チリ大学	全学	2014/8/5 ~ 2019/8/4	研究者 研究生	協議により決定
ブラジル	カンピナス州立大学	全学	2017/2/28 ~ 2022/2/27	研究者 研究生	農学、生命科学、環境科学、システム情報工学
	サンタ・クルス病院	部局間	2016/9/19 ~ 2021/9/18	研究者 研究生	医学および関連分野
	サンパウロ州研究財団	全学	2017/9/1 ~ 2022/8/31	研究者	
	サンパウロ州立パウリスタ大学	全学	2018/3/8 ~ 2023/3/7	研究者 研究生	両機関に共通するすべての領域(特に、医学、システム情報工学)
	サンパウロ大学	全学	2014/1/16 ~ 2019/1/15	研究者 研究生	両機関に共通する全ての領域(ただし、具体的な交流の実施については、個別の協定書により規定することとする(第2条参照))

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	サンパウロ大学	部局間	2015/4/16 ~ 2020/4/15	研究者 研究生	健康・スポーツ科学及び関連分野
	サンパウロ大学	CiC	2016/9/19 ~ 2021/9/18	研究者 研究生	CiC協定における全領域
	サンパウロ大学	部局間	2013/9/27 ~ 2018/9/26	研究者 研究生	両大学における医学の領域
	サンパウロ大学	部局間	2014/6/18 ~ 2019/6/17	研究者 研究生	両大学における医学の領域
	サンパウロ大学リベロンブレイト校	部局間	2016/12/7 ~ 2021/12/6	研究者 研究生	主に両大学における健康科学および薬学の領域
	ブラジリア大学	全学	2019/11/7 ~ 2024/11/6	研究者 研究生	両大学に共通する全ての領域
	ペルナンブーコ連邦大学	部局間	1981/7/12 ~	研究者	ラテンアメリカ研究
ペルー	ペルー・カトリカ大学	全学	2018/3/1 ~ 2023/2/28	研究者 研究生	全領域(特に、人文社会科学、自然科学)
メキシコ	グアダハラハラ大学	全学	2017/3/15 ~ 2022/3/14	研究者 研究生	生命環境科学、人文社会科学、芸術が主体だが世界展開力強化推進事業の対象は全て含む
	メキシコ大学院大学	部局間	2007/10/4 ~	研究者 研究生	人文科学、社会科学及び関連分野
	メキシコ農業科学大学院大学	部局間	2019/10/4 ~ 2024/10/3	研究者 研究生	農業科学およびそれに関連した研究分野
サウジアラビア	キング・アブドゥールアジーズ大学	全学	2010/7/8 ~ 2015/7/7	研究者 研究生	両大学に共通する全ての領域
トルコ	バムツカレ大学	全学	2014/4/10 ~ 2019/4/9	研究者 研究生	協議により決定
	ボアジチ大学	部局間	2018/3/5 ~ 2023/3/4	研究者 研究生	日本語・日本文化、日本語教育、トルコ語・トルコ文化
ヨルダン	ヨルダン科学技術大学	全学	2019/9/5 ~ 2024/9/4	研究者 研究生	両大学に共通する全ての領域(主に生命環境科学、システム情報工学)
イタリア	カ・フォスカリ大学	部局間	2011/9/8 ~ 2016/9/7	研究者 研究生	日本語・日本文化研究、イタリア語・イタリア文化を中心とした人文科学、社会科学及び関連分野
	フィレンツェ国立美術学院	部局間	2016/7/1 ~ 2021/6/30	研究者 研究生	芸術諸分野
	ポローニャ大学	部局間	2015/7/16 ~ 2020/7/15	研究者 研究生	医科学に関する領域
	マルシェ科学技術大学	部局間	2017/4/24 ~ 2022/4/23	研究者 研究生	生命科学、生命環境科学、海洋生物学、海洋生態学、環境科学、バイオリソース学
	ミラノ工科大学	全学	2018/9/13 ~ 2023/9/12	研究者 研究生	デザイン領域(建築デザイン、環境デザイン、情報デザイン、プロダクトデザイン)、感性認知脳科学、建築工学、他
エストニア	タリン大学	全学	2016/1/21 ~ 2021/1/20	研究者 研究生	人文社会科学(地域研究・歴史研究・国際関係学など)、人間総合科学を中心とした学問分野
オーストリア	ウィーン経済・経営大学	部局間	2017/4/29 ~ 2022/4/28	研究者 研究生	経営・社会経済システム分野
	ウィーン大学	部局間	2020/2/14 ~ 2025/2/13	研究者 研究生	核化学、核物理、放射性同位体トレーサー
	リンツ工科大学	部局間	2018/8/22 ~ 2023/8/21	研究者 研究生	ヒューマンコンピューターインタラクション、メディアアート、アートアンドサイエンス
オランダ	アイントホーフェン工科大学	部局間	2018/6/12 ~ 2023/6/11	研究者 研究生	感性情報メディア、感性インタラクション、情報デザイン、工業デザイン、建築デザイン及び関連分野
	デルフト工科大学	部局間	2015/7/1 ~ 2020/6/30	研究者 研究生	土木工学、環境工学、水管理、環境史、地球科学
	デルフト工科大学	部局間	2017/4/1 ~ 2022/3/31	研究者 研究生	感性認知脳科学、芸術学、デザイン学、情報学及び関連分野
	デルフト工科大学	部局間	2019/3/20 ~ 2024/3/19	研究者	工学及び関連分野
	トウェンテ大学	全学	2013/11/24 ~ 2018/11/23	研究者 研究生	サイバニクス分野(工学、医学、人文科学、ビジネス科学)及び関連分野
	ユトレヒト大学	部局間	2016/10/21 ~ 2021/10/20	研究者 研究生	健康、スポーツ科学
	ユトレヒト大学	CiC	2017/9/15 ~ 2022/9/14	研究者	交流可能な全分野(CiC協定)
	ユトレヒト大学	部局間	2018/3/12 ~ 2022/9/14	研究者 研究生	物理学(特に、高エネルギー重イオン衝突実験及び関連分野)
	ユトレヒト大学	部局間	2019/9/1 ~ 2022/8/31	学生	法学分野
	英国	イースト・アングリア大学	全学	2014/3/10 ~ 2024/3/9	研究者
エディンバラ大学		全学	2015/5/11 ~ 2020/5/10	研究者 研究生	計算科学、ロボット、地球科学、医学分野
オックスフォード・ブルックス大学		全学	2015/2/18 ~ 2020/2/17	学生	協議により決定
シェフィールド大学		全学	2017/9/1 ~ 2022/8/31	研究者 研究生	全分野

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	ノーザンブリア大学	部局間	2017/4/1 ~ 2020/3/31	研究者 学生	美術とデザイン分野全般、感性認知脳科学
	プリマス大学	部局間	2017/7/27 ~ 2022/7/26	研究者 学生	放射性同位体トレーサー、放射能による土壌汚染・水域汚染、土壌侵食
	マンチェスター大学	部局間	2019/8/24 ~ 2024/8/23	研究者 学生	生物学及び関連分野
	ラフバラ大学	部局間	2014/6/11 ~ 2019/6/10	研究者 学生	健康・スポーツ科学及び関連分野
	リバプール大学	部局間	2014/8/6 ~ 2019/8/5	研究者 学生	河川流域内の土砂生産及び土砂移動プロセス、放射性同位体トレーサー、放射能による土壌汚染・水域汚染、土壌侵食
クロアチア	ユライドブリラ大学プーラ	部局間	2018/7/1 ~ 2023/6/30	研究者 学生	日本語教育、言語学、文学、辞書学
スイス	国際スポーツ科学アカデミー	部局間	2017/7/18 ~ 2020/7/17	研究者	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学
スウェーデン	スウェーデン王立美術大学	部局間	2017/4/1 ~ 2022/3/31	研究者 学生	芸術及び関連分野
	ルンド大学	部局間	2016/1/8 ~ 2021/1/7	研究者 学生	健康科学に関する全ての領域
スペイン	サラマンカ大学	全学	2018/2/5 ~ 2023/2/4	研究者 学生	全領域(特に、人文社会科学及び芸術学・世界遺産学)
	バルセロナ大学	部局間	2016/2/1 ~ 2021/1/31	研究者 学生	芸術及び関連分野
	マドリード・コンプルテンセ大学	全学	2014/1/1 ~ 2018/12/31	研究者 学生	両大学に共通するすべての分野
スロベニア	リュブリャナ大学	全学	2017/11/4 ~ 2022/11/3	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域
チェコ	カレル大学	全学	2017/9/2 ~ 2020/9/1	研究者 学生	両大学に共通するすべての領域(特に社会科学、国際関係学、日本語・日本文化)
デンマーク	コペンハーゲン大学	部局間	2014/10/15 ~ 2019/10/14	研究者 学生	図書館情報学
ドイツ	アウクスブルク応用科学大学	部局間	2016/2/14 ~ 2021/2/13	研究者 学生	機械工学及びその周辺分野
	アンハルト応用科学大学	部局間	2019/3/13 ~ 2024/3/12	研究者 学生	藻類バイオテクノロジー、藻類プロダクト生産
	ケルン大学	全学	2018/10/1 ~ 2023/9/30	研究者 学生	両大学に共通する全ての分野
	シュトゥットガルト・メディア大学	部局間	2017/11/14 ~ 2022/11/13	研究者 学生	図書館情報学及び情報学
	デュースブルグエッセン大学	部局間	2014/9/11 ~ 2019/9/10	研究者	先端的がん放射線治療(BNCTならびに陽子線治療)の共同研究
	デュースブルグエッセン大学	部局間	2019/3/29 ~ 2024/3/28	研究者 学生	ナノ科学技術分野、及びその関連分野
	デュッセルドルフ大学	部局間	2016/10/19 ~ 2021/10/18	研究者 学生	人文社会科学に係る分野
	ドルトムント工科大学	部局間	2016/6/1 ~ 2021/5/31	研究者 学生	健康、スポーツ科学
	バイロイト大学	全学	2019/8/5 ~ 2024/8/4	研究者 学生	両機関に共通するすべての領域(特に言語学、文学、ドイツ文学、ドイツ語教授法論、比較文学、スポーツ科学、アフリカ研究)
	ハンブルク大学	全学	2018/10/12 ~ 2023/10/11	研究者 学生	両大学に共通するすべての分野
	フライブルク大学	部局間	2015/4/1 ~ 2020/3/31	研究者 学生	健康、スポーツ科学及びその他関連分野
	ブランデンブルク工科大学コトブス・ゼンフテンベルク校	全学	2018/9/7 ~ 2023/9/6	研究者 学生	全領域、特に芸術分野、システム情報工学分野
	ベルリン自由大学	全学	2018/3/6 ~ 2023/3/5	研究者 学生	全領域
	ボーフム大学	全学	2016/8/16 ~ 2021/8/15	研究者 学生	両大学に共通するすべての分野
	ボーフム大学	GiC	2019/3/19 ~ 2024/3/18	研究者 学生	交流可能な全分野
	ボン大学	全学	2016/2/14 ~ 2021/2/13	研究者 学生	全領域
	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学	全学	2017/3/14 ~ 2022/3/13	研究者 学生	全学(人文社会科学と数理物質科学をはじめとする学内で交流可能な分野)
	ミュンスター大学	部局間	2015/4/1 ~ 2020/3/31	研究者 学生	健康、スポーツ科学
	ミュンヘン工科大学	部局間	2018/1/1 ~ 2022/12/31	研究者	量子ビーム(陽電子消滅・中性子ビーム)を用いた物性研究
	ユーリッヒ総合研究機構(エネルギー・気候研究所)	部局間	2015/11/1 ~ 2020/10/31	研究者 学生	核融合研究
ライプツヒ大学	部局間	2015/6/8 ~ 2020/6/7	研究者 学生	健康・スポーツ科学及び関連分野	
ライプニッツ大学ハノーファー	部局間	2014/10/1 ~ 2019/9/30	研究者 学生	化学および関連分野	
ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン	部局間	2017/8/1 ~ 2020/7/31	学生	経営学、経済学及び関連分野	

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン	部局間	2018/4/1 ~ 2023/3/31	研究者 学生	障害科学、教育学、心理学、その他の関連分野
ノルウェー	オスロ大学	部局間	2017/4/25 ~ 2022/4/24	研究者 学生	地球科学及び環境科学
	ノルウェー生命科学大学	部局間	2019/1/8 ~ 2024/1/7	研究者	放射性同位体トレーサー、放射能による土壌汚染・水域汚染、土壌侵食
ハンガリー	エトヴェシュ・ロラード大学	部局間	2018/10/1 ~ 2023/9/30	研究者	健康、スポーツ科学及び関連分野
	セゲド大学	全学	2015/8/25 ~ 2020/8/24	研究者 学生	医学、ビジネス科学、化学、生物学
	センメルヴァイス大学	部局間	2013/10/1 ~ 2018/9/30	研究者 学生	健康・スポーツ科学及び関連分野
	タンカバヤム教単科大学	部局間	2013/10/1 ~ 2018/9/30	研究者	健康・スポーツ科学及び関連分野
	ハンガリー体育大学	部局間	2015/6/17 ~ 2020/6/16	研究者 学生	体育科学、健康科学とその他関連分野
フィンランド	ヘルシンキ芸術大学 美術アカデミー	部局間	2016/5/1 ~ 2021/4/30	研究者 学生	芸術及び関連分野
	ヘルシンキ大学	部局間	2011/11/28 ~ 2016/11/27	研究者 学生	生命科学、環境科学及び関連分野
フランス	グルノーブル経営大学院	部局間	2017/2/1 ~ 2020/1/31	学生	経営学、経済学及び関連分野
	グルノーブル大学	全学	2013/11/12 ~ 2018/11/11	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域
	グルノーブル大学連合	CiC	2017/11/22 ~ 2022/11/21	研究者 学生	交流可能な全分野
	ストラートデザイン大学	部局間	2017/10/3 ~ 2022/10/2	研究者 学生	プロダクトデザイン、情報デザイン、環境デザイン、建築デザイン
	ナント大学	部局間	2019/4/17 ~ 2024/4/16	研究者 学生	主に藻類バイオマスに関する分野
	パリ・ラ・ヴィレット建築大学	部局間	2017/6/26 ~ 2022/6/25	研究者 学生	社会工学、国際関係学及び国際開発学、北アフリカ学
	パリ・サクレー大学	全学	2018/2/14 ~ 2023/2/13	研究者 学生	全領域(特に、芸術、理学・工学、生命環境)
	パリ第13大学	部局間	2016/9/13 ~ 2020/9/12	研究者 学生	生物学関連分野
	フランシュ=コンテ大学	全学	2015/11/1 ~ 2020/10/31	研究者 学生	両機関に共通するすべての領域(主に人文、社会科学、体育科学、体育教育)
	フランス放射線防護原子力安全研究所	全学	2018/4/25 ~ 2023/4/24	研究者	両機関に共通するすべての領域(特に放射線生態学、環境保全)
	ベルフォール・モンペリエール工科大学	部局間	2019/9/6 ~ 2024/9/5	研究者 学生	システム情報工学及び関連分野
	ポール・ヴァレリー モンペリエ第3大学	全学	2017/9/1 ~ 2022/8/31	研究者 学生	全学(特に社会工学、国際関係学及び国際開発学、北アフリカ学)
	ポリテクニク・オー＝ド＝フランス大学	部局間	2016/2/10 ~ 2021/2/9	研究者 学生	人間機械共生系、システム工学、情報工学、制御工学及び関連分野
	ポルドー・モンテーニュ大学	全学	2016/10/6 ~ 2021/10/5	研究者 学生	言語研究・芸術・メディア・コミュニケーションを中心とした人文学全般、芸術・デザインに関する研究、感性認知脳科学に関する研究、地中海・アフリカ研究
	ポルドーサイエンスアグロ	全学	2018/3/12 ~ 2023/3/11	研究者 学生	全領域(特に、生命環境科学、食料健康科学)
	ポルドー政治学院	部局間	2019/2/1 ~ 2024/1/31	研究者 学生	社会科学、人文科学、その他の関連分野
	ポルドー大学	全学	2016/12/26 ~ 2020/9/29	研究者 学生	交流可能な全分野
	ポルドー大学	CiC	2015/9/30 ~ 2020/9/29	研究者 学生	CiC協定における全領域
	モンペリエ大学	全学	2016/10/1 ~ 2021/9/30	研究者 学生	全学(特に生命環境科学、システム情報系、人文社会科学及び医学)
	国立工業工芸大学(パリ工科大学)	部局間	2014/12/16 ~ 2019/12/15	研究者 学生	感性情報学、感性デザイン学、プロダクトデザイン、情報デザイン、環境デザイン、建築デザインを中心とした全ての教育プログラム
ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学	全学	2018/4/30 ~ 2023/4/29	研究者 学生	全学(主に数理物質科学研究科)
ポーランド	ピアウイストック大学	部局間	2016/2/16 ~ 2021/2/15	研究者 学生	社会科学及び関連分野
	ヤギェウォ大学	全学	2017/9/2 ~ 2022/9/1	研究者 学生	両大学に共通するすべての領域(特に人文社会科学、数理物質科学)
	ワルシャワ大学	全学	2018/1/10 ~ 2023/1/9	研究者 学生	両大学に共通するすべての領域(特に人文社会科学、数理物質科学)
ラトビア	ラトビア大学	全学	2016/1/24 ~ 2021/1/23	研究者 学生	全学(人文社会科学(地域研究・歴史研究など)、人間総合科学など)
リトアニア	ヴィリニユス大学	全学	2016/12/19 ~ 2021/12/18	研究者 学生	人文社会科学(言語・地域研究・歴史研究など)、情報学および関連分野を中心に相互協力により交流範囲を広げる努力を行う
ルーマニア	ティミショアラ西大学	部局間	2015/9/23 ~ 2020/9/22	研究者 学生	コンピュータサイエンス、情報通信技術(ICT)およびその関連分野

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
ロシア	カザン連邦大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野。交換学生としての本学学生の語学留学(ロシア語、英語)の推進。
	サンクト・ペテルブルグ大学	全学	2017/3/27 ~ 2022/3/26	研究者 学生	全学(人文社会科学、人間総合科学などの関連分野)
	ノヴォシビルスク国立医科大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学生	H26年度に採択された「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム(全学群対象、責任対応組織:人文社会系)」(大学の世界展開力強化事業)における医療実務研修および関連の学生交流活動。医学医療系を中心とした学問分野。
	ノヴォシビルスク国立大学	全学	2015/9/18 ~ 2020/9/17	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
	ピロゴフ記念ロシア国立研究医科大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学生	H26年度に採択された「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム(全学群対象、責任対応組織:人文社会系)」(大学の世界展開力強化事業)における医療実務研修および関連の学生交流活動。医学医療系を中心とした学問分野。
	ブドカー原子物理学研究所	部局間	2013/2/16 ~ 2018/2/15	研究者	核融合研究
	モスクワ国立大学	部局間	2014/10/7 ~ 2019/10/6	研究者 学生	高分子化学、コロイド科学、生物資源、土壌環境及び関連分野
	モスクワ国立大学	全学	2015/3/3 ~ 2020/3/2	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野。 交換学生としての本学学生の語学留学(ロシア語、英語)の推進
	モスクワ市立教育大学	全学	2019/5/22 ~ 2024/5/21	研究者 学生	両大学の全ての領域
	ロシア国立人文大学	部局間	2018/3/14 ~ 2023/3/13	研究者 学生	アーカイブズ学及び情報学などの関連分野
	ロシア国立体育・スポーツ・青年・観光大学	部局間	2015/12/1 ~ 2020/11/30	研究者 学生	体育・スポーツ科学及び関連分野
	極東連邦大学	全学	2015/6/17 ~ 2020/6/16	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした関連分野
アゼルバイジャン	ADA大学	全学	2016/4/15 ~ 2021/4/14	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野
	アゼルバイジャン言語大学	部局間	2016/3/14 ~ 2021/3/13	研究者 学生	人文社会科学を中心とした学問分野
アルメニア	ロシア・アルメニア・スラヴ大学	全学	2016/5/2 ~ 2021/5/1	研究者 学生	全学(人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野)
ウクライナ	ウクライナ国立生命環境科学大学	部局間	2017/11/6 ~ 2022/11/5	研究者	両機関に共通するすべての領域(特に環境放射能、水文学、放射生態学)
	キエフ国立大学	部局間	2016/9/11 ~ 2021/9/10	研究者 学生	人文社会科学(地域研究・日本研究など)及び関連分野
ウズベキスタン	ウズベキスタン共和国国家地質鉱物資源委員会付属国家地質博物館	部局間	2020/3/10 ~ 2025/3/9	研究者 学生	地球科学分野
	ウズベキスタン国立世界言語大学	部局間	2015/10/25 ~ 2020/10/24	研究者 学生	日本語教育、日本語学、教育学を中心とした学問分野
	ウズベキスタン国立世界言語大学	部局間	2019/7/8 ~ 2024/7/7	研究者	日本語教育学、ロシア語学、翻訳・通訳学を中心とした言語教育分野
	サマルカンド国立外国語大学	部局間	2016/9/30 ~ 2021/9/29	研究者 学生	人文社会科学及び人間総合科学
	タシケント国立東洋学大学	全学	2015/5/27 ~ 2020/5/26	研究者 学生	人文科学及び関連分野
	世界経済外交大学	部局間	2016/10/29 ~ 2021/10/28	研究者 学生	人文社会科学
カザフスタン	アルファラビ・カザフ国立大学	全学	2017/1/23 ~ 2022/1/22	研究者 学生	全領域(主として人文社会科学・数理物質科学および関連分野)
	アルファラビ・カザフ国立大学	GiC	2019/9/19 ~ 2024/9/18	研究者 学生	交流可能な全分野(人文社会科学分野に加えて数理物質科学および生命環境科学関連分野)
	カザフ国際関係外国語大学	全学	2018/8/25 ~ 2023/8/24	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
	カザフ国立教育大学	全学	2015/8/28 ~ 2020/8/27	研究者 学生	人間総合科学、人文社会科学を中心とした幅広い学問分野
	ナザルバエフ大学	全学	2016/5/19 ~ 2021/5/18	研究者 学生	全学(人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野)
	ナルホーズ大学	部局間	2017/8/31 ~ 2022/8/30	研究者 学生	人文社会科学
	ユーラシア国立大学	全学	2018/6/3 ~ 2023/6/2	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
	国立腫瘍移植科学センター	部局間	2015/2/1 ~ 2020/1/31	研究者	両機関に関する医学領域

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
キルギス	カラサエフ記念ビシュケク人文大学	全学	2018/8/26 ~ 2023/8/25	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
	キルギス国立大学	部局間	2015/5/27 ~ 2020/5/26	研究者 学生	人文科学及び社会科学
	ジュスプ・パラサグン記念キルギス国立総合大学	全学	2018/10/9 ~ 2023/10/8	研究者 学生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
ジョージア	トビリシ自由大学	全学	2016/4/14 ~ 2021/4/13	研究者 学生	全学(人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野)
タジキスタン	タジク国立言語大学	部局間	2015/10/24 ~ 2020/10/23	研究者 学生	人文社会科学及び関連分野
	ロシア・タジク・スラヴ大学	全学	2019/9/1 ~ 2024/8/31	研究者 学生	両大学に共通するすべての領域(主として、人文社会科学、人間総合科学等の分野)
トルクメニスタン	トルクメニスタン国立アザディ世界言語大学	全学	2018/9/12 ~ 2023/9/11	研究者 学生	人文科学及び社会科学及びその他の関連分野
ベラルーシ	ビテブスク国立医科大学	部局間	2018/11/1 ~ 2023/10/31	研究者 学生	医学教育・研究、および関連分野
	ベラルーシ国立医科大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学生	H26年度に採択された「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム(全学群対象、責任対応組織:人文社会系)」(大学の世界展開力強化事業)における医療実務研修および関連の学生交流活動。医学医療系を中心とした学問分野。
	ベラルーシ国立大学	全学	2017/2/21 ~ 2022/2/20	研究者 学生	全学(主として人文社会科学、生命環境科学)
モルドバ	モルドバ国立大学	全学	2016/4/12 ~ 2021/4/11	研究者 学生	全学(人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野)
アルジェリア	アルジェリア民主人民共和国高等教育・科学技術研究省	全学	2011/4/7 ~ 2016/4/6	研究者 学生	両機関が興味関心を共有するすべての領域(包括協定)
	オラン科学技術大学モハメド・ブーディアフ	全学	2012/11/5 ~ 2017/11/4	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域(主に生命環境科学、物質工学、土木工学)
	ホウアリ・ブーメディエン科学技術大学	全学	2015/3/2 ~ 2020/3/1	研究者 学生	両機関に共通する全ての領域(主に生命環境科学、都市工学、情報工学)
エジプト	アインシャムス大学	部局間	2018/2/9 ~ 2023/2/8	研究者 学生	日本語・日本文化研究、アラビア語・アラビア文化研究、アラブ・イスラーム研究、中東地域研究、国際関係論
	エジプト日本科学技術大学(E-JUST)	全学	2018/1/22 ~ 2023/1/21	研究者 学生	両大学に共通するすべての分野
	カイロ大学	全学	2013/6/26 ~ 2018/6/25	研究者 学生	生命環境科学、人文科学、ビジネス科学、情報通信科学、等
チュニジア	カルタゴ大学	全学	2011/3/17 ~ 2016/3/16	研究者 学生	バイオテクノロジー、環境科学、情報通信工学、人文社会科学
	スース大学	全学	2011/3/17 ~ 2016/3/16	研究者 学生	人文科学、社会科学、生命環境科学、医学、情報工学を含む、北アフリカ関連の諸問題に関わる全学的な学術領域
	スファックス・バイオテクノロジー・センター	部局間	2011/10/30 ~ 2016/10/29	研究者	バイオテクノロジー、環境科学及び関連分野
	スファックス大学	全学	2011/10/26 ~ 2016/10/25	研究者 学生	バイオテクノロジー、環境科学、医学及び関連分野
	チュニス・エル=マナール大学	全学	2018/7/2 ~ 2023/7/1	研究者 学生	両機関に共通する全ての領域(主に、語学を含む人文社会科学、医療科学)
ナイジェリア	ナイジェリア大学	部局間	2017/10/17 ~ 2022/10/16	研究者 学生	微生物科学、生化学、植物科学、動物科学、農学、環境科学及び関連分野
マラウイ	マラウイ大学	部局間	2017/11/20 ~ 2022/11/19	研究者 学生	医学(社会医学、臨床医学、基礎医学)及び関連分野
モーリタニア	高等技術学院	部局間	2012/10/15 ~ 2017/10/14	研究者 学生	生命環境科学
モロッコ	アル・アハワイン大学	全学	2014/8/1 ~ 2019/7/31	研究者 学生	両大学共通する全ての領域
	カディ・アヤド大学	全学	2015/3/2 ~ 2020/3/1	研究者 学生	両機関に共通する全ての領域(主に生命環境科学、人文社会科学、情報工学)
	シディー・モハメド・ベン・アブダッラー大学	全学	2011/3/17 ~ 2016/3/16	研究者 学生	両大学共通する全ての領域(主に生命環境科学、人文社会科学、情報工学)
	ハッサンII世農獣医学大学	部局間	2011/5/17 ~ 2016/5/16	研究者 学生	生物資源科学、農学土木工学及び関連分野
	モハメッド5世大学	全学	2017/2/16 ~ 2022/2/15	研究者 学生	全学(生命科学、環境科学、人文科学、社会科学、情報通信科学)
	モロッコ王国高等教育・科学研究・幹部養成省	全学	2012/9/10 ~ 2017/9/9	研究者	両機関が興味関心を共有するすべての領域
リビア	セブハ大学	全学	2015/5/13 ~ 2020/5/12	研究者 学生	両機関に共通する全ての領域
国際連合	国際連合食糧農業機関	全学	2015/2/6 ~ 2020/2/5	研究者	全領域
	国際連合食糧農業機関	部局間	2017/11/7 ~ 2020/11/6	学生	生命環境科学分野、食料農学分野
	国際連合大学	全学	2012/10/13 ~ 2017/10/12	研究者 学生	両大学に共通する全ての領域

72カ国・地域、合計404協定(CiC協定:10、大学間協定:166、部局間協定:228)

(4) グローバル化に向けた教育研究
ア Campus-in-Campus(CiC)協定校一覧

令和2年5月1日

番号	協定校名	協定校(和名)	国・地域名	締結年度	備考
1	University of Bordeaux	ボルドー大学	フランス	2015	
2	National Taiwan University	国立台湾大学	台湾	2015	
3	University of Sao Paulo	カリフォルニア大学アーバイン校	米国	2016	Research Partner
4	Universiti Teknologi Malaysia	サンパウロ大学	ブラジル	2016	
5	University of California, Irvine	マレーシア工科大学	マレーシア	2016	
6	Utrecht University	ユトレヒト大学	オランダ	2017	Research Partner
7	Communauté Université Grenoble Alpes	グルノーブル・アルプ大学	フランス	2017	
8	Ohio State University	オハイオ州立大学	米国	2018	
9	Ruhr University Bochum	ボーフム大学	ドイツ	2018	
10	Al-Farabi Kazakh National University	アルファラビ・カザフ国立大学	カザフスタン	2019	

※ Research Partner・・・CiCとしての交換留学を対象としない研究パートナー

イ 海外教育研究ユニット招致 招致・配分状況 <令和元年度>

(ア) 総括表

(単位:千円)

系	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	配分金額 (運営費)
人文社会系	1	0	0	0	0	1	4,000
数理物質系	0	2	0	1	0	0	30,000
下田臨海実験センター(生命環境系)	0	1	0	0	0	0	10,000
人間系	0	0	0	1	0	0	10,000
体育系	0	0	1	0	0	0	10,000
医学医療系	1	0	0	0	0	1	10,000
合計	2	3	1	2	0	2	74,000

(イ) 受入責任者等

(単位:千円)

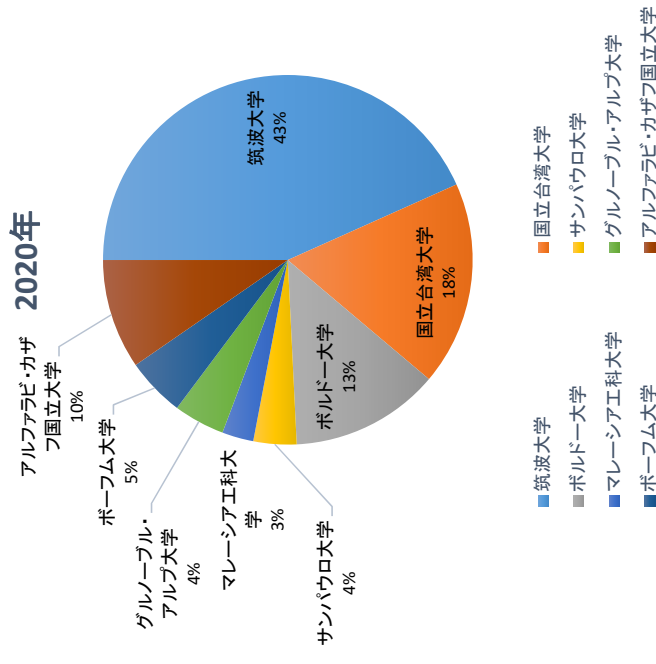
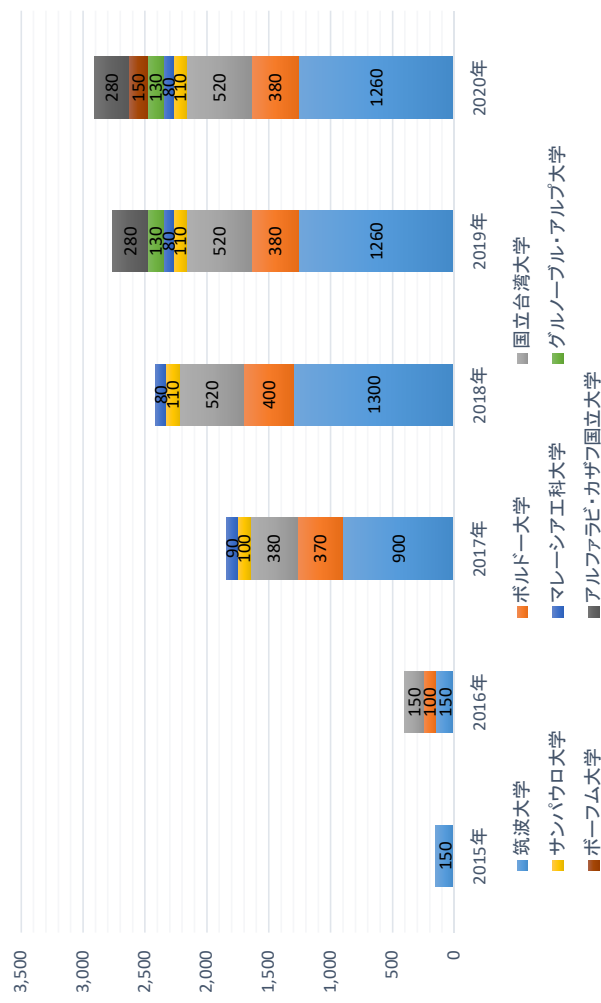
受入責任者			PI			運営費 配分額	備考
所属	職名	氏名	所属機関	職名	氏名		
人文社会系	教授	吉水 千鶴子	Department of Indian and Tibetan Studies, Aisa-Asica Institute, University of Hamburg	教授	Harunaga Isaacson Dorji Wangchu Michael Zimmerman	4,000	平成26年度招致 研究重点型 (期間:H26~H30) (継続:R1~R2)
医学医療系	教授	加藤 光保	Leiden University Medical Center	教授	Peter ten Dijke	10,000	平成26年度招致 研究重点型 (期間:H26~H30) (継続:R1~R2)
数理物質系	教授	西堀 英治	デンマークオーフス大学・材料結晶学センター	教授・センター長	Bo Brummerstedt Iversen	10,000	平成27年度招致 研究重点型 (期間:H27~R1)
下田臨海実験センター (生命環境系)	教授	稲葉 一男	ブリマス大学(英国)海洋科学工学部	教授	Jason Hall-Spencer	10,000	平成27年度招致 研究重点型 (期間:H27~R1)
人間系	教授	小川 園子	Emory University, Atlanta, USA	William P. Timmie Professor	Larry J. Young, Ph.D.	10,000	平成29年度招致 研究重点型 (期間:H29~R3)
数理物質系	教授 特命教授	黒田 眞司 秋本 克洋	Université Grenoble Alpes	教授	GHEERAERT ETIENNE MARIETTE HENRI VALLEE CHRISTOPHE	10,000	平成27年度招致 教育重点型 (期間:H27~R1)
体育系	教授	征矢 英昭	University of California, Irvine	准教授	Yassa, Michael A	10,000	平成28年度招致 CiC型 (期間:H28~R2)
数理物質系	教授 講師	三明 康郎 中條 達也	Institute for Subatomic Physics, Utrecht University	Full Professor and Institute Director Assistance Professor(UD)	Peitzmann, Thomas Van Leeuwen, Marco V.	10,000	平成29年度招致 CiC型 (期間:H29~R3)

ウ 科目ジョークボックス科目数

科目ジョークボックス登録科目数(概数)の変遷

	各年5月1日時点					
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
筑波大学		150	150	900	1,300	1,260
国立台湾大学		150	150	380	520	520
ポルドー大学			100	370	400	380
サンパウロ大学				100	110	110
マレーシア工科大学				90	80	80
グルノーブル・アルプ大学						130
ポーフォーム大学						150
アルファアラビ・カザフ国立大学		150	400	1,840	2,410	2,760
合計		150	400	1,840	2,410	2,910

科目ジョークボックス登録科目数(概数)の変遷



エ 海外大学とのデュアル・ディグリー/ジョイント・ディグリー プログラム等一覧

【海外の大学とのダブル・ディグリー・プログラム】

(協定単位/開始年度順)

No	主専攻	副専攻	形態	開始年度
1	人間総合科学研究科 フロンティア医科学専攻〔修士課程〕	ベトナム国家大学ホーチミン校	修士－修士	H21
2	人間総合科学研究科 フロンティア医科学専攻〔修士課程〕	ホーチミン市医科薬科大学	修士－修士	H21
3	人間総合科学研究科 フロンティア医科学専攻	国立台湾大学	修士－修士	H23
4	人間総合科学研究科 生命システム医学専攻〔医学の課程〕 疾患制御医学専攻〔医学の課程〕	ベトナム国家大学ホーチミン校	医学－博士	H23
5	人間総合科学研究科 生命システム医学専攻〔医学の課程〕 疾患制御医学専攻〔医学の課程〕	ホーチミン市医科薬科大学	医学－博士	H23
6	人間総合科学研究科 生命システム医学専攻〔医学の課程〕 疾患制御医学専攻〔医学の課程〕	国立台湾大学	医学－博士	H23
7	人文社会科学研究所 国際地域研究専攻〔修士課程〕 文芸・言語専攻〔一貫制博士課程〕 現代語・現代文化専攻〔博士前期課程〕 国際日本研究専攻〔博士前期課程〕	ボン大学 高麗大学	修士－修士	H25
8	数理物質科学研究科 各専攻〔博士後期課程、3年制博士課程〕	グルノーブル大学	博士－博士	H27
9	生命環境科学研究科 地球進化科学専攻〔博士後期課程〕	中国地質大学	博士－博士	H27
10	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻〔博士前期課程〕	ポルドー大学	修士－修士	H27
11	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻〔博士前期課程〕	国立台湾大学	修士－修士	H27
12	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻〔博士前期課程〕	ユタ州立大学	修士－修士	H28
13	人間総合科学研究科 教育学専攻〔博士前期課程〕	東北師範大学	修士－修士	H29
14	生命環境科学研究科 生物圏資源科学専攻	国立台湾大学	博士－博士	H29
15	数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻〔博士前期課程〕 物性・分子工学専攻〔博士前期課程〕	グルノーブル・アルプス大学	修士－修士	H29

【海外の大学とのジョイント・ディグリー・プログラム(国際連携専攻)】

(協定単位/開始年度順)

No	専攻名	連携大学	学位	開始年度
1	生命環境科学研究科 国際連携持続環境科学専攻〔博士前期課程〕	マレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院	修士	H29
2	人間総合科学研究科 国際連携食料健康科学専攻〔修士課程〕	ポルドー大学 国立台湾大学	修士	H29

【学群】				
No.	学群	学類・専攻	プログラム名	学位
1	社会・国際学群 School of Social and International Studies	社会学類 College of Social Sciences	社会国際学教育プログラム Undergraduate Program of International Social Studies	学士(国際社会科学) Bachelor of Arts in International Social Studies
2		国際総合学類 College of International Studies		
3	生命環境学群 School of Life and Environmental Sciences	生物学類 College of Biological Sciences	生命環境学際プログラム Interdisciplinary Program of Life and Environmental Sciences	学士(理学) Bachelor of Science
4		生物資源学類 College of Agro-Biological Resource Sciences		学士(生物資源学) Bachelor of Bioresource Science
5	医学群 School of Medicine and Medical Sciences	医歯科学類 School of Medical Sciences	国際医療科学人養成プログラム Undergraduate-Education Program for Medical Science	学士(国際医療科学) Bachelor of International Medical Sciences
6	グローバル教育院 School of Integrative and Global Majors	地球規模課題学類 Bachelor's Program in Global Issues	地球規模課題学類プログラム Bachelor's Program in Global Issues	学士(学術) Bachelor of Arts and Science
7	理工学群 School of Science and Engineering	応用理工学類 College of Engineering Sciences	総合理工学学位プログラム(学士) Bachelor's Program in Interdisciplinary Engineering	学士(工学) Bachelor of Engineering
		工学システム学類 College of Engineering Systems		

【大学院】※教育機構支援課作成の「筑波大学大学院の教育改革」のパンフレットを参考に、英語のみで修了できるカリキュラムパスがある学位プログラムを計上					
No.	学術院	研究群	プログラム名	学位	
1		研究群	国際公共政策学学位プログラム International Public Policy	修士(国際公共政策) Master of Arts in International Public Policy	
2	人文社会ビジネス科学学術院 Graduate School of Business Sciences, Humanities and Social Sciences	人文社会科学研究群 Degree Programs in Humanities and Social Sciences	国際日本研究学学位プログラム International and Advanced Japanese Studies	博士(国際公共政策) Doctor of Philosophy in International Public Policy	
3				修士(国際日本研究) Master of Arts in International and Advanced Japanese Studies	
4				博士(国際日本研究) Doctor of Philosophy in International and Advanced Japanese Studies	
5		(専門職学位課程) (Professional Degree Programs)	国際経営プロフェッショナル専攻 MBA Program in International Business	国際経営修士(専門職) Master of International Business Administration	
6		数理物質科学研究群 Degree Programs in Pure and Applied Sciences	数学学学位プログラム Mathematics	博士(理学) Doctor of Philosophy in Science	
7			物理学学学位プログラム Physics	修士(理学) Master of Science	
8				博士(理学) Doctor of Philosophy in Science	
9			化学学学位プログラム Chemistry	修士(理学) Master of Science	
10				博士(理学) Doctor of Philosophy in Science	
11			応用理工学学位プログラム Engineering Sciences	修士(工学) Master of Engineering	
12				博士(工学) Doctor of Philosophy in Engineering	
13			国際マテリアルズイノベーション学学位プログラム Materials Innovation	修士(工学) Master of Engineering	
14				博士(工学) Doctor of Philosophy in Engineering	
15			社会工学学学位プログラム Policy and Planning Sciences	博士(社会工学) Doctor of Philosophy in Policy and Planning Sciences	
16			リスク・レジリエンス工学学学位プログラム Risk and Resilience Engineering	博士(工学) Doctor of Philosophy in Engineering	
17			情報理工学学位プログラム Computer Science	修士(工学) Master of Engineering	
18				博士(工学) Doctor of Philosophy in Engineering	
19			システム情報工学研究群 Degree Programs in Systems and Information Engineering	知能機能システム学学位プログラム Intelligent and Mechanical Interaction Systems	博士(工学) Doctor of Philosophy in Engineering
20				修士(工学) Master of Engineering	
21			博士(工学) Doctor of Philosophy in Engineering		
22			修士(工学) Master of Engineering		
23	理工情報生命学術院 Graduate School of Science and Technology		エンパワメント情報学プログラム Empowerment Informatics	博士(人間情報学) Doctor of Philosophy in Human Informatics	
24			ライフイノベーション(生物情報)学学位プログラム Life Science Innovation: Bioinformatics	修士(生物情報学) Master of Bioinformatics	
25				博士(生物情報学) Doctor of Philosophy in Bioinformatics	
26		生命地球科学研究群 Degree Programs in Life and Earth Sciences	生物学学学位プログラム Biology	修士(理学) Master of Science	
27				博士(理学) Doctor of Philosophy in Science	
28			生物資源科学学学位プログラム Agro-Bioreresources Science and Technology	修士(農学) Master of Agricultural Science	
29			農学学学位プログラム Agricultural Sciences	博士(農学) Doctor of Philosophy in Agricultural Science	
30			生命農学学学位プログラム Life and Agricultural Sciences	博士(生命農学) Doctor of Philosophy in Life and Agricultural Sciences	
31			生命産業科学学学位プログラム Bioindustrial Sciences	博士(生物工学) Doctor of Philosophy in Biotechnology	
32			地球科学学学位プログラム Geosciences	博士(理学) Doctor of Philosophy in Science	
33			環境科学学学位プログラム Environmental Sciences	修士(環境科学) Master of Environmental Sciences	
34			環境学学学位プログラム Environmental Studies	博士(環境学) Doctor of Philosophy in Environmental Studies	
35			ライフイノベーション(食料革新)学学位プログラム Life Science Innovation: Food Innovation	修士(食料革新学) Master of Food Innovation	
36				博士(食料革新学) Doctor of Philosophy in Food Innovation	
37			ライフイノベーション(環境制御)学学位プログラム Life Science Innovation: Environmental Management	修士(環境制御学) Master of Environmental Management	
38				博士(環境制御学) Doctor of Philosophy in Environmental Management	
39			ライフイノベーション(生体分子材料)学学位プログラム Life Science Innovation: Biomolecular Engineering	修士(生物工学) Master of Bioengineering	
40				博士(生物工学) Doctor of Philosophy in Bioengineering	
41		<外国の大学との国際連携教育課程> (International Joint Degree Programs)	国際連携持続環境科学専攻 Joint Master's Degree Program in Sustainability and Environmental Sciences	修士(持続環境科学) Master of Sustainability and Environmental Sciences	
42			教育学学学位プログラム Education	修士(教育学) Master of Education	
43			ニューロサイエンス学学位プログラム Neuroscience	修士(神経科学) Master of Neuroscience	
44				博士(神経科学) Doctor of Philosophy in Neuroscience	
45			医学学学位プログラム Medical Sciences	博士(医学) Doctor of Philosophy in Medical Sciences	
46			フロンティア医科学学学位プログラム Medical Sciences	修士(医科学) Master of Science in Medical Sciences	
47			公衆衛生学学学位プログラム Public Health	修士(公衆衛生学) Master of Public Health	
48			スポーツ・オリンピック学学位プログラム Sport and Olympic Studies	修士(スポーツ・オリンピック学) Master of Arts in Sport and Olympic Studies	
49	人間総合科学学術院 Graduate School of Comprehensive Human Sciences	人間総合科学研究群 Degree Programs in Comprehensive Human Sciences	デザイン学学位プログラム Design	修士(デザイン学) Master of Design	
50				博士(デザイン学) Doctor of Philosophy in Design	
51			世界遺産学学位プログラム Heritage Studies	博士(世界遺産学) Doctor of Philosophy in Heritage Studies	
52			情報学学位プログラム Informatics	修士(情報学) Master of Science in Informatics	
53				博士(情報学) Doctor of Philosophy in Informatics	
54			ヒューマンバイオロジー学学位プログラム Human Biology	博士(人間生物学) Doctor of Philosophy in Human Biology	
55			ライフイノベーション(病態機構)学学位プログラム Life Science Innovation: Disease Mechanism	修士(病態機構学) Master of Disease Mechanism	
56				博士(病態機構学) Doctor of Philosophy in Disease Mechanism	
57			ライフイノベーション(創薬開発)学学位プログラム Life Science Innovation: Drug Discovery	修士(医科学) Master of Medical Sciences	
58				博士(医科学) Doctor of Philosophy in Medical Science	
59		<他大学との共同教育課程> (Domestic Joint Degree Programs)	スポーツ国際開発学共同専攻 Joint Master's Program in International Development and Peace through Sport	修士(スポーツ国際開発学) Master of Arts in International Development and Peace through Sport	
60		<外国の大学との国際連携教育課程> (International Joint Degree Programs)	国際連携食料健康科学専攻 International Joint Degree Master's Program in Agro-Biomedical Science in Food and Health	修士(食料健康科学) Master of Agro-Biomedical Science in Food and Health	
	グローバル教育院 School of Integrative and Global Majors (SIGMA)		ヒューマニクス学学位プログラム Ph.D. Program in Humanities	博士(医学), 博士(理学), 博士(工学) Doctor of Philosophy in Medical Sciences, Doctor of Philosophy in Science, Doctor of Philosophy in Engineering	

(5) 国際会議等の開催

(令和元年度)

会議名	開催期間	会場	主催又は共催	テーマ	参加者 (参加国数/参加者数 (うち、外国人参加者))
South Asia Collaborative Symposium on Energy Materials 3th(SACSEM 3th)	2019/04/22 ~ 2019/04/23	マレーシア国民大学	マレーシア国民大学、筑波大学、ACS	エネルギー材料	2か国/50名(45名)
第46回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/04/22 ~ 2019/04/22	筑波大学筑波キャンパス5C棟606	筑波大学ARHHP	Oregon Sports Science: Practical Application of Biomechanics and Exercise Physiology	2か国/80名(10名)
第48回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/05/31 ~ 2019/05/31	筑波大学筑波キャンパス5C棟606	筑波大学ARHHP	Clothing, thermoregulation and climate change	2か国/34名(13名)
デジタルサイエンス国際シンポジウム	2019/06/07 ~ 2019/06/07	筑波大学筑波キャンパス大学会館	筑波大学	デジタルサイエンス	7か国/107名(19名)
日米デジタルイノベーションワークショップ	2019/06/10 ~ 2019/06/10	筑波大学筑波キャンパス大学会館	日米デジタルイノベーション日本側大学(東北大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、九州大学、筑波大学)	デジタルサイエンス	4か国/166名(34名)
第49回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/06/14 ~ 2019/06/14	筑波大学筑波キャンパス5C棟607	筑波大学ARHHP	Mitochondrial membrane remodeling induced by exercise and inactivity	2か国/45名(12名)
The 17th International Conference on QCD in Extreme Conditions	2019/06/24 ~ 2019/06/26	筑波大学東京キャンパス	筑波大学計算科学研究センター 筑波大学宇宙研究センター 高エネルギー加速器研究機構	Recent advances in the theory and phenomenology of QCD under extreme conditions of temperature and/or baryon density, together with related topics	13か国/89名(31名)
2019年度放射線環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点キックオフミーティング	2019/07/08 ~ 2019/07/08	筑波大学筑波キャンパス	筑波大学	研究テーマのポスター発表等	2か国/113名(3名)
ERAO-MiCS国際シンポジウム	2019/07/08 ~ 2019/07/08	筑波大学大学会館	筑波大学	社会微生物学研究	2か国/128名(3名)
The 4th Asian Summer School in Information Access (ASSIA 2019)	2019/07/09 ~ 2019/07/13	海南大学国際学術交流中心	図書館情報メディア系	Advanced Information Retrieval models, user modeling, and social media analysis, and also advanced topics such as deep learning and online experiment in IR	7か国/86名(-名)
International symposium on Advanced Ecology and Evolution	2019/07/16 ~ 2019/07/16	筑波大学大学会館	筑波大学	先進生態学研究	6か国/81名(8名)
第51回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/07/18 ~ 2019/07/18	筑波大学筑波キャンパス5C棟606	筑波大学ARHHP	低酸素と寒冷時の自律神経反応の相互作用:最新の研究とイギリスでの学生としての経験	2か国/28名(7名)
国際会議ICPP2019	2019/08/05 ~ 2019/08/08	京都リサーチパーク	筑波大学計算科学研究センター、ICPP2019組織委員会	並列処理技術全般	23か国/280名(210名)
MiCS国際セミナー	2019/08/05 ~ 2019/08/05	筑波大学 総合研究棟A棟	筑波大学	ニトリルヒドラーゼに関する研究の最近の進歩	2か国/43名(1名)
South Asia Collaborative Symposium on Energy Materials 4th(SACSEM 4th)	2019/08/19 ~ 2019/08/20	筑波大学筑波キャンパス	筑波大学、マレーシア国民大学、バンドン工科大学	エネルギー材料	3か国/54名(25名)
トランスパシフィック協働人材育成プログラム第5回共同プログラム運営委員会 および日本文化セミナー	2019/08/29 ~ 2019/08/30	メキシコ大学院大学(メキシコシティ)	筑波大学・メキシコ大学院大学共催	中南米と日本の学術交流、日本文化(日本のポップカルチャーと浮世絵)	6か国/50名(40名)
第134回湘南会議	2019/09/09 ~ 2019/09/12	湘南国際村センター	図書館情報メディア系	Human-in-the-loop Big Data and AI: Connecting Theories and Practices for a Better Future of Work	8か国/30名(24名)
チベツト学セミナー	2019/09/11 ~ 2019/09/14	広島大学	筑波大学・広島大学	チベツト学研究	5か国/12名(6名)
第3回EJJS 日本会議	2019/09/14 ~ 2019/09/15	筑波大学筑波キャンパス	ヨーロッパ日本研究協会/筑波大学人文社会系	ヨーロッパ日本研究	39か国/277名(156名)
第3回ヨーロッパ日本研究協会日本会議筑波大学附属図書館研究開発室サテライトイベント「日本の元号と典籍」	2019/09/15 ~ 2019/09/15	筑波大学筑波キャンパス	筑波大学附属図書館研究開発室、筑波大学人文社会系、ヨーロッパ日本研究協会	日本史・日本文学研究	5か国/25名(4名)
第53回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/09/17 ~ 2019/09/17	筑波大学筑波キャンパス5C棟606	筑波大学ARHHP	血管生理学で注目されはじめた暑熱ストレス	2か国/32名(10名)
第1回国際スポーツニューロサイエンス会議	2019/09/18 ~ 2019/09/19	つくば国際会議場	(主催)Japanese Society of Sport Neuroscience (JSSN) 征矢英昭	Promotion of brain fitness with exercise	13か国/120名(38名)
第54回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/09/18 ~ 2019/09/18	筑波大学筑波キャンパスHIS講堂	筑波大学ARHHP	Cold-induced thermogenesis: a cold shoulder for obesity treatment?	2か国/80名(10名)
国際大学院生アカデミックフォーラム2019 第12回日中大大学院生フォーラム	2019/09/20 ~ 2019/09/23	中国地質大学	中国地質大学、筑波大学	大学院生主体の国際学会	3か国/102名(74名)
第3回3大学合同プログラム運営委員会	2019/10/01 ~ 2019/10/01	筑波大学筑波キャンパス	筑波大学	(1)2019年プログラム編成の概要 (2)中期発表の準備とスケジュール (3)第2学期学生の活動報告	3か国/20名(10名)
筑波会議2019	2019/10/02 ~ 2019/10/04	つくば国際会議場	筑波会議委員会、筑波大学	Society 5.0とSDGsを見据えた目指すべき社会の在り方とその実現に向けて取り組むべき課題	65か国/1500名(344名)
6th International CIC Management Committee Meeting	2019/10/03 ~ 2019/10/03	筑波国際会議場	筑波大学	・CIC協定校のマルチラテラルな教育研究活動の実現に向けた戦略について ・CIC協定校におけるグッドプラクティス	8か国/36名(16名)
第4回世界遺産国際シンポジウム	2019/10/04 ~ 2019/10/04	つくば国際会議場ホール300	筑波大学世界遺産専攻/自然保護寄附講座	アジア太平洋地域の遺産保護における自然と文化の連携(文化と自然の複合遺産)	8か国/150名(50名)
第55回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/10/09 ~ 2019/10/09	筑波大学筑波キャンパス5C棟606	筑波大学ARHHP	運動時の熱交換の個人差を決定する要因	2か国/30名(9名)
KJDB2019ワークショップ	2019/10/17 ~ 2019/10/20	神戸バリエーションホテル&タワーズ	筑波大学計算科学研究センター、関西学院大学社会情報学研究センター(スポンサー)	データベース・データ工学の研究	2か国/59名(20名)
21st International Conference On Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL 2019)	2019/11/05 ~ 2019/11/07	Sunway Putra Hotel	図書館情報メディア系	Digital Libraries at Cross-Roads of Digital Information for the Future- Connecting Data, Technologies and People in Different Domains -	21か国/120名(100名)
9th Asia-Pacific Conference On Library & Information Education And Practice (A-LIEP 2019)	2019/11/05 ~ 2019/11/07	Sunway Putra Hotel	図書館情報メディア系	Automation, Internet-of-Things (IoT), analysis and big data, system integration, robotic, cloud robots and simulation, as well as technological developments and advances in this modern era	13か国/130名(110名)
第8回高校生国際ESDシンポジウム・第1回高校生SDGs東京国際会議	2019/11/07 ~ 2019/11/07	筑波大学東京キャンパス	筑波大学附属学校教育局・筑波大学附属坂戸高等学校	SDGsと高校生-初めに考えた課題は何ですか?	7か国/212名(29名)

会議名	開催期間	会場	主催又は共催	テーマ	参加者 (参加国数/参加者数 (うち、外国人参加者))
The 31st Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference (TSB 2019)	2019/11/11 ~ 2019/11/11	Duangjit Resort & Spa, Patong, PHUKET, THAILAND	日本生物工学会・筑波大学・タイ生物工学会		4か国/78名(21名)
International Symposium on Theories and Methodologies for Large Complex Data	2019/11/21 ~ 2019/11/23	つくば国際会議場	筑波大学	大規模複雑データの理論と方法論の研究	8か国/80名(10名)
第56回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/11/25 ~ 2019/11/25	筑波大学筑波キャンパス5C棟606	筑波大学ARHHP	講演タイトル 「Microbiota and its precision application on chronic diseases」	2か国/29名(10名)
WPI-IHS,筑波大学ヒューマニクス学位プログラム、第36回高峰カンファレンス合同シンポジウム	2019/11/26 ~ 2019/11/26	東京コンファレンスセンター・品川	主催：筑波大学国際統合睡眠医学研究機構 共催：筑波大学ヒューマニクス学位プログラム 共催：公益財団法人第一三共生命科学研究所 振興財団	神経科学における生命医学および理・工・情報学の融合	19か国/206名(51名)
チュニジアー 日本 文化・科学・技術会議	2019/11/29 ~ 2019/12/01	チュニジア国スース市ムラディホテル	チュニジアスース大学 筑波大学	二国間交流事業セミナー	11か国/469名(438名)
Mid-term Coordination Meeting for Regional Project RAS5084	2019/12/02 ~ 2019/12/06	筑波大学筑波キャンパス	筑波大学	Assessing and Improving Soil and Water Quality to Minimize Land Degradation and Enhance Crop Productivity Using Nuclear Techniques	19か国/29名(19名)
The 3rd IEEE Workshop on Human-in-the-loop Methods and Human Machine Collaboration in BigData (IEEE HMDData 2019)	2019/12/09 ~ 2019/12/12	The Westin Bonaventure Hotel & Suites	図書館情報メディア系	Human-in-the-loop Methods and Human Machine Collaboration Bigdata	~か国/45名(~名)
South Asia Collaborative Symposium on Energy Materials 5th(SACSEM 5th)	2019/12/12 ~ 2019/12/13	バンドン工科大学	バンドン工科大学、 筑波大学、 マレーシア国民大学	エネルギー材料	3か国/60名(55名)
Research Studio International Symposium on Entrepreneur-Fostering Programs and Ecosystem	2019/12/14 ~ 2019/12/14	慶応義塾大学 三田キャンパス 東館8Fホール	筑波大学・慶応義塾大学	医療アントレプレナー育成とスタートアップエコシステムの形成	5か国/69名(6名)
日本とインドネシアの知的障害者特別支援学校におけるウェブ会議を通じた教員間交流	2019/12/17 ~ 2019/12/17	筑波大学附属大塚特別支援学校(日本) チバガンディ特別支援学校(インドネシア)	筑波大学附属大塚特別支援学校 チバガンディ特別支援学校(共催)	多動性の高い重度の知的障害を持つ自閉症児への支援方法	2か国/55名(35名)
第57回ARHHP Human High Performance セミナー	2019/12/20 ~ 2019/12/20	筑波大学筑波キャンパス5C棟606	筑波大学ARHHP	講演タイトル 「代謝と体内時計:運動の最適な時間はいつ?」	2か国/35名(4名)
日台五大学大学院美術史研究交流会	2019/12/22 ~ 2019/12/22	九州大学 伊都キャンパス	国立中央大学(台湾)、国立台湾大学、国立台湾師範大学、九州大学、筑波大学	美術史研究	2か国/41名(18名)
第2回国際シンポジウム「地域社会と多文化共生」	2020/01/12 ~ 2020/01/13	筑波大学筑波キャンパス第二エリア 2B412教室	筑波大学 (日本語・日本文化学類)	アジアの各地の急速な多国籍化を受け、課題解決の知見を共有する	3か国/168名(17名)
ヴァンサン・キャロー教授(仏国ソルボン大学)学術講演会	2020/01/18 ~ 2020/01/18	筑波大学東京キャンパス	筑波大学、東京大学、日本学術振興会	西洋哲学	2か国/50名(1名)
第1回筑波-MIT合同ワークショップ「社会とビジネスイノベーションのためのデータシステムズサイエンス」	2020/01/20 ~ 2020/01/21	筑波大学東京キャンパス文京校舎	筑波大学ビジネスサイエンス系	社会とビジネスイノベーションのためのデータシステムズサイエンス	2か国/62名(3名)
化学特別セミナー	2020/01/20 ~ 2020/01/20	筑波大学筑波キャンパス	筑波大学、王立化学協会	An Editor's advice on publishing for impact	4か国/50名(不明名)
第58回ARHHP Human High Performance セミナー	2020/01/20 ~ 2020/01/20	筑波大学筑波キャンパス5C棟606	筑波大学ARHHP	講演タイトル 「How can athletes be ready for your Tokyo Summer Olympics?」	2か国/27名(6名)
山と人とのつながりを考える国際シンポジウム	2020/02/09 ~ 2020/02/09	つくば国際会議場	筑波大学	山岳保護地域の周辺(トランジション帯、中山間地、里山など)での山岳科学、自然遺産、文化、周辺住民とのかわり、山岳地域の振興に果たす大学の役割、を主眼とした研究発表会	4か国/111名(15名)
第14回筑波大学-APEC国際会議	2020/02/11 ~ 2020/02/13	筑波大学東京キャンパス	筑波大学	「情報及びデータサイエンス教育の革新 - デジタル、インクルーシブで持続可能な社会に向けて - (InMsIde II)」企画会合	12か国/45名(34名)
キャンパス・アーティスト・イン・レジデンス 2020	2020/02/12 ~ 2020/02/20	筑波大学筑波キャンパス	筑波大学芸術系	Interaction	5か国/180名(6名)
第8回筑波大学-東南アジア教育大臣機構 SEAMEOシンポジウム	2020/02/13 ~ 2020/02/14	筑波大学東京キャンパス	筑波大学	Education for Inclusive Growth of Society 5.0	10か国/59名(51名)
ARHHP ヒューマン・ハイパフォーマンスフォーラム 2020	2020/02/17 ~ 2020/02/17	筑波大学筑波キャンパス総合研究棟D116	筑波大学ARHHP	“Sport Sciences for Olympic and Paralympic Games”	3か国/187名(13名)
第1回マレーシア工科大学・筑波大学ジョイントシンポジウム「人文社会科学の最前線」	2020/02/18 ~ 2020/02/19	マレーシア工科大学スクダイクキャンパス	マレーシア工科大学言語学院・筑波大学人文社会学系	多文化社会における言語教育と文化接触	2か国/50名(45名)

(6) 国別交流者数

ア 研究者等の受入、教職員の派遣

	国・地域名	研究者等の受入	教職員の派遣	計
アジア	インド	59	29	88
	インドネシア	54	88	142
	カンボジア	9	13	22
	シンガポール	15	49	64
	スリランカ	3	7	10
	タイ	52	114	166
	ネパール	9	4	13
	パキスタン	8	0	8
	バングラデシュ	18	3	21
	フィリピン	22	12	34
	ブルネイ	0	0	0
	ベトナム	29	86	115
	マレーシア	40	98	138
	ミャンマー	3	14	17
	モルディブ	0	0	0
	モンゴル	8	13	21
	ラオス	1	4	5
	韓国	91	144	235
	香港	5	26	31
	台湾	63	165	228
中国	232	221	453	
東ティモール	0	0	0	
中東	アフガニスタン	0	0	0
	アラブ首長国連邦	0	2	2
	イエメン	0	0	0
	イスラエル	10	7	17
	イラク	2	4	6
	イラン	9	2	11
	オマーン	0	0	0
	カタール	0	3	3
	キプロス	1	4	5
	クウェート	0	0	0
	サウジアラビア	1	0	1
	シリア	2	0	2
	トルコ	3	13	16
	バーレーン	0	0	0
	ヨルダン	3	0	3
レバノン	0	3	3	
CIS	アゼルバイジャン	1	6	7
	アルメニア	0	1	1
	ウクライナ	4	19	23
	ウズベキスタン	5	18	23
	カザフスタン	10	23	33
	キルギス	6	5	11
	ジョージア	0	1	1
	タジキスタン	3	0	3
	トルクメニスタン	0	8	8
	ベラルーシ	1	0	1
	モルドバ	0	1	1
	ロシア	9	52	61
ヨーロッパ	アイスランド	2	0	2
	アイルランド	3	3	6
	アルバニア	0	0	0
	イタリア	11	62	73
	エストニア	0	2	2
	オーストリア	9	40	49
	オランダ	18	40	58
	ギリシャ	4	19	23
	クロアチア	0	3	3
	スイス	16	39	55
	スウェーデン	2	12	14
	スペイン	13	39	52
	スロバキア	1	2	3
	スロベニア	0	4	4
	セルビア	0	2	2
	チェコ	1	30	31
	デンマーク	4	7	11
	ドイツ	75	158	233
	ノルウェー	5	7	12
	ハンガリー	7	10	17
	フィンランド	4	13	17
	フランス	73	122	195
	ブルガリア	3	3	6
	ベルギー	3	9	12
	ポーランド	5	11	16
ボスニア・ヘルツェゴビナ	0	0	0	
ポルトガル	1	18	19	
マルタ	0	5	5	
モナコ	0	0	0	
モンテネグロ	0	0	0	
ラトビア	0	0	0	
リトアニア	0	0	0	
ルーマニア	7	5	12	
ルクセンブルク	1	5	6	
英国	51	119	170	

	国・地域名	研究者等の受入	教職員の派遣	計	
北米	カナダ	43	77	120	
	米国	161	552	713	
オセアニア	オーストラリア	19	71	90	
	サモア	0	0	0	
	ソロモン諸島	0	0	0	
	ニューカレドニア	0	0	0	
	ニュージーランド	7	8	15	
	バヌアツ	0	0	0	
	バプアニューギニア	0	1	1	
	パラオ	0	2	2	
	フィジー	1	2	3	
	マーシャル諸島	0	1	1	
	ミクロネシア	0	0	0	
	アルゼンチン	0	3	3	
中南米	アンティグア・バーブーダ	0	0	0	
	ウルグアイ	0	0	0	
	ガイアナ	0	0	0	
	キューバ	0	1	1	
	グアテマラ	0	0	0	
	コスタリカ	0	0	0	
	コロンビア	1	3	4	
	ジャマイカ	0	1	1	
	チリ	4	9	13	
	ドミニカ	0	0	0	
	ニカラグア	1	0	1	
	ハイチ	0	0	0	
	パナマ	0	0	0	
	パラグアイ	0	1	1	
	ブラジル	20	26	46	
	ベネズエラ	3	0	3	
	ペルー	2	21	23	
	ボリビア	0	0	0	
	メキシコ	7	16	23	
	アフリカ	アルジェリア	0	2	2
		ウガンダ	0	3	3
		エジプト	12	14	26
		エチオピア	1	1	2
		エリトリア	0	0	0
		ガーナ	0	1	1
ガボン		0	1	1	
カメルーン		4	0	4	
ギニア		0	0	0	
ケニア		3	8	11	
コートジボワール		0	0	0	
コンゴ民主共和国		0	0	0	
サントメ・プリンシペ		1	0	1	
ザンビア		0	1	1	
シエラレオネ		0	0	0	
ジンバブエ		1	1	2	
スーダン		1	0	1	
セネガル		0	0	0	
タンザニア		0	4	4	
チュニジア		9	21	30	
ナイジェリア		0	0	0	
ボツワナ		0	1	1	
マダガスカル		2	0	2	
マラウイ		0	3	3	
マリ		1	0	1	
モーリシャス	0	1	1		
モーリタニア	0	0	0		
モザンビーク	0	0	0		
モロッコ	4	7	11		
リベリア	1	0	1		
ルワンダ	1	7	8		
南アフリカ	1	2	3		
その他		34	0	34	
その他	国・地域不明	14	0	14	
合計		1,469	2,924	4,393	

イ 外国人留学生、学生の派遣

	国・地域名	外国人 留学生	学生 の派遣	計	
アジア	インド	38	18	56	
	インドネシア	108	39	147	
	カンボジア	14	13	27	
	シンガポール	6	20	26	
	スリランカ	25	3	28	
	タイ	37	64	101	
	ネパール	8	3	11	
	パキスタン	12	1	13	
	バングラデシュ	41	3	44	
	フィリピン	27	89	116	
	ブータン	2	0	2	
	ブルネイ	4	1	5	
	ベトナム	104	61	165	
	マカオ	0	7	7	
	マレーシア	44	74	118	
	ミャンマー	18	5	23	
	モルディブ	0	0	0	
	モンゴル	37	19	56	
	ラオス	10	3	13	
	韓国	176	88	264	
	香港	8	19	27	
台湾	152	182	334		
中国	1,552	146	1,698		
中東	東ティモール	1	0	1	
	アフガニスタン	13	0	13	
	アラブ首長国連邦	0	1	1	
	イエメン	2	0	2	
	イスラエル	2	2	4	
	イラク	3	0	3	
	イラン	6	4	10	
	オマーン	0	0	0	
	カタール	0	0	0	
	キプロス	1	4	5	
	クウェート	1	0	1	
	サウジアラビア	1	0	1	
	シリア	4	0	4	
	トルコ	6	6	12	
	バーレーン	2	0	2	
	パレスチナ暫定自治政府	1	0	1	
	ヨルダン	1	1	2	
	レバノン	0	1	1	
	アゼルバイジャン	6	4	10	
	C I S	アルメニア	2	2	4
		ウクライナ	7	8	15
ウズベキスタン		23	5	28	
カザフスタン		21	19	40	
ギルギス		6	16	22	
ジョージア		6	0	6	
タジキスタン		6	4	10	
トルクメニスタン		2	0	2	
ベラルーシ		2	0	2	
モルドバ		0	1	1	
ロシア		40	27	67	
アイスランド		0	0	0	
アイルランド		0	7	7	
ヨーロッパ	アルバニア	0	0	0	
	イタリア	7	19	26	
	エストニア	2	2	4	
	オーストリア	1	35	36	
	オランダ	7	59	66	
	北マケドニア	0	1	1	
	ギリシャ	4	15	19	
	クロアチア	5	2	7	
	スイス	0	45	45	
	スウェーデン	1	8	9	
	スペイン	4	23	27	
	スロバキア	0	1	1	
	スロベニア	4	8	12	
	セルビア	2	1	3	
	チェコ	2	22	24	
	デンマーク	0	6	6	
	ドイツ	44	113	157	
	ノルウェー	1	3	4	
	ハンガリー	2	6	8	
	フィンランド	1	7	8	
	フランス	80	99	179	
ブルガリア	2	0	2		
ベルギー	0	10	10		
ポーランド	9	17	26		
ボスニア・ヘルツェゴビナ	1	2	3		
ポルトガル	4	2	6		
マルタ	0	6	6		
モナコ	0	0	0		
モンテネグロ	2	1	3		
ラトビア	2	1	3		
リトアニア	7	0	7		
ルーマニア	0	10	10		
ルクセンブルク	0	2	2		
英国	13	122	135		

	国・地域名	外国人 留学生	学生 の派遣	計
北米	カナダ	1	89	90
	米国	61	360	421
オセアニア	オーストラリア	6	94	100
	サモア	2	1	3
	ソロモン諸島	1	2	3
	ニューカレドニア	0	0	0
	ニュージーランド	1	14	15
	バヌアツ	1	2	3
	バブアニューギニア	2	0	2
	パラオ	0	0	0
	フィジー	2	1	3
	ミクロネシア	0	0	0
中南米	アルゼンチン	1	0	1
	アンティグア・バーブーダ	1	0	1
	ウルグアイ	0	0	0
	エクアドル	1	0	1
	ガイアナ	1	0	1
	キューバ	0	0	0
	グアテマラ	2	0	2
	コスタリカ	3	0	3
	コロンビア	5	4	9
	ジャマイカ	3	0	3
	チリ	4	5	9
	ドミニカ	1	0	1
	トリニダード・トバゴ	1	0	1
	ハイチ	1	0	1
	パナマ	0	1	1
	パラグアイ	1	1	2
	ブラジル	41	12	53
	ペネズエラ	2	0	2
	ベネズエラ	14	2	16
	ボリビア	0	1	1
	メキシコ	12	17	29
アルジェリア	5	2	7	
アフリカ	ウガンダ	4	1	5
	エジプト	24	3	27
	エスワティニ王国	0	1	1
	エチオピア	10	6	16
	エリトリア	2	0	2
	ガーナ	16	1	17
	カメルーン	3	0	3
	ギニア	2	0	2
	ケニア	7	3	10
	コートジボワール	1	0	1
	コンゴ民主共和国	1	0	1
	ザンビア	0	1	1
	シエラレオネ	0	0	0
	ジンバブエ	2	2	4
	スーダン	2	0	2
	セネガル	2	2	4
	タンザニア	3	1	4
	チュニジア	8	9	17
	ナイジェリア	9	0	9
	ベナン	1	0	1
	ボツワナ	2	2	4
マダガスカル	1	1	2	
マラウイ	7	7	14	
マリ	1	0	1	
モーリタニア	0	0	0	
モザンビーク	4	2	6	
モロッコ	10	26	36	
リベリア	4	0	4	
ルワンダ	1	2	3	
南アフリカ	1	4	5	
その他	0	0	0	
国・地域不明	0	0	0	
その他		3,099	2,300	5,383
合計		6,198	4,600	10,798

7 筑波研究学園都市連携等関係

(1) 連携大学院を実施している連携機関一覧

第一号連携

機関種別	機関名	機関数
国立研究機関	国立感染症研究所	4
	気象庁 気象研究所	
	国土技術政策総合研究所	
	国立保健医療科学院	
独立行政法人	国立研究開発法人物質・材料研究機構	17
	国立研究開発法人産業技術総合研究所	
	国立研究開発法人防災科学技術研究所	
	国立研究開発法人国立環境研究所	
	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	
	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所	
	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター	
	国立研究開発法人土木研究所	
	国立研究開発法人建築研究所	
	国立研究開発法人理化学研究所	
	独立行政法人国立科学博物館	
	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	
	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	
	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	
	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	
国立研究開発法人国立がん研究センター東病院		
国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所		
民間等研究機	アステラス製薬(株)	7
	エーザイ(株) 筑波研究所	
	富士フイルム(株) 先進研究所 バイオサイエンス&テクノロジー開発センター	
	武田薬品工業(株) 湘南ヘルスイノベーションパーク	
	公益財団法人東京都医学総合研究所	
	日本電信電話(株) NTT物性科学基礎研究所	
	日本電気(株) 筑波研究所	
	28	

第二号連携

国立研究開発法人物質・材料研究機構
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

(2) 筑波研究学園都市主要機関との共著論文実績

(抽出期間2017 - 2019)

機関名	共著論文数
大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構	227
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	695
国立研究開発法人 物質・材料研究機構	366
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	9
国立研究開発法人 国立環境研究所	92
国立研究開発法人 農業生物資源研究所	66
国立研究開発法人 森林研究・整備機構	50
気象研究所	30

※ Scivalを利用して抽出

※ データ抽出日 令和2年9月15日

(3) 筑波会議実施状況

筑波会議2019

- ・メインテーマ：Society5.0とSDGsを見据えた目指すべき社会の在り方とその実現に向けて取り組むべき課題
- ・会期：2019年10月2日（水）～10月4日（金）
- ・会場：つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園2丁目20-3）
- ・参加者：若手研究者等（国内）710名 若手研究者等（海外（64か国・地域））290名
一般参加者 500名
計 1,500名

2019年10月2日（水）	
10:00 - 12:00	【A01P】開会式 <ul style="list-style-type: none"> ・主催者代表挨拶 永田 恭介 筑波会議委員会委員長、筑波大学長 ・来賓挨拶 萩生田 光一 文部科学大臣 ・ビデオメッセージ 尾身 幸次 氏（STSフォーラム理事長・創設者、筑波会議委員会顧問） ・基調講演 小林 喜光 氏（三菱ケミカルホールディングス会長、前経済同友会代表幹事、筑波会議委員会委員） ・基調講演 Jeremy Jurgens 氏（世界経済フォーラム Managing Director; Chief Digital and Innovation Officer） ・基調講演 Koen Vermeir 氏（Global Young Academy 共同代表） 司会：池田 和浩氏（産業技術総合研究所）
12:00 - 13:30	ネットワークングセッション・コミュニティセッション
13:30 - 15:00	サブセッション1 <ol style="list-style-type: none"> 1 【N09C】筑波大学 スポーツから目指す“脱”消費社会 2 【N04C】筑波大学 地球上いつでも倒れても安全・安心な社会の構築を目指して 3 【E01C】国際協力機構 アフリカの SDGs 達成に向けた感染症の克服：次世代科学者達の挑戦 4 【N01C】筑波大学 SDGsの国際共創と社会科学 5 【E07C】理化学研究所 ライフサイエンス研究を支える理研バイオリソース研究センター 6 【N10C】筑波大学 再生医療による機能回復と健康長寿社会の確立。そのための技術基盤と産業体制の構築 7 【N18C】筑波大学 発展するアジアのメガシティにおける将来の猛暑とその適応 8 【E19C】戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）革新的構造材料 材料開発におけるデジタルトランスフォーメーション
15:30 - 17:00	サブセッション2 <ol style="list-style-type: none"> 1 【E13C】つくば市 つくばのスタートアップ都市としての発展可能性を探る 2 【E03C】宇宙航空研究開発機構 宇宙利用技術を活用した医療・公衆衛生等への貢献 3 【E05C】物質・材料研究機構 IoT動作電源用の環境発電技術 4 【E02C】高エネルギー加速器研究機構 最先端基礎科学をもたらすイノベーション 5 【E06C】防災科学技術研究所 SCIENCE FOR RESILIENCE -気象災害の現場から見えてくること- 6 【N07C】筑波大学 Society5.0とSDGsにおけるグローバルな課題の解決にむけて：ライフサイエンスによるアプローチ 7 【E15C】科学技術国際交流センター 科学技術外交の最前線 8 【N08C】筑波大学 テクノヘゲモニー（技術覇権）：ソサエティ5.0の国際政治経済学
17:15 - 18:30	ネットワークングセッション・コミュニティセッション つくば市の特産品を利用した食事・つくばコレクション認定のドリンク・デザート等提供 挨拶：藤崎 一郎 氏（日米協会会長、元在アメリカ合衆国日本大使、筑波会議委員会委員） 挨拶：黒川 清 氏（政策研究大学院大学・東京大学 名誉教授、筑波会議委員会委員）

2019年10月3日 (木)	
10:00 - 12:00	【A02P】ノーベル賞受賞者スペシャルプレナリー 江崎 玲於奈 氏 (茨城県科学技術振興財団 理事長、1973年ノーベル物理学賞) 小林 誠 氏 (高エネルギー加速器研究機構 特別荣誉教授、2008年ノーベル物理学賞) 山中 伸弥 氏 (京都大学iPS細胞研究所 所長、2012年ノーベル生理学・医学賞) ジョン・E・ウォーカー 氏 (ケンブリッジ大学 教授、1997年ノーベル化学賞) 他、Global Young Academyより登壇者4名 モデレーター：岩崎 渉 氏、新福 洋子 氏 (Global Young Academy)
12:00 - 13:30	ネットワークングセッション・コミュニティセッション
13:30 - 15:00	サブセッション3 1 【E17C】日本学術会議若手アカデミー SDGsはすべての社会課題の解決策となりうるか？包摂性と「混じり合わない」科学的助言の視点からSDGsを再考する。 2 【E09C】産業技術総合研究所 SDGs のための次世代エレクトロニクスイノベーション：若手研究者の連携に向けて 3 【N06C】筑波大学 バイオテクノロジー作物を利用した世界の食糧確保をどう考えるか？ 4 【N02C】筑波大学 Society5.0における持続可能な民主主義社会と新しい公共圏の創出 5 【N03C】筑波大学 レジリエンス社会の実現に向けた防災・ヒューマンファクター・サイバーレジリエンス 6 【N19C】日本産学フォーラム 産学連携を通じたイノベーション人材の育成 7 【E08C】農業・食品産業技術総合研究機構 農業・食品分野におけるSociety5.0の実現に向けて 8 【E04C】科学技術振興機構 社会に資する研究 -若手研究者とファンディング機関との対話- 9 【E20C】東京大学 未来社会デザインのデザイン学 10 【E14C】国立感染症研究所 地球規模感染症コントロールのための戦略 11 【E10C】国立環境研究所 気候変動への適応 -地域の取組の活性化に向けて- 12 【N17C】筑波大学 医療のグローバルネットワーク構築
15:30 - 17:00	メインセッション 【A04P】ESGを科学技術でデザイン ～SDGsはコラボレーションが鍵だ！～ ペドロ・コンセソン 氏 (国連開発計画 (UNDP) 人間開発報告室長) 狩野 光伸 氏 (岡山大学副理事、外務大臣次席科学技術顧問) モデレーター：藤田 香 氏 (日経ESGシニアエディター 兼 日経ESG経営フォーラムプロデューサー) 【A03P】社会変革を生み出すためのアントレプレナーシップ 山海 嘉之 氏 (CYBERDYNE CEO、筑波大学サイバニクス研究センター研究統括) 残間 光太郎 氏 (株式会社NTTデータ オープンイノベーション事業創発室長) 石井 芳明 氏 (内閣府政策統括官 (科学技術・イノベーション担当) 付 企画官) 岡島 礼奈 氏 (株式会社ALE 代表取締役) 高橋 祥子 氏 (株式会社ジーンクエスト 代表取締役) 村上 泰一郎 氏 (ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 代表取締役COO) モデレーター：谷本 有香 氏 (Forbes Japan)
17:15 - 18:15	【W01S】スペシャルセッション World Cultural Council 理事長による特別講演 World Cultural Council 理事長 コリン・ブレイクモア 氏 司会：キャロライン・ベントン 筑波大学副学長
18:30 - 19:30	ネットワークングセッション・コミュニティセッション 挨拶：中鉢 良治 氏 (産業技術総合研究所理事長、筑波会議委員会委員)
9:00 - 17:00	サテライトセッション 【N24X】筑波大学 つくば科学英語会議2019 Claire Surr氏 (リーズ・ベケット大学教授)

2019年10月4日（金）	
9:00 - 16:00	スペシャルセッション 1 【E18S】日本学術会議若手アカデミー、Global Young Academy G7若手科学者会合：SDGs時代の「科学」をアップデートするシチズンサイエンス 2 【W02S】筑波大学・WCC World Cultural Council 第36回受賞者による特別講演 2019年アルバート・アインシュタイン科学賞：ワン・ジョン リン 氏 2019年レオナルド・ダ・ヴィンチ芸術賞：パウロ・ブランコ 氏 司会：木越英夫 筑波大学副学長 3 【N15S】筑波大学 次の一歩は何か？～若手研究者・技術者がイノベーションを創出する未来に向けてダイバーシティ推進と男女共同参画はどうあるべきか？ 4 【N14S】筑波大学 公開講座：がん治療における粒子線治療の役割
AMのみ	
AM-PM	5 【N11S】筑波大学 第四回 世界遺産シンポジウム 自然と文化をつなぐ：自然と文化の複合遺産 6 【N05S】筑波大学 農業におけるIoTとAI：世界的なSociety 5.0とSDGs達成に向けた食料生産の自給自足 7 【N12S】筑波大学 学生発表会（口頭／ポスター発表、医学・生物分野） 8 【N25S】つくば院生ネットワーク（TGN） どこでもSTUDY
PMのみ	
	9 【E21S】1st PLACE バーチャルアーティストIA ライブ上映会 10 【E11S】日本プロジェクト産業協議会・日本経済団体連合会 デジタル革新によるSociety 5.0の実現とモビリティ・ネットワーク 11 【E22S】角川ドワンゴ学園・つくば院生ネットワーク（TGN）・J-WAVE 創発的な学びに向けたイニシアチブ 12 【N13S】筑波大学 ソーシャル・ニューロダイバーシティ科学の実践・研究 13 【N20C】筑波大学 ヒューマンエージェントインタラクションと未来社会の想像力 14 【E16S】東京藝術大学 東京藝術大学 美術学部 Diversity on the Arts Project 「アート×福祉」
16:30 - 18:00	【W03S】スペシャルセッション：World Cultural Council 第36回授賞式 ・WCC代表者挨拶 コリン・ブレイクモア 氏（World Cultural Council理事長） ・ホスト機関代表挨拶 永田 恭介 筑波会議委員会委員長、筑波大学長 ・来賓挨拶 中岡 司 文化庁次長 ・アルバート・アインシュタイン科学賞、レオナルド・ダ・ヴィンチ芸術賞の授賞、 受賞者の紹介、および受賞者スピーチ ・Special Recognitionの授賞 司会：キャロライン・ベントン 筑波大学副学長、池田 潤 同大学執行役員
18:15 - 19:15	【A05P】閉会式・フェアウェルレセプション 挨拶：Fraser Stoddart氏（ノースウェスタン大学教授、2016年ノーベル化学賞） 司会：藤沢 久美 氏（ソフィアバンク代表）

(参考) 筑波会議協力機関
茨城県科学技術振興財団
宇宙航空研究開発機構
STSフォーラム
科学技術国際交流センター
科学技術振興機構
Global Young Academy
経済同友会
建築研究所
高エネルギー加速器研究機構
国際科学振興財団
国際協力機構
国土技術政策総合研究所
国立環境研究所
国立感染症研究所
CYBERDYNE
産業技術総合研究所
産業経済新聞社
首都圏新都市鉄道
つくば科学万博記念財団
つくば観光コンベンション協会
筑波大学
東京藝術大学
東京大学
土木研究所
トヨタ自動車
日本学術会議若手アカデミー
日本経済団体連合会
日本産学フォーラム
日本プロジェクト産業協議会
農業・食品産業技術総合研究機構
博報堂DYホールディングス
日立製作所
ファナック
物質・材料研究機構
防災科学技術研究所
理化学研究所
内閣府
文部科学省
厚生労働省
経済産業省
国土交通省
茨城県
つくば市

(4) つくば産学連携強化プロジェクト

(単位:千円)

種類	研究代表者		プロジェクト名	配分額
	配分先(所属)・職	氏名		
元年度新規採択分(合わせ技ファンド)	数理物質系 教授	岩室憲幸	オペランドマイクロ解析による高効率ペロブスカイト太陽電池の電荷状態の解明と素子性能の制御・向上	1,000
	数理物質系 准教授	桑原純平	弾性を有する革新的赤外光透過材料の開発と焦点可変レンズへの応用	1,000
	数理物質系 准教授	都甲薫	フレキシブル全固体二次電池の実現に向けた革新的IV族半導体負極の開発	1,000
	数理物質系 准教授	丸本一弘	オペランドマイクロ解析による高効率ペロブスカイト太陽電池の電荷状態の解明と素子性能の制御・向上	1,000
	数理物質系 助教	奥村宏典	放射線耐性に優れた半導体素子の開発	1,000
	生命環境系 教授	楊英男	暗条件でも殺菌作用を有する水処理用光触媒材料の開発	1,000
	生命環境系 助教	石賀康博	キウイフルーツかいよう病菌の病原性機構の解明	1,000
	生命環境系 助教	木下奈都子	香りを介した植物間コミュニケーションを利用した予防型精密農業の圃場への展開に関する基盤的研究	1,000
	生命環境系 助教	津田麻衣	雄性不稔突然変異系統を利用したダイズ循環選抜システムの開発	1,000
	生命環境系 助教	吉岡洋輔	三大糸状菌病抵抗性を有するキュウリ新品種開発の基盤構築	1,000
	医学医療系 教授	山崎正志	革新的医療機器開発:粗鬆骨でもゆるまない骨固定材料:成長因子含有アパタイトコーティングネジ	1,000
	医学医療系 准教授	小林麻己人	新規高機能性乳酸菌株のゼブラフィッシュを用いたスクリーニングと作用メカニズム解明	1,000

種類	研究代表者		プロジェクト名	配分額
	配分先(所属)・職	氏名		
元年度新規採択分(つくば産学連携強化事業)	数理工学系 教授	神原貴樹	簡便な高分子半導体製造プロセスを実現する合成技術の開発	1,000
	数理工学系 准教授	後藤博正	導電性高分子ポリアニリンの工業的応用に関する開発	1,000
	数理工学系 准教授	末益崇	太陽電池用シリサイド半導体のバルク結晶を用いた欠陥評価	1,000
	医学医療系 准教授	竹内薫	Chloro-VLPエンジニアリングを基盤とした“経口ワクチン植物”創製プラットフォーム技術の開発	1,000
	医学医療系 助教	松本孔貴	治療抵抗性癌の治療効果向上を目指した放射線・化学・温熱療法の特性を併せ持つスマート粒子の開発	1,000
	国際統合睡眠医科学研究機構 教授	柳沢正史	敗血症性ショックに対するオレキシンの薬理作用および薬物動態の検証に関する研究-医薬基盤・健康・栄養研究所 霊長類医科学研究センターとの共同研究による霊長類での検証-	1,000

種類	研究代表者		プロジェクト名	配分額
	配分先(所属)・職	氏名		
元年度新規採択分(茨城県支援事業)	数理物質系 教授	守友浩	三次電池むけた物質探索と機構解明	500
	生命環境系 教授	青柳秀紀	持続可能な農業を実現するための新規微生物資材の探索にむけたイネ内生菌ライブラリーの構築	1,000
	生命環境系 教授	繁森英幸	食素材由来ポリフェノール化合物による認知機能改善効果に関する研究	1,000
	生命環境系 教授	鈴木石根	下水道資源を用いた微細藻類の培養と下水処理場内でのエネルギー活用方法の開発	1,000
	生命環境系 准教授	出川洋介	ハナバチ類のホメオスタシス(恒常性維持)に関与すると考えられる腸内フローラの解明	1,000
	生命環境系 助教	木下奈都子	病気・害虫デュアルモニターシステムの構築による省農薬・省労力・省資源な農業技術の基盤開発	1,000
	生命環境系 助教	粉川美踏	蛍光指紋による食中毒関連菌の迅速判別	1,000
	生命環境系 助教	津田麻衣	ダイズの乾燥ストレス耐性を向上させる有用エンドファイトの菌種同定と有用エンドファイト接種がダイズ地上部および地下部の微生物叢に与える影響の解析	1,000
	生命環境系 助教	原田真理子	地球軌道要素の変化に伴う日射量変動がアジアモンスーン強度に与える影響の解明	1,000
	芸術系 教授	藤田直子	高齢化・農業人口減少を逆手に取り健康寿命・交流人口・農業体験を増進させる近未来型農体験創造のためのデザイン探求	500
	医学医療系 准教授	熊田博明	BNCTの治療精度を高度化するリアルタイム中性子モニターの開発	1,000

8 社会連携・大学公開関係

(1) 社会貢献プロジェクト(採択課題)

※所属/氏名欄の網掛けは、学生の取組みを示す。

分野	所属/氏名	取組み名
科学振興	数理工学系 /後藤博正	地域社会貢献のための小中高校生への理科教育啓発活動
	生命環境系 /Matthew C. Wood	学生によるサイエンスコミュニケーションの実践～筑波大学サイエンスコミュニケーショングループSCOUT～
	芸術専門学群 /島田千聖	TSUKUBAX bio art project
国際	人文社会系 /明石純一	国際都市つくばの新しい国際化施策一定住外国籍児童に対する「職育」プログラム
	生命環境系 /田村憲司	筑波大学発SDGs活動発信拠点形成とつくばSDGsパートナーの育成
文化・地域活性化	人文社会系 /五十嵐沙千子	哲学カフェによる地方創生～「町を日本の故郷にする」プロジェクト
	国際室 /森尾貴広	マンガでトランスポーター Vol. 4:マンガであなたとつくばと世界をつなごう!
	芸術系 /程塚敏明	コミュニケーション・スキルアップとしての「夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊2019」の実施
	人間系 /原田悦子	高齢者コミュニティで作る産学・社会連携プロジェクト:広報誌を介した地域づくり
	人文社会系 /滝沢誠	博学連携による地域文化財の再生と利活用—土浦市における重要遺跡の調査とパブリック・アーケオロジーの展開—
	システム情報系 /川島宏一	Hack My Tsukuba 2019 ～市民の市民による市民のための問題解決～
	人文社会系 /松崎寛	つくば市における外国人児童生徒支援体制の構築
環境	人間学群心理学類 /阿部光多	盆LIVE2019
	生命環境系/アゴス ティエニシルバン	温帯域サンゴの重要性の普及啓発に向けた産学連携活動
	生命環境系 /丸尾文昭	「いもりの里」をモデル拠点とした谷津田・里山の復元・維持管理ネットワークの継続的発展2019
健康・医療・福祉	生命環境系 /上條隆志	環境マイスターの育成による地域環境教育の推進および環境保全事業
	附属病院 /柿本静香	医療依存度の高い術後遠隔期の患児・家族への支援 ～心臓病とたたかう子供たちを夢のキャンプ地へ 2019～
	人間系 /佐々木銀河	発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座～大学生になる自分を研究しよう～
	附属病院 /関水千夏	『つくばキッズメディカルユニバーシティ 2019』 ～小学生対象の医療現場体験ツアー～
	附属病院 /塚田恵鯉子	摂食障害の予防、早期発見・早期治療、医療連携、社会復帰を目的とした総合的な疾患啓発と疾患教育
	医学医療系 /高橋伸二	国際標準心肺蘇生法の普及
防災・復興支援	人文社会科学部 /澤井雪乃	ゆうゆうゆう会
	医学群医学類 /福元崇人	地域市民を対象にしたBLS講習会、健康教育
	理工学群応用理工学類 /成田隼翼	Tsukuba for 3.11
その他	生命環境系 /加藤盛夫	農業体験学習を通じた地元小学生の農業理解の推進

(2) 地方自治体との連携協定

自治体名	連携事項	締結日	備考
つくば市	<ul style="list-style-type: none"> 大学と市の情報、資源及び研究成果等の交流並びにその活用 大学と市が共同して行う事業の企画及び実施 	H15.9.30	包括
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> 大学と県の相互の情報、技術等知的資源の活用 地域の活力を育む人材の育成 大学と県が共同して実施する事業の企画、調整及び推進 	H17.2.7	包括
大子町	<ul style="list-style-type: none"> 教育等の人材育成のための特色ある取り組みに関すること 地域の健康増進 地域の自然、文化を活かしたまちづくり 農産物等の地域資源の振興 	H20.8.7	包括
文京区	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成 文化、スポーツ、芸術の発展及び産業の振興 地域コミュニティの発展 	H22.2.9	包括
牛久市	<ul style="list-style-type: none"> 教育、文化、スポーツの振興 健康及び福祉の増進 地域資源の活用及び振興 地域の自然及び環境対策 まちづくりの推進 	H22.7.28	包括
土浦市	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの推進 地域資源の活用及び振興 教育、文化及びスポーツの振興 地域施策の助言 	H23.3.1	包括
常総市	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性を活かしたまちづくり 文化・スポーツ・芸術を通じた地域活性化 教育支援及び人材育成 健康及び福祉の増進 	H24.2.14	包括
行方市	<ul style="list-style-type: none"> 農業・食、運動、休息による地域活性化 まちづくり推進及び健康サービスモデル開発事業 	H24.10.3	共同研究
福島県いわき市	<ul style="list-style-type: none"> 津波等により甚大な被害を受けた沿岸地域等の復興 地域力の再生及び強化 地域産業の再生及び復興 都市魅力の再生及び復興 	H23.8.10	震災復興
宮城県仙台市及び 国立大学法人東北 大学	<ul style="list-style-type: none"> 藻類バイオマス技術による東北の復興に向けて、 三者の相互の情報、技術的知的資源の活用 三者が共同して実施する事業の企画、調整及び推進 	H23.11.10	震災復興
潮来市	<ul style="list-style-type: none"> 災害に強いまちづくり 産業の振興による復興支援 震災復興に係る施策への助言 	H23.11.21	震災復興
福島県伊達市	<ul style="list-style-type: none"> 科学的根拠に基づく先進的な健康づくり 放射性核種による汚染の実態と対策及び健康管理 	H23.11.28	震災復興
神栖市	<ul style="list-style-type: none"> 液状化被害、ライフライン被害等の調査検討 地域防災計画の見直し 復興に向けたまちづくりの推進 	H23.11.29	震災復興
北茨城市	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活基盤の復旧及び地域コミュニティの再生 地域産業及び経済の再建 防災基盤の整備及び防災体制の強化 地域の現状や特性に応じたまちづくり 	H23.12.2	震災復興
高萩市	<ul style="list-style-type: none"> 災害に強いまちづくり 生涯を通じた心身の健康づくり 	H23.12.6	震災復興
鹿嶋市	<ul style="list-style-type: none"> 震災からの復興に向けたまちづくりの推進 津波及び液状化対策 地域防災計画の改定 	H24.2.27	震災復興

(3) 高大連携事業一覧

事業名		対応員数等	参加人数	備考
茨城県教育委員会	高校生公開授業	4科目	7名	前期：3科目、受講者5名 後期：1科目、受講者2名
	高校生公開講座	5講座	73名	
	未来の科学者育成プロジェクト	4研究室	10名	科学体験教室 ※県からの委託事業
		1～2講座	実施せず	科学系コンテスト参加者強化トレーニング
	医学系進学コース研修	未定	実施せず	県立高校・中等教育学校5校の生徒対象
茨城県高校生科学研究発表会	審査員50名程度	実施せず (コロナウイルス対応)	物・化・生・地・情報、 審査員には大学院生含む	
竹園高校	国際科科エンテション	大学院生派遣5名	80名	国際科進級予定1年生対象
	筑波大学図書館研修	中央図書館対応	81名	
		図書館職員 2名	5名	高校教員対象の文献検索研修
	「探Q」指導員派遣	大学院生 10名	81名	国際科対象
	研究室体験学習（文系）	教員 5名	37名	国際科2年 教育研究科で担当
	研究室体験学習（理系）	教員 4名	44名	国際科2年
	先端科学講座（物化生）	教員 3名	160名程度	1～2年生中心 1分野40名～100名
	学類・学群紹介模擬授業	教員 14名	300名程度	1年生全員、2～3年生希望者
探Q発表会	派遣教員 1名	発表者200名程度	1～2年生	
茗溪学園	SSH講演会（学類紹介）	教員 8名	270名	1年生対象
	SS研究・個人課題研究発表会	室員（座長） 8名	発表者 28名 参加者 500名	会場：大学会館 全校生徒参加
土浦一高	出前講義 （医学研2年生対象）	教員 1名	28名	6月
		教員 1名	24名	9月
		教員 1名	19名	12月
	病院実習（医学研）	教員 5名	28名/日	附属病院、2日間
		教員 1名	17名	水戸協同病院
	海外フィールドワーク （2年生）	教員 1名	22名	オーストラリアについての事前指導 5月、7月
		教員 1名	22名	
探求学習発表会	教員 2名	343名	1年生：ポスター発表80件 2年生：英語での口頭発表	
附属駒場	高校生大学訪問 （研究室体験）	教員 16名	160名	2年生
	中学生大学訪問 （研究室体験）	教員 19名	120名	中学3年生、午前は講演会
附属高校	大学訪問（研究室体験）	20研究室	240名	2年生
附属坂戸	農場実習	教員、技術職員	36名	畜産・園芸部門 センター（農場）対応
	大学訪問 （模擬授業+施設見学）	教員 8名	160名	1年生、生物資源学類は2グループ受け入れ

事業名		対応員数等	参加人数	備考
附属聴覚	大学訪問	関係教員等57名	22名	3年生、DACアクセシビリティ部門が対応
附属視覚	大学訪問	関係教員3名、学生	16名	2年生、DACアクセシビリティ部門が対応
組織独自の取り組み	人文系自主研究発表会の高大連携への展開	人文学類	193名	岩見沢東高校
	高大連携シンポジウム	社会工学類	111名	学園祭企画として実施
	高校生アトライター大賞	芸術専門学群	応募総数 564編	大賞3・優秀賞17・入選31・学校賞10
	理工系一日体験教室 (各学類担当教員全員)	数学類	42名	体験学習
		物理学類	50名	体験学習
		化学類	88名	一日体験化学教室
		応用理工学類	127名	サマースクール
	筑波地区の高校を横断する知的交流ゼミの構築	人文社会系教員 10名	84名	実施せず (コロナウイルス対応)
ハート®流法交渉学の普及のための高校生への早期教育	ビジネスサイエンス系教員、附属駒場高校教諭等	実施せず (コロナウイルス対応)	スプリングスクール 土浦日大、常総学院、茗溪、東洋大牛久、牛久栄進、並木中等、竹園、自由の森学園 日比谷高、小松川高 ほか	
米軍子弟教育高大連携プロジェクト	20研究室	100名	太平洋地区在留米軍ハイスクール生徒の受入れ	
出前(出張)講義、模擬授業・研究室体験等	201件	—	WEB申込件数(全国)	

(4) 公開講座実施状況

ア 一般公開講座

公開講座名	講座数	対象者	募集人数	応募者数	受講者数	修了者数
剣道 (春季)	1	一般市民 (小学校1年生以上)	50	52	51	38
剣道 (秋季)	1	一般市民 (小学校1年生以上)	50	71	69	60
弓道	1	一般市民 (高校生以上の初心者)	40	29	28	24
バレーボール (成人女性)	1	一般市民 (成人女性)	36	(中止)		
ゴルフ (初級)	1	一般市民 (初心者)	24	45	25	25
ゴルフ (中級)	1	一般市民 (「初級講座」修了者)	24	35	26	26
ゴルフ (上級)	1	一般市民 (「中級講座」を修了し、ベストスコアが100以下の方)	24	36	36	34
ゴルフ (上級アドバンスコース)	1	一般市民 (「上級講座」を修了し、ベストスコアが95以下の方)	24	28	28	28
スポーツ教室 8 講座			272	296	263	235
油絵 (初級・中級)	1	一般市民 (初級：16歳以上、中級：18歳以上)	20	23	22	17
日本画	1	一般市民 (16歳以上)	35	30	25	23
電気炉でガラス作品を作ろう！ (入門基礎、応用)	2	一般市民 (入門基礎：初心者、応用：経験者)	32	24	22	19
芸術教室 4 講座			87	77	69	59
まちなか自然講座～昆虫・植物・菌類～	1	一般市民 (高校生以上)	20	33	30	28
白樺から見る森の世界～遺伝子から北欧家具まで～	1	一般市民 (高校生以上)	30	13	13	13
「学校」を考えるーあなたと考える哲学カフェ	1	一般市民	20	21	20	18
弓道具	1	一般市民 (経験者、18才以上)	20	18	17	17
第4回植物遺伝資源研究の最前線～育種から植物分子デザイン研究まで～	1	一般市民 (高校生以上)	40	20	18	16
海洋生物学入門	1	高校生	25	32	32	32
健幸華齢のためのフレイル対策	1	一般市民	60	45	45	45
東洋医学でリフレッシュ！	1	一般市民 (成人)	40	23	23	18
鍼灸学生のための鍼実技講座	1	はり師養成学校学生 (20才以上)	20	12	12	10
教養講座 9 講座			275	217	210	197
計 21 講座			634	590	542	491

イ 現職教育講座

公開講座名	講座数	対象者	募集人数	応募者数	受講者数	修了者数
ユニバーサルデザイン・ユニバーサル学習・ダイバーシティ教育の研究動向	1	一般市民、サービス実践者、研究者・教育者	20	6	6	6
弱視教育研修講座	1	弱視教育担当教員等 (初任者)	35	38	36	35
視覚に障害のある重複障害児の指導と教材・教具	1	特別支援学校・特別支援学級教員等	40	48	46	45
さまざまな障害の子供たちの体育指導	1	小・中・高・特別支援学校等の教員、支援	30	41	39	35
教員のための遺伝子組換え実験教育研修会	1	中・高の教員及び博物館等の教育施設に勤務する者	16	23	21	21
視覚障害教育における自立活動の理論と実際	1	特別支援教育に関わる教員及び児童福祉施設等職員	30	14	14	12

公開講座名	講座数	対象者	募集 人数	応募 者数	受講 者数	修了 者数	
自閉症児のアセスメント	1	現職教員、教職を目指す大学生、療育機関および福祉施設の職員	25	28	25	24	
特別支援教育における社会性支援のための音楽活動Ⅰ	1	教員、保育士、介助員・施設等指導員、大学生（大学院含む）	30	19	19	18	
特別支援教育における教材・教具の活用と製作	1	特別支援教育及び関連する指導者	20	(中止)			
子どもたちの表現を育む音楽	1	教員、保育士、介助員・施設等指導者、大学生（大学院含む）	30	53	49	48	
特別支援教育における行動問題の理解と援助	1	幼稚園及び特別支援教育教員等	36	55	33	31	
特別支援教育における情動調整の理解と支援	1	幼稚園及び特別支援教育教員等	36	49	33	33	
自閉症児における社会性の評価と支援	1	幼稚園及び特別支援教育教員等	36	17	14	13	
聴覚障害・発音指導研修講座	1	聴覚障害児、言語障害児の教育・療養に関わる者	50	45	45	42	
特別支援教育における子どもの見立てと教材・指導法の基礎	1	幼・小・中・高及び特別支援教育教員等	20	27	23	21	
視覚障害教育基礎講座	1	視覚特別支援学校等に勤務する教員(初任者)	15	13	13	13	
静的弛緩誘導法を基盤とする障害の重い子の成長・発達の援助	1	特別支援学校教員、医療・療育施設職員等	24	30	24	18	
授業で生きる知覚－運動学習	1	保育園、幼稚園、小・中・高、特別支援学校の教員、教育委員会職員等	30	19	16	14	
自立活動に活かす動作法実習	1	特別支援学校教員等	25	18	15	13	
特別な教育的ニーズのある子どもの学習支援	1	小・中・高及び特別支援学校の教員、教育委員会等の教育関係者	30	24	23	20	
特別支援教育における社会性支援のための音楽活動Ⅱ	1	教員、保育士、介助員・施設等指導員、大学生（大学院含む）	30	25	22	22	
自閉症のある子供と音楽	1	教員・保育士・施設職員	50	47	42	40	
自閉症の実態に応じた教材・教具づくり	1	教員、教員を目指す大学生、療育機関・医療機関・福祉施設の職員	15	22	16	15	
盲・弱視児童生徒徒理科実験指導研修講座	1	視覚障害児の教育に関わる教員等	15	8	7	7	
免許法認定公開講座「特別支援教育の基礎理論」	1	幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教諭普通免許状を有し、国公私立学校に勤務する教員で、特別支援学校教諭免許状を取得しようとする者	70	90	81	81	
免許法認定公開講座「障害児の心理・生理・病理・教育課程・指導法論」	1		70	106	97	101	
免許法認定公開講座「視覚障害の理解」	1		40	47	41	41	
免許法認定公開講座「聴覚障害の理解」	1		40	49	37	39	
免許法認定公開講座「知的障害の理解」	1		70	62	58	59	
免許法認定公開講座「肢体不自由の理解」	1		30	32	27	29	
免許法認定公開講座「視覚障害の指導法」	1		40	32	29	28	
免許法認定公開講座「聴覚障害の指導法」	1		40	37	26	28	
免許法認定公開講座「知的障害の指導法」	1		70	52	43	43	
免許法認定公開講座「肢体不自由の指導法」	1		30	22	20	20	
免許法認定講習「特別支援学校（視覚）理療科教員免許法認定講習」	1		視覚特別支援学校に勤務している教員で理療に係る特別支援学校自立教科教諭の臨時免許状または二種免許状を有する者	35	19	19	19
計	35		講座	1,223	1,217	1,059	1,034

(5) 教員免許状更新講習

(令和元年度)

区分	講習名	受講者数			
必修領域	必修A	教育の最新事情(4講習)	821人		
		「教育法規と教育政策」及び「学校における危機管理上の課題」(2講習)	41人		
選択必修領域	選択必修a	アクティブ・ラーニングの理論と方法—主体的・対話的で深い学びの成立を目指して—(2講習)	74人		
		いじめ・不登校の理解と対応	77人		
		カリキュラム・マネジメント	20人		
		グローバル時代の教育課題	31人		
		コミュニケーション能力の定義をもとにした英語教育の基本的認識と指導方法概論	8人		
		すぐに役立つ、児童生徒の望ましい人間関係づくりを身につけよう(2講習)	78人		
		開かれた学校(2講習)	66人		
		学校で苦戦する子どもの援助～チーム学校の視点から	69人		
		学校を巡る近年の状況の変化(2講習)	60人		
		学習指導要領の変遷と学校教育をめぐる今日的課題(2講習)	128人		
		国際バカロレア教育と日本の教育課題	36人		
		次期学習指導要領が求めるキャリア教育の在り方(2講習)	31人		
		新学習指導要領に基づく小学校英語教育の理論と実践	29人		
		進路と教育	35人		
		道徳教育の最新動向—「考える道徳」・「議論する道徳」へ—	49人		
		選択領域	選択B	「おや？」なるほど！」による算数・数学科問題解決の指導一揃しく、優しく育まれる人の心、生きる術、卓越した数習	31人
				4技能を伸ばし、測定するテストと評価	18人
				5年後のICT技術と授業、教室—エバンジェリストと教員との対話—	19人
				エクセルとフリーソフトRを用いたやさしい統計教材の作成(2講習)	24人
				オリンピック・パラリンピック教育の授業づくり	43人
				オリンピックを題材とする体育理論の授業づくり—文化としてのスポーツ学習を中心に	22人
				フィールドワークを取り入れた社会科(地理歴史科)の授業の構成	32人
				英語で進める授業の基礎・基本	19人
				英語教師の自己教育力ブラッシュアップ	15人
				演劇の専門家とつくる教室	19人
				漢文訓読～高等学校国語での漢文教材の工夫と有効活用～	6人
				見えにくさ・わかりにくさへの配慮って何だろう？—拡大教科書や教材・試験問題のアクセシビリティなど学習環境から考える—	14人
考える算数・体験的算数	96人				
国語科における教育課程の動向と対話活動の充実	36人				
視覚に障害のある児童・生徒への様々なサポート	14人				
社会科(地理歴史科)のための地理情報システム(GIS)の活用	17人				
授業のユニバーサルデザイン化を考える—見える子も、見えない子も一緒に学ぶために—	12人				
書写・書道教育の今日的課題	13人				
書写指導～児童・生徒の文字への関心を高めるために～	22人				
触って考える数学	16人				
心の教育からの脱却と道徳教育	84人				
図画工作・美術教育を複眼的に考える	28人				
世界の授業、日本の授業—算数・数学授業の国際比較	39人				
性や薬物乱用等の現代的課題に対応した保健教育の考え方と進め方	37人				
体づくり運動の教材づくり～楽しく動いて動きを身に付けよう～	36人				
特別なニーズのある子どもの理解と支援(3講習)	143人				
幼稚園や小中学校等に在籍する気になる子への支援～発達障害に焦点を当てて～	51人				
理科好きな子どもを育てる授業	39人				

区分	講習名	受講者数	
選択領域	選択C	アジア・太平洋戦争を問い直す(5講習)	125人
		イタズラ実験オモシロ工作	48人
		グローバルに活躍できる生徒を育てよう！～筑波大学の海外フィールドワーク研修の取り組み実践例～	26人
		コーパスで見る日本語の姿	6人
		デザインのアプローチと機器や身の回りのものの設計	13人
		まだまだ伸ばせる、あなたの英語力！～小学校英語授業に挑む教師のための、簡単英語で楽しむ講習～	30人
		メディアを読み解く「調べ学習」の実践：国内外の教材や事例を活用した体験的学習	19人
		リハビリテーションの理論と実際	20人
		稲と米のはなし	20人
		学校トラブルへの法的対処(中学校・高等学校編)(2講習)	68人
		学校トラブルへの法的対処(幼稚園・小学校編)(2講習)	101人
		学校における個人情報保護(2講習)	44人
		学校の大規模災害対処と法的責任(2講習)	89人
		楽しく学べるやさしい天気予報活用術(2講習)	117人
		簡単にヴィジュアルプログラミング～楽しみながら魅力的な教材をつくらう～	52人
		基礎から学ぶ情報学最前線	7人
		健康と能力発揮のための心身の自己調整と他者理解	78人
		最新の健康・保健・スポーツ科学を保健体育の授業に活用する	17人
		子どもの心技体を高めるコーチング	43人
		実習と実験による役に立つ防災教育(土木学会との共催)	38人
		社会で役立つ数学	15人
		丈夫でおいしい野菜の品種をめざして～園芸植物育種研究所での体験型学習～(2講習)	37人
		色のいろいろと化学	5人
		食べ物を作る動物たち	15人
		心から心に響くうた	17人
		水彩絵具で描く～静物～	24人
		政治参加と選挙について考える：日米英を題材に	5人
総合学習に取り入れる栽培学習	19人		
知的興味を引き出す数学	17人		
地学教育への基本講座—地層をつくる砂粒から恐竜化石まで—	31人		
東洋医学的アプローチによる生徒の健康管理	19人		
動物観察ことはじめ—マジコの観察からクマの話まで—	31人		
発見！「筑波山地域ジオパーク」	39人		
発達期のこころと行動～小児科・精神科の視点から～	111人		
病いとともに生きる～慢性疾患や発達障害等の子や家族の支援を考える～	37人		
病気を治す材料の科学～薬物治療、再生医療、外科治療で活躍する材料をいかにデザインするか	16人		
物性物理・原子層科学を例にした物理のおもしろさの起源	7人		
変動する大地 ～地震・津波・火山・地すべり～	14人		
里山探検隊	46人		
粒子線の医学利用～生活の質を高めるがん治療のために～	9人		
選択領域	選択D	附属久里浜特別支援学校実践演習(2講習)	38人
		附属桐が丘特別支援学校実践演習	15人
		附属駒場中・高等学校実践演習	45人
		附属高等学校実践演習(2講習)	50人
		附属坂戸高等学校実践演習	5人
		附属視覚特別支援学校実践演習	22人
		附属小学校実践演習(3講習)	114人
		附属大塚特別支援学校実践演習(中学部・高等部)	34人
		附属大塚特別支援学校実践演習(幼稚園・小学部)	34人
		附属中学校実践演習	16人
附属聴覚特別支援学校実践演習(2講習)	45人		
他の講座等を活用した講習	理療科教育に関連するコミュニケーション領域の諸相	32人	
合計		125講習 4,523人	

※受講者数：受講申込者数から事前辞退者・当日欠席者を除いた数

(6) 特別支援学校教員資格認定試験

(令和2年3月31日現在)

科目	受験者数	第1次試験 合格者数	第2次試験 合格者数	合格率
視覚障害教育	32 〔7〕	16 〔7〕	6	18.8%
言語障害教育	112 〔10〕	38 〔10〕	25	22.3%
合 計	144 〔17〕	54 〔17〕	31	21.5%

(注) 〔 〕は、第1次試験免除者を内数で示す。

(7) 視察・来訪者

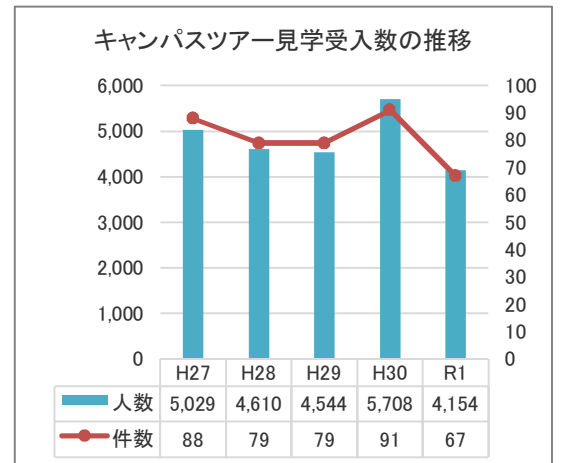
ア キャンパスツアー見学受入数(令和元年度)

見学者別受入数

団体の種類	件数	人数
高等学校(中等教育学校4年以上含む)	56	3,340
中学校	5	547
P T A	5	246
その他(高専含む)	1	21
合計	67	4,154

目的別受入数

目的の種類	件数	人数
進路指導	60	3,858
研修・研究会	6	267
施設見学	0	0
修学旅行	1	29
合計	67	4,154



見学日	学校等名	件数	人数	見学目的
4月	(東京都)城北学園城北高等学校普通科1年	2	53	進路指導
	福島県立磐城高等学校普通科2年		80	進路指導
5月	(千葉県)旭市立飯岡中学校1年	6	87	進路指導
	(宮城県)聖ウルスラ学院英智高等学校普通科2年		50	進路指導
	(東京都)岩倉高等学校普通科2年		80	進路指導
	群馬県立樹徳高等学校普通科2年		94	進路指導
	私立成田高等学校付属中学校1年		129	進路指導
	茨城県立水戸第三高等学校普通科2年		80	進路指導
6月	岩瀬日本大学高等学校普通科2年	9	27	進路指導
	埼玉県昌平中学高等学校1年		43	進路指導
	茨城県立勝田高等学校普通科2年		95	進路指導
	埼玉県立春日部高等学校2・3年		77	進路指導
	山形県立長井高等学校		18	進路指導
	栃木県立さくら清修高等学校2年		47	進路指導
	茨城県立古河中等教育学校3年		120	進路指導
	埼玉県大宮開成高等学校1年		96	進路指導
	埼玉県立浦和西高等学校PTA		41	PTA研修
7月	東京都立小山台高等学校2年	11	57	進路指導
	東京都立戸山高等学校普通科2年		38	進路指導
	埼玉県越谷北高等学校普通科・理数科2年		80	進路指導
	東京都立北園高等学校普通科2年		50	進路指導
	千葉県立東葛飾高等学校PTA		60	PTA研修
	日本工業大学駒場高等学校 創造工業科・理数工学科1年		136	進路指導
	鹿児島県出水中央高等学校2年		61	進路指導
	福島県磐城第一高等学校1・2年		29	修学旅行
	兵庫県立龍野高等学校1年		50	進路指導
	新潟県立柏崎翔洋中等教育学校5年		68	進路指導
	栃木県立烏山高等学校1年・2年		40	進路指導

8月	栃木県宇都宮北高等学校1・2年	8	75	進路指導
	東京農業大学第三高等学校普通科1年		64	進路指導
	群馬県立高崎女子高等学校1・2年文系		57	進路指導
	埼玉県立越ヶ谷高等学校1年		102	進路指導
	神奈川県武相高等学校普通科1・2年		25	進路指導
	富山県立砺波高等学校2年		73	進路指導
	土浦日本大学高等学校2年		68	進路指導
	愛知県未来高等学校1・2年		62	進路指導
9月	明秀学園日立高等学校普通科2年	4	30	進路指導
	千葉県立柏高等学校普通科、理数科、1・2・3年		56	進路指導
	岩手県立水沢高等学校理数科2年		35	進路指導
	茨城工業高等専門学校		21	研修・研究会
10月	千葉県立船橋高等学校PTA	15	60	PTA研修
	千葉県立船橋東高等学校PTA		50	PTA研修
	岡山県立玉野光南高等学校 体育科2年		35	進路指導
	福島県立福島東高等学校2年		87	進路指導
	茨城県立古河第一高等学校普通科1年		83	進路指導
	茨城県立日立第一高等学校1年 普通科・サイエンス科		80	進路指導
	栃木県立栃木女子高等学校1年普通科		80	進路指導
	愛媛県新田高等学校普通科特別進学コース2年		90	進路指導
	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校普通科1年		88	進路指導
	福岡県立新宮高等学校理数科2年生		43	進路指導
	群馬県立前橋南高等学校1年		42	進路指導
	千葉商科大学付属高等学校普通科特進クラス1年		11	進路指導
	茨城県立土浦湖北高等学校1年		40	進路指導
	茨城県立並木中等教育学校中学3年		168	進路指導
	長野県立木曾青峰高等学校 理数科2年		41	進路指導
11月	山形県立山形南高等学校理数科1年	6	42	進路指導
	群馬県立前橋南高等学校PTA		35	PTA研修
	沖縄県立球陽高等学校理数科2年		160	進路指導
	群馬県立桐生高等学校理数科1年		85	進路指導
	群馬県立渋川女子高等学校		42	進路指導
	群馬県立前橋女子高等学校普通科1年		42	進路指導
12月	群馬県新島学園高等学校 普通科1・2年	4	21	進路指導
	富山県立桜井高等学校 普通科 理系2年		38	進路指導
	熊本県立宇土高等学校 普通科 2年		57	進路指導
	東京都芝浦工業大学附属中学高等学校		21	進路指導
1月	栃木県立石橋高等学校 普通科 1年	1	16	進路指導
2月	長野県立野沢北高等学校 理数科 1年	1	43	進路指導
合 計		67件	4,154	

イ 外国人来訪者

●キャンパスツアー

年・月	キャンパスツアー	件数	人数
令和1・4	JSTさくらサイエンス インド・バングラデシュ高校生・教員一行	2	73
令和1・5	JSTさくらサイエンス インド・台湾高校生・教員一行		70
令和1・6	アジア国際支援財団 シンガポール高校生・スタッフ一行	3	18
	シンガポール高校生・教員一行		33
	米国ケンブリッジ市の高校生・教員一行		22
令和1・7	JICA研修員 インドネシア・サハヌディン大学教職員一行	1	10
令和1・9	パキスタン高校生・教員一行	1	11
令和1・11	JENESYS招聘インド大学生・教員一行	2	20
	JSTさくらサイエンス アジア・南米(6ヶ国)高校生・教員一行		75
合 計		9	332

●視察等

年・月	主な視察・来訪者	件数	人数
平成31.4	インドネシア・バンドン工科大学 フランス国立農学研究所(INRA) マレーシア駐日大使館	8	38
令和1.5	ドイツ・ハレ大学 アメリカ・マウントサイナイ医科大学 フランス・グルノーブル大学	9	23
令和1.6	台湾・国立嘉義大学他 中国・上海大学 インド工科大学	7	32
令和1.7	アメリカ・オハイオ州立大学 中国・浙江大学他	2	14
令和1.8	イタリア・エミリアロマーニャ州 チュニジア高等教育科学技術大臣、在チュニジア日本国大使他	2	9
令和1.9	台湾・台日経貿文化交流協会理事長他 駐日ブラジル大使館 タイ・コンケン大学	3	8
令和1.10	台湾・政治大学、ブラジル・ジエトリオ・ヴァルガス財団 ブラジル・サンタクルス病院 フィリピン・セントラルルソン大学	9	66
令和1.11	ドイツ・ボーフム大学、ボーフム市他 ウズベキスタン国立世界言語大学 南アフリカ・ズールランド大学	5	29
令和1.12	ウズベキスタン投資・貿易大臣他 ガーナ大学 アメリカ・インディアナ州立大学	6	21
令和2.1	ドイツ・在デュッセルドルフ総領事館 在京タイ王国大使館 インドネシア・ピナワン大学	3	17
令和2.2	在日モロッコ王国大使館 ベトナム・科学技術関係者	2	31
令和2.3		0	0
合 計		56	288

(8) エクステンションプログラム実績

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
講座数（件）	5	14	19	23
参加者数（人）	115	453	590	645

(9) 現金による寄附受入実績

(単位：千円)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	寄附額	件数	寄附額	件数	寄附額	件数
寄附目的						
○一般基金	62,322	4,090	51,380	3,071	73,331	2,698
○特定基金	113,835	3,016	116,511	4,374	126,337	5,731
<内訳>						
創基151年筑波大学50周年記念基金			13,900	1,350	33,378	2,652
筑波大学スポーツアソシエーション (TSA) 事業	6,949	383	5,496	309	30,245	1,300
附属病院支援事業	38,483	127	15,344	44	13,893	34
紫峰会基金	39,569	1,481	36,836	1,372	36,730	1,399
留学生後援会基金	887	180	804	170	745	161
附属駒場中・高70周年基金	22,665	826	38,929	1,096	6,005	141
修学支援事業基金	5,282	19	5,202	33	5,341	44
○現物資産活用基金					6	1
計	176,157	7,106	167,891	7,445	199,674	8,430

9 医療・保健関係

(1) 附属病院

ア 診療科構成

(令和2年3月1日現在)

診療科	延従事者
腎臓内科	13
血液内科	15
総合診療科	19
感染症科	3
内分泌代謝・糖尿病内科	12
メンタルヘルス科	7
遺伝診療科	5
睡眠呼吸障害科	4
病院総合内科	6
精神神経科	15
神経内科	13
呼吸器内科	16
消化器内科	20
循環器内科	27
腫瘍内科	6
膠原病・リウマチ・アレルギー内科	13
小児内科	28
乳腺・甲状腺・内分泌外科	8
消化器外科	15
救急・集中治療科	20
整形外科	27
リハビリテーション科	2
形成外科	7
脳神経外科	23
脳卒中科	5
呼吸器外科	10
心臓血管外科	11
小児外科	9

診療科	延従事者
皮膚科	10
泌尿器科	14
産科・婦人科	17
眼科	10
耳鼻咽喉科	8
放射線腫瘍科	10
放射線診断・IVR科	11
病理診断科	11
臨床病理科	7
歯科・口腔外科	6
麻酔科	15
合 計	478

イ 業務従事者数(実数)

(令和2年3月1日現在)

職 種		人 数
教 員	医学医療系	263
	人間系	1
	体育系	1
小 計		265
病 院 講 師	医師・歯科医師	53
	薬剤師	3
	事務系・技術系	1
病院助教 医師・技術系		44
医員・医員(研修医)		297
看護師		830
助産師		47
保健師		1
薬剤師		67
診療放射線技師		51
臨床検査技師		62
臨床工学技士		28
理学療法士		38
作業療法士		12
言語聴覚士		7
歯科技工士		1
歯科衛生士		3
視能訓練士		3
栄養士		17
調理師		16
臨床心理士		8
社会福祉士		11
診療情報管理士		7
精神保健福祉士		1
保育士		3
内視鏡技師		1
看護助手		3
技術職員		29
事務職員		192
合 計		1,836

ウ 診療実績

区分		件数	備考
患者数	外来	436,013	1日平均 1,817名
			新 来 24,041名
患者数	入院	259,703	1日平均 710名(病床800床)
			稼働率 88.7%
			新入院 19,781名
			退 院 19,725名
計		695,716	
臨床検査		2,992,557	
X線		169,011	
リハビリテーション		116,526	
調剤処方		713,617	処方延患者 323,077名
手術		21,272	
麻酔		16,074	
分娩		1,027	(死産を除く。)
病理解剖		38	

エ 受託実習生等受入数

区分	受託実習生	病院研修生
臨床検査関係	15	2
放射線関係	56	0
薬剤関係	55	0
看護関係	314	20
理学療法関係	24	1
栄養士関係	7	0
合 計	471	23

オ ボランティア受入状況

活動内容	人数
総合案内	12
成人病棟	4
小児病棟 (読み聞かせ8名を含む)	13
患者図書室	11
合 計	40

(2) 保健管理センター

ア 保健管理センター勤務職員数

職 種		人数
教 員	内 科	3
	整 形 外 科	1
	眼 科	0
	精 神 科	3
	婦 人 科	0
	歯 科	0
	小 計	7
薬 剤 師		1
看 護 職 員		4
保 健 師		1
診 療 放 射 線 技 師		1
歯 科 衛 生 士		1
事 務 職 員		2
合 計		24

イ 利用者数

利用者 \ 事項	一般定期健康診断	その他の健康診断	診療及び健康相談	予防接種	救護等その他	合計
学 群 学 生	8,162	222	3,053	91	5,228	16,756
大 学 院 生	4,073	391	2,080	49	4,155	10,748
研 究 生 等	716	17	294	2	30	1,059
職 員	6,098	5,607	358	130	77	12,270
そ の 他	0	50	13	0	95	158
合 計	19,049	6,287	5,798	272	9,585	40,991

(注1) 一般定期健康診断における利用者区分の詳細については、後掲の項目参照。

(注2) 救護等その他の内容は、入試・各種大学行事等における救護、入学志願者等の健康診断書の書類審査、健康診断書の発行件数等について計上。

(注3) 利用者のその他は、理療科教員養成施設の学生、研究員、外部者等。

ウ 一般定期健康診断受診内訳

区 分		在籍者数	受診者数	未受診数	受診率(%)
人文・文 化学群	人 文 学 類	533	367	166	68.9
	比 較 文 化 学 類	372	300	72	80.6
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	184	161	23	87.5
社会・国 際学群	社 会 学 類	399	327	72	82.0
	国 際 総 合 学 類	399	293	106	73.4
人間学群	教 育 学 類	153	135	18	88.2
	心 理 学 類	218	184	34	84.4
	障 害 科 学 類	153	136	17	88.9
生命環境 学群	生 物 学 類	380	317	63	83.4
	生 物 資 源 学 類	595	512	83	86.1
	地 球 学 類	227	189	38	83.3
理工学群	数 学 類	167	138	29	82.6
	物 理 学 類	267	176	91	65.9
	化 学 類	209	170	39	81.3
	応 用 理 工 学 類	543	389	154	71.6
	工 学 シ ス テ ム 学 類	572	454	118	79.4
	社 会 工 学 類	520	420	100	80.8
情報学群	情 報 科 学 類	386	284	102	73.6
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	255	202	53	79.2
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	457	406	51	88.8
医学群	医 学 類	836	793	43	94.9
	看 護 学 類	318	310	8	97.5
	医 療 科 学 類	158	151	7	95.6
体 育 専 門 学 群		1,020	949	71	93.0
芸 術 専 門 学 群		464	380	84	81.9
グ ロー バ ル 教 育 院		21	19	2	90.5
学 群 生 合 計		9,806	8,162	1,644	83.2
大 学 院 生		6,608	4,073	2,535	61.6
研 究 生 等		1,053	716	337	68.0
教 職 員		6,401	5,965	436	93.2
合 計		23,868	18,916	4,952	79.3

(注) 在籍者数は、健康診断実施時の数である。

10 附属図書館関係

(1) 利用統計

ア 利用者数等

		中央	体芸	医学	図情	大塚	合計
年間開館日数	平日	233	236	236	244	244	-
	(日) 土・日・祝日	116	80	117	119	118	-
	合計	349	316	353	363	362	-
入館者数	平日	503,429	88,654	138,148	46,416	45,766	822,413
	(人) (学外者 内数)	18,931	1,500	3,717	3,215	15,848	43,211
	土・日・祝日	91,461	10,562	28,990	6,148	36,772	173,933
	(学外者 内数)	9,404	511	2,284	1,430	10,349	23,978
	合計	594,890	99,216	167,138	52,564	82,538	996,346
	(学外者 内数)	28,335	2,011	6,001	4,645	26,197	67,189
平均入館者数	平日	2,161	376	585	190	188	-
	(人/日) (学外者 内数)	81	6	16	13	65	-
	土・日・祝日	788	132	248	52	312	-
	(学外者 内数)	81	6	20	12	88	-
	1日当たり	1,705	314	473	145	228	-
	(学外者 内数)	81	6	17	13	72	-
貸出冊数	学群生	87,085	14,911	11,326	9,160	846	123,328
	(冊) 院生	76,709	10,041	4,360	4,453	10,059	105,622
	教員	23,229	3,860	3,830	2,529	3,701	37,149
	学外者	6,815	606	724	1,224	710	10,079
	その他	164	10	0	0	0	174
	合計	194,002	29,428	20,240	17,366	15,316	276,352
貸出利用者数	学群生	38,982	6,681	5,830	4,282	359	56,134
	(人) 院生	26,867	3,805	1,746	1,899	4,349	38,666
	教員	5,749	774	1,281	720	903	9,427
	学外者	2,402	218	285	514	326	3,745
	その他	15	1	0	0	0	16
	合計	74,015	11,479	9,142	7,415	5,937	107,988
文献複写 (コピー)	学外依頼	2,838	510	1,873	135	949	6,305
	(件) 学外提供	1,578	152	338	62	110	2,240
	合計	4,416	662	2,211	197	1,059	8,545
相互貸借 (図書)	学外借受	1,254	91	46	33	277	1,701
	(件) 学外貸出	2,053	292	64	121	118	2,648
	合計	3,307	383	110	154	395	4,349
レファレンス件数	学生	5,891	1,056	380	544	2,458	10,329
	(件) 教職員	3,210	347	2,073	246	563	6,439
	その他	1,812	52	10	188	1,089	3,151
	合計	10,913	1,455	2,463	978	4,110	19,919
	資料に関するもの	6,433	873	2,405	339	2,255	12,305
	利用案内・指導	4,444	581	58	631	1,851	7,565
	事実に関するもの	36	1	0	8	4	49
合計	10,913	1,455	2,463	978	4,110	19,919	

イ Webコンテンツアクセス数

Webサイトアクセス件数

	(件)
学内	523,028
学外	773,770
合計	1,296,798

つくばリポジトリアクセス件数

	(件)
メタデータアクセス数	1,146,829
本文ダウンロード数	4,926,568

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数
(件)

Cambridge Journals Online	9,424
JSTOR★	38,094
Nature	237,787
Oxford Journals	62,725
ProQuest Central	42,831
Science	41,538
ScienceDirect	721,544
SpringerLink	146,067
Wiley Online Library★	208,411

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)
(件)

Business Source Complete★	5,811
InCites-Journal and Highly Cited Data★	10,362
Lexis Advance★	8,793
Oxford English Dictionary	4,530
ProQuest Central	12,282
SciFinder	91,848
Web of Science	127,966
医中誌Web	77,772

主要な電子ブックアクセス件数

	(件)
Cambridge University Press	911
ProQuest Ebook Central	6,562
Maruzen eBook Library*	3,152
NetLibrary*★	637
Springer	135,686
Wiley Online Library**★	8,029

*タイトルアクセス数 (その他はセクションアクセス数)

**PDF, HTMLファイル取得数

★2019年度統計解析方法に変更あり

(2) 基盤統計

ア 図書

(冊)

年度受入冊数		中央	体芸	医学	図情	大塚	合計
(和洋区分)	和書	8,916	2,102	1,101	1,896	1,230	15,245
	洋書	3,866	143	127	130	119	4,385
	合計	12,782	2,245	1,228	2,026	1,349	19,630
(受入区分)	購入	6,098	1,186	1,071	944	985	10,284
	寄贈	4,188	886	120	998	255	6,447
	製本	716	170	35	80	109	1,110
	その他	1,780	3	2	4	0	1,789
	合計	12,782	2,245	1,228	2,026	1,349	19,630
蔵書冊数 (和洋区分)	和書	1,128,966	200,606	94,295	185,491	54,771	1,664,129
	洋書	798,341	68,121	80,714	74,194	26,901	1,048,271
	合計	1,927,307	268,727	175,009	259,685	81,672	2,712,400

イ 雑誌(冊子)

	年度受入タイトル数			所蔵 タイトル数
	購入	寄贈	合計	
和雑誌	777	6,272	7,049	17,683
洋雑誌	406	813	1,219	12,914
合計	1,183	7,085	8,268	30,597

ウ Webコンテンツ

つくばリポジトリ累積登録件数 (*2019年度末現在)

内訳	件数
学術雑誌掲載論文	10,708
学位論文全文	4,952
学位論文内容・審査の要旨	10,204
修士論文	330
紀要論文	21,133
研究報告書	3,987
会議発表資料	590
講義資料	154
研究業績目録	23
貴重書コレクション	132
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	65
その他(図書)	332
合計	52,705

電子ジャーナル契約タイトル数(*有料契約誌のみ)

内訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	398
JSTOR	962
Nature	30
Oxford Journals	258
ProQuest Central	20,000
Science	1
ScienceDirect	2,320
SpringerLink	1,608
Wiley Online Library	1,391
その他	5,050
合計	32,018

提供データベース・検索ツール
(主要契約データベース)

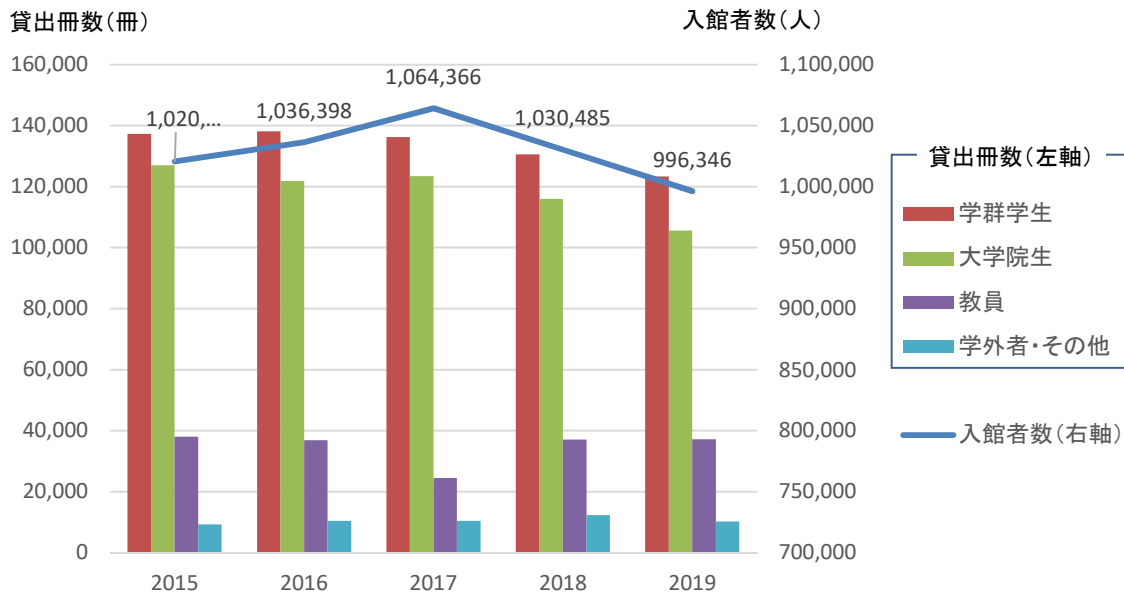
データベース名
Business Source Complete
CINAHL
DI-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data
Lexis.com
Oxford English Dictionary
ProQuest Central
PsycINFO
SciFinder
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web
開蔵IIビジュアル
雑誌記事索引集成データベース
ジャパンナレッジLib
日経テレコン21
毎索
ヨミダス歴史館

電子ブック契約タイトル 累積数(*2019年度末現在)

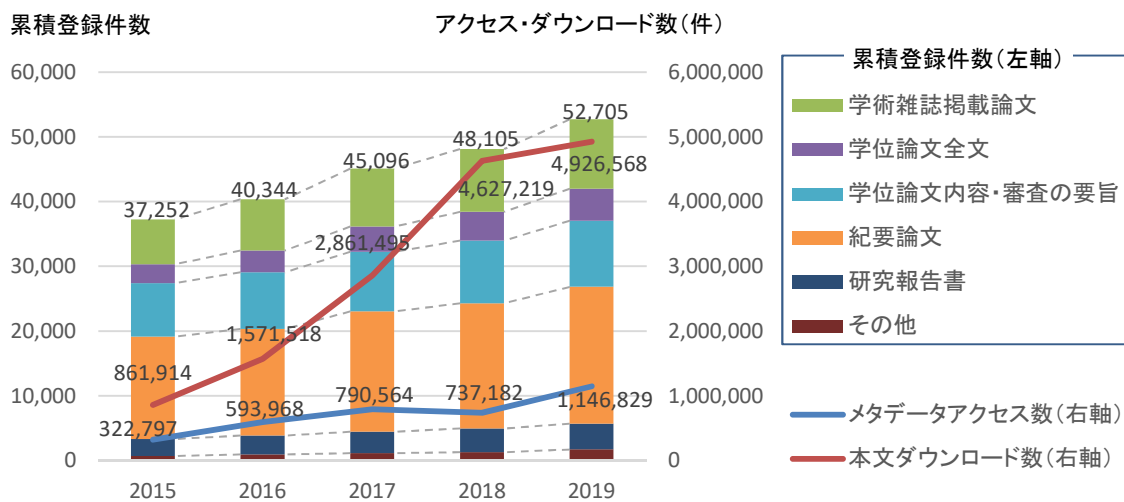
内訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	-	1,669
ProQuest Ebook Central	-	575
Maruzen eBook Library	1,192	210
NetLibrary	490	1,040
Springer	-	26,547
Wiley Online Library	-	1,128
その他	19	3,774
合計	1,716	34,973

(3) 推移

ア 利用サービスの推移



イ つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



(4) オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション (学群生)	6回	2,943名
新入大学院生オリエンテーション (院生)	8回	308名
留学生オリエンテーション	8回	95名
新任教員オリエンテーション	2回	17名
職員オリエンテーション	1回	115名
論文の探し方講習会	35回	281名
自由テーマオリエンテーション	20回	143名
科目関連指導	49回	2,793名
(内訳) フレッシュマン・セミナー (各学類等)	33回	1,954名
授業「研究方法概論」文献検索の方法	1回	81名
授業「看護学研究法」春学期2コマ分を担当	2回	33名
知識情報特論III「文献の検索から入手まで」春学期1コマ分	1回	118名
「文献管理ツールRefWorks活用法」	1回	118名
カウンセリングコース向け講習会	2回	48名
リハビリテーションコース向け講習会	2回	48名
経営システム科学専攻講習会	1回	26名
授業「知の探検法」秋学期11コマ分を担当	6回	367名
その他	4回	132名

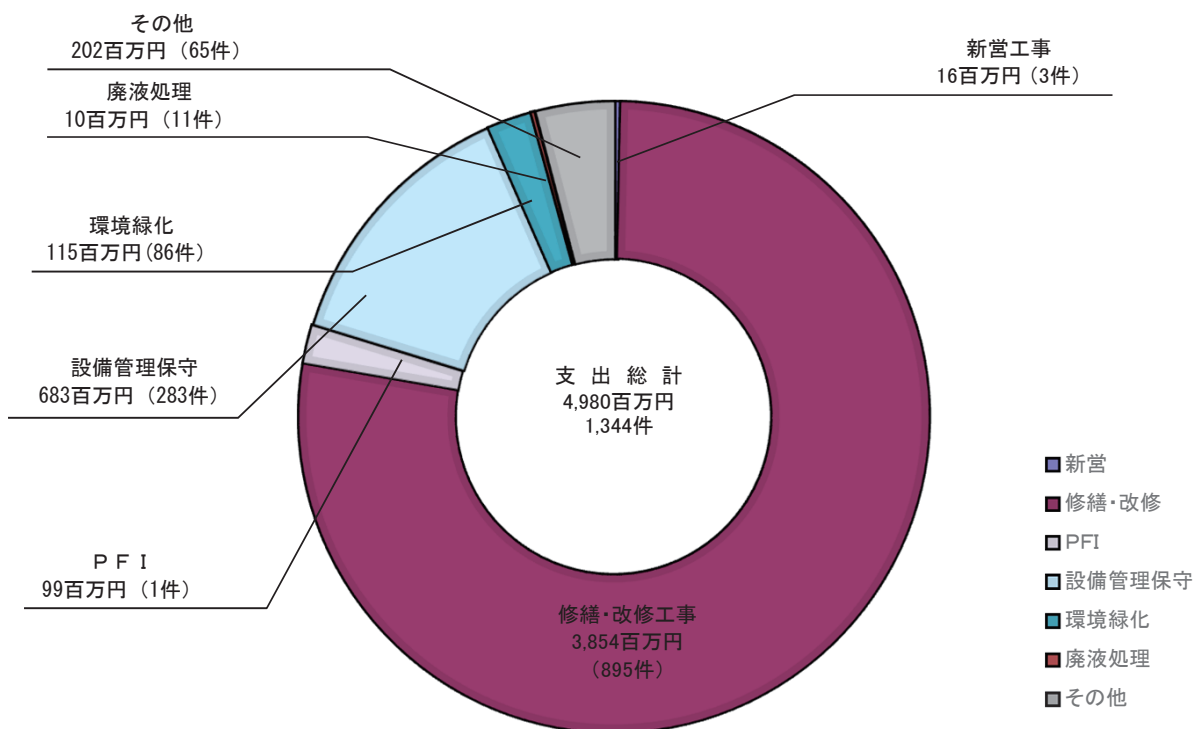
開催日	内 容	講 師	参加者数
ライティング支援連続セミナー 研究者入門：自分を守る情報リテラシー			
2019. 4. 18	良い論文を書くには	逸村裕 (図書館情報メディア系)	17名
2019. 4. 25	論文投稿の基礎：ハゲタカ出版社(Predatory Publisher)に気をつけて		13名
ライティング支援連続セミナー 差がつく！レポート攻略術			
2019. 5. 8	文書の目的を理解する：レポートvs論文 付：引用入門	三波千穂美 (図書館情報メディア系)	20名
2019. 5. 15	文章を構成する		13名
2019. 5. 22	論理的に書く	田川拓海 (人文社会系)	8名
2019. 5. 29	レポートのコツ：図表の表現	野村港二 (生命環境系)	10名
2019. 6. 5	レポートのコツ：「事実」と「意見」を区別する		9名
2019. 6. 12	最終回：さあ、「良いレポート」を書こう！	五十嵐沙千子 (人文社会系)	11名
LAセミナー			
2019. 10. 9	棚から論文！？悩める学群生や修士院生への論文セミナー “How to write a thesis”	木南優希、畑佳恵、鈴木修斗、小牧叡司 (附属図書館ラーニング・アドバイザー)	24名
その他の研究・学習支援企画			
2019. 6. 18	著作権法の一部改正に係る説明会 (第2回)	和知剛 (郡山女子大学短期大学部講師)、石島寿道 (一般社団法人 学術著作権協会事務局長)	114名
2019. 9. 14	セミナー「博士論文インターネット公表の基礎知識」	中原由美子 (大塚図書館)	31名
2019. 10. 9		佐藤まみ子、藤田祥子 (リポジトリ担当)	24名
2019. 10. 10			14名
2019. 12. 13	令和元年度スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 「メディア虎の穴」第4回 学術情報の探し方 (筑波大学附属駒場中・高等学校)	大和田康代 (学習支援担当)	21名

11 施設・環境関係

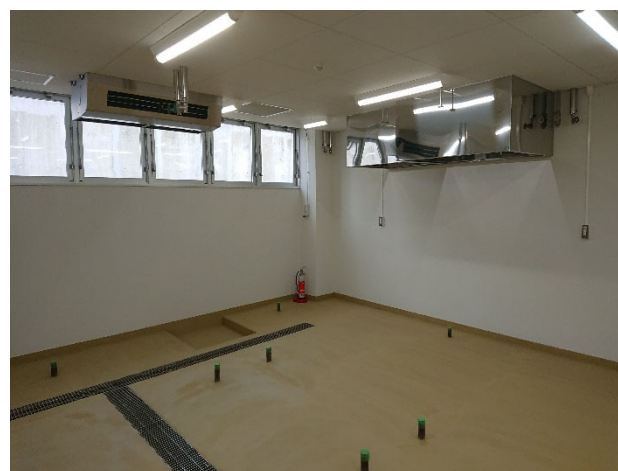
(1) 令和元年度施設整備状況(竣工ベース)

名称	財源	予算年度	構造階数	建築面積	延面積	完成日
筑波大学体芸食堂耐震改修工事	施設整備費／運営費交付金	H29／R1年度	RC3	677	1,214	令和1年7月26日
筑波大学附属小学校等障害改修工事	施設整備費	H30年度	-	-	-	令和1年6月28日
筑波大学障害改修工事	施設整備費	H30年度	-	-	-	令和1年9月30日
筑波大学館山研修所障害改修工事	施設整備費／運営費交付金	H30／R1年度	-	-	-	令和2年2月28日
筑波大学附属久里浜特別支援学校等障害改修工事	施設整備費／運営費交付金	H30／R1年度	-	-	-	令和2年3月4日
筑波大学2A棟改修工事	施設整備費	H30年度	RC4	1,049	4,070	令和2年3月16日
筑波大学外国語・学術情報メディアセンター改修工事	施設整備費	H30年度	RC5	1,589	5,253	令和2年3月31日
基幹整備(屋内プール熱源設備等)改修機械設備工事	施設整備費／運営費交付金	R1年度	RC2-1	2,497	2,778	令和2年2月14日
筑波大学基幹整備(構内埋設ガス配管)改修工事	施設整備費	R1年度	-	-	-	令和2年3月16日
筑波大学基幹・環境整備(受変電設備等)工事	施設整備費／運営費交付金	R1年度	-	-	-	令和2年3月27日
筑波大学一の矢学生宿舍21号等火災報知設備改修工事	施設費交付金	R1年度	RC4他	9,023	28,108	令和1年11月29日
筑波大学(西地区)中央機械室不活性ガス消火設備貯蔵容器更新工事	施設費交付金	R1年度	RC2	2,753	2,972	令和2年1月28日
筑波大学プラズマ実験棟等屋上防水改修工事	施設費交付金	R1年度	SRC3, RC4	2,704	6,283	令和2年1月31日
筑波大学医科学棟外壁他改修工事	施設費交付金／運営費交付金	R1年度	RC3	427	1,234	令和2年3月19日
筑波大学附属小学校講堂空調設備増設工事	運営費交付金	R1年度	RC4	306	1,092	平成31年4月26日
筑波大学附属桐が丘特別支援学校(本校)校舎新営その他工事(Ⅰ期)(その2)	運営費交付金	R1年度	-	-	-	平成31年4月26日
筑波大学附属病院中央診療棟手術室等改修工事	運営費交付金／附属病院収入	R1年度	RC5-1	2,508	13,763	令和1年5月31日
筑波大学一の矢学生宿舍20号等給排水設備改修工事	運営費交付金	R1年度	RC4	1,270	5,080	令和1年8月29日
筑波大学中央図書館(新館)空気設備改修工事	運営費交付金	R1年度	RC6	4,942	19,092	令和1年9月30日
筑波大学3D棟他エレベーター設備改修工事	運営費交付金	R1年度	RC4, RC5	1,240	5,408	令和1年9月30日
筑波大学体芸食堂厨房改修工事	運営費交付金	R1年度	RC3	677	1,214	令和1年10月31日
筑波大学自然系学系E棟101室他空調設備改修工事	運営費交付金	R1年度	RC3	881	1,855	令和1年12月19日
筑波大学春日福利厚生棟トイレ改修工事	運営費交付金	R1年度	RC2	1,238	1,829	令和1年12月25日
筑波大学屋内プールトイレ改修工事	運営費交付金	R1年度	RC2-1	2,497	2,778	令和2年1月31日
筑波大学生命科学動物資源センターB棟P3飼育室空調機更新工事	運営費交付金	R1年度	RC5	1,138	4,271	令和2年2月28日
筑波大学構内PHS基地局更新工事(令和元年度)	運営費交付金	R1年度	-	-	-	令和2年3月19日
筑波大学(竹園)職員宿舍304号棟等外壁改修工事	運営費交付金	R1年度	RC2	796	923	令和2年3月23日
筑波大学総合研究棟B625室他実験系給排気制御装置改修工事	運営費交付金	R1年度	SRC12-1	1,533	17,430	令和2年3月26日
筑波大学2E棟等研究・実験室空調設備改修工事	運営費交付金	R1年度	RC+1他	6,575	32,841	令和2年3月27日
筑波大学生命領域学際研究センターB棟3階プロジェクト実験室(1)等空調設備取設工事	運営費交付金	R1年度	RC3	1,975	3,666	令和2年3月31日
筑波大学屋内プール屋根防水補修工事	運営費交付金	R1年度	RC2-1	2,497	2,778	令和2年3月31日
筑波大学医学食堂空調設備改修工事	運営費交付金	R1年度	RC2	959	1,270	令和2年3月31日
筑波大学7B棟1階エントランスホール改修工事	共同研究費収入／運営費交付金	R1年度	RC5	3,599	8,736	令和2年1月28日
筑波大学附属駒場中・高等学校受水槽改修工事	寄附金	R1年度	-	-	-	令和2年1月31日

令和元年度 施設関係事業構成



【南地区】 筑波大学体芸食堂改修工事、厨房改修工事



【中地区】 筑波大学2A棟改修工事



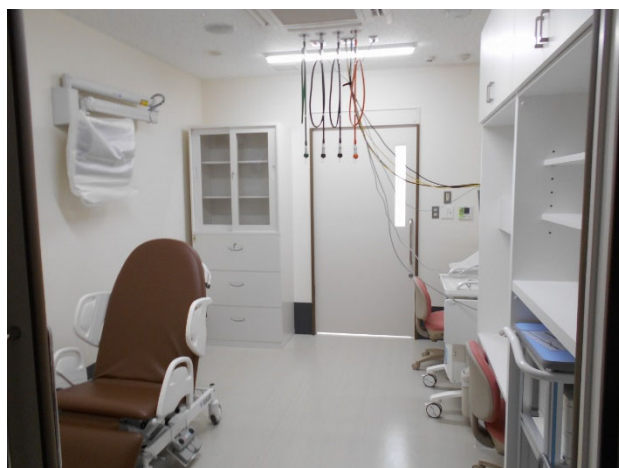
【南地区】 筑波大学外国語・学術情報メディアセンター改修工事



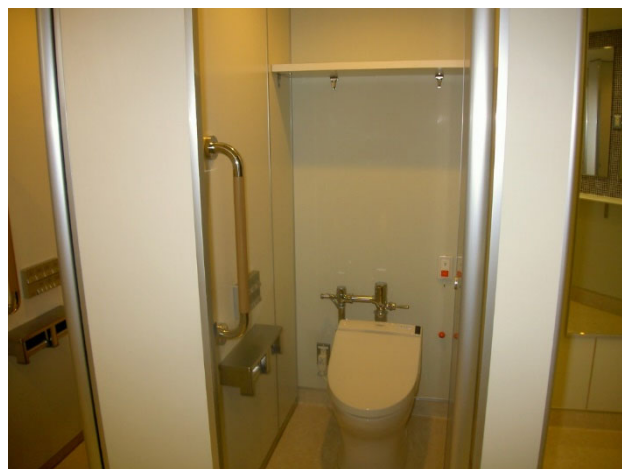
【西地区】 筑波大学医科学棟外壁他改修工事



【西地区】 筑波大学附属病院中央診療棟手術室等改修工事



【春日地区】 筑波大学春日福利厚生棟トイレ改修工事



【南地区】 筑波大学屋内プールのトイレ改修工事



【竹園3丁目】 筑波大学(竹園)職員宿舎304号棟等外壁改修工事



【春日地区】 筑波大学1階エントランスホール改修工事

